

2015夏

せんがわ21

特集：実篤空間と仙川まちニティ

SENGAWA DESIGN PIECE

Produce by KAWATAKE Corp.

http://www.kawa-take.jp

株式会社カワタケ



sasara
JAPANESE STYLE
DINING

カジュアル和食をテーマに
大人の居酒屋

名代 トンカツ
ささ本
2F店舗のご案内
電話 03-3300-2661
ランチ 11:30~14:00
ディナー 18:00~21:00
水曜定休

旬の食材を活かした料理と、
日本酒をはじめ 多彩なお酒で歓談を。

営業時間 ランチ11:30~14:00/ディナー17:30~23:00

住所 東京都調布市仙川町 1-14-61 笹本ビル1F
電話 03-3307-7033/水曜定休/www.sasara-sasara.com

大空へ力強く伸びる

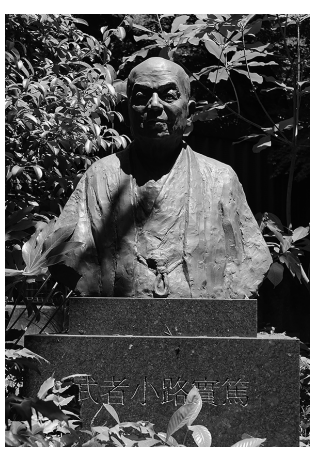




実篤公園・記念館
2015年点描



ホッと休憩タイム



実篤の胸像(制作：西常雄)



実篤公園へ向かう小道



旧実篤邸・仕事部屋～モチーフが並ぶ



旧実篤邸・客間～春は桜、秋は紅葉



タイムトンネルはどこに

菖蒲園の木道



木道の先には光藻
（写真は p103 へ）





資料館へ



夏休み企画 中高生へ漫画でアピール



夏は自由研究サポートの会場に

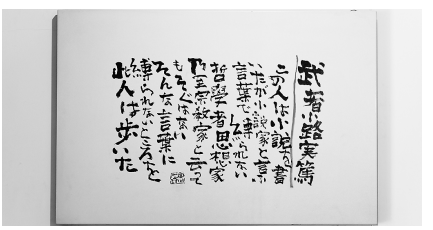


画像で見る、探す!! 情報提供システム





映画ポスターにみる作品群を紹介



中川一政氏の賛歌



実篤マンホール

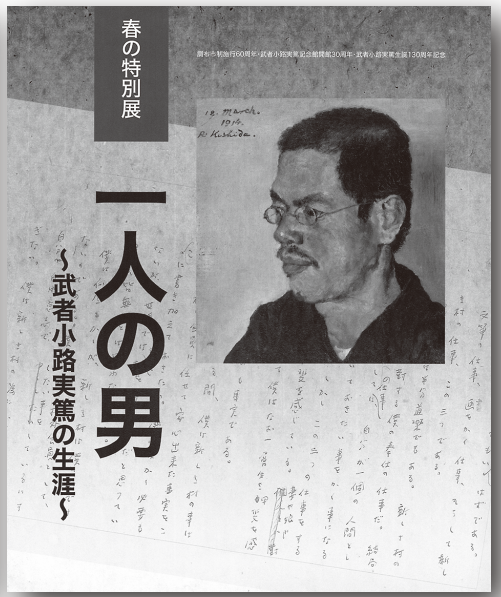


中庭の梅の木～新しき村から

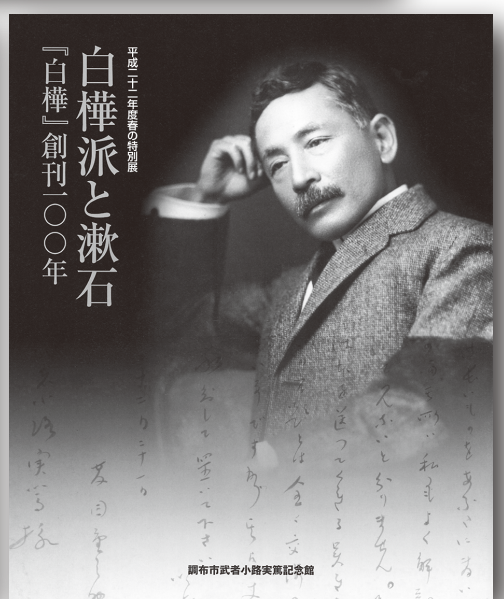


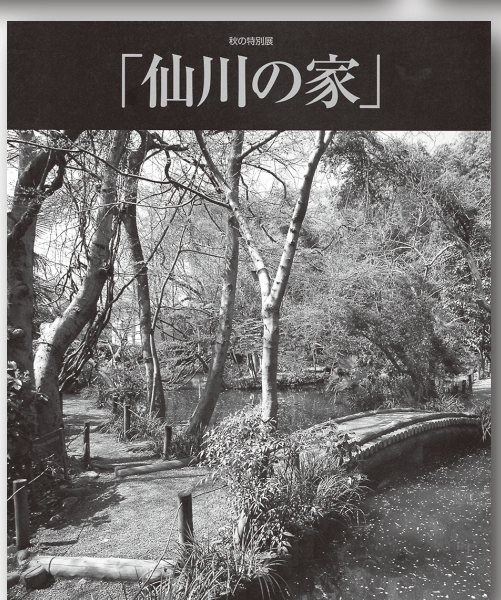
春・秋の特別展の図録から——記念館にて頒布中













せんがわ21 実篤空間と仙川まちニティ 特集号 目次

口絵写真　2015 年の実篤公園・記念館点描

●特集 I ── 1978 年 8 月創刊号

グラビア：調布市実篤公園 …… 1
共有のものとして／武者小路辰子 …… 4

□実篤公園
開園までの経過と園の紹介／佐々木孝一 …… 6
インタヴュー：緑陰の実篤公園を訪ねて …… 9
実篤公園を考える／青野友太郎 …… 11

〈No.4 ’79 年 4 ― 5 月〉
レポート：実篤記念館をめぐって／青野友太郎・税田芳典 …… 12
〈No.7 ’83 年 8 月〉
仙川と実篤公園／佐々木孝一 …… 14
〈No.11 ’84 年冬〉
「実篤記念館」の建設に寄せて／出堀義夫 …… 15

●特集 II ── 1985 年冬号 No.12

新しき村会則の改正、その他（抄）1925 年 …… 16
グラビア：武者小路実篤記念館 …… 17
実篤記念館ってどんなとこ？
開館記念式典・点描
新しき村の現在（埼玉県毛呂山町）

□実篤記念館と共に
実篤記念館 ── 今後の運営／堀公彦 …… 22
開館式典の祝辞とあいさつから／中川一政／志賀直吉／井上靖／小田切進／武者小路辰子 …… 24
武者小路実篤略年表 …… 26

●特集 III ── 1988 年 8 月号 No.13

口絵写真「実篤空間の今」 …… 32
実篤の空間 ──「村」というのは／むしゃこうじ・みのる …… 33
10 周年を迎える実篤公園／開館 3 周年の実篤記念館 …… 34
公園・記念館を担う人たち／実篤生誕 103 年祭に集う人々 …… 36

□「実篤空間と私」 …… 38
三沢浩／佐藤仁道／渡辺三枝子／堀平八／檜森満里子／佐々木孝一
杉本三依／岡ノ上栄二／宮川和夫／加藤純一郎／本間樹和子／川口三八

□公園オープン十周年を迎えて／小嶋重春 …… 45
武者小路 実篤 ── 抄録・略年表 …… 48
実篤 讃 ── その魅力／日隅久典 …… 49
スケッチ：仙川・実篤の杜／栗田行雄 …… 51
マップ：仙川・実篤の杜　半日おすすめ逍遥ガイド／こやまきょうへい …… 52

□「新しき村」七十周年を迎えて …… 54
「新しき村」の七十年／渡辺貫二 …… 54
帰去来／松田省吾 …… 58
こころとものの調和を目指して／今防人 …… 59
仙川フォーラム’88 実篤さんと仙川と新しき街づくり …… 61
「実篤と新しき村」周年記念イベント企画案 …… 62
「実篤と新しき村」仙川フォーラム’88 会則 …… 63
「新しき村」&「まちニティ」カレンダー …… 64
グラビア：日向新しき村 いま むかし …… 66
新しき村（毛呂山）いま むかし／渡辺兼次郎 …… 68
新しき村・東京支部 木曜会／佐美佑 …… 70
せんがわギャラリー 実篤自画像 …… 71

〈No.14 ’93 年 9 月号〉
実篤公園と記念館／堀公彦 …… 72
実篤公園を描くの記／中島りえ …… 74
かつてのある日 ── そのごの出合い …… 76
〈No.15 ’94 年夏号〉
帰ってきた実篤 ── 資料館オープン／堀公彦 …… 78
三鷹からの通信／真垣蓼 …… 80
〈No.18 ’01 年新春号〉
グラビア：武者小路実篤 公園と記念館 …… 82
実篤と新しき村 仙川フォーラム’88 …… 84
21 世紀を迎えて ── つつしみの心／加藤純一郎 …… 85

●特集Ⅳ ── 2015 年の仙川まちニティは今……
美しき街 ── 仙川まちニティ〜きょうからあしたへ …… 87

□実篤空間
仙川のまちとともに実篤記念館の運営も変化して／塚越博道 …… 88
武者小路実篤先生と村・実篤記念館／石川清明 …… 89
祖父母の思い出／武者小路知行 …… 91
実篤先生及び実篤公園・記念館との思い出／稲川昭三郎 …… 92
上の池 下の池／新井七吾 …… 93
実篤公園の自然を楽しむ／伊藤陽子 …… 94
調布市制 60 周年・実篤記念館 30 周年記念切手／小幡邦仁 …… 98

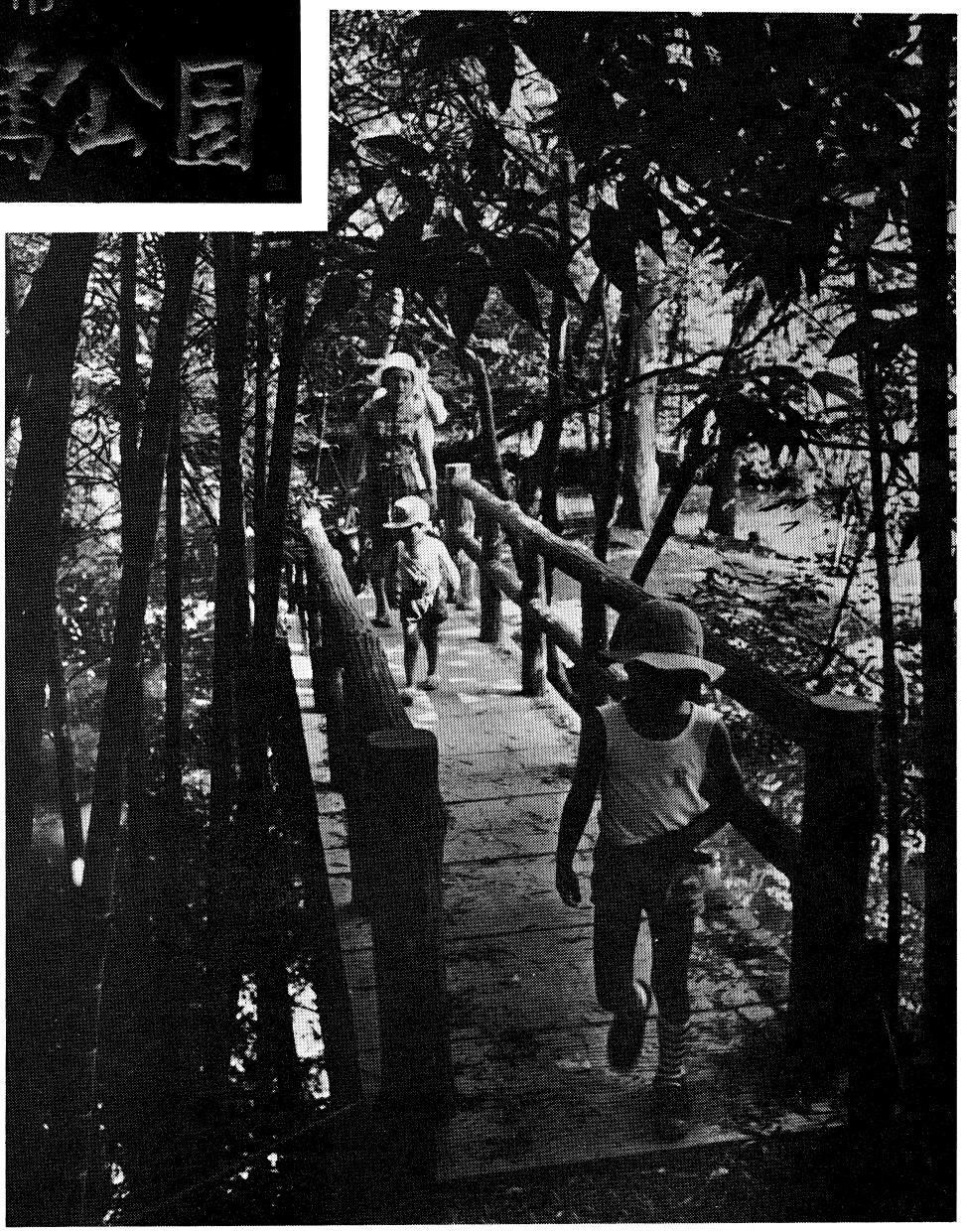
□テラ・憩いの里〜下田“新しき村”
実篤公園・記念館と“新しき村”を訪ねて／金子晶子 …… 100
新しき村“土星”論／松尾欣治 …… 102
コラム：武者小路実篤と私／今防人 …… 103
武者小路実篤とインターネット／小西聡 …… 104
古アルバムから ── 入間田ンボと実篤公園 ── ／小室克介 …… 106

□仙川まちニティ
桐朋女子中高生と実篤・仙川／桑原昇 …… 108
緑ヶ丘団地リニューアルの計画と進捗状況／調布市都市整備部住宅課 …… 110
緑ヶ丘地区の防災への取り組みと今後のまちづくり／渡邉俊明 …… 111
実篤“賛”と緑ヶ丘“恋”に寄せて／杉本恒 …… 112
子供たちの心のふるさと“緑ヶ丘”／鈴木祐介 …… 113
「お茶飲みクラブ」が 30 歳に／前橋弘子 …… 114
資料室：仙川地区の世帯・人口動態／編集部 …… 115
グラビア：若葉の杜とみどり …… 116
入間町周辺地区における街づくりについて／調布市都市整備部都市計画課 …… 118
資料室：入間町地区 まちづくり関連資料／編集部 …… 120
森と共生する、エコと防災の“まち”を／大村哲夫 …… 121
国分寺崖線“入間一丁目樹林地”を保全する／安部宝根 …… 123

□仙川ラプソディ
仙川への想い／青木史世 …… 125
仙川の文化ブランド／小林章子 …… 125
実篤空間と仙川まちニティ／前橋弘子 …… 126
安部公房邸跡から実篤記念館へ／宮西忠正 …… 127
白百合女子大学の創立五十年を迎えて／落合英樹 …… 128
ポエム劇「馬鹿一という、あこがれ」／末永明彦 …… 130

□アレもコレも
せんがわまちニティ情報センター …… 133
『せんがわ・21』誌とまちニティ情報センターの事始め …… 136
まちニティショップカタログ …… 137
仙川地図研究所 …… 139
編集制作スタッフ及び編集協力 …… 140
編集後記・奥付 …… 141
グラビア：村から街へ〜航空写真（1947 年と 2015 年） …… 142

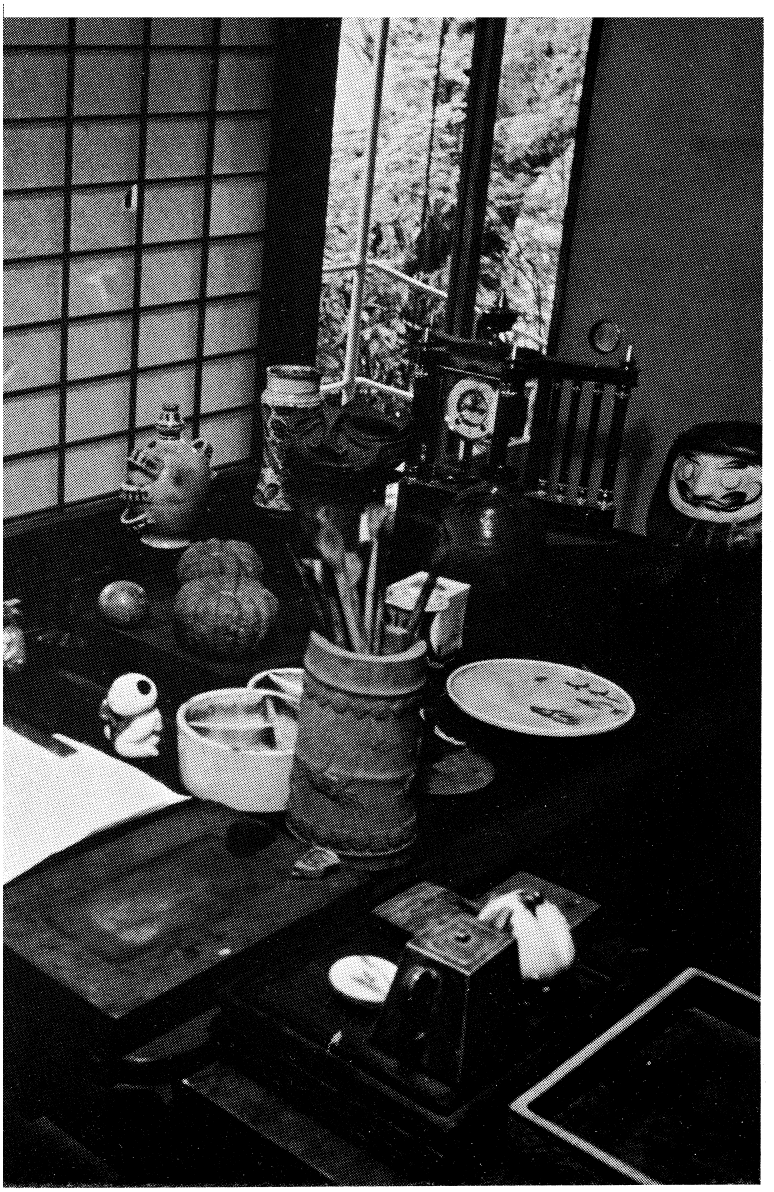
調布市
賀篤公園



人類の最もふかき処に
生命の泉ありて
あふれ出づる
きかいをまてり
その泉
ついにあふれ出でて

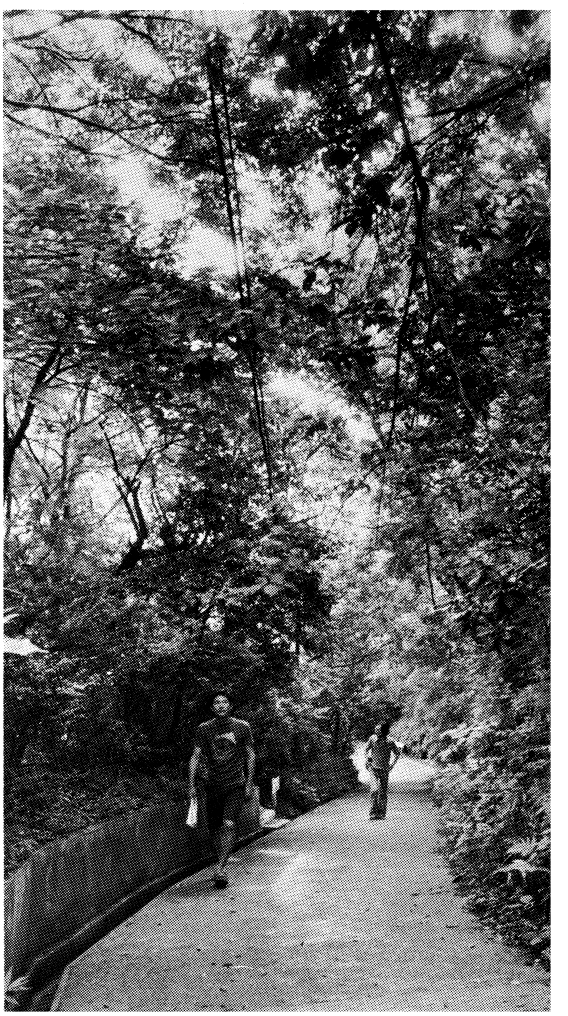
我等は村をものにしたいと
心の底から思ふなり
人間の心の生きる村
誰でも人間らしく生きられる村
自由を楽しんで平等に生きる
美しき村つくらんと望むなり

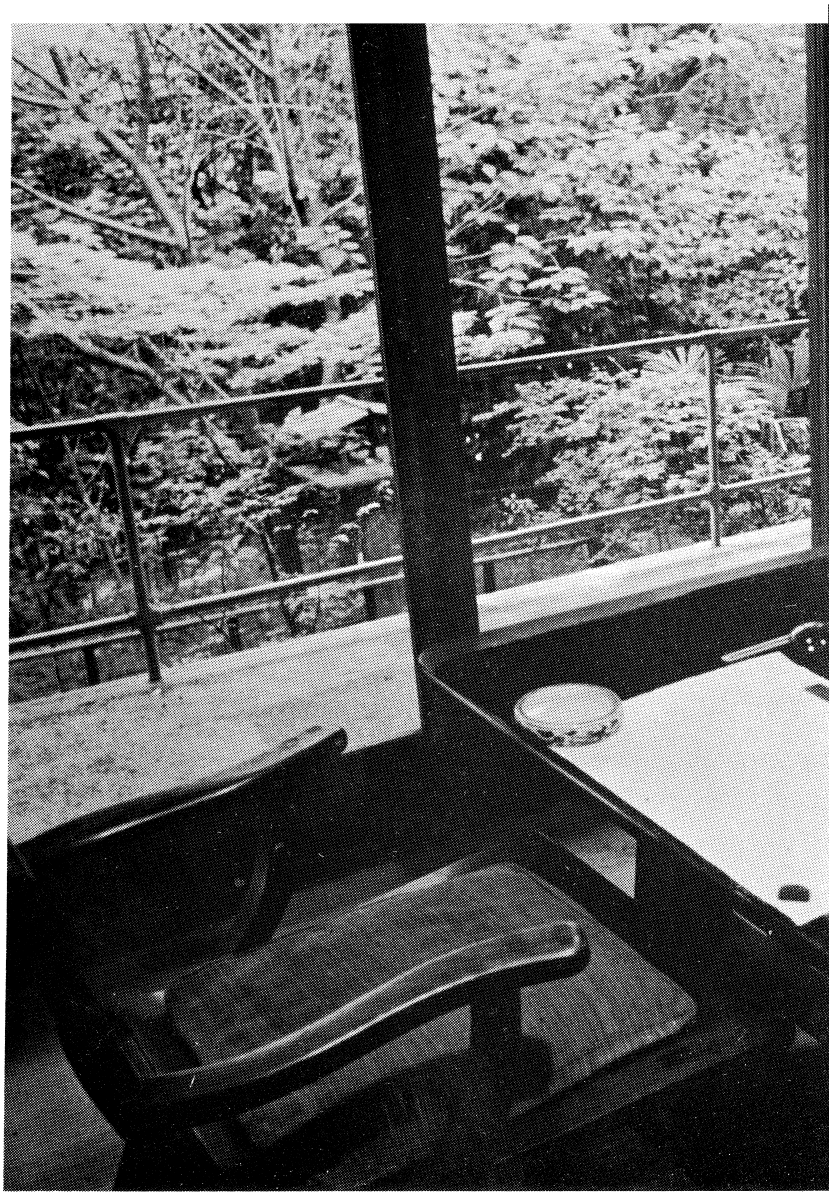
「新しき村の歌」初稿の一節
昭和22年4月8日





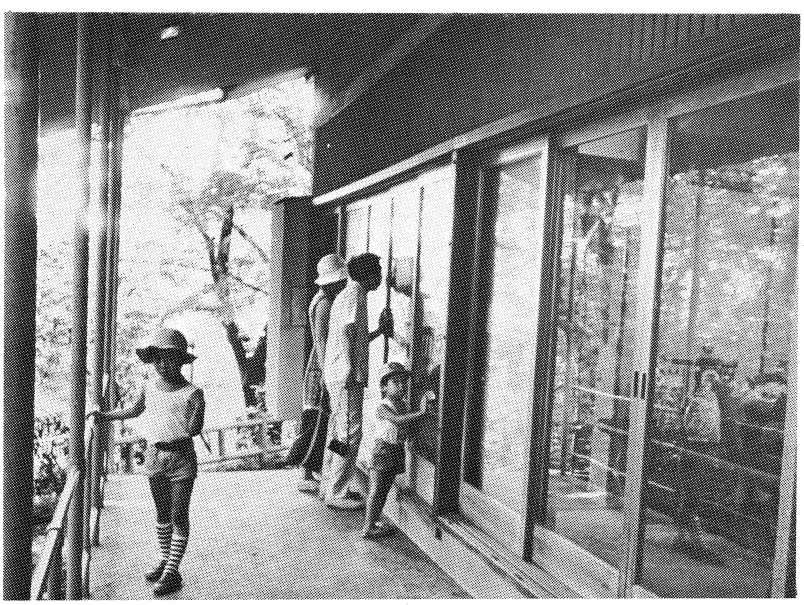


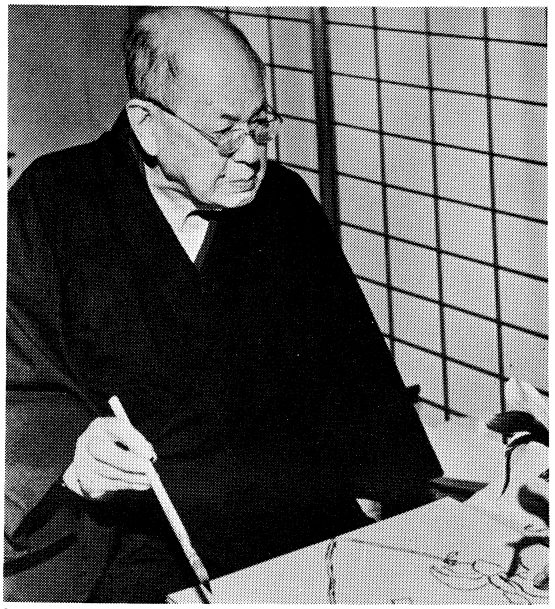




実篤氏が「水の湧く地」を求めて、三鷹市牟礼からせんがわに移ってこられたのは昭和30年、ちょうど調布市誕生の年だった。当時はまだ武蔵野のたたずまいそのままに、仙川の丘側には雑木林、そして入間川をはさんで東つつじケ丘のあたり一面は田圃だったという。そして、この20年余の世の移ろいにもかかわらず、この家敷の界隈を武蔵野の面影そのものとして残していってくれた。

彼の地、埼玉県毛呂山の新しき村の入口に一本の詩標が立っている。「この道より我を生かす道なしこの道を歩く」そして、ここせんがわの「実篤公園」の地に、いかなる詩標が建つべきか、今誰も知らない。しかし、この地を新しき街の鎮守の杜としてとらえ、この道のありかを、せんがわのまちの中に探ってみたい。





共有のものとして

武者小路辰子

二年前の五月のみどりは、どういう訳かおぼえがない。その年二月始めに母安子を失い、父実篤を四月始め桜の花びらの散りかかる中に見送ったことは、身にきざんでいるのに、そのあと都庁や調布の市役所などにいそぐ時、雨がさにふっと六月の季節を感づいた気がする。父母が仙川の家に住んだ晩年の二十年間、必ずどんなに少くとも一週に一ぺんは手伝い（遊び？）に行っていて、いつも庭の季節は父母との話題にのぼるのだった。仙川の庭のながめは、一週間ごとに春の花の木々、若葉、しげみ、もみじとうつり代る微妙な色合いを見せてくれる。鳥、せみ、虫の声と季節の音色を聞くにつけても、水の音は常に何にもあって聞えてくる。

この自然多き庭を、家と共に公的に残すことは、当然のことであった。けれど実際問題としては、やはりその場になってみなければ到底はかり知れないような大変なことでもあった。母安子が死を自覚して、この庭は地元のものと考えることを基本として遺書をのこしたのも、また娘たち三家族、ことに父母が可愛がってやまなかった孫七人も、その二人の重病を日夜案じ、引きつづいた不幸にもたえて処理してきたのも、やはり父実篤の深い愛情のもとに日々感じとった影響が大きく作用していたからだったと思う。現実の問題として二月から半年間の八月中に整理の必要があり、繁雑な責務にうちひしがれるような思いがする時、また必ず助けてくださる方があるのだった。

それは父母への深いご理解をもった人の力による。父への家族、親類のつきぬ思いにもまして、多くの方々が実篤夫妻に寄せて下さる心を感じとることができた。村の方を始めとして、親交のあった方々ばかりでなく、またひろく世間の人々、公的機関の方々も、普遍的と言いたいほど、共通して理解してくださった。家族としては、ゆきとどかぬことは多くあったが、共有のものとして、ごく自然に感じられることが、また嬉しい。

父の愛したみどりの五月、父が生をうけた五月十二日に調布市立実篤公園は開かれる。今年の実篤公園の若葉のみどりこそ、眼にも心にも強くしみこんでくるだろう。亡き父母が、かって見たもの、ふれたものを通して、限りなく人間を自然を、そして生命を讃美してやまなかった父の思いが、また万人の共有する願いであることを感じとりたい。

（初出　新しき村「調布市実篤公園・寄付物件目録」）

FELICA
INTERIOR

輸入商品取扱店
陶器・ペルシャ絨毯・キリム・ギャベ

室内装飾＆リフォーム
クロス・オーダーカーテン

仙川町１－１０－４ 第二伊藤ビル１Ｆ
ＴＥＬ０３－３３０５－００２８

Favorinico ✻ tageya

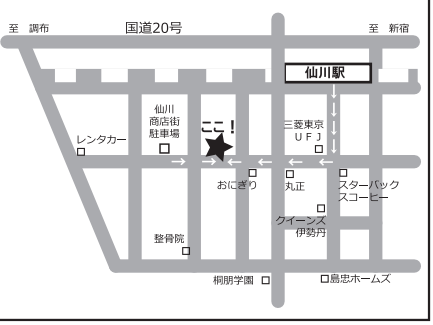
私たちのセレクトしたお洋服が、
みなさまの笑顔に変わりますように…
we always make you smile.

お洋服ブログ、毎日更新中!!
ファボリニコ 検索

「いくつになっても女性らしく、
普段着から上質で、
さりげないオシャレを…」

大人の女性のためのセレクトショップ
tageya / たげ屋

営業時間: 10:00-18:00 定休日: 日曜・祝祭日
ファボリニコ TEL: 03-5314-2788 tageya/たげ屋 TEL: 03-3305-0838



32年目のアジィグループ

こだわりの
ヨーロッパビールが飲める店

áZi Cafe & Bar

調布市仙川町 1-12-1

03-3309-8439
毎週(日)、第1・3(月)定休
14:00～24:00

インポートセレクトショップ

áZi FASHION LIVE SPACE

03-3308-7264
毎週(水)、第1・3(火)定休
http://www.azi.ne.jp

蕎麦前 東風庵

酒 と 本格手打ちそば

03-3307-8000
調布市仙川町1丁目8－3
毎週(月)、第1・3(火)定休
teiko@kochian.jp



CPサロンはフェイシャルエステティック・メイクアップアドバイスを通してトータルビューティを提案するコミュニケーションスペースです。
お客様ひとりひとりへのきめ細かいカウンセリングでお肌タイプに合ったスキンケア製品で施術します。6つのSTEPで「きれいになる幸せ」を感じて頂けるサロンです。

まずは体験してみませんか!!
「せんがわ21見ました！」の方フルメニュー2,160円（税込）で体験頂けます。

完全予約制
定休日 木・日曜日
営業時間 10:00～17:00（最終受付）

調布若葉町2丁目 川原ビル（神代書店）2F
TEL 03－3307－7125
CPサロン Beni Beni



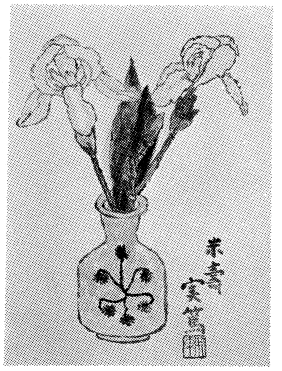
直営工場だからこそ安く出来ます。
リサイクルパーツもお取り寄せ OK
ホームページも是非ご覧ください！

多摩ボデー整備

〒182-0005 東京都 調布市 東つつじヶ丘 1-15-3
TEL：03-3307-6105 FAX：03-3307-5105

多摩ボデー整備
まずは WEB で検索♪

篤公園



開園までの経過と園の紹介

調布市若葉町の故武者小路実篤氏邸が氏の誕生日である五月十二日、都民の憩いの場「調布市　実篤公園」としてオープンした。この公園は一昨年四月死去された実篤氏の遺志により遺族から寄贈を受けた同邸を調布市が公園化したものである。

昨年二月初め二カ月にわたる公園化工事がはじめられたが、工事に先立ち市では近隣住民に対し数度にわたり工事計画案を示すとともに公園化に対する要望を聴取するなど気遣いを示した。一方地元では「実篤公園の活きた運営を考える」というテーマのシンポジウムが東部公民館で開かれるなど関心が昂まっていった。

工事は自然を愛した故人の意志を尊重し、建物、庭、池など実篤氏が毎朝夕散歩された当時の自然をそのまま残すことにし、最小限の工事にとどめるかたちで行われたが、園内の整備もほとんど終えた昨年四月、管理棟を建設するため同園東端の正面入り口付近を掘り起したところ、縄文土器片、細石刃、焼き石（石を加熱し蒸焼き料理に使う）などが発見され、遺跡発掘調査のため工事は一時ストップすることになった。調査は半年以上におよんだが、昨年十一月遺跡の埋蔵保存の方針が決まり、今年初め管理棟建設の工事が再開され、四月末工事、園内の整備も全て完了し、実篤氏の誕生日である五月十二日開園の運びにいたったのである。

晩年がしのばれる「終の住処」そのままに

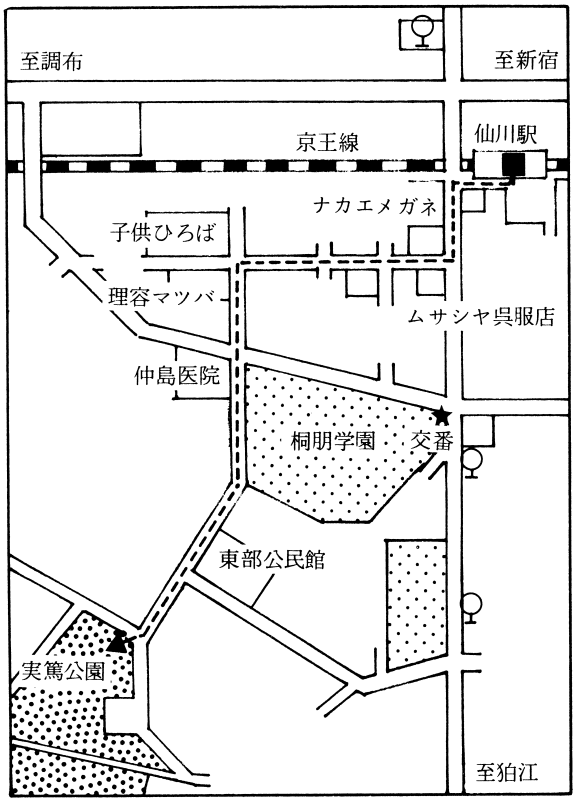
しかし開園以来二カ月を経た七月十二日現在、すでに一万五千人を超える入園者があり、杖をつきながらの老夫婦、ピクニックスタイルの若いカップル、カメラと水筒を肩にした家族連れなど幅広い人気を博しているようである。実篤氏は晩年は池と泉のある土地で暮したいと念願しておられたが、昭和二十九年ついに、この調布、仙川（若葉町）の土地を探し当て、翌三十年に三鷹から仙川へ移ってこられたのである。調布市が昭和四〇年、市制十周年を記念して発行した市勢要覧に「調布の一市民として」と題し仙川へ移った当時の心境を次のように回顧している。

「…僕は子供の時から水のあるところに住みたいと思っていた。それで友人に水のある所はないかと探してもらい案内されたのが今の土地で、一見して気に入り、ここを仕事場兼仕事完成の地として選んだわけで未来のことはわからないが、今のところここで死ぬつもりでいます。」

老境に入ってなお意気盛んな仕事への情熱をほとばしらせておられるとともに「終の住処」として仙川の地を見い出されたよろこびがしのばれる。

その頃（昭和三十年調布市誕生）の付近は滝坂から成城方面につづく緑の崖、いわゆる武蔵野面の一端にあたっており、雑木林も多く、武蔵野のたたずまいが多く残っていた。西面には入間川の流れを挟んで南北に入間田圃が広がっており、まぶしく輝く水面には鴨がいた。

特集 実篤



所在地、調布市若葉町１丁目23番地20
実篤公園管理事務所、ＴＥＬ03（300）７６０７

かくして実篤氏は以来二〇年余、この仙川の地で文学者としてよりも画家としての仕事を軸に活躍をつづけられた。また武蔵野の自然を賞で、邸内の一木一草、一鳥一尾にいたるまでを慈しむ悠々自適の生活を送られたのであるが、一昨年二月最愛の安子夫人に先立たれ、氏もあとを追うように同じ年の四月九日、おりから散りしきる庭の桜の花とともに九十才の天寿をまっとうされたのである。

親近感をもって接してきた近隣では実篤氏夫妻の死去を悼く哀惜するとともに、この後の邸域の自然がどうなってしまうのかひそかに危惧したのであるが、間もない六月に入って遺族の方々から邸域のすべてが市に寄贈される旨報ぜられると心から安堵し、遺族の方々の好意に謝したのである。第三者の手に渡ればたちまちにして土地は造成され開発されてしまうであろうことを懸念していたからである。

快い水の落ちる音……かまびすしい鳥の声……

実篤氏が住まったこの邸域は、氏が移ってこられるまでは「滝坂皇大神宮」というお社があった由緒ある土地で、公園の入口左手のすぐ崖上に見える小さな祠がそのお社の今の姿であるという。

お馴染みの字体による〝武者小路実篤〟の標札は梅原龍三郎画伯の力強い直筆を彫った〝調布市　実篤公園〟に変っている。管理事務所の受付を通るとすぐ右手にベンチの置かれた広場があり、左手のなだらかな下り坂（苔坂）に足を運ぶともう雑木林の茂る切通しである。モウソウダケが密生する園内は起伏に富み適度の運動になる散策地である。切通しの小道は実篤氏の居宅の前へさしかかる。玄関前にひっそりとおかれた可愛らしいお地蔵さんや埴輪が訪れる人を迎えてくれる。和みの微笑みを残し玄関前を通り居宅の横手へまわると、敷地を二分している市道の下を新たに通したトンネルがあり、それをくぐると最も広い鯉の池へでる。

池は四段になっていて、上から湧水の池、あずまやの池、鯉の池、小さいはけ池となっている。鯉の池は子供らの楽しい遊び場だ。右回りに歩いて橋を渡ると、快く水の落ちる音が聞えてくる。あずまやの池から落ちるこの水は清く冷たい。中の島で一休みし、二つ目の橋を渡ると京都の嵯峨野の竹林を思わせる小径に出会う。そこをたどり再びもとのトンネルをくぐり、歩を右へとると居宅の書斎前のテラスに出る。

そこから生前の氏の仕事場をガラス越しに望むのである。氏の大きな写真が掲額された下の机の上には画材とともにカボチャ、コダマ西瓜、筍、リンゴ、ジャガイモ、トマト、ナスなどが無造作に置いてある。「勉強、勉強、勉強、勉強のみよく奇蹟を生む」と書いた色紙が置いてあるがあまりにも有名な銘である。夫

妻の亡くなられたのがこの奥の部屋かと胸を悼めながら足をあずまやの池へ運ぶ。

先の二つの橋とこの池のあずまやは木を組んで造られていたが老朽化していて公開するには危険なためコンクリートに造り替えられた。いずれも自然の木を思わせる擬木を用い、細かい神経を遣って作業されているが、この公園化に際しての最も工事らしい工事であったろう。いまこのあずまやの池に鯉はいるが、コンクリートのあくが抜ければ再び放たれるのであろう。鬱蒼とした樹木に覆われてこの池の辺りからは空の色は見えない。園内はほとんど手を入れない自然の姿で、一五〇本を超す常緑、落葉の樹々が密生しており、周遊してこれらの植物の名をズバリいい切れる人が何人いるであろうか。杉、こぶし、椿、朴の木、泰山木、桜、梅、レンギョウ、松、大手マリの白い花、百日紅等々。

樹々の間を飛び交う野鳥も多く、工事中一時姿を消していた野鳥も再び戻ってきている。今その種類は三十種以上といわれ、朝夕はここをねぐらにする鳥の声でひときわかまびすしくなるのである。夏のひとときは蛇や蛙に出会うこともあるだろう。

湧水の池は小さいがここに湧く水が昔は入間川の水とともに入間田圃を潤していたというから、貴重な水源であったに違いない。

再びもとの玄関前にでると周遊は終りであるが、そこのベンチに腰をおろして園内での足取りをふりかえってみる。近代文学館の小田切進さんはある新聞に「池にそって竹林の小径があり、遠く人里離れた山の中へきた趣」とこの園を賞でておられるが、夏は清涼な大気と十分な湿りをもたらし、冬は落葉して薄日が庭にそそぎ、さらに新緑、黄落の情趣がうかがえる静かな散歩地ともいえよう。また文学者として画家としてまた思想家としての実篤氏の面影をしのぶよすがにもしたいものだ。ただ見物用の公園でなく、一人で人生を考え、みんなで語り合える場としても相応しい公園であると訪れた誰しもが思いをいたすであろう。

武者小路さんらしい記念館づくりを・・・

園を出たらすぐ右折して先の祠を詣でるとよい。その眼下、金網越しに園の全景がひろがる。湧水の池が十二、三メートル真下の崖底に見える。冬に葉が落ちた頃急崖の上に立つと、園のはるか彼方左に大山連峰、そして正面に丹沢山塊が、そしてさらにその向こうに白雪の霊峰富士をながめることができる。そして遠く近く調布の街なみのネオンが見えがくれする様は、熱海の夜景をホウフツさせる美しさだと教えてくれた人が居た。その人はここからながめる景色を深大寺、多摩川とならぶ調布三景の一つと称していた。

こうして公園を一周りしたあと、ふと気になることはやがて園の南側の空き地に建設予定されている記念資料館のことである。小田切進さんは先の新聞に次のような期待の言葉を載せておられるので最後に紹介したい。

「大正の文学、美術だけでなく、日本のデモクラシーの歴史にはかり知れないほどの画期的な役割をはたした武者小路さんの人と仕事にふさわしい記念館と公園がせっかく実現したのであるから、市は役人仕事にしてしまわずに市の誇りとしてさらに立派な資料館をつくり、個人の文学者を記念する仕方の理想的なあり方を示してもらいたい。同じ市に住む住民としてもこれを大切にしてゆきたい。」

（佐々木孝一）

あなたの街の電気屋さん
サトウデンキ
仙川商店街中程
☎3300－5016
SuperPanasonicShop

●インタヴュー

緑陰の実篤公園を訪ねて

薫風や　遺愛の椅子に彩にじみ　　みつ
主なき　鯉の背に浮く　竹落葉　　嶺百世
中の島　橋を渡ればえごの花　　富士子

これは、俳句愛好の入園者が公園の印象を句に込めて園の管理事務所に寄せられたものである。

去る五月十二日開園以来、入園者の数は、早くも一万五千人に達した（七月五日現在管理事務所調べ）。武者小路実篤氏の人気がいかに幅広いものであるかが偲ばれよう。また実篤氏を知らず公園そのものに興味をもって来園された方もあろうが、実篤氏のよすがを否応なしに感得されてしまったであろうと思う。

一日公園に立って、来園中の皆さん方からご感想やご意見をうかがってみた。

（インタヴュアー　佐々木孝一）

書斎に面影がほうふつと

◀先生は地味な方だと聞いていたが書斎などを見ると意外にモダンというか、洋風好みの人だったんですね。調度品なんか特にね。新しく資料館だか記念館が出来るっていうけど、この公園にマッチした和風づくりがいいですね。（地元自由業　男）

◀実篤先生の書斎を拝観させていただいたが、質実な先生の面影をほうふつとさせるお部屋でした。先生の大きな写真が掲げられていたが、あたかもそこに先生がいらっしゃる思いがした。（小石川　老人）

◀私は先生の愛読者だったんです。静かな公園ですから思索するにはいい所ですわね。でも私は小岩なのでなかなか来られないわ。調布の人やご近所の方にはすばらしい公園ができて良かったですわね。大事にしていただきたいわ。（小岩　主婦34才）

◀先生はいいものを残してゆかれましたね。緑は多いし、夏は涼しいんじゃないかしら。開園して間がないから混んでいるんでしょうけど、今度一日ゆっくり本を読みにくるわ。（桐朋女子短大生）

◀武者小路さんの本、ぼく読んだことない。でも名前がおもしろい。（若葉小　五年男子）

◀有名な作家のお住まいとしては随分質素ね。でもお庭は広いわ。起伏に富んで草木は多いし、池はあるしちょっとしたピクニック気分になれるわね。地方から出てきている学生ですけど、東京にいる間は時々くるわ。読書なんかに。（成城大　一年）

遠く富士山や丹沢の山脈が

◀遺跡はどこで出たんですか。この辺は崖地だから、一帯にそうなんだろうね。本当に水が湧いていて池の水が冷たいし、透き通っていてきれいだ。いつまでも涸れないで欲しいね。（三鷹　会社員）

◀近所なので散歩に来たの。子供も結構楽しんでいるわ。草木の名前や鳥の名前なんか勉強しながら。珍しい樹もあるようだから、名札がつくといいわね。（近所　主婦）

◀この敷地がもとお社さんだったって？　ああ、あの入口の脇にある祠がそのお社さん！祠のある坂道からみたこの公園の眺めはいいね。調布一の眺めだよ。遠く向こうには富士山や大山、丹沢の山脈が見えるしね。武者さんは本当にいい所に住んでいたね。でも武者さんは鳥の絵は描いていないね、こんなに鳥がいるのにね。（柴崎　男47才）

◀西調布から市報を見て来ました。結婚して三カ月前に都心から引越してきたんですが、忙しいものですから二人で出掛けたのは今日が初めてなんです。東京は比較的緑の多い都会ですが、この辺は自然のままの緑地が多いですね。市は、自然環境に恵まれたこういう地域を大事に守っていって欲しいですね。今は借家ですが、この辺へ引越してきたくなりました。（西調布　新婚カップル）

◀京都の風情がここにはありますわね。時々、散歩にきてみたいですわ。（三鷹市中原　上田）

珍しい鳥や樹木、池の鯉

◀池の中に入ってザリガニを獲っている子がいたけど危ないな。（散歩の老人）

◀大きな鳥が梢にいたけど、あれはなんていう鳥だね。今度は図鑑でも持ってくるかね。鳥は多いし、色んな木があっていいね。（代々木60才）

◀天皇っていう人から武者小路さんがもらったコイは、どこかへ行っちゃったの。それをみたかったおじいちゃん、ガッカリしてたよ。（若葉小　二年男子）

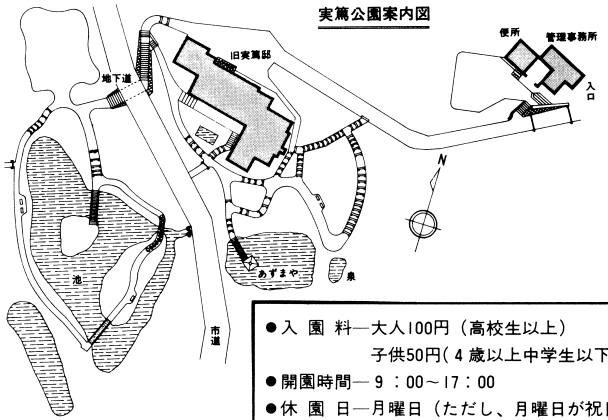
◀新聞で開園のニュースを見たので来たの。もっと広くて子供を遊ばせる所があるかと思って来たけど、それは無理だったわね。個人のお家の跡ですものね。（経堂　一児の母）

◀つまらなかった。遊ぶ所がないんだもの。でも、お水の湧いているお池でよそのおじさんに説明をきいたとき、良かったと思いました。（桐朋小　五年女子）

◀武者小路さんの本、読んだことありません。お名前だけで…。こういう自然のままのお庭やお邸が市に寄贈されたということは有難いことですわね。民間に売られたら、すぐ造成されてしまいますものね。近くに子供を遊ばせる小公園があると、子供連れにもいいわね（若葉町　主婦）

◀僕は武者小路さんの本、図書館で読んだことある。〝一休さん〟という本だった。面白かったよ。公園には虫が沢山いるし、池があるから楽しいけど、もっと遊べる所があるといい。（若葉小　四年前田）

◀立派な公園ができたと思う。武者小路先生も泉下で喜んでおられるだろう。駅からここへ来るまでの電柱に、ピンクホステス募集という貼紙がベタベタ貼ってあったが、こういう公園のある環境として好ましくない。取締れないか。（小金井　老人）



●入 園 料―大人100円（高校生以上）
子供50円（4歳以上中学生以下）
●開園時間―9：00～17：00
●休 園 日―月曜日（ただし、月曜日が祝日に当たるときは、その翌日）
12月28日から1月4日まで

先生の思想を活かした公園に

◀ベンチを今少し増やして欲しいな。それから喫煙用の灰皿とね。入園料高いと思うけど、この自然を保つには仕方ないだろうね。周辺の自然が目に見えて破壊されてゆくようだけど、行政もこの附近一帯の環境規制を考えてくれるといいね。この公園だけが自然であっても余り意味も効果もないものね。（緑ケ丘　商店主）

◀開園してから公園の周辺にジュースの空缶、空ビン、菓子の空袋、犬の脱糞、ピンクホステス募集の貼紙が目立つようになりました。美観・衛生の面から市はなんとか考えて欲しいと思います。附近の人々で今は清掃を行ってますが…。（附近の主婦）

◀先生の思想のようなものを、この公園を運営していく上に活用してゆくべきじゃないかな。でないと形骸化したつまらない公園になってしまうと思う。（立教大　男子学生）

◀ちょっと入園料が高いと思うな。この公園の規模の割合にね。大人50円、小人20円ぐらいにしたらどうかな。（目黒区　青年）

調布市立実篤公園

寄付物件目録

一、建　物
　調布市若葉町1ノ23ノ20所在
　木造平家建　206・71㎡

一、敷　地
　同上所在　4186㎡

一、書画類　79件
　油彩画5　水彩画10　水墨画27　書28　版画5　複製画1　スケッチ帖2

一、工芸品類　82件
　瓶15　壺5　水さし7　皿2　像15　人形11　俑7　その他20

一、画材道具類　26件
　硯6　墨4　文鎮2　筆洗3　筆立3　筆置1　置台3　印・印箱・パレット・イーゼル各1

一、その他　28件
　文化勲章1　原稿とペン1　机・椅子6　棚5　箪笥2　その他13

一、図　書　1260冊

一、電話加入権　1件
　03-300-7607

○志賀直吉氏から図書130冊
　実篤より志賀直哉宛贈呈著書

○梅原龍三郎氏からの揮ごう
　「実篤公園」の表札

実篤公園を考える。

我等は杉の林
協力すれども独立する。
我等は人間
協力すれども独立する。

実篤公園は二つの要素を持つ公園であると思う。一つは自然公園としての性格であり、今一つは実篤記念公園ということである。そしてその二つは実篤氏の思想の理解に即して結びついていくものと思える。前者について、公園化の工事に際しても格別の配慮がなされたとのことであるが、今回の造園や管理棟の設計・施工についての、専門的立場からの批評を求めたい。さらに54年度中に建設されるという記念館は、その位置からみても、公園全体の景観を大きく左右するものと思える。狭い敷地の中で、周辺環境を配慮しながらいかなる建物をつくりうるのか。管理棟と離れることの管理体制上の問題や、近くの東部公民館などとの機能分担なども、大胆に組み込んだ計画が求められる。しかしここでは、先の実篤記念という要素にもどり、公園構想への若干の提言を行いたい。

哲学堂としての実篤記念館

「この道より我を生かす道なしこの道を歩く」という木碑が、埼玉県毛呂山町の村の入口に立っており、この秋には創立60周年祭を迎えようとしている。実篤氏にとって〝この道〟とは何か。「彼にとって文学をやろうと思ったのと、新しき世界を生み出したいと思ったのとほとんど同時である。それは彼の双生児である」―『或る男』

実篤記念とは、やはり彼の創作活動と新しき村活動の両者を紹介、記念すべきものといえよう。そのためには、作品の展示という静的な場と、新しき村の志の継承という動的な空間が求められる。

実篤氏も仙川への転居に際して、「この土地内にギャラリー風のものを建てて、愛蔵している絵や彫刻などの美術品を誰にでも見せるようにしたい」という夢をもっていたという。『武者小路実篤』（日本文学アルバムⅡ）愛蔵の作品は、すでに都の美術館、新しき村（懸案の美術館づくりに入っている）と三分割された訳だが、逆に三カ所で見れるという楽しみが生まれた。しかし、各々に固定させないで、出来たら交換展示をして〝共有のものとして〟の実をあげる体制が出来ればと思う。

新しき街づくりの拠点として

新しき村の紹介ということで、どんなことが考えられるだろうか。毎年5月12日に旧邸で催されていた「武者小路先生生誕祭」が、昨年から東部公民館で行なわれている。全国から新しき村の会員の人達が集まる日だが、一般の人も参加できる。公園を訪ねた後、三々五々公民館の広間に集まり、懇親や寸劇を楽しむ。今年はユネスコ協会と東部公民館共催で、昼に武者小路辰子氏の講演会を催した。夕方から夜にかけては、比較的内輪の集まりとしても、この日は今後新しき村の写真展や作品展の催し物が工夫していける。

実篤氏を慕う人達は　新しき村の村外会員だけでなく、全国にわたり各分野に多数おられる。日向や埼玉の村という根拠地だけでなく、講演会や会合には、仙川～調布辺りは便利といえよう。又、実篤公園は一調布市（民）のものではないはずだ。実篤記念館についても、その計画や設計、資金調達や管理運営にわたって、全国の有志からの知恵を集めていったらどうだろうか。実施設計についても、コンペ方式でいくつかのプランを是非検討してみたい。

せんがわの鎮守の杜として

せんがわは今、独自のまちづくりのヴィジョンを求められているが、その時〝新しき街〟というテーマで考えてみたらどうだろう。具体的に日向や埼玉の新しき村と姉妹縁組みを結びながら、その精神を学びつつ、せんがわでの新たなまち文化をイメージしてみてはどうか。今、せんがわの鎮守さんは緑ケ丘の八幡神社と入間町の糟嶺神社に分かれ、まちとしての統合軸を失なっている。そこで、実篤公園を新たな鎮守の杜として、例えば元服式を中学卒業時に行ない、式後公園内の各々気に入った場所でスナップ写真を撮るといったことをまちの行事にしてみたらどうだろう。今、せんがわの街で育つ子ども等にそして、我々自身〝哲学の杜〟を持つ必要がある。

最後に、実篤公園の運営を考える協議会と記念館の計画・設計のための委員会を設置することを提案したい。

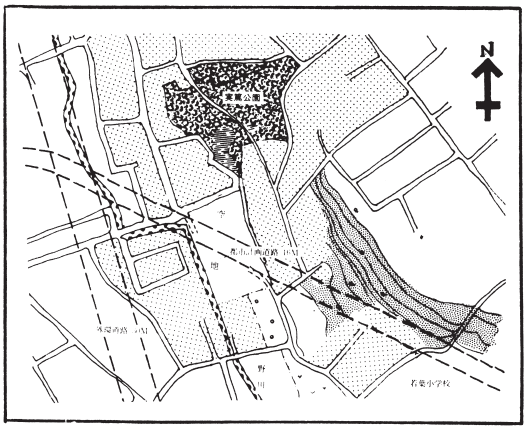
（青野友太郎）

●せんがわレポート●

実篤記念館をめぐって

「調布市　実篤公園」が若葉町にオープンしてから、この五月十二日ではや一年を迎えます。あなたもすでにおでかけになりましたか？　知人、友人がみえた時、案内がてら出向いたという方も多いみたいですね。全国各地からの来園者も多く、「さすが実篤さん……」とそのファン層の厚さを示しています。

デモデモ行きは楽しみ、帰りは何にか物足りない……感じみたい。自らでもの思う詩人タイプの方は別として、われら普通人には、材料、情報不足な、不親切な記念公園なんですね。



実のところ、「実篤公園」はまだ完成しておらず、今は仮開園の段階なのです。「54年度中には記念館を開設」するという予定が遅れ、公園の全体像がまだ明らかにされていないからです。施設が迅速につくられることだけが良い訳ではないので、計画の遅れ自体は問題ないと思う。しかし、「どんな記念館をつくろうか」という議論がどこからもわき上がらないのはいささかさびしいですね。

イ、現在の計画と進捗状況

当初、下の敷地の北側に建設を予定していたが、記念館に相応する面積の確保が難しく、南側の位置に変更になった。敷地面積としては五百M^2、建築面積百五十M^2、延べ床面積三百M^2の計画で、現在用地交渉中である。建物は二階建で、寄贈された美術品、書籍、日常生活品などの展示コーナーが主体である。

ロ、予定地を見て思うこと

そこで早速現地を見てみた。当地は現在駐車場として利用され、子供たちも休みの日などに遊び場として利用している様です。周辺は静かな住宅地で、公園と一体となった良い趣きの所です。また公園と予定地は図の様に区画街路でへだてられ、面的に連続した状況ではないので、その連絡の方法が問題となります。又、公園周辺がすでにほとんど宅地化されているので止むを得ないとはいえ、入口から離れた位置にあり、管理体制上、人手がかかる配置といえよう。

ハ、周辺の緑地との一体的整備を

実篤公園から若葉の森を経て、電通学園に至る斜面地の緑は誠に貴重なものといえる。実篤公園をスタートする緑陰の散策コースを選定して、全国からの来訪者にも半日ぐらいは滞在してもらえる工夫をしていきたい。そして帰りには商店街で喫茶・食事やショッピングで、若干お金を落していってもらいましょう。周辺環境を将来的にとらえる時、計画されている都市計画道路と外環道路との調整が大きな課題となろう。

ニ、実篤記念館プランに衆智を

いささか唐突な話しだが、自責の念をこめて卒直にいうと、記念館着工を今急ぐことはないと思う。全くはずかし、相済まぬことながら、「記念館建設への気運」は、この仙川の街、調布の市民に皆無であるのが現状ではなかろうか。実篤氏の贈り物に心からの感謝の念をいだき、そして委ねられた〝志〟への責務を自覚せる調布市民、何処にありや。市の予算で、業者仕事でやる建物など作らぬが良いと思う。本誌創刊号の「実篤公園を考える」に唯一答えてくれた、京都の奥村啓三氏の熱いハートなくして、記念する事業など止めたが良い。(前号41頁参照)

未だ機は熟せず。自責の念をこめてそう思いますが、どうでしょうか？来る5月12日の生誕祭の日、公園を歩き、東部公民館での集いに〝有志〟来れ！

（青野友太郎・税田芳典）

創業昭和二十二年

そば処　幡乃屋

仙川商店街通り中央　☎3300－3715

新しき村美術館設立趣意

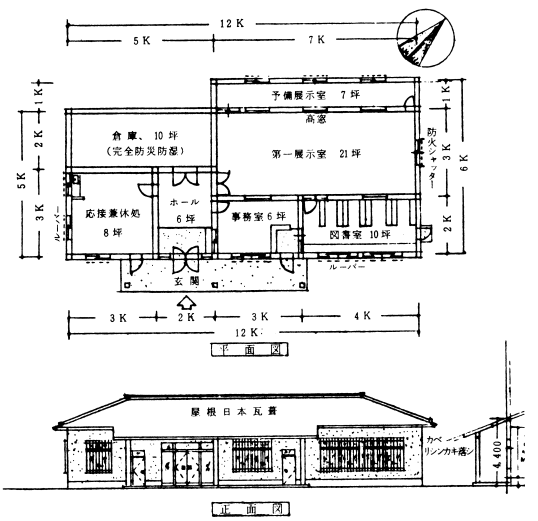
武者小路実篤先生は、昭和五十一年四月九日満九十一歳をもってその長い生涯を閉じられました。先生は生涯理想社会建設のために新しき村の運動に尽力され、その間絶えず美術館建設の夢を持ちつづけられました。

その収集作品の大半は、御遺族から公共機関である東京都や調布市に寄贈され、先生御夫妻が最後の二十年を過された調布市には、安子夫人の遺言もあり、旧邸と共に最も多くが寄贈され、旧邸は実篤公園として既に一般公開されています。多くの遺品は実篤公園内に調布市が新たに建設する「実篤記念館」に保存公開されることになっています。

一方、先生は新しき村のために数多くの書画を書き残されていますが、先般御遺族から先生が特別に愛好された伝李成や良寛などが寄贈され、先生の作品と併せて百数十点になっています。これらの保存に万全を期し公開して永く先生の御遺志を伝えることを願い、新しき村創立六十周年に当り私達は永年の願望であった美術館建設に着手することにしました。

新しき村の会員を始めとして、武者小路先生並びに新しき村に御好意を持たれる方々の御支援をお願いします。

昭和五十三年 佳日　**財団法人 新しき村**



新しき村美術館第一次建設案(74坪)

これはどこまでも試案です。思いつきでも結構ですから気づいた点はお寄せ下さい。

満八十になって(抄)

武者小路實篤

二十年後は、僕は自分が生きていれば百歳になるわけで、楽天家の僕もそれ迄生きていたいとも思わない。しかしあと十年生きられれば、僕は僕風の美術館をたてたい希望は失なっていない。それは一冊の僕の本のような、小美術館で、僕の短かい詩の書が方々にかけてあり、それを読むと大体僕が何を人間にのぞんでいるかがわかり、挿画がわりに僕の画や、僕の愛蔵した美術品がならべられている。入って出る迄に僕の生きた本に接する事ができるような特別な小美術館で、あまり見物人が来ないで静かに三四人の友達と話が出来る室もつくりたい。日曜日はタダかタダに近い金で見せていいと思う。月曜は休み。で、そのかわり一週に一日は特別高い入場料をとる日もつくっていいと思っている。静かに好きな室で二三人の友としんみり話が出来る日もあっていいと思う。他のもののお相伴に見に来る人百人より、本当に見たくってくる五人の方を僕は歓迎したい。そして村の精神も自づとわかるようにしたい。真理を知らす所にしたいのだ。

そして画も館全体の空気も統一のとれたものにしたい。美術館と言うより、一冊の本、本物の挿画のあった本を歩いて見る所にしたい。しかし之は夢かも知れない。しかしあと十年、頭がぼけずに生きられれば出来る事と思っている。

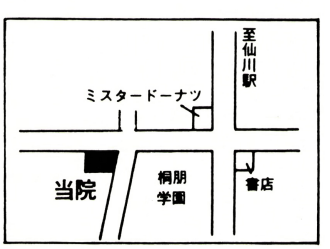
僕は夢みる男だが、それを実現する力もある程度持っているし、村の兄弟姉妹の実力も十年後には相当になっていると思っている。

「この道」昭和四十年七月号より

内科・耳鼻科・歯科

仲島医院

診療時間
9:00～13:00
日曜、祭日　休診



若葉町 1－27－5　☎ 3300－0755

仙川と実篤公園



佐々木 孝一

＊先日、築地のある料理屋で、その店の主人と雑談の折、ふと私の家はどちらかと聞かれた。「京王線の仙川っていう所ですよ」と答えると、「エエー、あの実篤公園の在る？」とびっくりした表情で聞き返えされた。なぜ知っているんだろう？　私はいささかいい気分になって森の石松の寿司食いねえではないが、「よくご存知で」と答えた。主人の話はこうである。

＊「私は実篤さんのファンではないが、六月のはじめ、その実篤公園へ行ったんですよ。坂があって、水があって、緑が多くて、小じんまりしたいい公園でしたね。去年の夏、東京都が都民の日のなにかを記念して、新東京百景っていうのを都民から募集したんですよ。候補地に挙がっていた実篤公園は選外になってしまったが、私はそういう名所旧蹟のような所を観てまわるのが好きでしてね。いま私は店の休みの度に、その候補に挙がった所を片っ端しから観てまわっているんです。それで実篤公園へも行ってみたんです。芦花公園は周辺環境が悪くなっているようですが、実篤公園は悪くならないよう仙川の人々は、貴重な街の財産をしっかりと守っていって欲しいですね」ということである。

＊私は仙川とは因縁のない遠くの人が、ふとしたことで公園を知り、公園の将来を深く必配してくれていることに深く感激した。昨夏、新東京百景の投票応募があったことは新聞やテレビ、駅貼りなどで広く報道されたことであるが、この地域では余り知られていなかったようである。当時私は、仙川の地域や調布市内の一部で約百人の方々に、新東京百景の投票のこと、実篤公園がその候補に挙がっていることなど知っているか、お伺いしたことがある。そして八〇％の人がそのいずれも知らなかった。また実篤公園を知らず、また行ったこともないという人が六二％もいて私は失望した。

＊浅草といえば観音様、調布といえば深大寺仙川といえば……今はさしずめ桐朋学園といわれるほどに仙川イコール桐朋学園のイメージは地域の内外でかなり定着していますが、仙川といえば実篤公園というイメージにはまだまだのようである。このような言い方をすると、観光化した実篤公園をイメージしているのかと叱られてしまいそうだが決してそうではない。

＊武者小路実篤氏は、奥深い自然と清水のある土地を探し求めておられたが、それにふさわしい土地として仙川を見出され、昭和三〇年三鷹市牟礼から仙川へ転居してこられ、仙川を「終の住処」と定められたのである。そして自然環境の良い仙川の土地をこよなく愛された。

＊仙川というところは昔から緑と水と土に恵まれた風土と暮しをもつ街であった。仙川イコール実篤公園のイメージは、自然と暮しよい街の代名詞としてイメージしたいのである。最近、商店街で、実篤氏の絵や、実篤公園を意匠化した紙袋を提げて歩く人の姿をよく見かけるが、これは実篤氏の生前、親しく交際のあった仙川商店街のS園とF屋のご主人が、自然を愛した、実篤氏の面影を偲ぶよすがにと、そして文学者としての、画家としての、哲学者としての、また自然人としての実篤氏を地域の友とした仙川人の誇りを内外に示すべく、サービスしているものである。

＊公園は五十三年五月開園以来五年、毎年一万人を超す入場者で静かなにぎわいを示している。日曜日には子どもたちが元気よく園内の起伏を馳け巡って、大きな声が鬱蒼とした樹木にこだましている。

＊実篤ファン待望の記念館は、五十九年度中に完成の運びになったようである。当初の構想では、五十四年度中に開館するはずであったが用地難などで遅れに遅れていた。しかしこの程、公園の南隣に用地のメドがつき、五十八年度中に設計プランが成り、五十九年度中に着工、完成の運びとなる。

＊敷地は七六七平方米。建物は、鉄筋二階建延べ三〇〇平方米。記念館には、現在上野の都美術館などで保管している貴重な書画六十八点、工芸品類三十六点など、実篤氏ゆかりの遺品類多数が常設展示されることになっている。これでようやく実篤氏の遺品類も安住の地が見つかったことになり、実篤ファン、地元の人々の目にも触れることができることになる訳である。

〃実篤記念館〃の建設に寄せて

――設計者からの便り――

現在、建設中の調布市実篤記念館を設計するにあたり、設計競技の段階から設計者が念頭において考えつづけてきた設計の要旨を報告します。

私達の提案は昭和58年9月の設計競技で採用されたものですが、その後、調布市の担当課の方々や、武者小路穣・辰子さん御夫妻、実篤に関連する方々とより内容の充実した記念館をと協議を重ねてきました。

簡単に要約しますと、設計のテーマは、概ね3項目に整理されます。

(1)実篤のイメージにふさわしい簡潔平明な品位ある建物。

(2)実篤公園の緑を連続しつつ、周辺の住宅環境と調和し、敷地規模にあったヒューマンスケールの建築。

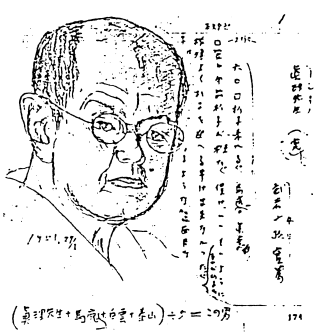
(3)実篤の全貌が気軽に鑑賞できる展示室と保存機能の高い収蔵庫を持ち、かつ維持管理の容易な建物。

▼実篤のイメージを求めて

実篤が生涯の集大成を行った仙川に立つ記念館は、なによりも実篤その人にふさわしい建物であることが、企画の根底になければなりません。実篤のイメージを具体的につかむためには、実篤その人を知る必要があります。実篤自身に会うことはかないませんが、生きた人間として問いかけ、実篤の声を聴くことが、設計者には最低限必要なことと思います。

実篤のイメージは、一般来館者に違和感が感じられたり、押しつけられる性質のものではいけません。

〈白樺派の中心人物〉〈理想主義者〉〈人生肯定〉という文学者、批評家の指摘からは、なかなか建築のイメージを結ぶまでには至りません。実篤のイメージをさがしだすことは、一枚の自画像が手掛りでした。



(真理先生＋馬鹿一＋白雲＋泰山)÷5＝この男

この自画像の背景となっている『真理先生』の中に、実篤自身の人生観、ものの見方が、鮮明に描かれているよう思われました。少し長くなりますが、引用しますと、

〈或る人が、「先生の考えは実に平凡だ」と言った。すると真理先生はすまして言った。「ありがとう。」その一言を聞いたとき、びりっと胸に来た。〉

〈僕が雑草や石ばかりかいているのを、あなたは軽蔑している。それは僕には聞きすてるわけにはゆきません。〉

そこには馬鹿一を代表として、草や石のようなあたりまえなものに、素直な気持ちで何かをくみとろうとする実篤の生き方、芸術観があらわれているといえます。ひるがえっていいますと、異様な、普通でない、複雑なものの中には、実篤の求める美はありません。

「簡潔・平明」な形態、しかも品位ある建物がこの建物のイメージにはふさわしいと考えます。私達は「簡潔・平明」というイメージを手掛りに、大きく素朴な形状の屋根をかけ、さりげない記念性が表現される形態を提案しました。

▼環境にどうなじませるか

実篤公園と敷地は地下道で結ばれることを前提としています。実篤の関連した美術館や博物館を廻って痛感したことは、実篤の生活のたたずまいが残っている施設はここ仙川にしかないということです。これは実篤の全体像を一般来館者がつかむためにも、重要な要素になります。又、実篤公園の樹林は、住民の方にも愛着をもたれてきた大切な財産であるといえます。私達は記念館の敷地にも緑を連続的に計画し、来館者の印象の分断をさけたいと考えております。

さらに記念館の建物を周辺の住宅のスケールとかけ離れたものにせず、結果的には実篤の「家」がイメージされる住宅的スケールの記念館を提案しています。

▼建築計画について

建物は、来館者が利用する、受付・ホール・展示室・トイレを一階に、実篤のコレクションや遺品を保存する収蔵庫及び展示準備室を2階に配し、単純な動線計画や平面計画を心がけています。仕上材についても、実篤のイメージと重なる素朴な持ち味、年月とともに素材の味わいのでてくる石や木などの材料が選ばれています。

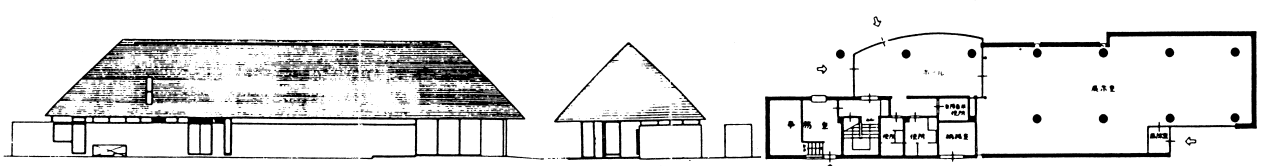
▼分散した実篤の情報

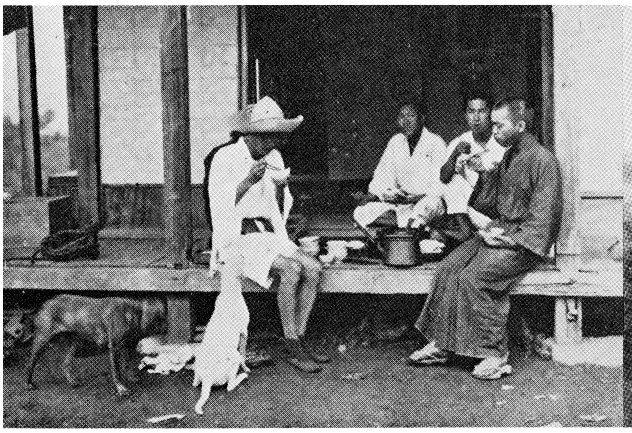
昭和60年秋に開館すべく工事は順調に進んでおります。

この設計を通じて色々な実篤の関連施設を見学したり、実篤についてお話する機会を得ました。埼玉県毛呂山町の「新しき村」美術館。殊に渡辺貫二さんら、新しき村の試みは、六十六年に及び、しかも村では実篤が毎日生きつづけているということに感動すら覚えました。さらに東京都立美術館、東京都立近代文学博物館、山梨県清春白樺美術館の方々には、多大な御助言や御協力をいただきました。

このことは、一面実篤の情報が各地へ分散していることを感じない訳にはいきません。そのような意味で調布市実篤記念館は実篤の全体像を一般の人にも共有できる記念館となるはずです。仙川の新しい地域の核として、愛される記念館となることを期待してやみません。

（坂倉建築研究所　出堀義夫）

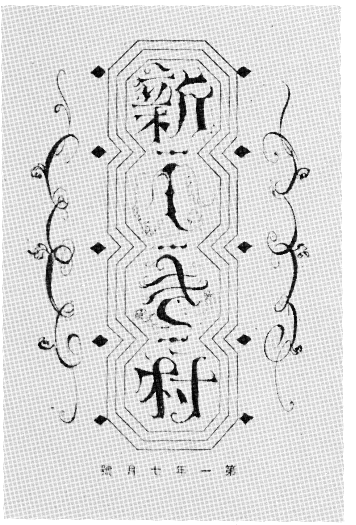




②



①



雑誌「新しき村」創刊号
＜大正７年７月号・岸田劉生装画＞

日向新しき村にて
①武者小路実篤（大正７年）
②村に初めて建ったかやぶきの
合宿にて（左端・実篤）

僕の生活か？
。
。
朝はものを書く
昼からは働くのだ。
万人が半日働けばいい時がくることを
僕は切に祈っている。
村の精神の下で生きれば、
そう人間は出来るのだということを
しっかりつかむことが出来たらな。
僕はそれを祈っている。

。
。
自分は世界中をこの山おくで
沢庵をかじりながら
最美の世界に築きあげる事を
想像し、
その実現を信じ切って
元気で、元気で仕方のない男

●一九二五年（大正十四年）

新しき村会則の改正、その他（抄）

武者小路実篤

自分達は人間が人間らしく生きられること望む。すべての人が天命を完うし個性を生かすことの出来る世界をのぞむ。だから人間を人間あつかいしないものには賛成出来ない。他人の生命を尊敬しない設備、行為、思想に反対する。

会員の義務

新しき村以外に住む会員は毎月三十銭会費を納めること。

会員への希望

会員をふやすこと。

会員は本部と常に連絡をとること。

会の精神、自他共生の社会をつくり得ること、およびその社会が真の人間らしい社会であることを人々に知らせること。

新しき村が方々に出来ることを心よりのぞむこと。

正しい社会の出現を心からのぞむこと。

他人を人間あつかいしない思想に反対すること。

自他の生命に交渉のないことは無頓着であること。

そのかわり自他の生命を傷つける行為には反対すること。しかしその反対は実力が伴うことを要求する。その行為の起る原因に打ちかつ力を養うことを必要とする。また相手をやっつけるのが目的でなく、正しく生かすことを目的とすること。

会員は月一回集れる会員同志は集ること。

木曜日の夜は村の発展について考えること。

祈り得るものは祈ること。

十一月十四日は村の記念日にすること。

会員同志は何か事のある時、お互いに助けあうこと。

世話係はもうけるが、命令者は存在することを得ず。

賛成することだけ賛成すればよし。

党派的争いには出来るだけ超越すること。

だが、正しいと思う方を助けることを得。

われらは百万の頭を有し、二百万の手足を有する巨人として生きることを望む。われらは日本の与論に正しき常識を与えることを心掛ける。

団体としてするべき仕事はその都度雑誌その他で発表する。賛成するものはそれを助け、不賛成なるものはそれに加入しないことを得、積極的に反対な場合は雑誌に公開状をかくこと。

会員以外の人とはよき隣人であること。

以上、一九二五年十一月十四日より実行したし。賛成な人は会費を十一月からおさめて下さい。

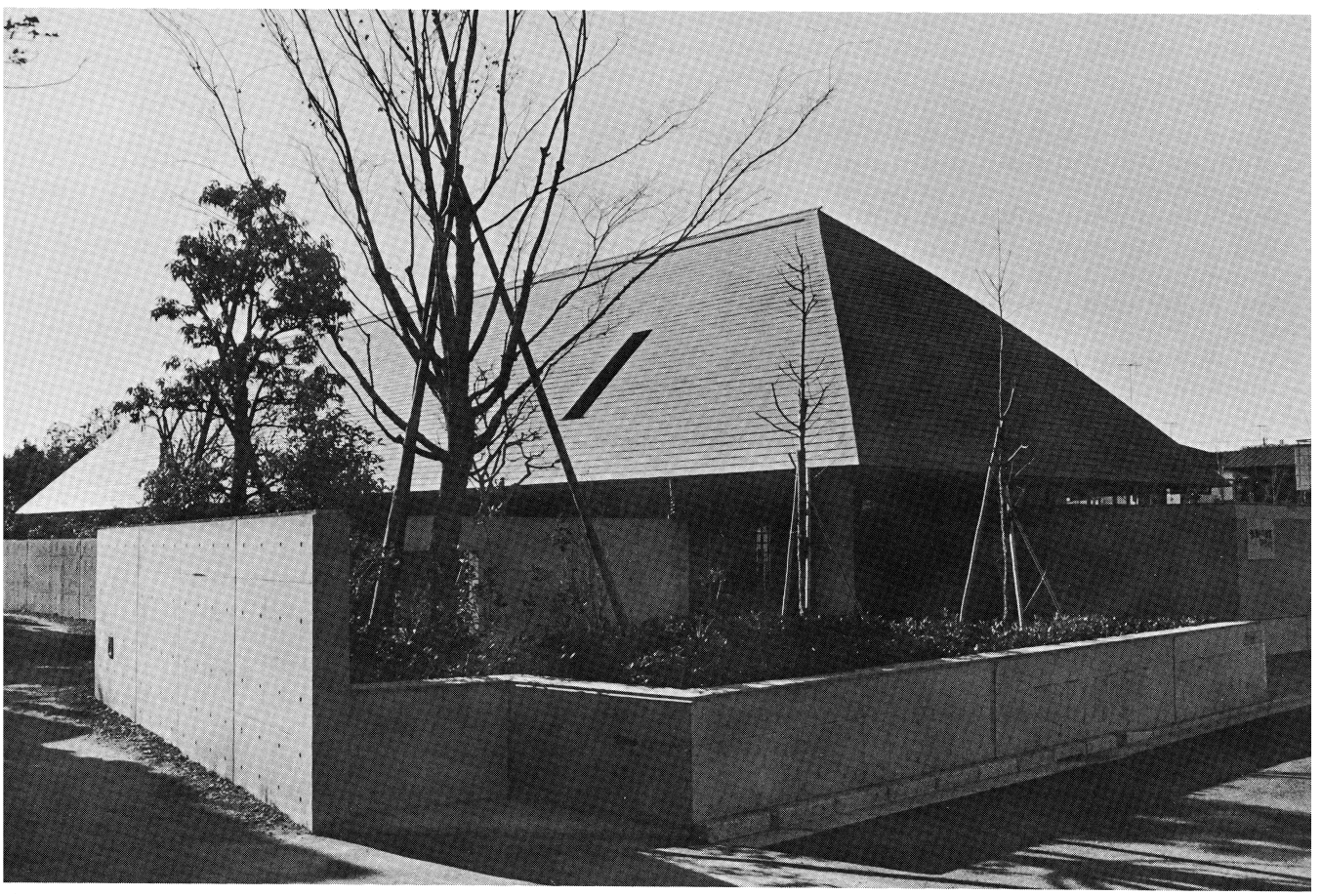
（『新しき村通信』第十六号）

▷出所：『新しき村50年』（昭和43年・㈶新しき村）

武者小路実篤記念館

10月29日オープンしました

カメラ　丸井　潤＋1

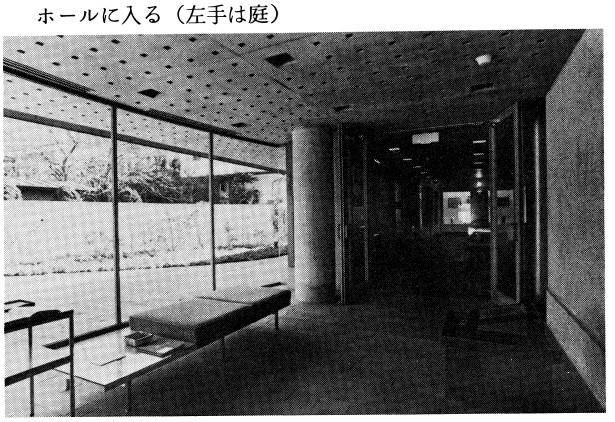


記念館の全景（ふくらみのある寄棟屋根が印象的）



実篤の手型

ホールに入る（左手は庭）





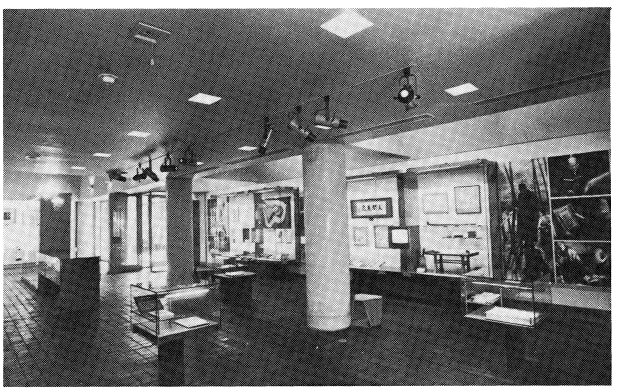
記念館入口

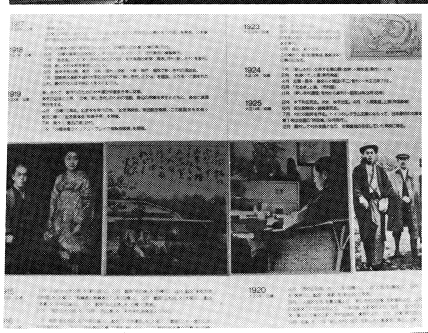
展示室



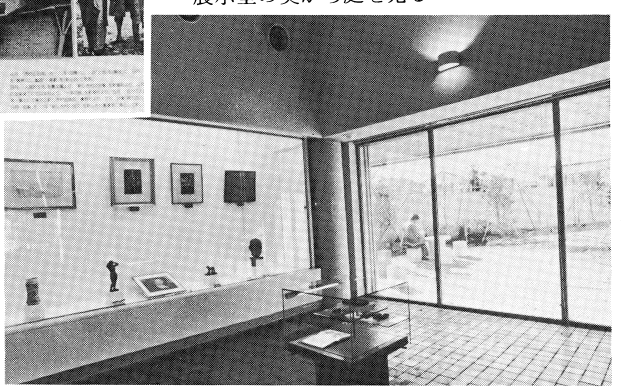
実篤記念館ってどんなとこ？

展示室





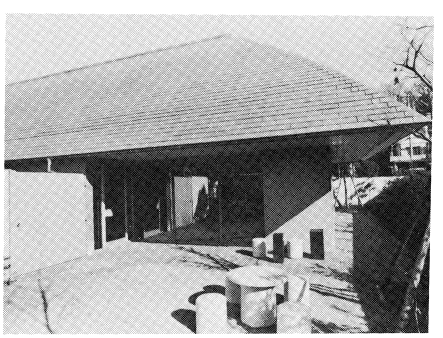
展示室の奥から庭を見る





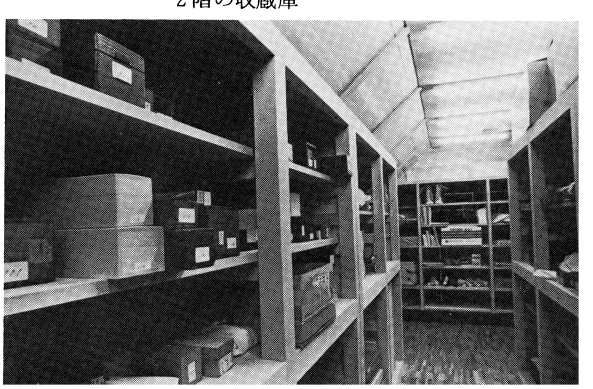


実篤のブロンズ像



庭から展示室を見る

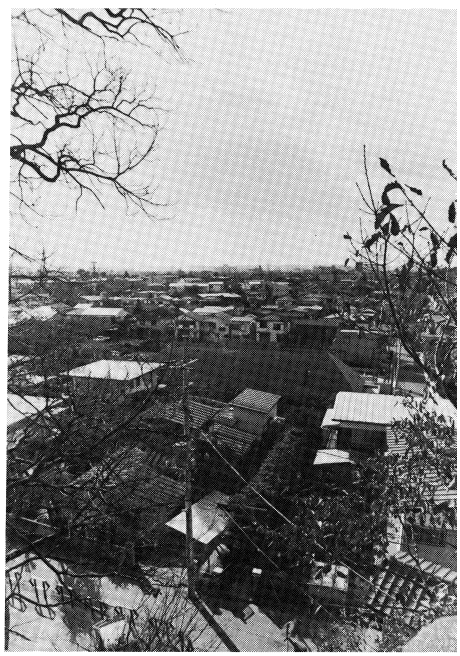
2階の収蔵庫



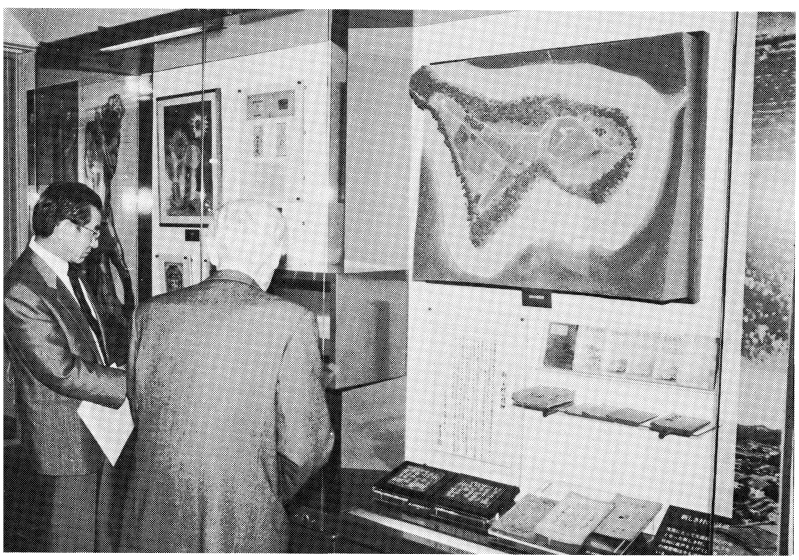


展示室を見学する人々

記念館は住宅地の中にある

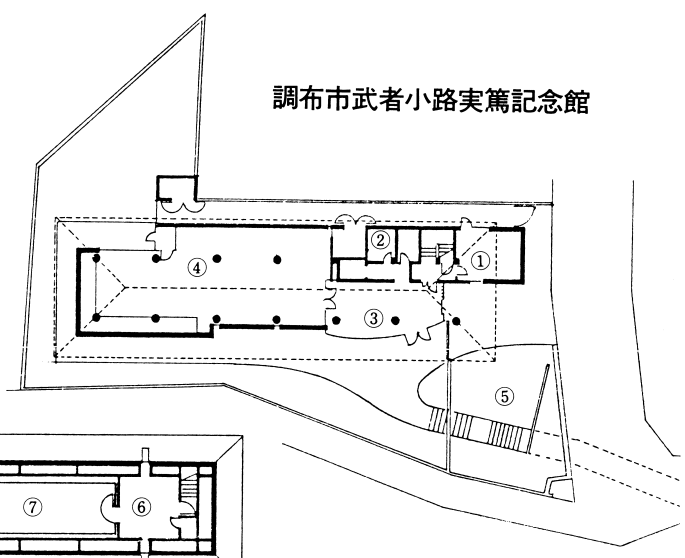


日向の新しき村の模型の前で



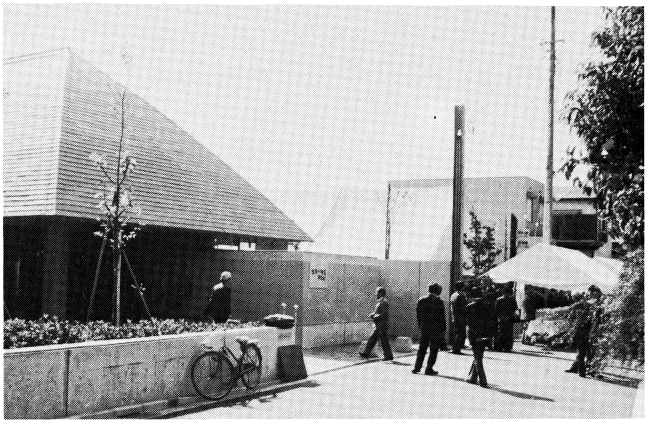
1階
①受付・事務室
②トイレ
③ホール
④展示室
⑤地下連絡路

2階
⑥展示準備室
⑦収蔵庫





祝辞を述べる井上靖氏



開館式典は隣接の駐車場で行われた

開館記念式典・点描（10月28日）



開館式典には多数の文化人が参集した





歓談する人々



左：中川一政氏、右：井上靖氏

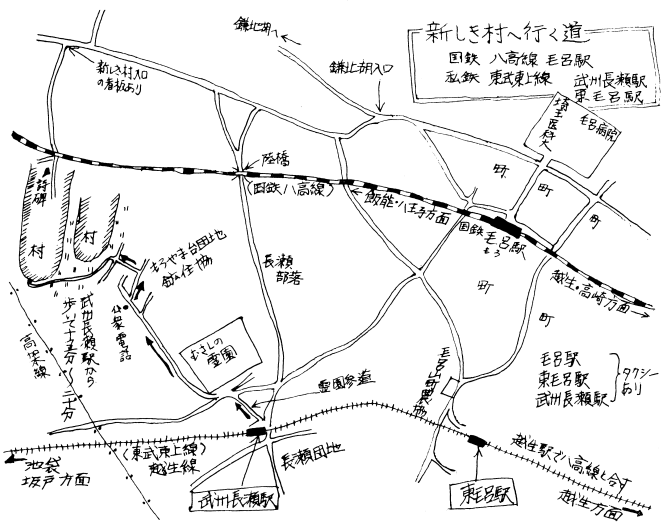


新しき村生活文化館





生活文化館内部



新しき村の現在
(埼玉県入間郡毛呂山町)

新しき村美術館



写真提供：新しき村

特集

実篤記念館と共に

昭和53年の実篤公園開園から6年余を経て、念願の記念館がオープンした。開館式典の折の祝辞とあいさつの要旨を、各氏のご厚意によりご紹介いたします。貴重な実篤略年表ともども、実篤氏との新たな出会いになれば幸いです。（企画・協力　調布市武者小路実篤記念館）

実篤記念館――今後の運営

調布市武者小路実篤記念館　堀　公彦

調布市にとって年来の懸案であった実篤記念館が、市制三〇周年を記念して、このほど実篤公園の隣地に開館した。今年はおりしも実篤先生の生誕一〇〇年目でもあります。

「実篤公園と記念館」は、昨年暮れに市民投票できまった「ちょうふ八景」でも上位で選ばれており、市民のオアシスとしてすでに多くの人々に親しまれてきた公園の魅力とともに、記念館に対する期待の大きいことをうかがい知ることができます。

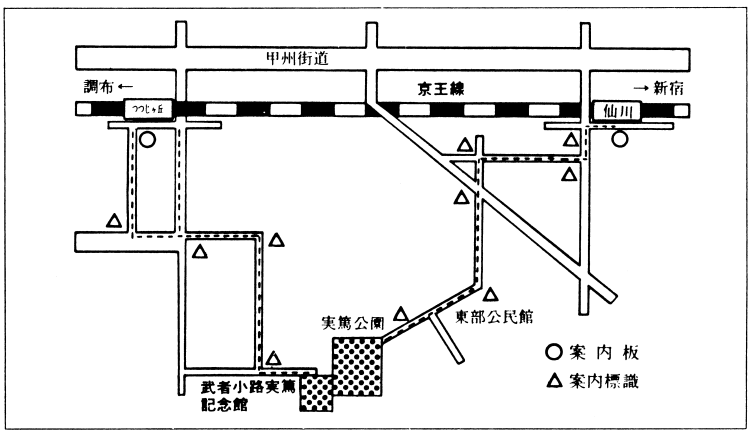
記念館は、実篤公園とは道路を隔てて接しているので、今までの公園の地下道とともに二本の地下通路をくぐってようやく辿りつくことになります。比較的年齢層の高い利用者にとっては、いささか負担と言えますが、もともと旧実篤邸跡を公園化する際に、出来るだけ原状を変えず、しかも周辺の環境ともマッチした施設をということから、地下通路による連絡とした経緯があります。

ともあれ、実篤先生が生前こよなく愛され、既に公園の一部として公開されている旧邸に近接して設置されたことにより、その相乗効果も期待され、まさに〝せんがわ〟ならではの、地の利を生かした施設といえましょう。来館（園）者にとっては、記念館→公園、あるいは公園→記念館へと足を進めることによって、おのずと生活の場をも含む実篤氏の全体像といったものをイメージすることも可能となります。

記念館の展示設計にあたっても、そうした配慮からいくつかの〝仕掛け〟が考えられています。

エントランス・ホールのさわれる資料・手形レリーフ「我が老いたる手よ」、九〇歳の生涯を年譜と写真で構成するユニークな〝道〟のゾーン、文庫本を手にとって実篤作品に親しんでもらう〝和〟のゾーン、空間を補完しながらわかりやすく実篤を紹介するためのビデオ・コーナーなど、単なる資料の展示に止まらないいくつかの工夫もなされています。また小規模ながらも、庭内には氏ゆかりの白樺や画題にした草木なども配して趣のある施設とするよう心掛けています。

当館は、10月28日の開館式を経て翌29日からオープンとなったわけですが、2カ月足らずで来館者も既に五〇〇〇人を超える勢いで、今更ながらに、実篤ファンの根強さに驚かされます。それだけに館の今後の運営も十二分に心していかなければと痛感している次第です。



調布市武者小路実篤記念館　〒182 東京都調布市若葉町1－8－30
TEL 03（326）0648

利用案内

開館時間
午前9時～午後4時まで

休館日
月曜日（祝日のときはその翌日）
年末年始
展示替え期間中

入園料
大人（高校生以上）　100円
子供（4歳以上、中学生以下）　50円
ただし65歳以上は無料

交通機関
京王線・つつじヶ丘駅または仙川駅下車
徒歩10分

子供たちの世界では今〝いじめ〟の問題が日常茶飯のように取上げられ、大人の世界でも相変わらず核の危機が叫ばれています。こうした状況下であればこそ、わたくしたちはこの記念館を、単に故人を懐かしむことだけを目的とした、〝メモリアル・ホール〟に終わらせることなく、多岐にわたる〝人間〟実篤の生きざまを通して、自らの生き方をあらためて問い直す機会を人々に提供する場ともしたいと考えています。

さて、〝せんがわ〟とのかかわりという点で、忘れてはならないことがあります。

公園がオープンした年の翌年（昭和54年）の暮のことでしたが、市庁舎の一室で、小さな会合がもたれていました。市側から、市長以下数名の職員、実篤氏のご遺族を代表して武者小路辰子氏と新しき村の福田氏が出席されたほか、日本近代文学館理事長の小田切進氏、女子美術大学学長の柳悦孝氏、それに当せんがわ・21の青野氏が招かれて、会は進められました。小田切氏以下の三氏は、それぞれのお立場のほか、当地せんがわ在住の文化人という共通の立場もあって、特に請われての出席でもあったと思われます。

話題は、当然ながら当時市が計画中の「実篤記念館」をめぐるものでした。席上、小田切氏は、「将来展望に立って、じっくりと時間をかけて、調布市として永遠に誇るに足る仕事をしてほしい。」と力説されました。「周辺の緑と調和のとれた立派な記念館づくりを期待している。」と柳氏。青野氏からは、「地域はもとより、全国の実篤ファンを結集した一大プロジェクトを……」と、それぞれ熱っぽく語られました。遺族側からのごあいさつがあったあと、「緑の拠点であるこの地域の自然とマッチしたすばらしい記念館づくりをしたい。」と、市長が決意のほどを述べて、この日の会合は幕となりました。

あれから5年余をへだてて、今日晴れて開館できることになった裏には、今さらながら、あのとき話し合われたことの成果が大きなよりどころとしてあったことが痛感されます。その意味で、今も忘れることのできない心に残る会合でした。せんがわ在住の方を中心としたものであったことにも、特に意義深いものを感じています。

今後の館の運営については、もとより多くの方のご指導に待つところですが、そのためには、単に館内での展示活動のみに止まることなく、図書館や公民館などのほか、学校教育の場との連携や地域との交流なども積極的に進めていくことが必要と考えます。より多くの方のご支援を期待する所以です。

公園の紅葉も今年は、ことのほか鮮かな色彩を池の水面に投げかけているように思えます。2つのトンネルをくぐりながら、公園のオープンで走り回った日々がつい昨日のように思い出される今日このごろです。

開館式典の祝辞とあいさつから

口中川一政さん

きょうは、たいへんうれしい…、それだけ申上げればいいくらいなんだけど、わたしは自分の身内でも友達でも、墓に行って、そこに霊魂があるとは思えないのです。こんなところに霊魂なんていない。いるように感じないのです。だけれども、今日この開館式に来まして、やっぱり武者小路さんは、亡くなって方々歩いていて、やっと住みかを持った、そういうように思うんです。それがわたしには嬉しいのです。

わたしは、幸せなことに、いい先輩を随分持っています。その中でも一番わたしに影響を与えたのは武者小路さんです。

それで……三分間話せというんですが、ちょっと言っておきたいことがあるんです。それは、さっき画を見ていたら、辰子さんが画を批評してくれ、誉めてくれと言うんです。そのわたしの前に晩年の油絵があって、それに感心しているところへ、そう言われた。

それで、いつか会があった時に、武者小路さんの画の悪口を並べて言ったのです。それは、わたしが言ったのではなくて、一般の人が武者小路さんの画について言ったことをわたしはまとめて話をしたのです。それで、さんざんそういうことを並べておいて、後でわたしが誉めようと思っていたのです。

ところが、悪口を言っている時に時間が来ちゃって、時間だから降りろと言うのです。それで降りては、わたしの話の半分にもいってないからと思って、我慢をして話を続けていたら、楽屋から武者小路さんが出てきて、「きみ、降りろよ」と言うんです。それで、本人が出てきたのだから降りないわけにいかないので、降りた。だけども、後から考えると、どうも気持ちが悪くてしようがない。言い足りない、大変なことを言い足りない。その時はそれで降りたんですが、それがいままで気になっていたので、今日は、その続きをわたしは言いたいのです。

それで、武者さんの画というのは、さっき僕が感心した画なんかでも、独立した画として立派だと思うんですが、画と文章とか、詩とか、そういうものを合せた画のジャンルというものがあるのです。後で御覧になればわかるけれども、白隠さんの画とか、仙崖さんの画とかいう類の、画としては半分だけれども、文章が助けて、半々のものが一つになっている。そういう画のジャンルというものがあると思うのです。武者さんの画は初めからそういう画で、讃と画が一緒になって、それでもってひとつの芸術を醸し出している。そういうふうなもので、武者さんというのは、わたしはやっぱり坊さんだと思うんです。白隠さんなどの後に、画のほうからいえば、ついている画だと思っていた。だけれども、だんだん画と…画が独立してきて、晩年のように、ああいうふうに、実に唐なすでもなんでも、こくがあって、それでもって構図が動かないのです。どうしても動かせないような構図を作っている。それで、武者さんの画というのは、日本の、日本でも支那でも、ああいうふうに、士太夫の画で、あくまでもそれが根本になっていて、士太夫の画というのは、ずるいことを否定する、小細工を否定する、真直ぐに自分の思うことを言う、そういうふうな画のジャンルから出ていて、芸術品として一つひとつの画としても、完全な画となってきた、そういうところで武者さんは亡くなったと思うんです。まあこの位で……。

口志賀直吉さん

先程ご紹介いただきましたように、父が死にましてから、蔵書を整理いたしましたが、やはり武者小路さんからいただいた分が一番多うございまして、たしか百三十何冊かの署名本がございました。これを私のところに置いておきましても人目にも触れませんし、それだけ集めるのもなかなか大変でございます。なにかお役に立てればと思いまして、武者小路家にご相談しまして、頂載したものですが、お返しして有効にお使いいただけないかとお話しをしましたら、しばらくしてこの調布に記念館ができるので、そこで使いたいというお話しがございました。

父は昭和46年10月に亡くなりましたが、約一年ほど病床に伏せておりました。その時に武者小路さんが、新聞紙一枚ほどの紙に文章を書いてくださいました。武者小路さんと父の間柄が、一番良く感じられる文章なので、それを読ませていただきます。

直哉兄

この世に生きて君とあい
君と一緒に仕事した
君も僕も独立人
自分の書きたい事を書いてきた
何年たっても君は君　僕は僕
よき友達持って正直にものを言う
実にたのしい二人は友達

昭和四十五年十一月十五日

実篤



小田切氏



武者小路氏　　中川氏
井上氏

口井上　靖さん

私は武者小路実篤先生のずっと後輩でありますが、武者小路先生のお仕事、またお人柄からいろいろな影響を受けて、今日ここまで育ってきた者であります。

武者小路先生がお歩きになった時代は激しい時代であります。明治、大正、昭和と、しかもその真中を武者小路先生一流の歩き方で、誰も及ばないただお一人の歩き方で、そうしてなさることは独創的でありました。それを見事に貫いておられます。そういうお仕事が、一口でいえば、武者小路先生はご自分のお歩きになった跡を〝武者小路山脈〟とでもいうような山脈をお作りになっていると思います。その山脈が、いろいろな形でこれから研究され、学ばれ、そうして将来の日本の文化界に大きい影響を与えると思います。

口小田切　進さん

芸術家としての武者小路さんについてはもう先程からいろいろお話しがありましたが、私は思想家としても大変大きなものを私達に残してくださったと思います。武者小路さんのお人柄、お仕事を敬愛するものの一人として、こんなに立派な記念館を調布市長始め市の皆さん、また大勢のご関係の皆さんのお力で作っていただいて、大変嬉しく存じます。

実は六年前、市長さんと辰子さんからご相談があり、市長室に招かれて、この記念館の最初の計画を示され、意見を求められました。私は瞬間迷ったのですが、憎まれても構わないから思う通りを申し上げようと思い、こんな記念館では世界の武者小路に恥ずかしい、調布市民の恥でもある、市長さん、これではだめですよ、もうちょっと何とか隣りの土地を手に入れて作ってくださらなければ、とてもとても問題になりません。武者小路さんは素晴らしい仕事を残した素晴らしい人なんですから、これでは武者小路さんにふさわしくないからだめです、と判然申し上げました。

県立図書館や市立の図書館、あるいは歴史郷土資料館に併設されている文庫などをふくめると、日本の文学ミュージアムは百十に達します。個人記念館としては武者小路実篤記念館は二九〇平米ほどで、一番小さいミュージアムだと思います。これからいろいろな企画に関連のある幾つもの東京都のミュージアムが全面的にバックアップしてくれます。かえって非常にいい形で記念館が出来たのじゃないか、美術品はやはり東京都の美術館が預かってくれている、これが最上だと思います。ここで必要なときには運んできて、このゆかりの一番深い地で武者小路さんの仕事にふさわしい立派な展観をするように考えていけばいい。大変理想的な形で、また六年前よりもずっと大きな規模で記念館ができて、内心私のためになかなかできないのではないかということでハラハラしておりましたので、それだけに格別ありがたく、嬉しく思います。

口武者小路辰子さん

こんなお高い所からご挨拶いたしますのは大変申し訳なく存じますが、今日は父の記念館を建てていただきましたことのお礼で、何とお礼を申上げていいかわからない気持ちで一杯でございます。

本当に父と母の住み家でございまして、20年間孫たち七人と始終通っておりまして、私達といたしますと、おじいちゃんとおばあちゃんの家というふうに思っておりました年月が長うございました。そうして、父と母が連れ立つように51年の2月と4月に亡くなりまして、本当に思い出の所でございますが、それから実篤公園を調布市で作ってくださいまして、またこの記念館が出来るまでにもう本当に多くの方々にお世話になりました。そういう人達の、何というのでしょうか、愛情を、父から人々に、人々からまた私ども遺族にも与えて載きましたように存じまして、本当に嬉しく思っております。

この記念館をご覧になりますと、きっと皆さんお分り下さると存じますが、本当に隅々まで愛情が込められているという気がいたしまして、私ども両親を亡くしましても、空しさというものはないように存じました。本当に嬉しく思っております。

この記念館が、これからも本当に調布市の誇りとして生き生きとした、生きているものとして、これからも発展していくように、お礼を申上げると同時に、お願いいたす次第でございます。

本当にありがとうございました。

武者小路実篤記念館年譜について

武者小路実篤年譜は従来、中川孝、紅野敏郎、大津山国夫、渡辺貴二の諸氏、および東京都美術館によってそれぞれ作成されている。本記念館はこれらを貴重な資料として参考にし、このたび武者小路実篤年譜委員会（調布市、新しき村、皆美社、武者小路実篤会）の手によって検討し、本記念館の年譜を作成した。なおこの図録には、これを基本として抜萃再編し、略年表として収めた。

武 者 小 路 実 篤 略 年 表

1885 明治18年

5月12日　東京市麹町区元園町1-38(現東京都千代田区一番町19-4)に生まれる。父、子爵武者小路実世数え35歳、母、秋子(勘解由小路家)数え33歳の8番目の末子。兄姉のうち5人は早く死に、5歳の伊嘉子、2歳の公共がいた。実世は明治4年(1871)岩倉具視の遣欧使節団の一行に加わり、3年間ベルリンに留まって法律を学ぶ。

1887 明治20年／2歳

10月　父死去。父は死を前に「この子をよく育ててくれるものがあったら、世界に一人という男になるのだがな」と言ったという。父を覚えていない実篤に、この言葉は強い影響を与えた。

1890 明治23年／5歳

半蔵門近くの幼稚園に通う。病弱で神経質で母は教育に苦心する。4歳から10歳になるまで、毎年夏、鎌倉海岸に行く。

1891 明治24年／6歳

学習院初等科入学。成績は中の上だったが、兄が首席だったため、母から比較されることが多かった。朗読と数学が良く、音楽、習字、図画、作文が苦手。木下利玄と同級。

1896 明治29年／11歳

三浦半島金田に移住した叔父勘解由小路資承のもとに、毎年夏訪れる。

1897 明治30年／12歳

学習院初等科卒業、中等科入学。武課と体操が嫌いだった。

1902 明治35年／17歳

9月　中等科6年の時志賀直哉が同級になり、下級との対立事件を通して親しくなる。

1903 明治36年／18歳

3月　短篇「初恋」のお貞さんにうちあけぬままの失恋が文学へ傾斜させる。
5月　邦語部(弁論部)で初めての演説。以後、直哉とともにさかんに活動。
9月　高等科に進む。兄公共は高等科を首席で卒業し、東京帝国大学法科に入学。
11月　「輔仁会(校友会)雑誌」に「所感録」を発表。○この頃から、トルストイ（ドイツ語訳)、聖書、仏典をしきりに読み、とくにトルストイに強くひかれる。

1906 明治39年／21歳

4月　志賀直哉と富士五湖から赤城山まで徒歩旅行。
7月　学習院高等科3年を卒業、成績がビリから4番だった。
9月　東京帝国大学哲学科社会学専修に入学。大学の授業にあきたらず、小説・詩・対話・戯曲・感想など、形式にこだわらず創作をこころみる。

1907 明治40年／22歳

4月14日　志賀直哉・正親町公和・木下利玄と十四日会をつくり、毎月創作を批評しあう。また、輸入の美術雑誌・複製画や展覧会をともに見て、美術への関心も深める。
8月　外務省に勤めた兄公共と相談、その励ましを受けて、大学を中退。
10月　十四日会で雑誌発行を計画するが、この時は実現せず。
この頃、メーテルリンク『智慧と運命』(ドイツ語訳)を読んだことや、ドイツの理想派の画家クリンゲル等の影響を受け、トルストイの禁欲的傾向から自己の解放を図る。

1908 明治41年／23歳

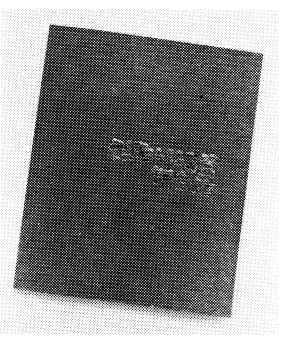
4月　『荒野』初めての出版。(後年未熟として再版しなかった)
6月　東北帝国大学農科大学(旧札幌農学校)に赴任していた有島武郎を訪問、翌月帰京。7月、十四日会で回覧雑誌〈暴矢〉(後に望野と改称)を始める。
○この頃、ドイツの複製画を丸善でしばしば購入、西洋絵画の絵葉書の模写をする。

1909 明治42年／24歳

4月　学習院2年下の里見弴・園池公致・児島喜久雄等の回覧雑誌〈麦〉、3年下の柳宗悦・郡虎彦等の回覧雑誌〈桃園〉と〈望野〉を統合して新しい雑誌を企画。1年間の準備期間をおく。3幕物「ある家庭」(戯曲の処女作)を書く。
10月　上野桜木町のバーナード・リーチを直哉と訪れ、エッチングの講義を聴く。

武者小路家は藤原北家閑流院右大臣三条西実条の二男公種(1631－92)を祖とし、最初の住所によって武者小路を姓とした。家禄130石。代々和歌の家であり、2代実陰は、和歌で霊元天皇に重んぜられ、破格の従一位、准大臣を授けられた。明治以後は華族となり、実世は子爵を授けられた。

〔本略年表の出所〕



調布市武者小路実篤記念館

発　行　昭和60年10月28日
　　調布市教育委員会
編　集　調布市武者小路実篤記念館
　　東京都調布市若葉町1－8－30
　　☎03(326)0648
印刷所　大日本印刷株式会社

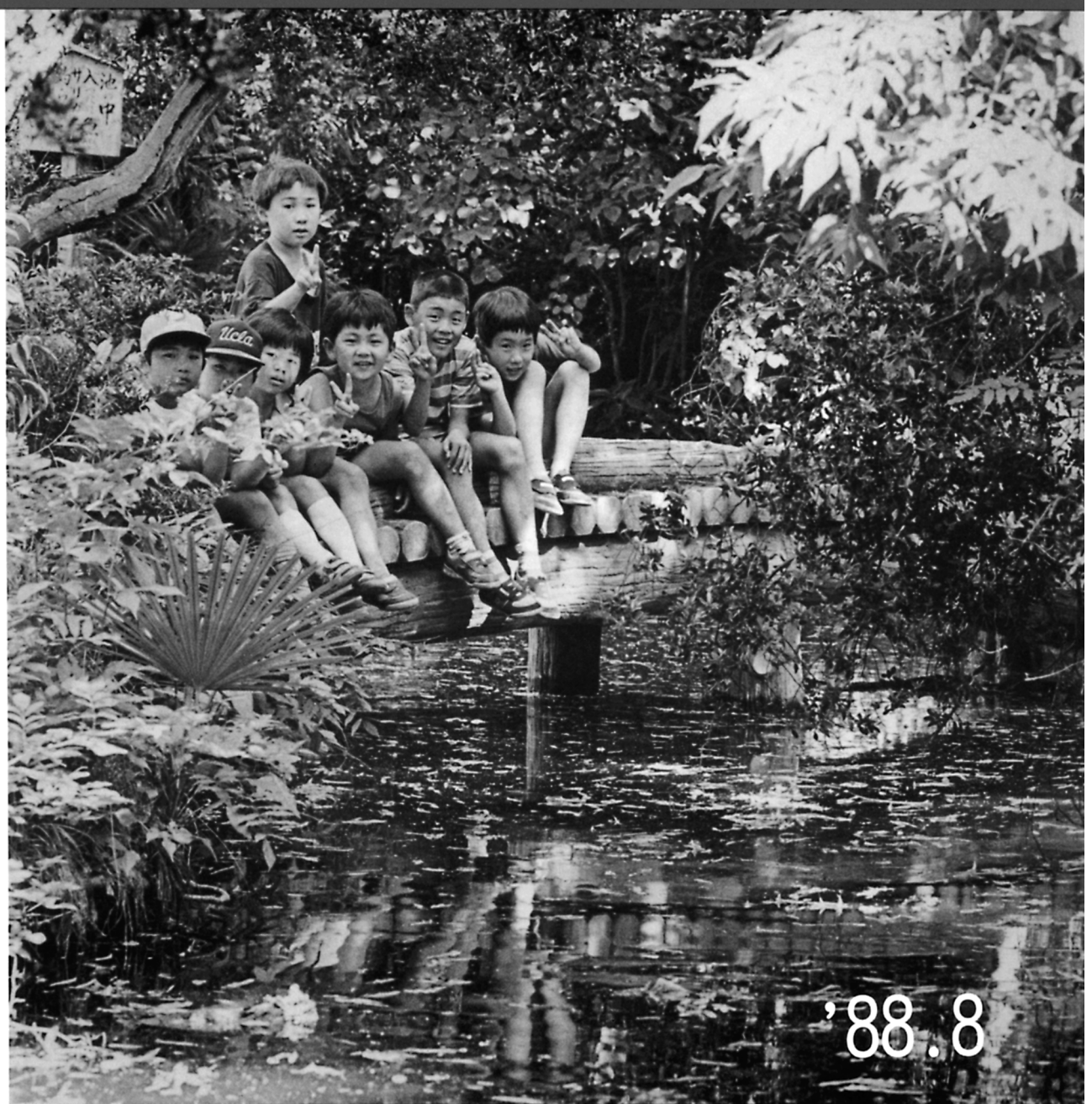
	著　書	美術・演劇他
1908	荒　野	
1909		

		著書	美術・演劇他
1910 明治43年／25歳	4月　雑誌〈白樺〉創刊。有島武郎、壬生馬(のち生馬)兄弟、少し遅れて長与善郎も参加。巻頭に「『それから』に就て」をのせ、夏目漱石から好意のある葉書をもらい。東京朝日新聞に感想執筆を依頼される。 11月の〈白樺〉ロダン号のために有島壬生馬を通してロダンと文通。		白樺社主催南薫造・有島壬生馬滞欧美術展
1911 明治44年／26歳	12月　ロダンに〈白樺〉同人より浮世絵を送ったのに対して、贈られたロダンのブロンズ3点が初めて日本に入る。○岸田劉生が訪問、交友が始まる	お目出たき人	白樺主催泰西版画展(ムンク等) 白樺主催洋画展
1913 大正2年／28歳	2月　竹尾房子と結婚。	世間知らず 生長　心と心	白樺第4回展（ロダン）第5回展
1914 大正3年／29歳	5月　生家を出て麹町区下二番町に家を借りる。8月、漱石のすすめをうけて短篇「死」を〈朝日新聞〉に発表。	わしも知らない 死	白樺第6回展　梅原良三郎(龍三郎)展 泰西版画・複製展
1915 大正4年／30歳	1月　神奈川県鵠沼に転居。3月、戯曲「その妹」を〈白樺〉に発表。	彼が三十の時 向日葵	白樺第7回展 ○わしも知らない(文芸座)
1916 大正5年／31歳	2月　小石川区小日向台町に転居。○「或る青年の夢」を〈白樺〉に連載。 12月　千葉県我孫子町字根戸に家を建てて転居。我孫子には志賀直哉や柳宗悦が以前から住み、バーナード・リーチもものちに移住。	その妹　小さき泉 後ちに来る者 小さき運命	○二つの心(新富座) ○清盛と仏御前(芸術座)
1917 大正6年／32歳	〈白樺〉10月号に「美術館をつくる計画に就て(並びに同志の人の寄附をつのる)」を発表。日本最初の西洋近代美術の美術館設立を提唱。	ある青年の夢 日本武尊 新らしき家 カチカチ山と花咲爺	○その妹(舞台協会) 悪夢(牛込芸術倶楽部)
1918 大正7年／33歳	3月　白樺美術館の基金をつくるため、白樺同人の合著『白樺の森』刊行。 7月　「ある国」(のち「新しき村に就ての感想」)を大阪毎日新聞に発表。月刊〈新しき村〉を創刊。　8月、新しき村本部を東京につくる。 9月　我孫子を出発、東京・浜松・信州・京都・大阪・神戸・福岡で新しき村の演説会。 11月　宮崎県児湯郡木城村大字石河内字城に「新しき村」(2.5ha)建設。三方を川に囲まれた山村。最初の住人は子供2人をふくむ17人。	我孫子より 新しき村の生活 或る脚本家 雑感	○だるま(市村座) 白樺第8回展(ギリシャ、ルネッサンス等複製)
1919 大正8年／34歳	新しき村で、家作りのための材木運びや麦まき等に従事。 毎年2回ほど上京、「白樺」「新しき村」のための活動、身辺の用事を果すとともに、各地に講演旅行をする。白樺同人合著『白樺の園』『白樺の林』刊行 4月　〈白樺〉10周年。記念号を発行の他、「記念演説会」「岸田劉生個展」(この展覧会を武者小路兄に捧ぐ)「記念音楽会(柳兼子等)」を開催。 7月　周作人(魯迅の弟)訪村。○「友情」を〈大阪毎日新聞〉に連載。	自己を生かす為に 第二の母 幸福者 一つの道	○二つの心(白樺演劇社第1回試演会)
1920 大正9年／35歳	東京市外長崎村(現豊島区)に「新しき村」印刷所・曠野社創設(～大正15) 4月　隣村川南村に「第二の新しき村」をつくる。○志賀直哉訪村。	人間的生活 新しき村の労働 友情　耶蘇	○二十八歳の耶蘇(帝国劇場)
1921 大正10年／36歳	1月　「新しき村」最初の住居を兼ねた集会所焼失。すぐ復興にかかる。 4月　〈生長する星の群〉創刊。(～大正13年)	土地 未能力者の仲間 生きんとするもの	白樺美術館展(ゴッホ、セザンヌ)
1922 大正11年／37歳	2月　有島武郎・志賀直哉編『現代三十三人集』刊行、村の水路のために印税寄付。 9月　長与善郎訪村。「人間萬歳」を〈中央公論〉に発表。 10月　「村のための会」(講演・演劇)で「神と男と女」「天国に旅する学生(ハンス・ザックス)」を上演。中川一政・犬養健・倉田百三・実篤・房子等出演。河野通勢装置。ついで京都でも上演。 房子と離婚。前年入村した飯河(いいこ)安子と結婚。	燃ゆる林 女の人の為に 彼の結婚と其後 二人の彼	○一日の素盞嗚尊(帝国劇場) ○張男の最後の日(有楽座)
1923 大正12年／38歳	4月　戯曲「楠正成」を〈中央公論〉に発表。　6月　有島武郎自殺。 9月　関東大震災、母は無事だったが生家は焼失。〈白樺〉9月号未刊のまま廃刊。 12月　長女、新子出生。 この頃から、絵(鉛筆素描、墨画淡彩)に熱心になる。	彼れの青年時代 第三の隠者の運命 武者小路実篤全集 全12巻(芸術社)	
1924 大正13年／39歳	1月　〈新しき村〉〈生長する星の群〉を合併「人間生活」発行。(～11月) 4月　志賀・長与・倉田らと雑誌〈不二〉創刊。(～大正15年7月) 11月　〈新しき村通信〉を村から創刊(～昭和14年3月165号)	或る男　人間萬歳他 新しき村の今後 草原　桃源にて 自分達の使命 建設の時代	○桃源にて(麻布南座)

		著　書	美術・演劇他
1925 大正14年／40歳	2月　木下利玄死去。次女、妙子出生。　6月　叔父勘解由小路資承死去。 7月　村に印刷所を作る。ドイツのレクラム文庫にならって、日本最初の文庫本「村の本」刊行。 12月　離村して村外会員となり、志賀直哉の在住していた奈良に移る。	泉と鐘 人生を斯く考へる 詩百篇 運命と人々 愛慾	○人間萬歳(帝国劇場)
1926 昭和元年／41歳	1月　奈良市水門町に転居。昭和14年埼玉県に「東の新しき村」を創るまで、毎年2度は訪村、執筆活動で引きつづき村の財政を支える。 12月　和歌山市西高松に転居。同市西正寺に姉伊嘉子の墓がある。	自然 人生 社会 死に克つには 孤独の魂 気まぐれ日記	○愛慾(築地小劇場) 生命の王(築地小劇場) ある日の一休(先駆座)
1927 昭和2年／42歳	2月　東京府南葛飾郡小岩村(現葛飾区)に転居。○小説「母と子」を〈朝日新聞〉に連載。 4月　実篤主宰編集〈大調和〉創刊(～3年10月)。白樺同人の他、高村光太郎・倉田百三・千家元麿・生田春月・室生庫星・菊池寛・野上弥生子・平塚雷鳥等が執筆。 西巣鴨に「新しき村」東京支部を設立、第1回「木曜会」を開く。(同会は大戦末期の約半年間を除き、今日まで継続) 9月　「最初にかいた油絵」と記す〈南瓜〉を描く。以後、油絵もさかんに描くようになる。　10月、牛込区左内町(現新宿区)に転居。	人類の意志のまま 若き人々 運命と葬をする男 文芸雑感 平和の民 母と子	第1回新しき村展 第1回大調和展
1928 昭和3年／43歳	1月　麹町区下二番町に転居。有楽町に「新しき村の会場」を作り、毎月のように講演会、室内劇、毎週座談会を開く。月刊〈第三の者〉を刊行。 11月　母、秋子死去。三女、辰子誕生。個人雑誌〈獨立人〉を創刊(～5年3月)。	思ったまゝ 雪舟	
1929 昭和4年／44歳	4月　東京市外下落合(現豊島区)に転居。 5月　「第4回国画会展覧会」に油絵3点入選、以後毎年出品。 9月　「新しき村」満10年。佐藤春夫が発起人となり、文壇・画壇69氏の作品を集めた『十年』(改造社)を出版、その印税を村に寄付。 東京市外祖師ヶ谷(現世田谷区)に転居。 12月　神田猿楽町に美術店「日向堂」を設立。○岸田劉生死去。	日蓮 劇五篇	最初の個人絵画展(日本橋・丸善)
1931 昭和6年／46歳	1月　雑誌〈星雲〉を創刊(～9月)。○小説「井原西鶴」を〈時事新報〉に連載。 7月　東京市外砧村喜多見(現世田谷区)に転居。	詩　集 二宮尊徳 棘まで美し	○日蓮(帝国劇場) ○出鱈目(村・満劇部) 実篤近作洋画展
1932 昭和7年／46歳	5月　「国画会」会友となる。 11月　長与善郎と月刊二人誌「重光」を創刊(～9年10月)。	大石良雄	
1933 昭和8年／48歳	3月　月刊雑誌〈新しき村〉を復刊(以後断続して15年まで)。 7月　新しき村演劇部第7回公演「詩人の夢想」に出演。 11月　新しき村誕生15年を記念し第1回「新しき村祭」を東京赤坂三会堂で開催。	論語私感	○愛慾(築地座) 義時と泰時(左団次一座)
1934 昭和9年／49歳	1月　市外吉祥寺鶴山小路885に転居。 12月　吉祥寺日向小路645に転居。	維摩経　釈迦 空海及び其他	
1936 昭和11年／51歳	4月27日　横浜より欧米旅行に出発。　10月、パリにてマチス、ルオー、ドラン、ピカソを訪問し、ピカソからエッチング《ミノトール》(現在、東京都美術館蔵)を贈られる。アメリカを経て、浅間丸で12月帰国	志賀直哉の手紙 トルストイ 欧州見聞記	実篤小品集
1937 昭和12年／52歳	6月　芸術院会員となる。市外三鷹村牟礼359に転居。	楠木正成 一休 曽呂利 良寛	実篤渡欧小品展 実篤色紙展
1938 昭和13年／53歳	宮崎県営の水力発電所建設のため、日向の新しき村の1haの耕地が水中に没することになり、東京近郊に新しき村建設の土地を探す。	人生論 愛情の書 ルオー	実篤日本画展(京都・大阪・東京2回) 実篤近作展
1939 昭和14年／54歳	9月　埼玉県入間郡毛呂山町、1.08haの丘陵地に、東の新しき村を創設。	愛と死　井原西鶴 蝸牛独語	実篤新作展
1940 昭和15年／55歳	3月　小説「愛と死」で菊池寛賞を受ける。 9月　三鷹村牟礼490に転居。○小説「幸福な家族」を〈婦人公論〉に連載。	湖畔の画商 幸福な家族 楽園の子等	実篤日本画展(大阪) 実篤個展 ○七福神(文学座)
1941 昭和16年／56歳	5月　新しき村機関誌〈馬鈴薯〉を創刊。神田神保町に「新村堂」を開設。	孔子　無車詩集 息子の結婚	
1942 昭和17年／57歳	5月　日本文学報国会劇文学部長に就任。 10月　長女新子、木村龍蔵と結婚。 11月　大東亜文学者大会が東京で開催され、講演。	画集と画論 東西六大画家 美術論集	「画集と画論」出版記念近作展

		著　書	美術・演劇他
		希望と回想	
1943 昭和18年／58歳	4月　中国・南京で開かれた中日文化協会大会日本側参加団に加わり渡航、周作人と再会。○倉田百三死去。	美術を語る 暁 三少年国を護る 豊太閤の手紙	実篤日本画展 ○三笑（芸文座）
1944 昭和19年／59歳	3月　〈馬鈴薯〉終刊、戦時政策のため〈文芸日本〉へ強制合併。	野菜讃　三笑	実篤個展
1945 昭和20年／60歳	3月　三女辰子、武者小路穣と結婚。 4月　家族と伊豆大仁を経て三条市へ疎開。 5月　新しき村会員により東京の自宅で還暦の誕生会。 6月　秋田県の近郊稲住温泉に移る。 8月　終戦を知った1日だけ原稿も画も書かなかった。9月、帰京。10月、小説「愚者の夢」を脱稿。12月、新しき村講演会を東京文化学院（以後数年毎月各所で開催）	武者小路実篤脚本 詩と劇	実篤個展
		人生の書	
1946 昭和21年／61歳	3月　勅選議員に任命される。　7月、公職追放令G項該当、勅選議員・芸術院会員を辞任。毎年春秋京都旅行。	若き日の思ひ出 愚者の夢　虹 新日本の建設	実篤旧新作展
1947 昭和22年／62歳	1月　雑誌〈向日葵〉を創刊（～3月）　○この年　長与善郎、志賀直哉、安倍能成、和辻哲郎、小泉信三らと新しい雑誌発行を計画する。	稲住日記 愛と人生　歓喜 美しき時代	実篤個展（京都他2回） 新しき村美術展（都美術館）
1948 昭和23年／63歳	3月　新しき村を財団法人とする。千家元麿死去。 4月　次女妙子、安宅侃三郎と結婚（武者小路姓を名のる）。	混沌　岸田劉生 芸に生きる人々	
	7月　雑誌〈心〉創刊、文壇・画壇43人の同人で生成会をつくる。 11月　新しき村30周年を祝う会を共立講堂で開催。	レンブラント 美はどこにも ある彫刻家	
1949 昭和24年／64歳	4月　月刊〈新しき村〉を復刊。○小説「真理先生」を〈心〉に連載。 9月　埼玉新しき村「東の村満十年を祝う会」を東の村にて開催。	人間釈迦 第三人生読本	実篤油絵展 実篤個展（日本橋・壺中居、昭和50年まで毎年開催）
1950 昭和25年／65歳	11月　倉敷の大原美術館が開館20周年を迎え、白樺の同人とともに訪問。さきに白樺美術館が購入したセザンヌの《風景》とロダンから贈られた彫刻3点を同館に寄託。倉敷で講演。	愛と美の人生論 幸田露伴 生き残った者	新しき村美術展
1951 昭和26年／66歳	8月　公職追放解除。 11月　文化勲章を授与される。三鷹市名誉市民の称号を贈られる。	理想的社会 真理先生 笛を吹く	実篤日本画展（上野・松坂屋、昭和50年まで毎年） ○その妹（劇団民芸）
1952 昭和27年／67歳	3月　中川孝の永年のコレクションを「実篤文庫」と命名した。新しき村会員からも多くの資料寄せられる。　4月、芸術院会員に再選。	武者小路実篤詩集	実篤個展（大阪） ○その妹（慶応義塾）
1953 昭和28年／68歳	11月　新しき村誕生35周年祭を東の村で行う。「この道より我を生かす道なしこの道を歩く」の詩柱建立。	のんきな人達 空想先生　馬鹿一 我が人生の書 後然草私感	実篤近作展（大阪・京都各2回、東京） ○その妹（松竹映画化） 第7回新しき村展
1954 昭和29年／69歳	5月　文壇画壇35氏発起による古稀祝賀会、東京会館で開催。 京王線仙川の近くに泉と池のある土地を買う。（北多摩郡神代町入間468番地・現実篤公園）	花は満開 武者小路実篤全集 全25巻（新潮社）	古稀祝寿展（銀座・上野） ○めでたし（NHKラジオ） ○人間萬歳（宝塚雪組）
1955 昭和30年／70歳	11月　新しき村36周年祭（東の村15周年）挙行。東の村の名称を廃し「新しき村」と呼ぶことに決める。 12月　仙川の新居に転居（山口芳春設計）	我が人生と真実 馬鹿一萬歳 我が信念の書 古稀畫帖	○愛と死（ラジオ東京） 実篤十年間の作品 個展（日本橋壺中居） 「心」生成会書画展
1965 昭和40年／80歳	5月　東京都より名誉都民称号を贈られる。満80歳祝賀会を上野精養軒で開催。	恋愛論	実篤近作展（新宿・伊 実篤小品展
1966 昭和41年／81歳	5月　書画落款を「実篤」と当用漢字に改め、年齢を書き添えることとする。	のんきな男とのんきな造物者 思い出の人々	実篤人形画展 大調和展 我が愛する書画展
1968 昭和43年／83歳	4月　新しき村に50周年記念碑が建つ。 7月　NHK教育テレビで中川一政、臼井吉見との対談「この人と語る」放映。 8月　日向新しき村のある木城町で記念碑2基を除幕。 11月　「新しき村50周年祭」を文京公会堂で開催。講演、長篇詩「新しき村五十年の祭日に読む為につくる」を朗読。○自伝「一人の男」を〈新潮〉に連載（42年～45年）	或る男と創物者 実篤選集全8巻 考え方思い方 真実の世界 若き日の為に 対談鼎談集 青春に贈る	実篤書展 ○その妹（俳優座新人会） 実篤近作展 実篤日本画展 熊谷守一・実篤展 心20周年記念展 新しき村50周年展

		著書	美術・演劇他
1956 昭和33年／73歳	1月　ＮＨＫテレビ亀井勝一郎と対談「伝統の美術」 7月　ＮＨＫ第２で「絵と彫刻の美について」放送。	山谷五兵衛 二宮翁夜話私感 画をかく喜び	勢丹・昭和33年まで毎年） ○愛と死(ニッポン放送)
1958 昭和33年／73歳	11月　「新しき村40周年記念祭」を九段会館で開催。新しき村、自活達成。	この道を歩く 白雲先生	実篤個展(銀座) 仕合せな馬鹿(NHKラジオ) 実篤色紙短冊展(大阪)
1960 昭和35年／75歳	1月　「志賀直哉と対談」「里見弴・吉井勇と鼎談」「中川一政と対談」放送。 5月　月刊〈新しき村〉を〈この道〉に改題。 11月　梅原龍三郎、中川一政らを中心に、この道会を結成。「この道会記念展」を日本橋・壺中居での開催、収益を新しき村に寄付。	人生をどう生きるか 人生随想	実篤油絵新作展 実篤小品展 生成会この道展
1961 昭和36年／76歳	5月　文壇・画壇57氏の発起による喜寿祝賀会を椿山荘で開催。650名の参会者。 9月　東京12チャンネルの座談会「劉生33回忌に因んで」に中川一政、岸田劈子と出席。 ○この年、柳宗悦、長与善郎死去。	或る男の雑感 実篤　画と文 道徳論	喜寿記念展 ○だるま(NHK教育) ○お目出たき人(NHK) 実篤近作展
1962 昭和37年／77歳	4月　第７回「美術家祭」で日本画家高齢功労者として表彰。兄、公共死去。 11月、トルストイ記念祭で講演（日本青年館）。	私の貝殻	実篤日本画展 大調和展（復活第1回以後毎年出品）
1963 昭和38年／78歳	8月　日向新しき村が財団法人となる。 11月　新しき村45周年記念祭を共立講堂で開催。	人生の言葉 武者小路実篤画冊 六人の現代画家 馬鹿一の一生	実篤彩墨展 実篤近作油絵展 心同人陶器展 実篤書展　実篤個展
1969 昭和44年／84歳	1月　東京12チャンネルの「私の昭和史１・新しき村の五十年」に出演。 4月　日向新しき村に50周年記念碑が建つ。 7月　東京12チャンネルの「人に歴史あり」に出演。	人生の特急車の上で一人の老人	実篤作品展（酒田） 実篤書展
1971 昭和46年／86歳	5月　「武者小路実篤展－そのゆたかな流れ」東京都近代文学博物館で開催。 ○志賀直哉死去。	自選詩画集	実篤満八十五歳展 和と真・実篤展 大調和回顧展
1972 昭和47年／87歳	5月　米寿祝賀会を丸の内・東京会館で開催。文壇・画壇、新しき村会員など数百名参会。	一人の男 無限に広がる心 人間はいかに生くべきか	米寿記念福寿開展 心25周年記念展 ○詩「笛を吹く」バレエ化（牧阿佐美バレエ団、孫娘有紀子主演）
1973 昭和48年／88歳	6月　夫人、安子が東京女子医大病院に入院。９月中旬、退院。	愛・人生・死 美愛真 愛・幸福・人生	
1974 昭和49年／89歳	11月　新しき村の機関誌〈この道〉を創刊時の〈新しき村〉と改題。 油絵静物（讃あり）、最後の作品となる。当館所蔵。○園池公致死去。	私の美術遍歴	白樺とその周辺－書画展
1975 昭和50年／90歳	１月末、安子２回目の入院、３月末退院。 4月　「白樺派の作家展」日本近代文学館で開催。 5月　卒寿祝賀会を信濃町・東医健保会館で開催。 6月　「武者小路実篤卒寿記念展」を大阪・高島屋で開催。 この夏は健康がすぐれず、〈心〉〈ＰＨＰ〉〈うえの〉〈新しき村〉に連載の原稿もほとんど休稿。 安子、実篤記念のため、土地・家屋・美術愛蔵品等を公的なものとする旨の遺言状を作成。 12月　安子、上祖師谷至誠会病院に３度目の入院。		真と和の画業・実篤作品展 第28回新しき村美術展 ○九十歳の春(NHKテレビ)
1976 昭和51年／91歳	１月　自宅仙川例会（毎月第２日曜）に最後の出席。危篤を続ける安子を入院先に見舞い、翌日脳卒中の発作を起し病床につく。 ２月　安子夫人死去。 ３月　狛江の慈恵医大第３病院に入院。 ４月９日　早朝４時25分、死去。10日、近親と新しき村の会員により、仙川の自宅で密葬。24日、青山葬祭場で無宗派の葬儀を挙行。斎場は谷口吉郎設計、葬儀委員長は梅原龍三郎、里見弴、中川一政の３名、会葬者1,500余名。 ５月16日　新しき村大愛堂に、３月に納められた安子の遺骨と並べて納骨。 ８月　東京都調布市若葉町の自宅並びに愛蔵品は調布市に、近代美術品・文学資料は東京都に、一部は新しき村、三鷹市等に、それぞれ寄贈。		新しき村、心、信州白樺、追悼号。新潮、群像、海、文芸、現代、婦人公論、婦人之友、新美術新聞ほか日刊紙、週刊誌が追悼記事を掲載。 追悼新しき村美術展、人生の詩人・武者小路実篤展



せんがわ 21

実篤と新しき村　特集号

“実篤と新しき村”仙川フォーラム’88



実篤空間の今

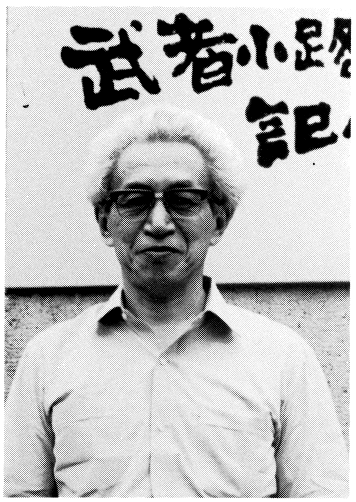
公園と記念館を結ぶ地下通路

カメラ
加藤純一郎

実篤の空間

「村」というのは

むしゃこうじ・みのる



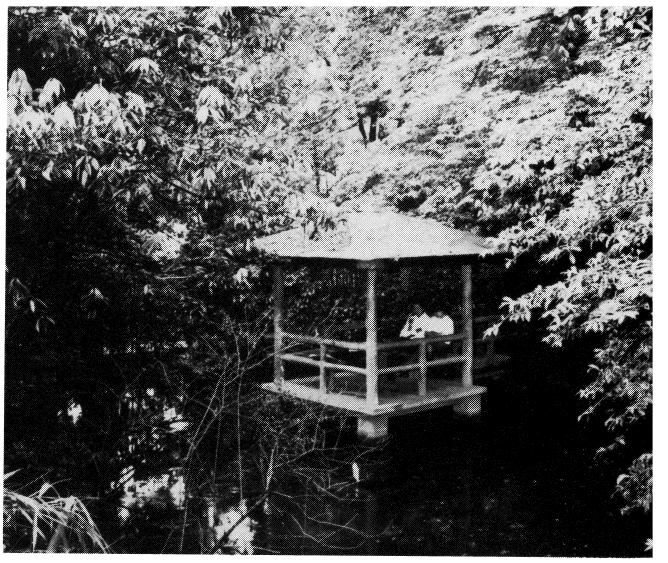
実篤とはもともと一族であり、やがて妻の父として戦後のかなりの年数を同じ家でくらしていたのだが、実篤についてわかっているとはいえない。文学書を読みふけった青年期には、同じ名字というのも照れくさく、あの人間賛歌が戦争が激化していく時代のなかで何となくこそばゆく、あまりその作品を読むことはなかった。戦争の末期からふれあう機会をもつようになり、その人がらには好感をいだいたが、作品を通してみることはやはりまだなかったし、新しい村についてもかならずしも共感するわけではなかった。ただ、同じ家に生活していても、何の制約も加えず、こちらに必要がなければ立入ることのないのは、きわめてありがたかった。「君はそれが好きなのか」、ときには「お前はそんなものが好きなのか」ということになるのだが、本人が好きなことをするのは絶対にとめることがない。小学校以来の戦争の継続で「ねばならぬ」で育ってきながら、好きなことをして暮らすことを望んでいた私にとって、これは何よりの環境だった。

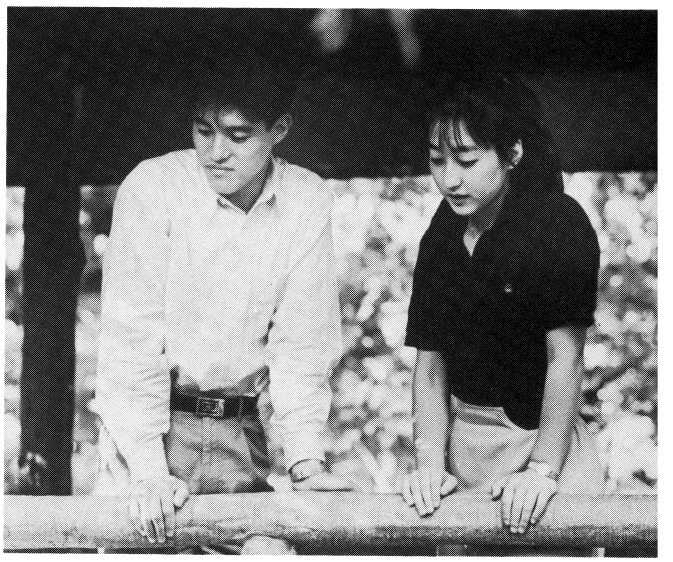
初めから私事を述べてしまったが、じつはこれが実篤の「新しき村」を考える上でもだいじなことだと思う。公卿華族の家に生まれ、その格式や因習から脱却しようとしたときに唱えた「人間」とか「人類」という言葉のみでは抽象性に流れ、生きていく足場としての実体になりえない不安が新しき村をつくらせたのではなかろうか。日向の、いま訪れる人も驚く山の中に開いた土地は、景色が良く、求めていた「桃源郷」にぴったりだったのかも知れないが、本人が後に「農業を知っていれば選ばない土地」といっているほどの所で、集まり住んだ人々を支えることはできず、実篤自身が村を出てその著作活動で資金をつくらなければならなかったのだから、世間がこれを失敗と見たのもむりはない。だから、埼玉で村の活動が続いているのを見ると驚く人が多い。

だが、実体として求めた足場だから、それは現実の土地をともなわなければならなかったのだろうが、それだけで実篤の「村」の存否が問われるものではない。日向・埼玉いずれもその活動に大きな意義をもったにちがいないが、それも農耕によって生活を支える場というよりも、実篤流にいう好きなことをする場としてであり、その意味では日向・埼玉の外にも「村」が生きているはずなのである。その地に住まない多くの人々が村を支え、そこから出て行った人が晩年に至っても情熱的に村を語ることを見れば、それは明らかであろう。さきにもいうとおり、実篤の村の実現の仕方や運営に賛同してはいないのだが、この「村」のあり方は興味がある。こういうそれぞれが「好きなこと」をする人と人との間に形成されるまさに「人間」の空間は、むしろいまのような時代相のなかでこそ求められていいのだろう。

（和光大学教授・実篤記念館顧問）







10周年を迎える

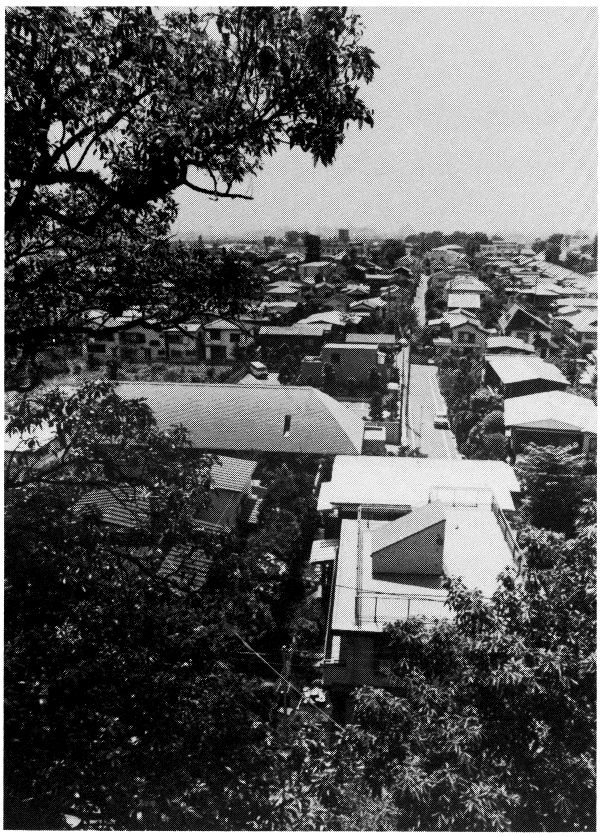
実篤公園

('88.5～6)







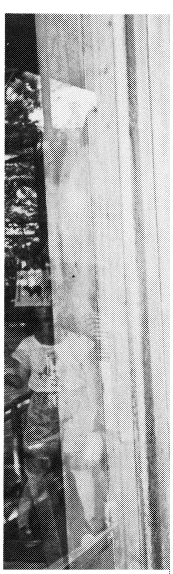




開館３周年の

実篤記念館







三矢喜代子さん



清水ヤス子さん



長谷川路子さん　学芸員の伊藤陽子、福島さとみさん



館長役の堀公彦さん





加藤光太郎さん

坂本力さん　名取常一さん

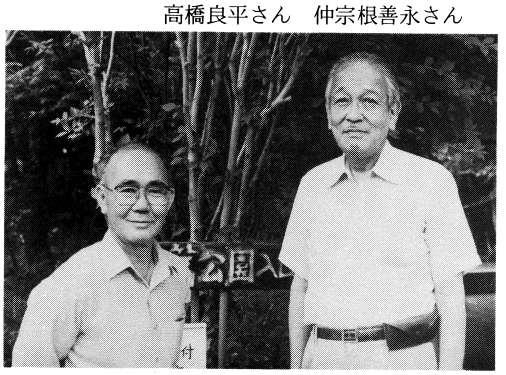


公園・記念館を担う人たち

小松崎義久さん　八巻喜太郎さん



高橋良平さん　仲宗根善永さん



実篤生誕103年祭に集う人々



江馬嵩氏　福田桂次郎氏



旧邸にて　渡辺貫二、石川清明、前田伍作の各氏



('88.5.8)

カメラ　丸井　潤



武者小路辰子さん（実篤の三女）

村内・村外会員、地元・仙川の有志も参加して



"実篤空間と私"

公園にあずま屋を設計する

● 三沢浩

調布市との浅からぬ因縁は、多分に「せんがわ」と関係があった。まちづくりとのつながりであり、都市デザインであり、「みち・みどり・みずの修景」をモットーとする私の修景論との関係である。仙川のまちづくりから、深大寺周辺の参道づくり、境内の修景は今や大きな手法として、調布市の観光地計画へと流れる。

実篤公園の修景は、これからの調布市の観光や名所めぐり散歩道の一環として位置づけられている。つまり散歩コースの整備が同時に名所の整備、都市デザインのひとつである景観の整備になるからである。

国分寺台地が野川にさがるハケの一部、古い武蔵野の面影の一部を残すこの土地を見つけ、緑のままに残した故人の炯眼に、私は目を見張る。居を構え、もっとも自然に木の繁るまま、水の流れるまま、草の根づくままに庭を育て、見守ってきたのを私は感ずる。

水は低きに流れる。その池の水は二つ目をおりて、三つ目に入り、抜けて「空堀」をつくった。その土地を埋めて「あづま屋」をつくり、慕って集う人びとの想いの場にしようとする計画があった。私は埋めるのに反対し、あえて「空堀」を生かした。高床のあづま屋には八ツ橋の手法で渡り、見晴らしの良い単純な和風の寄せ棟小屋を置くことにした。

その方が、故人の意図にかない、おおらかに自然のまま、あるがままに武蔵野の林の中で息づくものとなるに違いないと信じたからである。大地は手を加えず、自然におき、水のおもむくに従って建物を加えたのである。

（建築家）

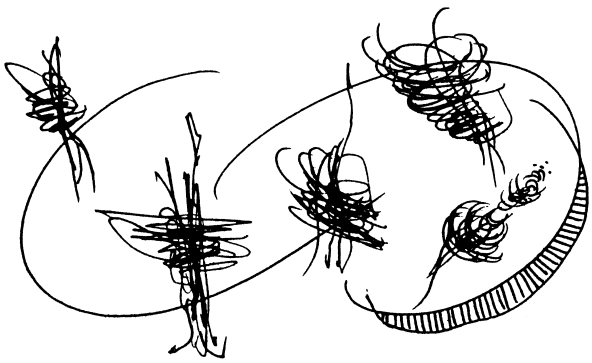
この公園の独特の自然

● 佐藤仁道

「武者小路実篤全集」（全18巻）の仕事にかかわってから、早いものでまる三年を少しすぎた。多くの方がたのご協力によって、現在第五巻の刊行を目前にしている。

なにしろ七十年近くにおよぶ著者の業績を集成しようとする事業であるから、編集委員の方がたの労苦は並大抵ではない。

小説・戯曲・詩・雑感・書・画……と、文芸のあらゆるジャンルを含むといってもいい作品の多様さと独自性、なにものにもとらわれない純粋さと自由さ、そして人類の未来に対する限り



ない愛と確信――著者に関する評言は枚挙にいとまがないが、私はその作品に〝生きる達人〟といわれ〝巨人〟といわれる著者の、人間としての幅広さと奥行きの深さを感じる。

仕事のあい間、いや仕事のため、記念館を訪れる私は、きまって仙川の駅をおり、まず実篤公園に足を踏み入れることにしている。四季を通じての園内の趣きは、私に自然のいろいろな表情をみせてくれる。カエデあり、クヌギあり、そしてスギもサクラも。手入れのゆきとどいた公園も決してわるくはないが、この公園の独特の自然、一見雑然ともみえるのびのびした自然の自由さはまた格別である。

記念館に通じる小径でいつも考える、今度の全集は、この公園のように、のびのびした、おおらかな、大きなものにしたい、と。

（小学館編集者）

一枚の色紙から

●渡辺三枝子

私の実篤作品との初めての出会いは、子供の頃部屋に飾られていた一枚の複製の色紙でした。「共に咲く喜び」と書かれたその色紙には、八分咲きと五分咲きで、淡いピンクとローズピンクのバラが、あたかも対話しているかのように瑞瑞しく描かれていた。私はその色紙のかもしだすやさしさ、穏やかさが好きで、刺繍したり模写したりした想い出があります。そして今、子供と過ごす中で、親しい人との語らいの中で、しみじみとその意味を実感し、ことばを思いおこすことで、よりいっそう喜びが増してくる自分に出会うのです。

そんなことから、十年前、偶然に仙川に移り住み、もっと多く先生の作品を知りたいと、息子と「新しき村」に出かけたり、記念館の方々と触れ合う中で、先生の言わんとする世界が、徐々に分かって来るような気がしております。

「新しき村」は、今も先生のご意向に沿って運営されており、もし未来において、宇宙ステーションに生活する日本人が、夢みる地球の人間らしい生活とはきっとこんなだろうと、ふっと思ってしまうほど、素朴で、純粋で、平和な村でした。

それから、実篤記念館の方々には、いつもよくしていただき、合わせて、「君は君　我は我也　されど　仲よき」などの言葉に触れると、つい排他的になりがちな自分の心に、人が人として関わっていく道筋を教えられたような気がいたします。

小学生の息子は、記念館へ行くと、いつも年表を見て、先生が小学校の頃、作文が苦手だったという箇所を見て、まだまだ長い自分の人生に、可能性を見い出しているようです。

現在、新しく出版されている武者小路実篤全集を、読み進めておりますが、共感すること、教えられることが多く、なんとか最後まで読み切ろうと思っております。

（仙川町1）

出会い——ある日曜日の訪問者

●堀　平八

小鳥の鳴く丘には崖があって清水が滾々と湧き、そこに池をつくり、その土地（上給八五〇番地・現国領町7丁目）に家を建て、私は住んでいた。

その頃、偶々ご夫妻らしいお二人が——。男の人は着物羽織姿、ソフト帽を被り、古ほった信玄袋を片手に、片方の手で蝙傘を突きながら、黒足袋に擦り耗った駒下駄履き、いかにも、男性像豊かなる印象の持主。女の人は皮製のハンドバッグを持ち、髪はまん中にてわけ、後ろでまるめた形、黒系統の縦縞模様の着物に名古屋帯をしめ、白足袋、踵高の草履、見るからに容姿端れい、高貴な女性タイプ。



このお二人が、今より三十四年程前の昭和二十九年、春まだ浅き或る日曜日の好天に恵まれた昼近く、私の家の玄関に近寄って来る姿を、庭で体操をしていた私の目にとまった。

どこの人かしら、一体誰なのかしら、判らない。その時、女の人から慇懃に頭を下げ、今日は、と挨拶があった。私も今日は、と返礼した。女の人は云う、自然のお庭で素晴らしいですね……と。いい午ら四囲を眺めて感嘆した様子。

その時男の人が私に近寄って来、私達は、朝から晴れた日曜日なので、三鷹の方より途中タクシーで多摩川堤で降りて川べりを散策していましたら、遠くから木立の中に家があるのが見えましたので、二人で立ち寄らせて頂こうではないかと話しながら自然と足が向いたのです。実はお弁当をつかわして頂き度いのです。おにぎりは持参していますけれど、お茶は持参せずに家を出てしまいましたので、厚かましくも、お茶のお呼ばれを乞いたいばっかりに這入って参った二人です。私達は三鷹に住んでいて、小説を書いたり絵を描いたりしている武者小路です。（指を向け）こちらは妻の安子です、と云はれたその瞬間私はびっくり仰天。大変なことになった、と呟き乍ら、しばし、言葉にならなかったことは忘れもしない一齣である。本日はお天気もよく、自然の情景の所ですので、家の中ではなくこの庭でお願いします、と云われた。

そして清水の池のほとりのベンチにお二人で腰をかけ、池に泳ぐ魚を見ながらご持参のおにぎりを召し上った。一時間程の間である。写真も撮らせて頂き、アルバムに張り大切にしている。

——本当においしいお茶でした。お蔭様でおにぎりもことの外おいしく食べられたりして幸せの日でありました。どうぞ私の家にもお遊びに来て下さい。住所はここです、と書き込まれた紙を下さった。その時先生は奥様に、ここの情景は素晴らしい、私達もここのような環境の所に住みたいね……と、申された。奥様は頷かれた。

この時から交誼が始まりずっと長い間お世話になり、ご指導を賜わりました私は、日本一の幸せ者である。

今後皆様とも友情の度を深め

午ら、人知を求めて、何かをして、先生にご恩返しをしたい気持で一杯である。

（実篤記念館友の会会長）

武蔵野の安らぎ

●檜森満里子

仙川はよく観察してみると、奥の深い町だと思います。五街道で有名な甲州街道、赤土で知られる関東ローム層、そして住宅街に一歩足を踏み入れると、そこにあるのは『実篤公園』。

かの有名な武者小路実篤の住居があったと初めて知ったのは中学生の頃だった様な気がします。学校で強制的に行ったのが初めて、それからは文化祭の撮影、時にはくつろぎの場としても使用しました。

『実篤公園』は、武蔵野の面影を今だに残し、その上うっそうと茂る樹木、そして豊富な湧き水、このような恵まれた環境が、そこを訪れる私たちに安らぎと情緒を感じさせてくれるのだと思います。そう言えば、国木田独歩も、『武蔵野』という本で武蔵野の情趣を味わうことによって彼の苦悩を忘れようとしたような気がします。つまり、『実篤公園』には時代を感じさせない何かがあるのではないでしょうか。

現在、東京では、あちらこちらにビルが立ち並び、緑というものの存在を忘れつつあります。仙川はだんだんと建物が新設されてはいますが、緑という点ではまだまだ恵まれている方だと思います。そういった仙川に、はや七年も通っている私は、仙川に感化されているような気がします。そして安堵さえも感じさせてくれる仙川がいつまでもこの雰囲気を失わないでいてくれることを願いたいです。

（桐朋学園大学短期大学部一年）

実篤先生の教育論

●佐々木孝一

実篤公園を東西に分けるように幅の狭い市道が南北に走っている。実篤先生のご生前、この市道に面してお邸の裏木戸があり、その脇に半ば朽ちたような木製の大きなポストが架かっていた。先生はお庭を散歩のおついでにこのポストへ寄られ、束ねられた郵便物を取ってゆかれる。

偶々この市道を散歩中、私は幾度かこのポストの辺りで先生にお逢いする機会を得、時にご挨拶がてら雑談を交わせていただいた。幼い二人の子どもを連れていたので、雑談は子どもの教育問題になることが多かった。

「親の言う事を聞かなくて困ります。」という私に先生は、「いや、子どもはそれでいいんだよ。人間は自分の心に素直が肝要。親の言う事をよく聞く子が自分の心に素直であるかどうか。子どものしつけは、人間には、やりたくてもやってはならない事、やりたくなくてもやらねばならぬ事がある、人を傷つけるな、人の物を盗むな、嘘をつくな、このケジメさえキチンと教えれば、あとは親が保育の義務を果たし、子どもは自然のままに放っておけばいいんだよ。」という趣旨のお話をされた。文豪、画家、倫理家などといわれる先生はまた素晴らしい教育哲学者でもあったのである。

先生にお逢いの折、いささかいかめしいお顔の先生に対して、尻込みして私の背にかくれていた子どもたちも今は大学へ通う年頃になった。娘の方は最近、先生の著書をむさぼり読んでおり、実篤論でもレポートするつもりなのだろうか。

先生は大変な子ども好きで、毎年の自治会のお祭りの日には門を左右に開かれ、玄関までの奥行きの長い坂道には水を打たれ、玄関の前で安子夫人とともにキチンと立って神輿を迎え

られていたのが印象的であった。神輿をかつぎ、山車を曳く子どもたちの元気な姿に目を細められていた。

実篤さんと私

● 杉本三依

静かな住宅の中、緑に囲まれた実篤公園と記念館があります。駐車場にもこぶし、花みずき、さつきが咲き、目を休ませてくれます。

別世界の中に入ると実篤さんの大きな手のレリーフがあり、私は必ず自分の手をその上にそっとのせ、大きさを比べます。そうすると心が通った様な気がします。六年生の夏休みには自由研究で『人間萬歳』を調べました。

ドア一つで自然の中にすいこまれていくと、大きな鯉が、大きな池でゆうゆうと泳いでいます。こんな風景を見ると、勉強の事も忘れ、心も体も和らぎます。

こんな自然の中でずっと暮らしていた実篤さんは、自然のように雄大で心の優しい人だったからいい作品がたくさん書けたのだと思います。その作品の中で、私は「君は君　我は我なりされど　仲良き」という言葉が好きです。

調布市に自宅と資料を寄附していただいてとても感謝しています。私たち、皆んなが協力して、記念館と公園を大事に守り続けないといけないなぁと思います。そして、記念館の前の広くてきれいな通りを『実篤通り』としたいものです。私の家の近くに実篤公園があり、家の前に記念館が出来たことを私は誇りに思っています。

（昭和女子大附属昭和中一年）

起伏に富み、樹木の茂み、野鳥の囀りなどに恵まれる公園は、先生が青少年のために遺してゆかれた格好な教材ともなり、近隣の幼・小・中・高校も大いに利用されるのが希ましい。

（若葉町1）

「新しき村」の個性

● 岡ノ上栄二

過日、埼玉県毛呂山にある「新しき村」に行く機会があった。

「新しき村」については、武者小路実篤と「新しき村」という認識だけで、知識は皆無であった。しかしその辺の観光とは違って心の中に〝かまえ〟があった事はたしかである。

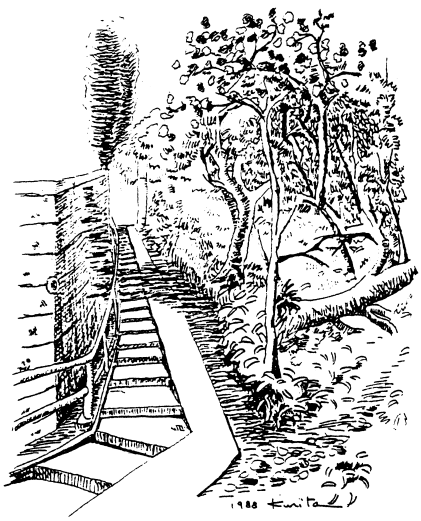
村長の渡辺氏に村内を案内してもらい、現在の村のようす、歴史、実篤先生の話をお聞きした。渡辺氏のなんの気負いもない淡々とした語り口に、心の中にあった〝かまえ〟がだんだん消えて素直な気持ちで話しが聞けた。

現在、毛呂山の村は、五〇人程の年令も性も異なる人たちが人間が人間らしく生きたい、という理想のもとに生活している集まりであるらしい。はたから見ると没個性的な生活を送っているように思うが、村民の幾人かの人との短い話し合いの中で、人間らしく生きたいという理想をもって生きている人の強烈な個性が伝わってきた。

個性を大事にというがあまり、わがままとか勝手さまでも個性という名にすりかえて生活している人が、自分をふくめて現代はいかに多い事か——。新しき村的生活態度は、人間の生きて行く基本的な衣食住について共有あるいは共同し、心については個性を尊重し、問題が発生した時は話し合いで解決するという。

現代社会の矛盾に、この新しき村的精神が少しでも対する事が出来ないものか。

（仙川町1）



「かぼちゃ」

● 宮川和夫

『君は君　我は我也　されど仲よき』――まだほんの小さい時分に、この言葉をよく口遊んでいた。だがしかし、一体いつの頃からだろうか、本当にこの言葉が、身近に感じられる様になったのは……。

新緑の香に、澄みきった空気を胸一杯に吸い込みながら、私は、実篤公園のすぐ脇の、少し坂になっている道を駈け昇る。今日もまた、燦々とした朝日を体中に浴びて――。

そのまぶしさに視線を思わず逸らすと、道の真中に浮き彫りされた画がよく見えてくる。馴染み深い、南瓜の画と、そしてそばに刻まれた言葉。

小さな頃からこの南瓜の画が家の中にあって、何となく不思議な気持ちで眺め、どこか魅かれてきた事を思い出す。

『君は君　我は我也　されど仲よき』

一文字一文字、ゆっくりと言葉を読み終えて、再び、走り始める時にはもう、希望で胸を躍らせている自分に気付く。

一歩一歩、踏み締めながら、変化していく実篤公園に触れる事を楽しみながら、走り続けたい。

（仙川町1）

恋人たちの庭

● 加藤純一郎

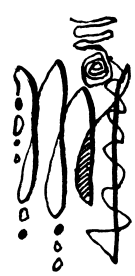
実篤公園は何を差し置いても先ず、恋人たちに最もお似合の庭である。恋人たちにはどんな季節も極上の豊かさで満ちた庭である。一人愛する人を想いながら歩くもよし、二人手を取り合って歩くもよし。想像するだけでも絵になるではないか。三人だと難しいが心配は要らない。四人ならペアを組み、奇数の人数なら一人が案内役兼太鼓持ちになればピッタリである。街中を歩くよりも遙かにお互いが素晴らしく見えるに違いない。

初めて訪れた時にはグリーンのロープもなく、開園準備の最中であった。あれから十年、どことなく様子が変わり、今はまさに大きく変わりつつある。当初は、武者小路氏が何故、どんな偉い方なのか、全く知らなかった。ただ凄い所に住んでいたんだなあと驚くばかりであった。後にいくらかでも知るに及んで、皆は子供の頃から知っていたとのことで唖然呆然。

訪れる度に森は森として石は石として時を刻み、いずれ朽ち果てるものと感じずにはおれない。一つの土塊にも雑草の一本一葉にも記憶があり思いがある。自分の生涯で最も大切な人と此処で語らった事も、その時の草木もまるで映画を幾度も見る如くに蘇る。寄りかかった梅の木が一本いなくなった。人はそれぞれに大事な思い出を作ってほしい。

老いも若きもこぞって恋人同志で、愛し合う者同志で実篤公園へ来られるべし。仙川一のデートコースにしよう。恋人たちの庭が待っている。

（狛江市）



しずく

本間　樹和子

しとしと
　しとしと
　　雨がふる
ぽたぽた
　ぽたぽた
記念館の屋根から
　しずくがおちる

そのしずくを
ロビーからながめていると、
心は
世の中から隔離されたように
　なる
まわりの音はなくなり
ただ
　しずくの音だけがみえる

ロビーから展示室に入る
そこは実篤さんの生きた軌跡
実篤さんの精神（こころ）の空間
その空間（こころ）につつまれて
実篤さんにすこしでも
触れることができるなら
まわりに人がいても
音はなくなり
ただ
実篤さんのみえない心が
きこえてくるような気がする

しとしと
　しとしと
　　ぽたぽた……

そとは雨
そんな日　ひとり
実篤さんと向かいあう

かわいた心が潤ってくる
実篤さんの空間
私にとってそんな空間

今度は晴れた日に来ましょう

実篤先生と仙川

● 川口　三八

創刊の巻頭を実篤公園特集で飾ったタウン誌「せんがわ21」が、公園十周年を機に再び活動を開始され、「実篤と新しき村仙川フォーラム'88」と銘打って雑誌の発行、各種のイベントを企画されていると聞き、大変うれしく存じます。

武者小路先生の住まわれた一帯は、昔は神明様と言う社があり、樹木がうっそうと生い繁り、清水が湧き、池には蒼い水が道路との間にわずかに生えた草にまであふれていて、子どもたち一人では遊びに行くのが恐ろしいところでした。

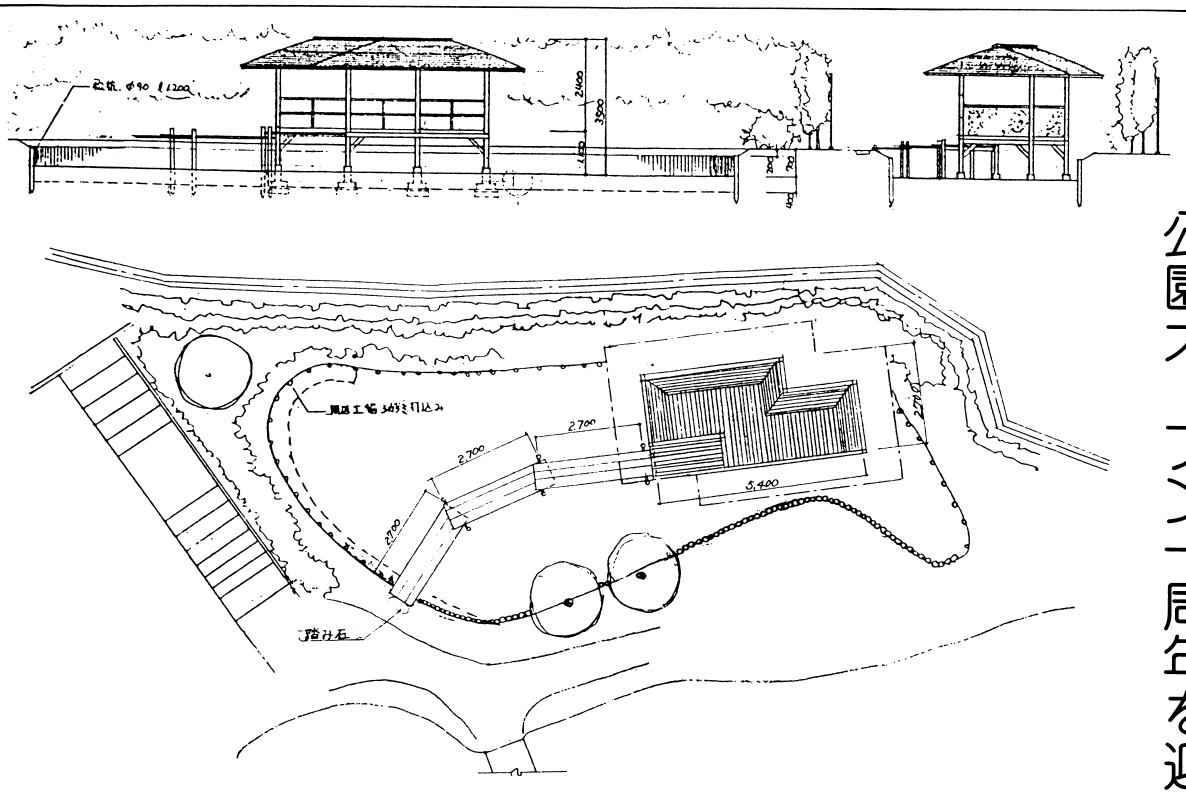
今も公園の中に南北に通じた小径があり、昔は鎌倉みちと言われた古い道路で崖線に沿って狛江や喜多見に行く近道でもありました。神明様には狐が住んでいて、この道を通る人を時々化かし、折角の酒など取られることがあったようで、お使いには一人では危ないので二人連れだって通ったようです。先生の家前の爺爺婆婆（じじばばば）田圃も家が建ち、狐の住む風情はなくなりました。

仙川昌翁寺の境内に仙川倶楽部と言う青年団の集会場があって、その周囲にはたくさんの梅が植えられ、青年団の大きな収入源になっていました。甲州街道がオリンピックのマラソンコースに決まり、道路拡巾でこの梅の木も切られる運命にありましたが、山内緑風苑の紹介で先生に買い上げていただくことになりました。青年団の活動のためにとご理解をいただき、五万円という高い価を付けていただき、青年団の皆さんは大変よろこびました。

あの梅の木は邸内に植えられたのか、新しき村の梅林の一部になったのか、山内さんに伺ってみたいと思っております。

因みに当時の国道の用地買収価格は坪一万円でありました。

（仙川町2）



公園オープン十周年を迎えて

小嶋　重春

武蔵野の面影を色濃く残し、国分寺崖線の樹林と清冽な涌水のある、極めて自然に恵まれた当地に、実篤先生が昭和三十年、三鷹から移住され、以来二十余年お住まいになられていた。

あの独特な画風の名画も主にここで描かれたそうである。邸宅と土地を実篤先生夫妻のご遺志を継いだご遺族から市がご寄贈いただき、早速公園化にとりかかったが、公園化すると法例の関係で記念館を建設するスペースがとれなくなった。

市では隣接する土地の取得を図ったが、周辺も東西南北、ほとんど宅地化され、わずかに南側に農地が残存しているのみであった。

当時私は環境整備課長、現在の公園環境課長として公園化の諸工事を担当していた。その造園工事を請け負ったのが、現在再度開園十周年を記念しての改修工事を落札し、十月竣工に向け施工中の富沢造園株式会社であった。「あまり工事をやったような感じを出さないで施工すること」というむずかしい指示をしたのを覚えている。公園の開園は五十三年の五月十二日実篤先生の生誕の日であった。

今回の改修工事でも、また担当部長として実篤公園の自然感を壊さぬよう、ご遺族や関係者のお話しもお聞きして、使用資材や樹種まで細かくむずかしい注文をつけている。市の担当技師や富沢造園の社長も多分苦笑いをしていることだろう。

改修工事では、外柵、石垣、園路、池廻りの整備、樹木の補植、園内駐車スペースの菖蒲池化、記念館寄り、池の南側に多目的に使用を考えたアズマヤづくり等、総額五、七〇〇万の工事となっている。他に野草園の担当職員により昭和三十年代に自生していたといわれる十数種の野草等も植えることにした。

記念館もオープンして、はや三周年、多くの人から親しまれ好評を得、本当に嬉しく思っている。

私も因縁というか、愛着もあり、都市計画課長在任中、記念館の用地取得に取組み、昭和二十二年当時の農地解放の手続き未済問題を解決するのに手間どり、小田切進先生からお叱りを受けたことが、忘れられない想い出となっている。

幸い地主さんであった斉田さん、山内さんの全面的なご協力をいただき解決でき、以後ご遺族をはじめ、実篤先生の関係者の方々や行政、建築関係者の努力でハイピッチで工事も進み、実篤先生の生誕百年、調布市制三十周年記念事業として、昭和六十年十月に完成開館のはこびとなったものである。

今後も、実篤先生の理想を体した、公園と記念館は、多くの人たちに愛され、調布市の都市文化にも大きく寄与し、市民の誇り、地域のシンボルとして充実し、維持管理をしていく必要があり、周辺の国分寺崖線の緑や屋敷林と共に、広い分野の関係者の方たちの理解、協力と市の行政により守られていくことになると思っている。（調布市生活環境部長）

兄弟よ

武者小路実篤

兄弟よ、我等が本気にならなければならない時は益々近づいてくる。そして我等が本気になればなる程、我等の仕事は道が開けてゆく、この仕事は真心と本気さばかりで出来る仕事だ。兄弟の力がいろ〳〵の方面から加はつて来てこの仕事は出来るのだ。

この仕事には国境がなく、階級がない、人間でありさへすればいゝ。赤裸々の人間としての価値がのこるばかりだ。赤裸々の人間となることを恐れないものは我等の仕事に賛成すべきである。こゝではすべての人は一本立である。

自己の言行の責任は自分で荷ふ。自分の責任は他人には荷つてもらひたくないし、又他人に荷はせたくない。

真理の前には頭をさげる。正義の下には立つ。愛の前には涙ぐむ。しかしその他のものは我等に活用されても、我等を利用することは出来ない。

我等は少くも人類の上に足を立てゝゐる。人類よりも浅い処に根を張る運動に自己を委ねるわけにはゆかない。

我等は社会主義者からも、無政府主義者からも取るべきものはとつた。彼等に支配されるわけにはゆかない。

自分達は先づ自分である。

兄弟姉妹とは兄弟姉妹である。独立は失はない。自分の賛成出来ないことは賛成しない。

兄弟姉妹の為にもしたくないことはしない。その代りしたいことは自ら進んでする、そしてよろこんでもらへれば望外の幸として感謝する。

たのまれて引き受けることはある、しかしそれも自分の意志によつてゞある。

よろこんで出来ることはよろこんでする。

苦しいことでもしなければならないことは歯をくひしばつてもする。そのかはりしてはならないことゝ思つたならば、兄弟姉妹がなんと云つたつてしない。

結婚は自分達の意志でする。

嫌ふとか、憎むとか云ふことは恥ぢる。しかし愛することの出来ないものは愛しない。

しかしその時でもその人の不幸の原因を自分で少しでもつくつたらそれは恥ぢ知らずである。

新しき村では公に捧げられた時間がある。それは兄弟姉妹の健全に生きる為、寿命を全ふする為、及び村の子供や病人、老人を卑屈にせずに養ひ、天寿を全ふする為、及び村全体の光栄の為めに働く時間だ。それは八時間を最大限度とする。

あとは自由である。自己の為めに働く時である。その自己は低き自己であらうが、高き自己であらうが、他人に迷惑を与へなければいゝ。本当によき自己を生かしたものはやがて尊敬を一身にあつめるであらう。

新しき村の生活のまちがいでないことは、もう説明は要しない。我等の確信と本気さと、真心の力の不足を気にするばかりだ。

この仕事が思ふやうに成長しなかつたら、それは我等の決心がゆるんだ証拠である。そのかはり我等の真心が本当に燃え上れば、大したことは必然に行はれるのだ。

自分は自分として自分一人の真心の力の不足を恥ぢる許りだ。もう少し、もう少し自分の真心が生きてくれゝばと思ふ。兄弟の真心には感謝する。

自分は常に自分を反省する、どうもまだ力が足りない。自分の精神は暗を輝らす光りだが光りのとどく範囲がまだ十分とはゆかない。自分は自分の真心を決死的に生かす時が来つゝあることを感じる。

その点でも自分はもう二三年と思ふ。

自分はある人にマルクスのことのかいてある本を送つてもらつた。その勉強家の点に頭がさがつた。カントのものを一寸見ても、そのかつちりさになほ頭がさがつた。

自分も之からである。

兄弟姉妹よ、君達も本当にかつちり勉強してほしい。新しき村の兄弟姉妹になつたために人間としてより立派になつてくれなければ、我等は人類に向つて恥ぢなければならない。

世界を動かさうと思ふものは容易ではない。我等は容易でない、浮かれられない道、永遠の道をかつちり歩かねばならない。

勝利はどうしても真理に近いものがうる。

又さうするやう我等の一生は費さなければならない。

一生を真剣に生かし切つたものは、恐ろしいことをする。（二〇、三、六）

出所　武者小路實篤全集　第四巻

生誕百年記念企画

武者小路實篤全集　全18巻



■全巻にわたり、實篤文学の全仕事・全業績を網羅し、その生成・展開を総括・展望し得るよう編成した。

■既成の全集の二倍を越す作品を収録、三十年ぶりに刊行される決定版全集である。

■底本は初版本・初出誌紙とし、校訂にあたっては原稿・初出・初版等の相互校合はもちろん、芸術社版・新潮社版全集をも参考にした。

■表記は新漢字を使用したが、仮名遣いについては、底本を尊重し、明らかな誤植を訂正するにとどめた。

■第十八巻の書簡（志賀直哉はじめ「白樺」の友人、及び周辺の文学者・画家、「新しき村」の関係者など多数）は、今回初めて全集に収録されるものであり、年譜・著作年表も本全集で初めて正確・詳細にまとめられた。

■編集に際しては、新しき村、武者小路実篤記念館（東京都調布市）、日本近代文学館、実篤文庫（神奈川近代文学館）をはじめ、著者にゆかりある研究者、評論家ほか、多方面の方がたの協力を得た。

◆書簡、原稿類をお持ちの方は、お手数ですが、左記にご連絡ください。
小学館　武者小路實篤全集編集部　TEL・〇三（二九二）三七〇（直通）

昭和63年度〈友の会〉入会のご案内

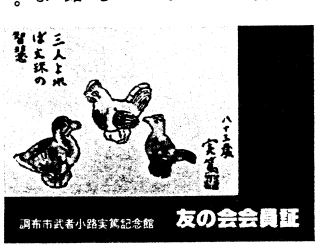
調布市武者小路実篤記念館〈友の会〉は昨年8月に発足いたしました。お陰様で当初予想した以上の反響があり、62年度の会員数は86名を数えました。会員になられた方々には、調布市内の方は勿論ですが、情報の届きにくい近隣の市町村や他府県の方も目立ちます。

〈友の会〉ではこうした会員の皆様のご要望に答えるため、10月より二月から一月半のペースで〈友の会〉ニュースを発行してきました。

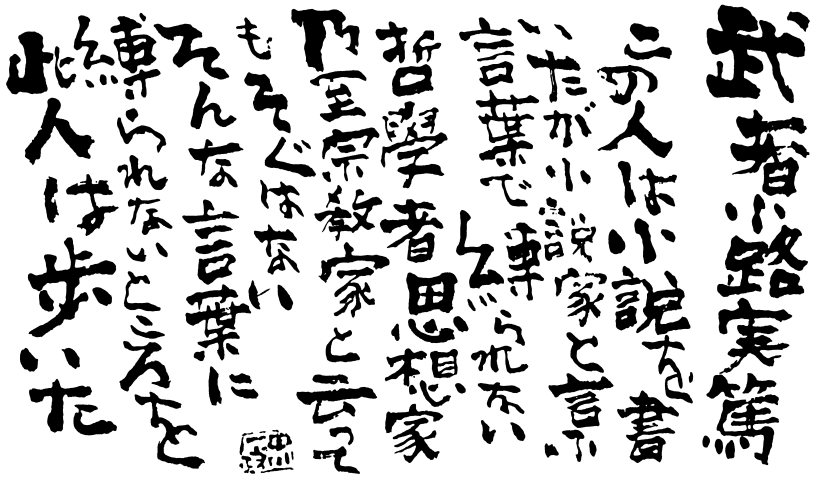
記念館の展示についてのご案内だけでなく、実篤関係の出版物や他館での展覧会などについても情報を提供しています。また、愛読書アンケートなど独自の活動も試みています。

さて、〈友の会〉ではただいま63年度の入会を受け付けています。会費は郵送料などの実費として、一般会員は千円、賛助会員は一口五千円です。入会に期限はありませんので申し込まれた日から翌年の3月まで会員となります。

申込み書ほか詳しいことは実篤記念館内〈友の会〉事務局までお問い合わせ下さい。



調布市武者小路実篤記念館
調布市若葉町一―八―三〇
電話〇三（三二六）〇六四八



中川一政 書

武者小路実篤略歴

一、明治十八年（一八八五）五月十二日、子爵武者小路実世の第八子として東京に生る。

二、明治四十一年（一九〇八）二十四歳で処女出版「荒野」発刊以来、八百余冊の著書と二万点と称される書画を残す。実篤に関する評論、解説は長短二千を越しているという。

三、明治四十三年（一九一〇）志賀直哉らと雑誌「白樺」を創刊。日本文学の新時代を招来し、不滅の影響を残す。

四、大正七年（一九一八）宮崎県に新しき村を創設、大正十五年末迄自らも村に住む。昭和十四年更に埼玉県毛呂山町にも第二の村をつくり、終生理想社会建設運動を実践した。

五、雑誌「白樺」による西洋美術の紹介はあまりに有名だが、大正十二年頃より自らも絵筆をとるようになる。昭和二年岸田劉生らと第一回大調和展をはじめ、二回で中止されたが昭和三十七年復活第一回展を上野都美術館で開催、後進の指導に当り、在野美術団体「大調和会」を設立、多くの新進画家を世におくる。（大調和展は現在も毎年都美術館で公募展を開催している）

六、昭和十二年芸術院会員、二十一年貴族院勅選議員に任ぜられたが、同年C項該当で辞任。二十六年公職追放解除となり文化勲章を授与され、三鷹市名誉市民となる。二十七年芸術院会員に再選され、四十年東京都名誉都民となる。

七、昭和五十一年二月六日安子夫人逝去、同年四月九日満九十歳で、夫人のあとを追うように逝去。

八、晩年二十年を過された調布市若葉町の土地と邸宅は調布市に寄贈され「実篤公園」として、九十二回の誕生日に開園、市民の憩の園になっている。先生が長い間に収集した書画その他は大部分が調布市に、一部は東京都近代文学博物館、東京都、三鷹市、新しき村に寄贈された。

九、昭和五十五年十一月　財団法人新しき村、武者小路実篤記念「新しき村美術館」を建設公開。

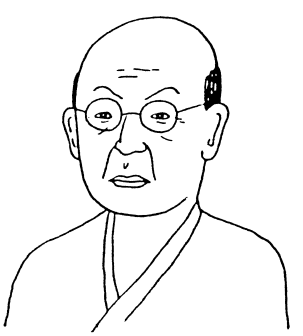
十、昭和六十年十月　調布市は実篤公園に隣接して「武者小路実篤記念館」を開設公開。

十一、昭和六十二年十一月　小学館より「武者小路実篤全集」十八巻の刊行開始。

出所▽武者小路実篤記念　新しき村美術館　昭和63年



大正７年（33才）

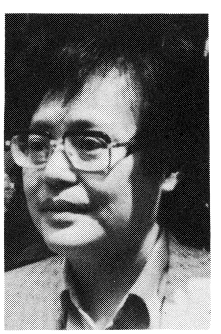


昭和34年（74才）

こやま きょうへい

実篤讃——その魅力

日隈　久典



私が実篤先生を敬慕し、私なりに先生のことを勉強することとなったきっかけは、昭和三十四年、私が小学校五年生の時でした。

父が書店から朝日ソノラマを購入し、私がそれを貰い受け、そのソノラマを聞き、内容の偉大さに感動した時からです（父も実篤先生のファンでした）。

そのソノラマの中に『友情』という作品があり、先生がその作品を物静かなしかもやさしいお声で朗読された時、その途中で涙声になられながら朗読を続けられたお人柄に深く感銘したことが昨日のようなできごとのように思いだされます。

また、あるテレビ局から生放映された『人に歴史あり』という番組を見ましたが、この番組は実篤先生の「若き日から現代まで」という先生の偉大な歴史でした。

この放映はゲストをお迎えして座談会の形式で行なわれ、ゲストの方もいろんな方々が出席されて行なわれました。

その生放映中、確か八木アナウンサーだったと記憶しますが、誠に恐縮し気まずそうに「志賀先生のご出席を予定していましたが、気が向かないのでということで欠席しますとの連絡がありました。」と実篤先生にお伝えすると、先生は、「彼はそういう人ですから。」と、淡々としておられました。

私はその時、お二人はお互いにそのようなことがいえる、本当に心を許しあった固い友情で結ばれていることを推察し、うらやましく思いました。その出来事は終生忘れることはできません。

また、実篤先生の執筆された本は他の作家に比べ、数においても周知のとおり、数多く出版されております。これらの作品をお一人で、と思う時、この点をも含め総ての点において頭が下がります。

私自身、先生の作品を読むだけでも半分に到達していないのが現状であります。

このほど実篤先生の全集が出版され、私も全集を何回も何回も読むことで実篤文学を学びとり、私なりに把握したいと思います。

私自身微力ではありますが、先生ゆかりの地三鷹市牟礼に記念館を作りたいとの夢がありました。そのため二十数年にわたり暇をみては神田に行き、先生の資料の分散をより少なくしたいとの考えから初版本、原稿等の収集に努力してきました。

幸いにも、調布市が昭和六十年に記念館をお作りになり、私自身非常に嬉しく思っています。

私にはまた、次のような思い出があります。先生のでい装の本を一冊手に取って、文人画の絵にひかれてしまいました。さらには肉筆の色紙を入手した時の感動で一日中嬉しくて嬉しくて眠れない夜を過ごしました。

また、私は先生の詩も大好きです。先生の詩は老若男女総ての人に理解され愛され、今はむづかしい詩（言葉）の本がありますが、先生の詩は永久に愛される詩であると考えます。

調布市で近々西洋文学ゴッホ展が行なわれるとのことでありますが、『太陽』という本に次のようなことが書かれていたことがありました。それは周知の人、棟方志功氏が自分の作品が大金で売れた時、第一番に買ったのは日本一大きい額であり、その額は余りにも大きかったので玄関のタタキにおかれ、来客が出入りに困る程のものであったそうです。その額には実篤先生の肉筆で、「この道より我を生かす道なし　この道を歩む」との文章があり、これは同じ西洋文学のゴッホ作『ひまわり』との共通点があるとして尊敬されていたそうです。

私の先生を慕う心は、自負心かも知れませんが、誰にも負けないと思います。

最後に、「神様になってしまうものではなく身近かにおられる先生になってほしいと思います」と、中川一政先生の言われたこのお言葉をおかりしてこの稿を終りにしたいと思います。

「この人は小説を書いたが小説家
と言ふ言葉で縛られない
哲學者　思想家乃至宗教家
と言ってもそぐはない
そんな言葉に縛られないところを
此人は歩いた」

——中川一政先生のお言葉から

タネ・園芸・造園

Garden Shop

ウエマツ

（水曜定休日）

植松種苗緑化株式会社

仙川町2-21-9

FAX3307-4146　TEL3307-4187



京染め　洗張り　志み抜き　丸洗い

高級呉服・帯　貸衣装有

名入れ（タオル 袢天 のれん）

富士屋染物店

着物の事なら何でもお気軽にご相談を！

桐朋学園大正門前

仙川町1-9-80　☎3300-2572

MOONSTAR

ムーンスター特約店

靴の明治屋

仙川商店街中程　☎03-3300-1067

学習とサポートで快適なパソコン生活を支援！



- パソコン学習
- PCサポート
- IT経営支援

近所のパソコンサポーター

河口パソコンサービス

河口パソコン　検索

☎ 03(6382)9117　調布市若葉町2-9-21

有限会社 瑞　祥

総合ドライクリーニング

ラッキークリーニング

若葉町2－23－20　☎3300－6725

Live bar Ding Dong

E-MAIL/livebardingdong@yahoo.co.jp

URL/www.livebardingdong.com

映画上映 舞台公演

アコースティックライブ

仙川町1-3-27仙川第1ビルB1F 03-5879-7897

○各種証明写真

パスポート、就職活動用写真 等

○常設スタジオ完備

オーディション、プログラム用写真 等

HIGH QUALITY in GOOD TIME

sunrise photo house

株式会社サンライズ現像所　東京都調布市仙川1-19　telephone.03-3300-6808

森のテラス

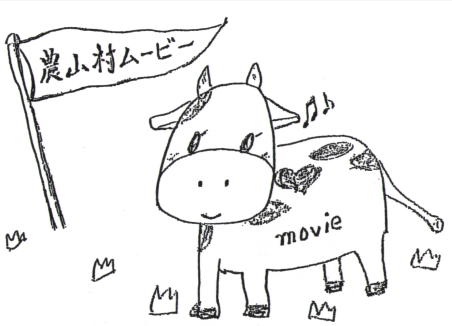
Open Garden

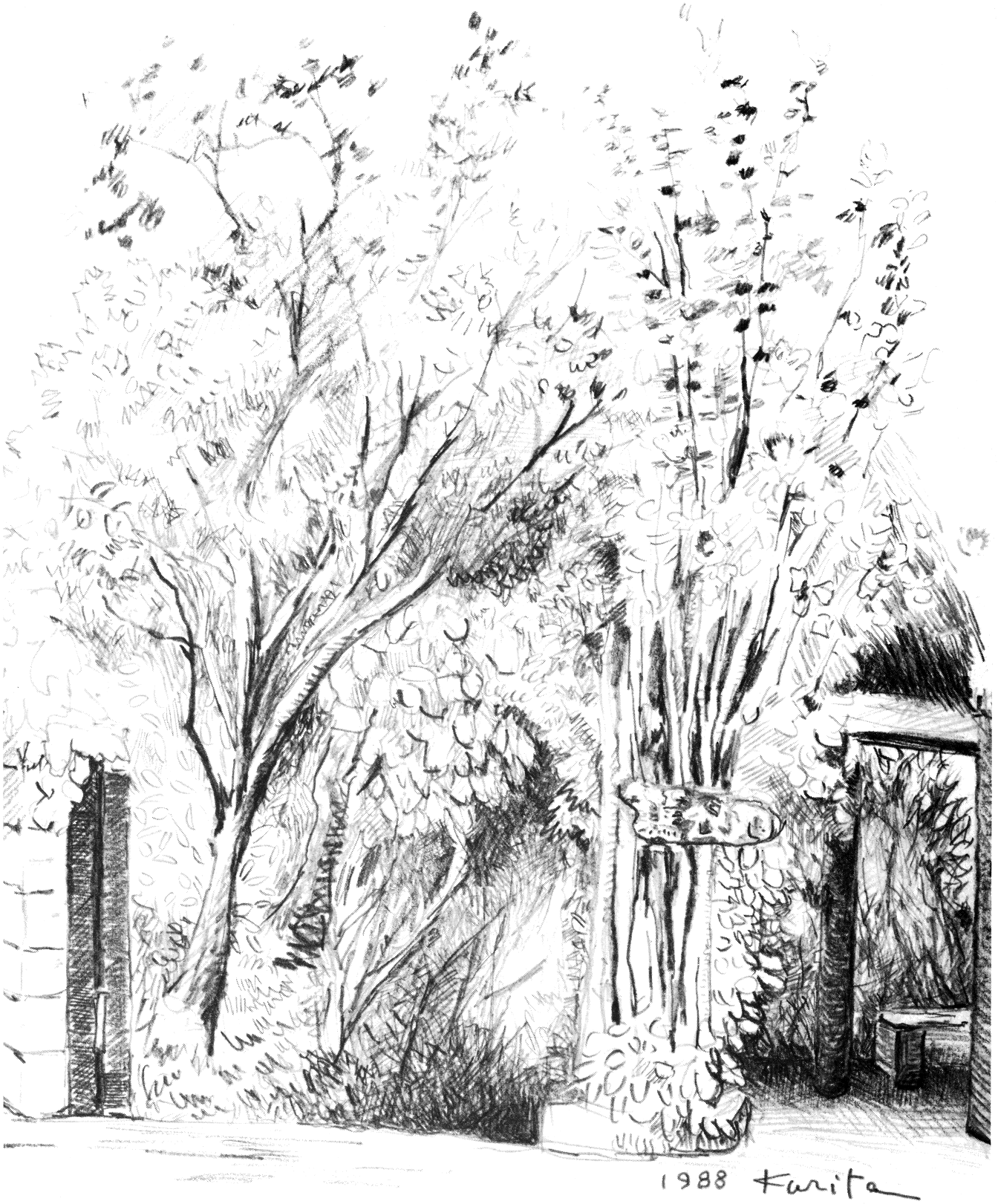
森のテラスは山田茂雄造園事務所が運営するオープンガーデンです。

Open 10:00～16:00　月曜定休

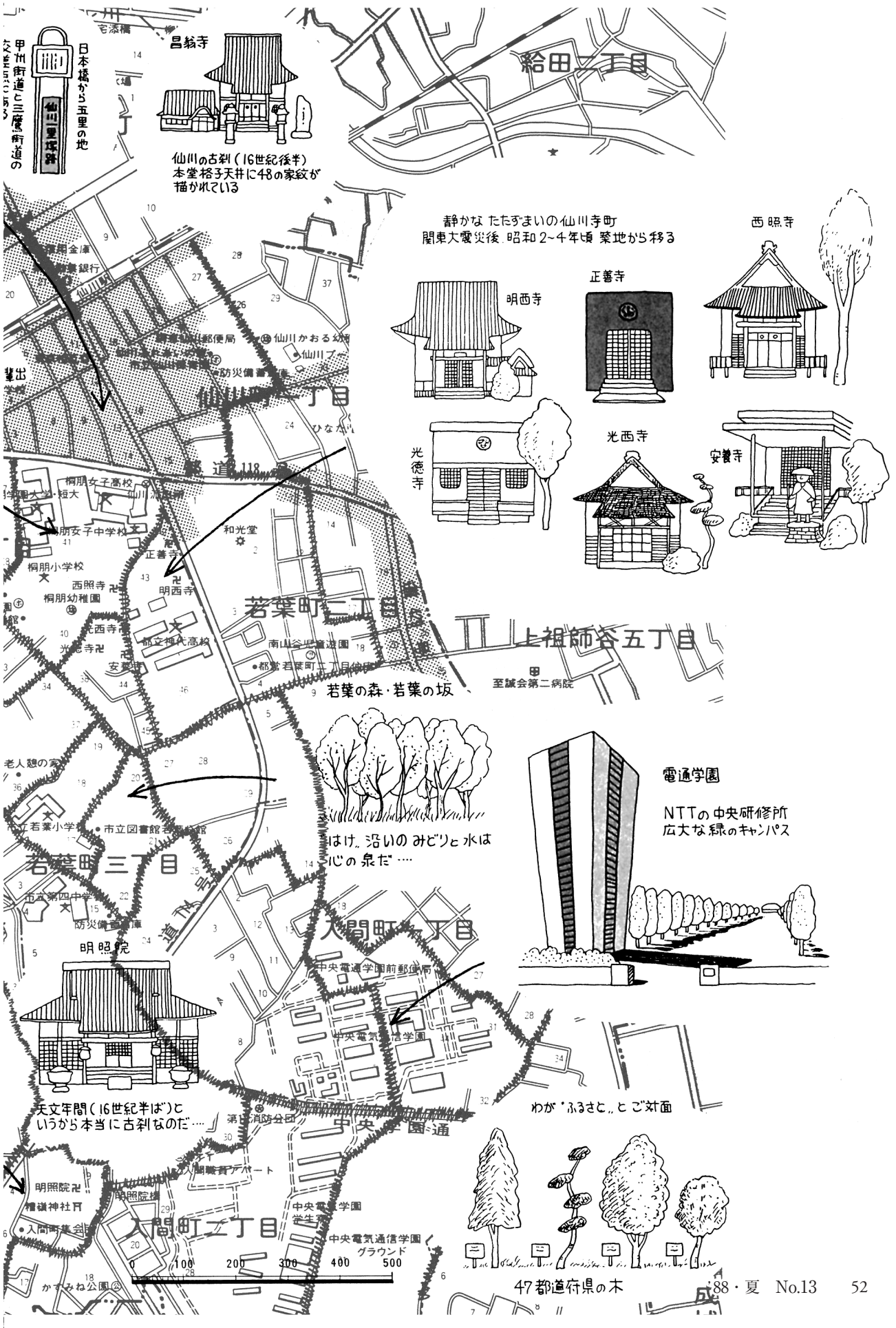
東京都調布市若葉町1-32-13　Tel 03-3307-1987

Mail info@moritera.com　HP www.moritera.com

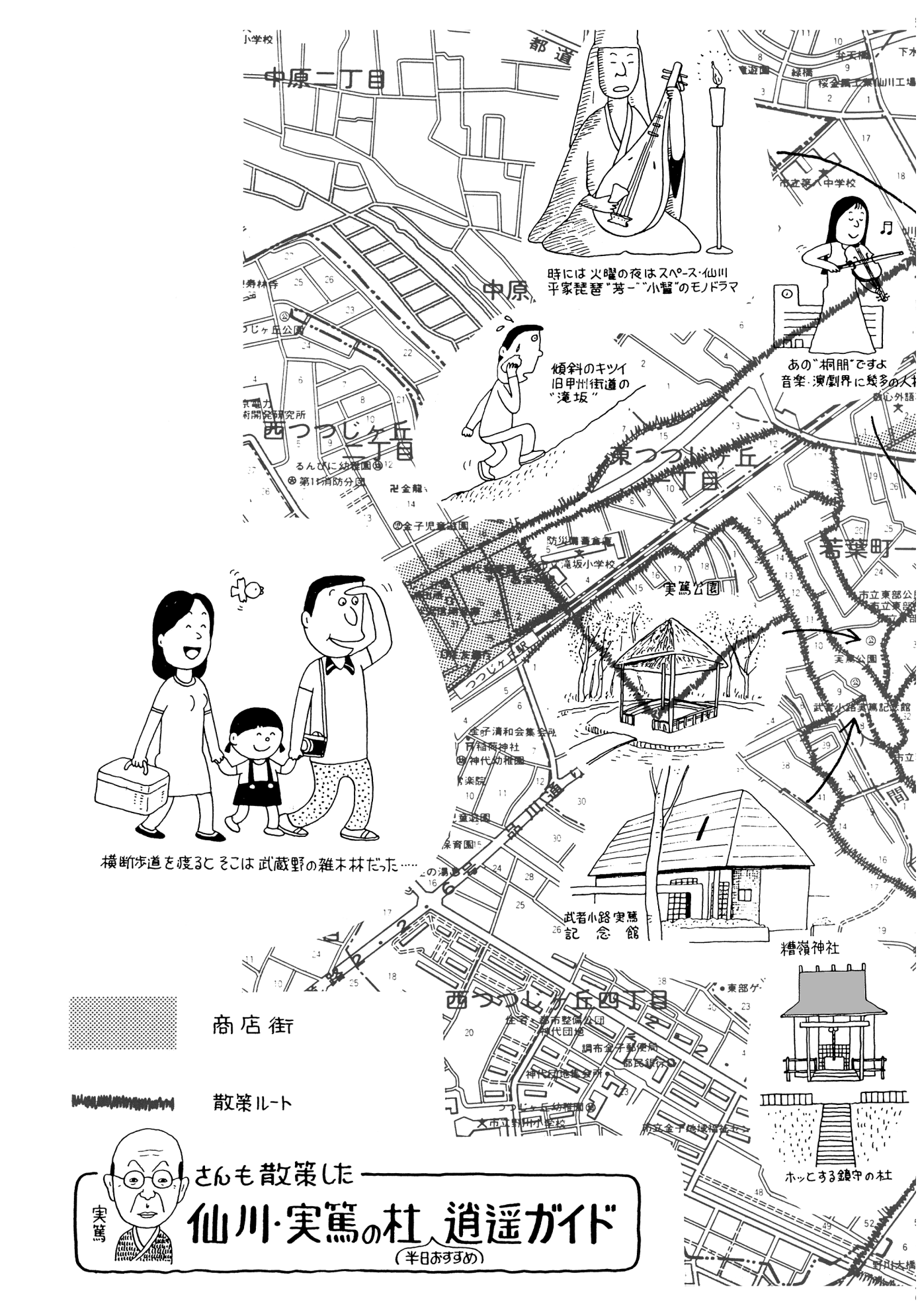




仙川・実篤の杜



日本橋から五里の地
甲州街道と三鷹街道の
仙川一里塚路
昌翁寺
仙川の古刹（16世紀後半）
本堂格子天井に48の家紋が
描かれている
給田二丁目
静かな たたずまいの仙川寺町
関東大震災後 昭和2~4年頃 築地から移る
明西寺
正善寺
西照寺
光徳寺
光西寺
安養寺
仙川町二丁目
都道118号
桐朋女子高校
桐朋女子中学校
桐朋小学校
西照寺
桐朋幼稚園
正善寺
明西寺
和光堂
若葉町二丁目
上祖師谷五丁目
南山谷児童遊園
都立神代高校
都営若葉町二丁目住宅
至誠会第二病院
若葉の森・若葉の坂
はけ、沿いのみどりと水は
心の泉だ……
電通学園
NTTの中央研修所
広大な緑のキャンパス
老人憩の家
市立若葉小学校
市立図書館若葉分館
若葉町三丁目
市立第四中学校
防災備蓄倉庫
明照院
入間町二丁目
中央電通学園前郵便局
中央電気通信学園
天文年間（16世紀半ば）と
いうから本当に古刹なのだ……
第七消防分団
中央学園通
わが"ふるさと"とご対面
入間職員アパート
明照院
入間町集会所
入間町二丁目
中央電気学園
学生寺
中央電気通信学園
グラウンド
かすみね公園
0 100 200 300 400 500
47都道府県の木


都道
中原二丁目
中原
西つつじヶ丘二丁目
東つつじヶ丘二丁目
若葉町一
西つつじヶ丘四丁目
実篤公園
滝坂小学校
武者小路実篤記念館
糟嶺神社
時には火曜の夜はスペース・仙川
平家琵琶"芳一""小督"のモノドラマ
傾斜のキツイ
旧甲州街道の
"滝坂"
あの"桐朋"ですよ
音楽・演劇界に幾多の人
横断歩道を渡るとそこは武蔵野の雑木林だった……
ホッとする鎮守の杜
商店街
散策ルート
実篤
さんも散策した
仙川・実篤の杜 逍遥ガイド
(半日おすすめ)

特集「新しき村」七十周年を迎えて

新しき村の七十年

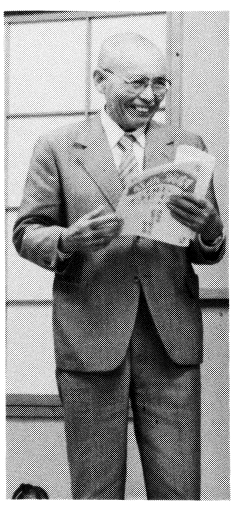
渡辺　貫二

大正七年（一九一八）「新しき村」の仕事がはじまった時、私はまだ小学生でした。「新しき村」の存在を知ったのは、それから約十年経った昭和三年で、その一年位前、武者小路先生を知り、強く惹かれるものがありました。

武者小路先生（以下武者小路と略す）が「新しき村」をはじめられたのは、三十三歳の時ですが、先生は既に新進作家として地位を得ておられました。先生の胸中には文学者として自分を生かし切りたいという強い内からの要求と、人間が誰でも生活の心配なく、自己を生かし切れる社会をつくりたいという願望が共存していたわけで、そういう社会についての感想を書いているうちに自然と実行に入ることになったわけで、それが「新しき村」です。

「新しき村の精神」という六ケ条の文章がありますが、それも第一条の「全世界の人間が天命を全うし各個人の内にすむ自我を完全に生長させることを理想とする」に要約されるわけで、もっと簡単に言えば、「自他共生」の社会ということです。これは人間である以上誰もが望むことだから、そういう社会はみんなが本気になってやればできないことではないと思ったわけですが、理想社会の最初の基盤である、衣食住その他の確保だけでもなかなか思うようにゆかず、先生は村の収入係として、四〇人前後の共同生活の必要経費の半分以上を先生の筆一本で生み出すことになったのです。

「新しき村」では創立の時から、実際に共同生活をして村の建設に当たる会員と、一般社会の生活をしながら物心両面に村の仕事に協力する会員があるのが特色ですが、いろいろな事情が重なって先生は村外会員になられ、大正十四年の暮に、一年間は奈良に住み、翌年東京に出られました。しかし先生と村の関係はほとんど変わらず、先生自身は盛んな文学活動を続けながら、村の経済の不足分に責任を持たれ、またこの頃から画の方の勉強にも熱心になられました。

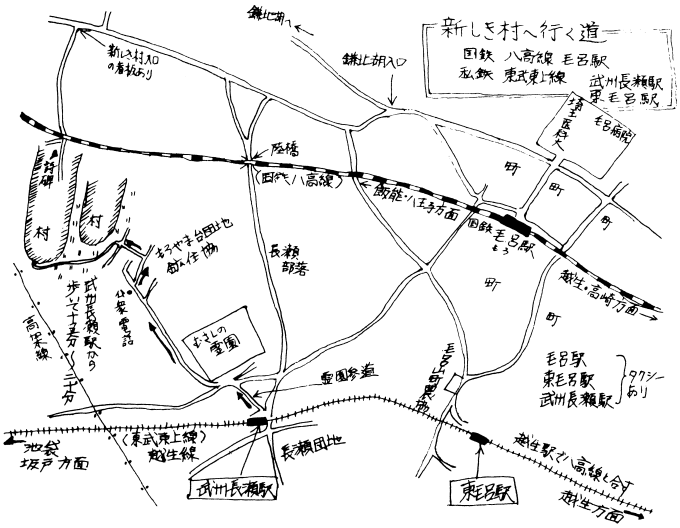


私が村外会員になったのはその頃で、有楽町の駅の近くに、「新しき村の会場」というのをつくって、村の会の美術展、演劇活動などを盛んにやっていた時です。私は役立たずの村外会員でしたが、先生をはじめ見上げる相手ばかりでしたから随分勉強ができました。

村の方は、先生が村を出られたことで少しずつ人は減りますが、農業の方は地についた仕事振りになり、開田も進み、また一時電燈

が灯いたり、印刷所ができたりして、自活への見当も着き出した所へ、宮崎県営の発電所が出来ることになり、面積では三分の一たらずなのですが、一番生産力のある土地が水没することになったのです。それが昭和十三年で、戦争中のことで反対できる状態でなく、補償料も三〇〇〇円ばかりでした。

二十年の経験と、東京中心に村外会員が多かったことで、東京附近に新しく村をつくることになり、日向に二家族が残り、東京に二家族が出、他は一時、村を離れることになりました。



財団法人 新しき村
埼玉県入間郡毛呂山町葛貫423
〒350-04 TEL 0492－95－4081

東京の私鉄会社から土地の推せんがいくつかあったのですが、今の村の土地が、諸経費を含み十アール三〇〇円位で買えたのと、村外会員が東京から日帰りで手伝いにゆける、ということで決まったのです。最初は山林一ヘクタールあまりを買って近所で家を借り、通いで開墾をはじめたわけです。しかし段々戦争がはげしくなり、日向の村は二、三年で一家族になり、埼玉の村も一九年秋に一家族になり、昭和十五年に集会所としてつくった「増田荘」に移り住んで終戦を迎えました。

戦後になると日本全体が一八〇度の方向転換をするわけですが、いわば「新しき村」の理想が日本の方針になったようなものですし、村の我々にとっては、尚のこと村しかないというわけで、東京支部中心に活発に動き出し、まず子供のいない僕ら夫婦が入村することになりました。二十一年の四月、私達と他の一家族が入村し、三家族、十七人でいわば再出発しました。水田と開墾畑が各五〇アール、山林一ヘクタール、大人は八人でした。極端に生産力が落ちていたので、百姓をしながら毎晩のように買い出しに出る始末でした。いろいろな変遷を経て、昭和三十三年、村が出来て四十一年目にようやく自活（経済的独立）が出来ました。四十年も自活しないでつぶれなかったのは先生がおられたからですが、熱心な大勢の村外会員の協力もあり、外からはどう見えようとも、私たちはいつも希望に燃えて村の仕事を続けていたのです。

長い時間をかけて村の基礎固めをし勉強して来ただけに、一旦自活が出来ると、それからの十年は文字通り日進月歩の状態が続き、村内の生活者は四倍の五〇人を超え、週休制六時間労働で、共同農業のモデル視されるようになり、またそれぞれの部門の担当者は、第一級の技術者になりました。その頃は村の精神に関心をもつ見学者と農業方面の見学者は半々という状態でした。それが「新しき村」満五十年、先生が八十三歳の時で、東京の文京公会堂を満員にして盛大な記念祭が行なわれました。

その頃から私は今の村が一〇〇人になることを想像して、具体案を村の雑誌に発表したりしています。それは老人、子供をまじえてですが、現状に照合して考えると一〇〇人になると、村の自立に必要な労働力よりも、少なくとも一〇人位の労働力が余る勘定になるのです。そうなれば地域の農業の協同化や進歩のために直接働いたり、文化活動のために専門的なチームをつくったりすることができるようになるし、条件が整えば第二の村をつくるために、一度に四、五人がそちらへ移っても平気という状態が生まれて来るのです。一〇〇人というのは一つの数字に過ぎませんが、要するに村が立派に自立した上で、労働力に余裕が出来なければ、「新しき村」として

本当に世界的な働きが出来ないわけです。私は、「新しき村」がモデル的な存在であるだけでは——それでも十分な意義はありますが満足できないので、私たちがつくりあげたこの小さな理想社会に、新しい力がどんどん参加して、この仕事をより世界的なものにしてくれることを熱望しているのです。そのためには村外会員も、今の何百人では仕方がないので、少なくとも何千人にならなければと思っています。

村の現状……

最後に村の現状を簡単にお話して、皆さんからのご質問なり、ご意見なりをおききして、それについてお話しを進めたいと思います。

現在、村の土地は一〇ヘクタール、借地五ヘクタールであり、農業規模でみると水田が四ヘクタール、畑が三ヘクタール位、推茸が原木八万本位、梅が一〇〇本余り、その他桃、栗、ユズ等若干と、茶園が七〇アール位。採卵鶏が約五万羽（他に育成鶏二万五千）乳牛一〇頭（育成牛とも）です。収入では養鶏が二～三億円—これは卵価次第で大きく変わります。推茸が一千万円前後、梅六〇〇万円前後、米、茶、牛乳、野菜などが村内消費が多いので七〇〇万円前後、農業外収入としてやきものが五〇〇万円前後、美術館が二〇〇万円前後、村外会員会費は二〇〇万円前後、寄附は五〇万円前後です。

「新しき村」七十年略年表

一、大正期——大正七年十一月十四日宮崎県木城村字城に土地きまる。二・五ヘクタール余。第一年は十七人、以後大体四〇人前後で高い理想と困難な現実と戦う情熱の時代。十五年、実篤奈良へ。

二、昭和十三年村の一部水没まで——人数は少しずつ減るが農業は地に着いたものとなる。十年がかりの大水路が一応完成。開田も進み、果樹園も出来、印刷所の仕事も軌道にのる。十三年九月宮崎県営ダム建設のため状況一変。この間に実篤の外遊あり、東京支部の活動盛ん。

三、埼玉の村建設から終戦まで——昭和十四年九月十七日埼玉の村開墾式。最初の土地一ヘクタール余の山林地。川島、野井の二家族を中心に開墾を進める。後、水田、山林地各五〇アール余を得。戦況徐々に深刻になり、終戦時は日向も埼玉も一家族であった。

四、自活（経済的独立）達成まで——昭和二十一年三家族で再出発。昭和三十三年自活達成。二家族と独身者で十四名。東京九段会館で四十周年を祝う。飛躍への準備整う。

五、五十周年まで——この十年は日進月歩。村内は五〇人を越え、経済も安定、労働問題もほぼ理想的な形となり、建設時の理想が小さい村ながらも現実のものとなる。

六、五十周年以後——六十周年迄は生産設備の拡大を進め人員も六〇名となるが、以後は入村希望が減少し現状維持の形となる。その代わり経済的安定度を増し、美術館、生活館などをつくり住宅改造、新設を進める。村の美化を一つの課題としながら次の飛躍に備え、真剣な若い力の参加を待っている。

（文責　渡辺貫二）

普通の年でこれを所得で見ますと、養鶏で六千万円位、耕種農業で一三〇〇万円位、農外収入が預金利子ともで一千万円位あり、これは文化活動費と土地や美術館の基金にしています。

六〇人前後の広義の生活費が、年間六千万円前後ですから、普通だと養鶏収入で生活でき、耕種農業の収入は、借入金の返済や、生活の向上費、基金の積立に廻せます。

私は、農業で六時間労働（年間平均）週休制で、経済問題から解放されて、各人が自分の好きなことに打ち込める生活が現実のものになっているのは、世界的にもあまり例がないのではないかと思っています。「新しき村」は小さいながら、共同の力で一つの理想社会（福祉社会）を実現したものだと思っています。

〈質問に答えて〉

Q　村の七十周年には、どういう企画を？

A　東京での大きな催しは先生の生前、五十周年祭が最後でした。その後は埼玉の村で、近所の人たちへの報恩を兼ねて、毎年九月創立記念祭をやっています。今年は毛呂山町の福祉会館を借りて何かやる計画があります。日向の村でもやるようですし、御当地で実篤記念館が開館三周年、実篤公園が開園十周年ということで、村の七十周年と併せていろいろ計画しておられるので、それに出来るだけ協力します。

その他、すでに新しき村美術館の新しい図録を出版配付していますが、他にも有効な記念出版も計画しています。

Q　共同するメリットは？

A　炊事場、風呂場が一つで足りること、機械や設備の利用が効率的に出来ること、仕事が専門的になりながら統一がとれること、などが第一にあげられますが、我々にとっていろいろな経済効果以上に、自他共生が日常生活の中で自然にできるということが最大の喜びです。

Q　村外会員というのは？

A　村での労働は農業しかなかったので、他の仕事をしたい人とか、健康や家庭の事情とかで村へ入れない人は沢山いるわけで、そういう人は世間で一般の仕事をしながら、村の仕事に協力します。そういう人を村外会員と言っています。村外会員は会費（一ヵ月五〇〇円あるいは三〇〇円）を納め、村から機関雑誌などを無料で受けとります。その他には特別の定めはなく、寄附を割り当てられるようなこともありません。これが村外会員の最低の義務ですが、先生のような村外会員もいますし、村は今までに何回もいろいろな危機に会いましたが、そういう時には不思議に村外会員の力で危機を脱して来ました。

自活が出来る迄はずっと生活費の援助を村外に頼りましたが、自活が出来た後は設備の拡張資金なども村内会員の責任で借入金でまかなっていますので、村外の援助はずっと土地の購入基金などに積みたてられています。

村内会員にとって村外会員は物心両面の心の支えであり、村外会員にとっては、村があることで人生に希望がもて、社会の醜い争いにも絶望せずにすんでいるのが事実で、僕なども村がなかったらどんな人間になっていたか知れません。

Q　村に入れない人がいたのは何故？

A　個人の事情は前に話しましたが、村に入って居候の形になっては困るわけで、村の方の仕事や住居の関係などもあります。老人子供の存在や、病気や、直接収入のない仕事もあり、天災その他もありますから、大体一人の生産的な仕事で二人分以上の収入が必要というのが大ざっぱな見当です。土地の関係も大切で、最近の日本の農業では、一家族当り五ヘクタール程度が必要とされていますので、今の村の土地では三家族と独身者で三〇人程度がやっとのわけですが、比較的土地の要らない養鶏が大きくなったのと、やはり共同の効果が生きて、六、七〇人は今の規模で生活出来、人数が増えればこれから農業以外の仕事を増やしていきます。それでまたいろいろな人が入れるようになると思っています。

Q　村も高齢化の傾向にあると思いますが、村独自の保障は考えていますか？

A　村は人間の共同の力でお互い保証し合っているわけで、新しい人が全然入ってこなければ心配になりますが、そういうことはあり

得ないと思っていますので心配はしていませんが、多少のことは考えて実行しています。

村の人は男女新旧に関わりなく、生活費に関係のない個人費を、毎月三万円宛分配されますが、その他に六〇〇〇円ずつ共同預金にしています。この形は二、三十年来続けています。これは財団の経理とは別に「村友会」というものをつくって、いろいろに利用しているわけです。六五才以上の者は年金を受けていますが、これも全額「村友会」に入れ、その代わり死ぬまで働いている人と同じに個人費や特別個人費（年間一〇万円位）も分配されるようになっています。一昨年からこの老齢年金の半分を「高齢者対策基金」として別に積立てをはじめました。

Q　渡辺さんのことを皆さんはなんて呼んでいますか？

A　村内では大体の人が「貫二さん」です。村内に他に渡辺が二人いて、二人ともう三十年近くなるので、お互いに名前で呼び合っていたので、後から入ったものもみなそれを踏襲しているわけです。村外の会員はみな渡辺さんですが、中には「おやじさん」などもあります。

先生は親しい会員はほとんど苗字だけで呼んでおられたが、僕は文学も絵もやらなかった故かなかなか君がとって貰えなくてね。晩年の数年間、やっと「渡辺」と言って貰えるようになってうれしかったですよ。村の会員同志では、先生と言えば武者小路先生で、他の先生には苗字をつけて呼ぶのが普通でした。

Q　仙川との関わりについては？

A　仙川には、先生が最後の二十年をすごされ、私も何百回もお訪ねしていますし、ある意味では生まれ故郷以上の親しみがあります。実篤公園ができ、実篤記念館ができたことで、いわば永遠の関係になったわけですが、今度皆さんが記念館と村と仙川を一体的に結ぼうとする運動をはじめられたことは、大変嬉しいことです。

（仙川フォーラム準備会第三回（4／26）における渡辺氏の講義録への加筆）

「帰去来」

松田　省吾

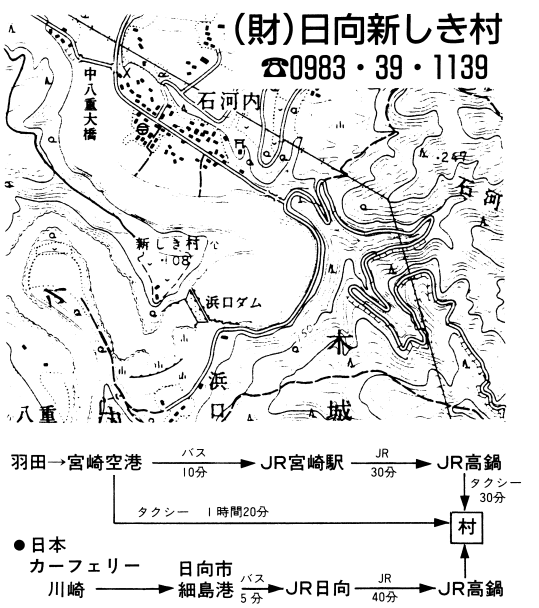
帰りなんいざ、田園はまさに荒れなむとするに、何ぞ帰らざる。陶潜の帰去来之辞を読んだ頃、僕は身体の中が、ある種の精神と行動の一致へ向けて模索し収斂（しゅうれん）しつつあると

き、二三歳頃だった。都会は、都会でなければできないことをしっかりやってしまえばよかった。両親に既に先立たれてしまっていた十八歳で函館から家出して住みついた東京。

たくさんの人々が居るけれど、人間の寂しさを誰もが抱えている都会。自分はいかなる働きを持つべきか、いかなる日常を望んでゆくべきか。止まり木暮らしよりも、その止まり木自体が根を張っているような生活は自分に無いのか、ああ、心がはっきりと喜べる処はないのか、知らなすぎることの多いところを豊かに学べるところはないのか、と想うのだった。

山と山とが讃嘆しあうように
星と星とが讃嘆しあうように
人間と人間とが讃嘆しあいたいものだ

武者小路　実篤



実篤（尊敬するがゆえに呼び捨てる）が新しき村を興した境涯の真髄を表わしていると思う詩。ひとりの詩人にひとつの詩があればよい。ひとりの読者にひとつの感動があればよい。本当の感動は一生涯にひとつでよい。あまるぐらいだ。つらぬいてその人生の面目を尽くせばよい。

その頃、働きながら夜学を卒え教職の資格を取得したが、免許の紙片一枚に何ほどの実力があろうか。これは入口で、本当の勉強はこれから、それができるかできないかが大事。玉川大学の通信教育に学び、勉強の上積みをはかった。小原國芳先生は《全人教育》を掲げられていた。これにも参った。立派な人物に出会えてうれしい。しかも武者小路実篤師と小原國芳師は互いに旧知の独立人同志であった。頭と心への刺激はいただけた。それを念頭に、こんどは身体を自然に放りこんで、〈日日新〉が実際に日日新であるか。人間は実際に〈生長〉するものであるのかどうか。〈全人的学習〉ができるものかどうか。本当の意味で人間尊重ということがどのようにして持ち上がってくるのか。僕は村の生活で学びたくて入村の許しを村に乞うた。ありがたい。

自然を真につかまえ得ているのではなくても自然と、自然は己れを自然と呼ばせる力がある。呼ばなくても応え、悲しんでもそこに在る静かで果てのないものに包まれて。ほら樹々の葉っぱが俺を見ているぞ。地面が支えているぞ。空気が鼻から出入りするぞ。精神と言い意志と言う、それ自体が美に発する如きものがあるのを覚えるとき、自然に学びくいこんでゆきたくなるのだ。

こころとものの調和をめざして
——「新しき村」再評価

今　防人

六月末の各紙は、六年間、腎透析治療を受けてきた五一歳の日本人男性が、フィリピンで囚人の腎移植手術を受けたことを大きく報じた。この男性は、あっせん業者に一括して一、八〇〇万円支払い、このうち八〇〇万円が手術費、入院費などで、囚人（の家族）に払われたのは一〇〇万円以下、残りはあっせん業者の手に渡ったと言われている。

定期的に透析を受けなければならない患者の苦労やわずらわしさは本人や家族でなければわからないかもしれない。ある人は、貧しいフィリピンと豊かな日本の縮図を指摘するかもしれない。

しかしながら、問題は金の力にものを言わせて、生きている人間の臓器を買い取るわれわれ日本人の心にある。人に腎が二つあるのはそれなりの意味があるからであろう。なにも一方を換金するために備わっているのではあるまい。

現在、日本は未曾有のものの繁栄の時代にある。ものが悪いと言うのではない。ものを使うこころが衰弱し歪少化している点が悪いのである。一口に言うならばエゴイズムである。

エゴイズムは個人のものとは限らない。家族、郷党、地域、国家、人類でさえエゴイズムの餌食となるからである。

われわれが、この生体腎買い取り事件を聞いた時の驚きと憤激の背後で

「フィリピン人は貧しく可哀相だ」

「日本人でよかった」

さらには

「日本人は勤勉でフィリピン人は怠けものだから」とか、最終的には

「しょせん、金さ」というシニカルな声をつぶやいてはいないだろうか。

さて牢獄なく国境のない世界を目指したロシアの文豪・思想家トルストイの影響を受け、「新しき世界」「新しい社会」の建設に七十年前に着手した武者小路実篤は、他人を犠牲にする自己の繁栄も、自己を犠牲にする他人の繁栄も、拒否した。なぜならば、前者は搾取、後者は自己欺瞞に他ならないからである。詮じつめると、それはエゴイズムの解決策と言ってもよいであろう。もちろん、エゴイズムの裏返しであるアルトルーイズム（利他主義）

の拒否でもあった。

武者小路実篤が若者たちと草深き日向の地に「新しき村」建設に踏み出した時代は、すさまじい時代であった。燎原の火の如く全国に燃えさかった米騒動、シベリア出兵、第一次世界大戦後の不況。そして、現在に比べることもできないくらい低い生活水準、極端な貧富の差。

しかしながら、当時の「新しき村」の記録を読むと、不思議と貧窮、ギリギリの生活などを内容とする記事は少ない。これは確かに一部の批判書が指摘するように、この集団の芸術至上主義によるのかもしれない。しかし、根本的には実篤のものとこころについての洞察にあったように思われる。ものはともするとこころを蚕食し圧倒する、時代はしだいにものが支配的になってきていると、彼は見通したのではなかろうか。

工業化が進行し産業社会がその姿を現わすにつれて、社会問題、労働問題をますます、世人につきつけてきた。しかしながら、しかるが故に、ものに流されてはなるまい、ものとこころの調和がはかられねばと考えたのであろう。

「新しき村」に後年、経済的自立を重視する考えが強まった時、実篤はその性急さを戒めて「村が自立しても旧い村になっては困る」と述べたと言われる。もっとも実篤がそのために「村」に投じた金は何億にも上る。おびただしい小説、エッセイ、そして絵は資金稼ぎでもあったわけだ。

こころはものに左右されるからものの変革が第一だとする社会主義思想が大正末から昭和を支配してきた。しかしながら〈衣食足りて礼節を知る〉が、ものの溢れている日本でも、ものがこころを支配すると考える国々でも実現してない事実をわれわれは眼のあたりにしている。

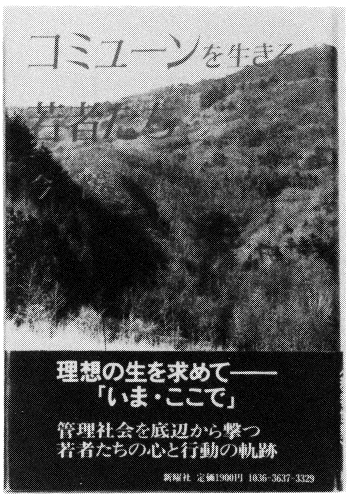
ものを軽視するのではない。また〈貧しくともこころが豊かならば〉という支配者の論理に加担するのでもない。実篤流に言うならば〈ものもこころも〉と言うことになろうか。

われわれは思想的にものを偏重してきたようである。こころを正面にすえて両者のバランスをとる必要があろう。

「革命はいついかなるところでも可能である。民衆がその意欲をもつならば。」

――グスタフ・ランダウアー

（流通経済大学社会学部教授）



－紳士洋品専門店－
men's ツカモト
仙川商店街中程
☎3300-6707
滝坂小・若葉小・緑ヶ丘小スクール用品取扱店

実篤さんと仙川と新しき街づくり

仙川フォーラム'88の発足にあたって

〝泉と池のある地〟を求めて、三鷹市牟礼から仙川に移ってこられたのは昭和30年、実篤さん70歳の時でした。そして、「ここを仕事場兼仕事完成の地として選んだわけで……今のところここで死ぬつもりでいます」(昭和40年「調布の一市民として」)との言葉どおり、ここ仙川の地を〝終の住処〟として賞で、世の激しい移ろいにもかかわらず、界隈を武蔵野の面影そのものとして残していってくれました。

今年は、公園オープン10周年、記念館開館3周年、そして新しき村創立70周年という節目に当たり、地元仙川のまちでも、何かせねばと有志の話し合いが昨年の秋頃から始まりました。この一月、村の新年会に参加するとともに、〝実篤と新しき村〟の記念事業についての懇談を毎月重ね、四月に活動母体として「仙川フォーラム'88」の結成をみました。

●開かれ、遺されたもの

昭和51年2月に安子夫人、4月には実篤さんが90歳で天寿を全うされた。そして遺族から、自宅と愛蔵品が調布市に、近代美術品と文学資料は東京都に、一部は新しき村、三鷹市等に寄贈された。まさに〝共有のものとして〟開かれ、遺されたものに、いかに対し、どう受けとめたらよいものだろうか……。

昭和52年春、〝新しき街・せんがわ、今日そして明日〟と題する小さなまちシンポジウムが地元の東部公民館で開かれた。メインテーマは「実篤公園の活きた運営を考える」ということで、〝新しき街の鎮守の杜に〟〝哲学堂としての実篤記念館を〟といった提案がなされた。いずれにしても、実篤さんの、新しき村からの〝志の継承とは〟をめぐって議論を深める必要があるという認識でした。

●新しき村＝世界をつくる

……彼にとって文学をやろうと思ったのと、新しい世界を生み出したいと思ったのとはほとんど同時である。それは彼の双生児である。『或る男』

〝実篤記念〟とは、やはりこの二つ、彼の創作活動と新しき村運動の両者を記念・紹介すべきものといえよう。そのためには、作品の展示という静的な場と、新しき村の志の継承という動的な空間が求められます。

後者についてみれば、5月第二日曜日の〝実篤誕生祭〟は現在も続けられ、また11月第二日曜には〝新しき村〟創立記念祭が仙川でも催されている。全国から集まった人達が、公園、記念館を散策した後、東部公民館の広間に集まり、村の赤飯を食べながら懇談の時をすごす。これらの場は、現在やや内輪の集まりとなっているが、村の写真展、美術展や生活展を併わせて開催したり、講演や寸劇を加えて、〝新しき村運動〟の積極的な紹介の場となしえるはずです。

実篤さんを慕う人達は、村の内外会員や友の会会員だけでなく、全国にわたり、各分野に多数おられる。また、小学館版の全集刊行とともに、日々新たに関心ある人達が生まれています。日向や埼玉の村という根拠地だけでなく、講演会や例会には、仙川～調布辺りは地の利を得ているといえます。実篤公園・記念館は一調布市(民)のものでなく、有志の者にとって、〝共有のもの〟として開かれ続けていく場であることを十二分に心しなくてはいけないと思います。

●志の継承としての記念事業を

さて、周年となる本年、調布市や新しき村の記念事業とともに、地元・仙川のまちが主体となるイベントを目下企画中です。〝実篤と新しき村そして街〟をテーマに、規模は小さくても、ピリッとした全国レベルのシンポジウムも秋には開きたい。〝新しき街・せんがわ〟をキャッチフレーズにして、ささやかなまちづくりをすすめてきているが、仙川のみならず全国のむらやまちで、〝新しい社会づくり〟の哲学やヘソが求められているといえましょう。〝志の継承〟という視点から、とにかく現実社会と相渉り、実篤さんの哲学・社会運動面にも大胆な光をあてたイベントにしたいと念じております。

有志の方々のご教示・ご支援とご参画をお願いする次第です。

(青野友太郎)

〝実篤と新しき村〟周年記念イベント

〔企画ポイント〕

1 単発的、個別的なイベントではなく、1年間にわたる継続的かつ有機的なつながりを持つこと。

2 仙川の地区レベルの催しとともに、市レベル、都レベル、全国レベルでの催しも企画する。

3 調布市（公園、記念館、市長部局）、㈱新しき村、記念館友の会及び地元（仙川を中心とする）において、各々の主催による各種事業をお互いに尊重するとともに、共催・後援等の連携・協力を密に行う。

4 さらに、実篤全集刊行（小学館刊）と重なるグッドタイミングであり、全国のいろいろな機関、団体、個人との新たな連携が可能となるような、開かれた、かつ積み上げ方式〝ネットワーク〟型の事業展開、運営を行う。

5 〝実篤〟と〝新しき村〟の複合的テーマの中で、文化・芸術的側面とともに、〝志の継承〟という視点からの哲学、社会運動的側面にも大胆に光をあてる。

6 つまり、仙川や調布における明日の〝新しき街〟づくりの〝ヘソ〟捜しという、現実社会と相渉るものとする。

7 また、実篤公園及び記念館の活きた運営とさらには将来の財団法人等の独立化への展望を探る。

〔事業プログラム（案）〕

1 〝実篤と新しき村〟に出会い、知るために!!
- ●公園・記念館への散策の勧め―マップづくり
- ●講演及び朗読の夕（会）
- ●感想文コンテスト（小・中・高対象）

2 〝実篤公園と記念館〟のある街・仙川を売り出す!!
- ●マップ（記念館道順／散策マップ）―各人・各店で配布
- ●PR誌（せんがわ21号外）―各人・各店で配布
- ●実篤の杜ネットワーク整備
- ●おみやげグッズの企画・制作
- ●感想文コンテスト全国版（調布市・小学館共催）

3 実篤ゆかりの〝新しき村と街〟との交流を!!
- ●新しき村（毛呂山、日向）、安孫子市―姉妹まち・むら宣言
- ●物産品の交流
- ●交流シンポジウムの開催

4 秋に、実篤記念の〝仙川芸術祭〟の開催!!
- ●市及び〝村〟事業への協力
- ●学園祭との連携（桐朋、白百合、電通学園）
- ●独自のシンポジウム（3―3）の開催

●周年記念イベント　企画案●

〝実篤と新しき村〟仙川フォーラム'88

●第一回　記念シンポジウム

〝実篤と新しき村70年〟

1.〔朗読と演奏〕桐朋学園大学
2.〔講演〕実篤の生涯と新しき村70年
　大津山国夫氏／千葉大学教授
3.〔講演〕コンミューンの系譜からみた新しき村運動
　今　防人氏／流通経済大学教授
4.〔講演〕村の精神と生活～70周年に明日を想う
　渡辺　貫二氏／新しき村
5.〔質疑と討論〕大津山、今、渡辺の各氏を囲んで

○日時　11月13日㈰　13：00～16：20
○会場　桐朋学園
○主催　実篤記念館　○共催　仙川フォーラム'88
○後援　新しき村　桐朋学園　他

●第二回　サミット'88と交流パーティ

新しき〝村〟と〝街〟の交流サミット

1.〔講演〕街に生き、村に生きる～新しいライフスタイルの勧め
　藤本　敏夫氏／自然王国連邦協議会代表
2.〔講演〕帰去来～日向新しき村に、今生きて
　松田　省吾氏／日向新しき村
3.〔対論〕実篤空間とライブ都市・仙川
　末吉　保雄氏／桐朋学園大学理事
　橋口美代子氏／画家
4.〔報告〕新しき〝村〟と〝街〟から
○宮崎県川南町から　遠藤威宣氏／若者連絡協会長
○埼玉県毛呂山町から　渡辺兼次郎氏／新しき村
○千葉県我孫子市から　○地元・仙川から
5.〔パーティ〕バーベキュー野外パーティ
　演奏　桐朋学園大学

○日時　11月20日㈰　13：30～19：00
○会場　桐朋学園／滝坂の杜（パーティ）
○主催　仙川フォーラム'88　○共催　実篤記念館
○後援　新しき村　桐朋学園　仙川青友会　他

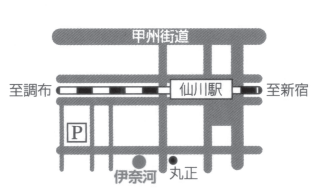
●第三回　ライブコンサート

第三回　仙川音楽祭

ゲスト　吉田央舟（ビク）他
○日時　12月3日㈯　19：00～21：30
○会場　桐朋学園大学
○主催　仙川フォーラム'88
○共催　桐朋学園大学
○後援　新しき村　仙川青友会

〔目下、企画進行中で一部変更あり〕

ブティック 伊奈河 INAGAWA



調布市仙川町1-12-10 TEL.03-3309-5454

貸スペースあり
URL: http://www.sanmimore.co.jp/cyofu/
サンミモレ イナガワ
仙川サロン
〒182-0002 調布市仙川町 1-12-13 イナガワビル B1
TEL.FAX:03-3305-7870
OPEN am11:00～pm5:00　定休日：土曜・日曜・祭日

〝実篤と新しき村〟仙川フォーラム'88　会則

1．目　的

1988年は調布市実篤公園オープン10周年、調布市武者小路実篤記念館開館３周年、(財)新しき村創立70周年の節目の年にあたる。調布市及び(財)新しき村が主催する各種の記念事業に対し、仙川地区を中心とする地元の市民、商工農業者、学園関係者として、支援と協力の活動を行なうとともに、必要となる独自の事業等も行なう。

2．会　員

〝実篤と新しき村〟への関心と賛同を持つ有志個人をもって会員とする。

3．事　業

(1)　調布市及び(財)新しき村の各種記念事業への協力と支援。

(2)　その他必要となる事業。

4．運　営

会員の中から〝代表委員〟数名、〝監査〟２名を選出し、日常の運営等にあたる。ただし、会合は会員及びオブザーバーに対して、いつも開かれている。また、有識者・専門家からなる〝顧問＝アドヴァイザーグループ〟を構成し、助言と協力を得る。

5．経　費

会の運営に要する経費は、会費及びその他の収入をもってまかなう。会費は、１口1000円とする。

6．事務局

会の事務局は「せんがわまちニティ情報センター」内におき、実務等を担当する。

7．期　間

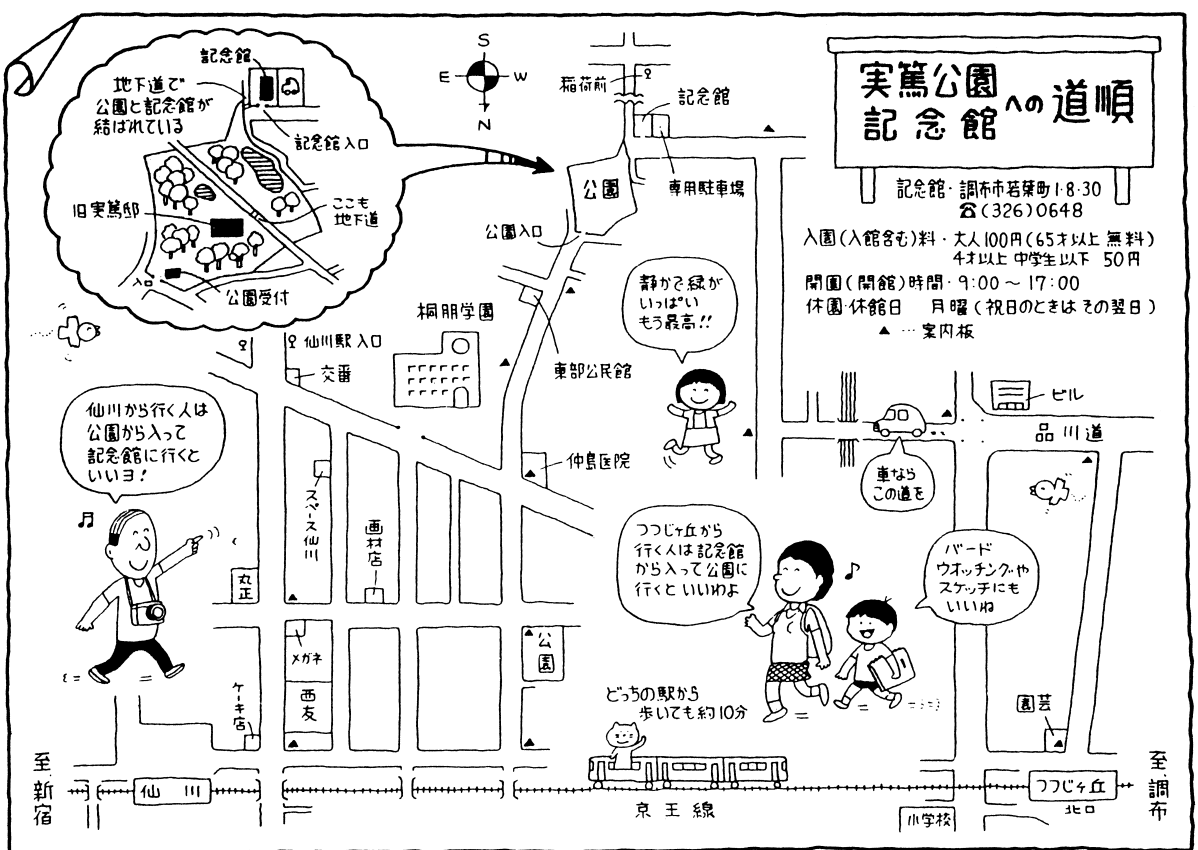
会の活動期間は、1988年４月から1989年３月までとし、事業及び決算報告を行なった上、解散するものとする。

8．その他

運営に関する事項は、必要な都度協議の上定める。

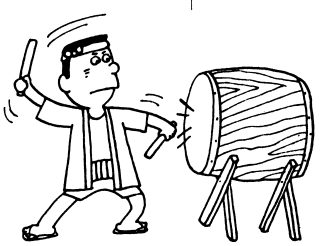
(付則)

この会則は、1988年４月26日から実施する。



イラスト・こやま きょうへい　©〝実篤と新しき村〟仙川フォーラム'88

カレンダー　（'88.4 ～ '89.3 ）

新しき村	商店・町内	学園・大学	仙川フォーラム
・花の会（合同慰霊祭）（4／10）	・わざわ座12周年記念公演（4／17）		・新しき村訪問（第2回） ・仙川フォーラム'88スタート
・武者小路先生生誕103年祭（5／8） 於東部公民館 ・渡辺兼次郎作陶展（5／1～10 宮崎市）			・公園・記念館道順マップ発行 ・「"実篤と新しき村" 周年記念イベント―ご参画・支援の願い」配布
			
			・仙川木曜会第1回（7／21）
・労働祭（8／8～14）	・おらほせんがわ "これが祭だ！" （仙川商店街（協）） （8／1～3）		・日向新しき村訪問 ・仙川木曜会（8／18）
・新しき村創立記念祭（9／18 毛呂山町） ・新しき村生活美術展（9／1～30 於生活文化館）	・八幡神社秋の祭礼（9／14,15）	・電通学園「納涼祭」（9／3　16～20時） ・神高祭（9／17,18） "心に新・深・神高祭"	・仙川木曜会（9／15）
・収穫祭（10／16）	・糟嶺神社例大祭（10／7, 8） ・わざわ座秋まつり（10／16）	・桐朋女子高（10／1, 2） "桐朋童夢" ・白百合祭（10／22,23）	・仙川木曜会（10／20）
・新しき村創立記念祭（11／13 東部公民館） ・ミニコンサート（石川杉子他）（11／13,14,15 石河内，木城町，川南町）		・桐朋大学祭（11／2～4）	・仙川木曜会（11／17） ・新しき村と街―交流サミット（11／20予定）
・忘年会（12／17）			・第3回仙川音楽祭（12／3予定） ・仙川木曜会（12／15）
			・仙川木曜会（1／19）
			・仙川木曜会（2／16）
			・仙川木曜会（3／16）

第14回
瀬下四郎油絵小品展
財団法人「新しき村」70周年記念
9月4日(日)→10日(土) ギャラリー 栃
11:00→18:30　最終日 16:00　銀座2-11-6 (542)7196

"実篤と新しき村" & "まちニティ"

区分	調布市/記念館 展示	調布市/記念館 普及	調布市（図書館他）
4月	春季展 『長与善郎と実篤』 3／11〜4／24	・展示解説（4／10　武者小路穣） ・色紙作製・頒布	
5月	特別展 『戯曲と演劇』 4／29〜6／19	・特別展パンフ発行 ・展示解説（5／28　祖父江昭二）	
6月		・記念講演会（6／14） 『武者小路先生と私』滝沢　修 〜講演と「その妹」の試演〜	
7月	『実篤・美術遍歴』 ゴッホの向日葵と実篤 6／25〜7／31	・展示解説（7／10　武者小路穣）	
8月	夏休み特別企画 『人間萬蔵』実篤の生涯 8／9〜9／4	・展示解説（8/21） ・子供向けパンフ配布	●ブッククラブ 〝白樺派文学を学ぶ会〟 ——自然主義文学の全盛時、武者小路、志賀らが唱えた運動は、文学のみならず芸術文化思想から生活全般に及び、〝新しき村〟創設に至った。実篤を中心に白樺派の人と作品を学んでいる。 ——ご参加下さい—— 例会▷毎月第2土曜 1時半〜3時半 講師▷池内輝雄氏 大妻女子大教授 申込先▷中央図書館 ☎0424-81-7661
9月	秋季展 『一筋の道』〜実篤の文学 9／9〜10／23		
10月		・展示解説（10/2） ・会報No.4発行	
11月	開館3周年記念特別展 『新しき村　70年の歩み』展 10／29〜12／11	・ミニコンサート（11／5　石川杉子） ・新しき村生活展(11／11〜13 於東部公民館) ・記念シンポジウム（11／13 於桐朋学園） ・新しき村見学会（11／15） ・随筆詩歌等募集 ・特別展パンフ発行 ・落書帳文集発行　・講演会記録集発行	
12月	『所蔵品』展 12／17〜1／29		
1月		・展示解説	
2月	『我が家の実篤作品』展 仙川篇 2／3〜3／12	・展示解説	
3月	春季展 『実篤　油彩画展』 3／17〜4／23	・展示解説 ・館報No.5発行	

〝劇団わざわ座〟へのおさそい

劇団わざわ座は、芸事なら何でも、やりたい人、見たい人、聞きたい人が集まってお遊びをする集団です。どなたでも自由に参加できます。お年寄りを主体としますが、若い人、子供さんも大いに歓迎いたします。一切無料。

稽古：毎週土曜　午後6時〜

公演：4月・10月第3日曜　午後2時開演

（劇団わざわ座第3日曜劇場）

会場：スペース・仙川　03-309-1422

問合せ：吉田央舟　03-309-3855

調布市仙川町1-12　仙川眼科

そして其日一番あとに見たのが石河内の城（ジョウ）だつた。

其処も自分達にすつかり気に入つた。

其処は擦鉢の底のやうに、四方高い山に囲まれてゐた。そして城は石河内の村とは河をへだて、如何にも別天地だつた。それの三方をかこんで流れる川は昨日の見た川の上流で更に美しかつた。激流の

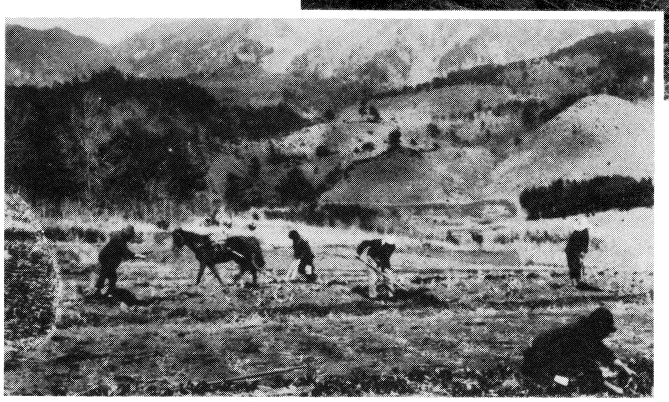


創設期の人々（1919.6）

日向 新しき村

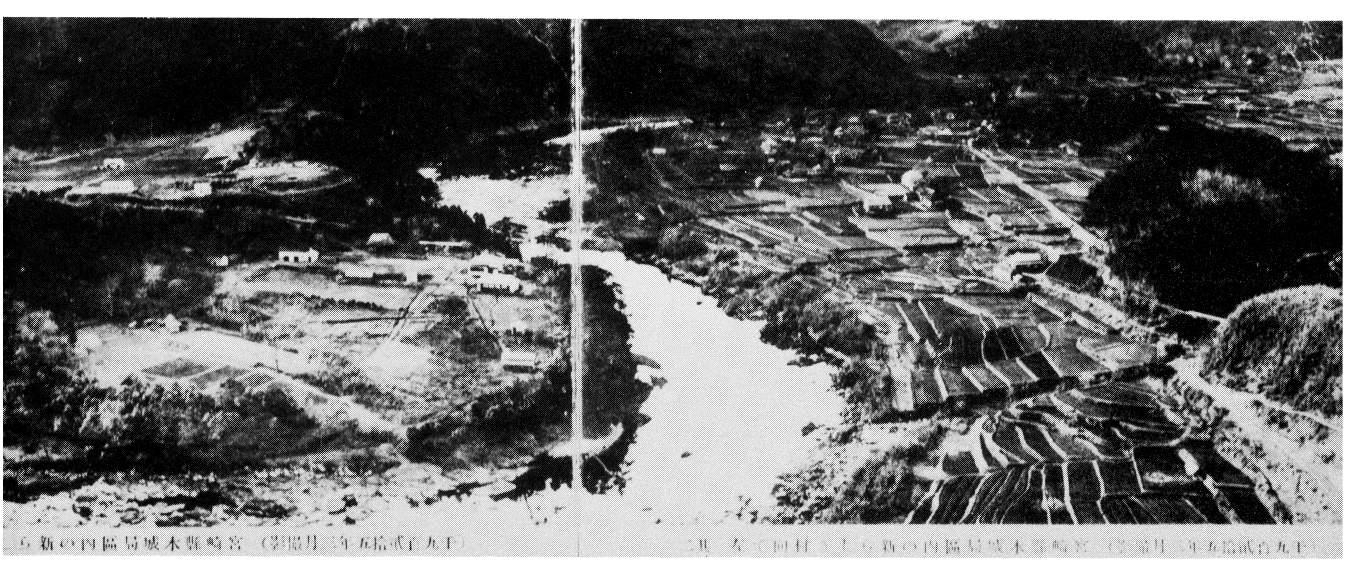


中央が実篤



畑の労働
（1925.3）

むかし



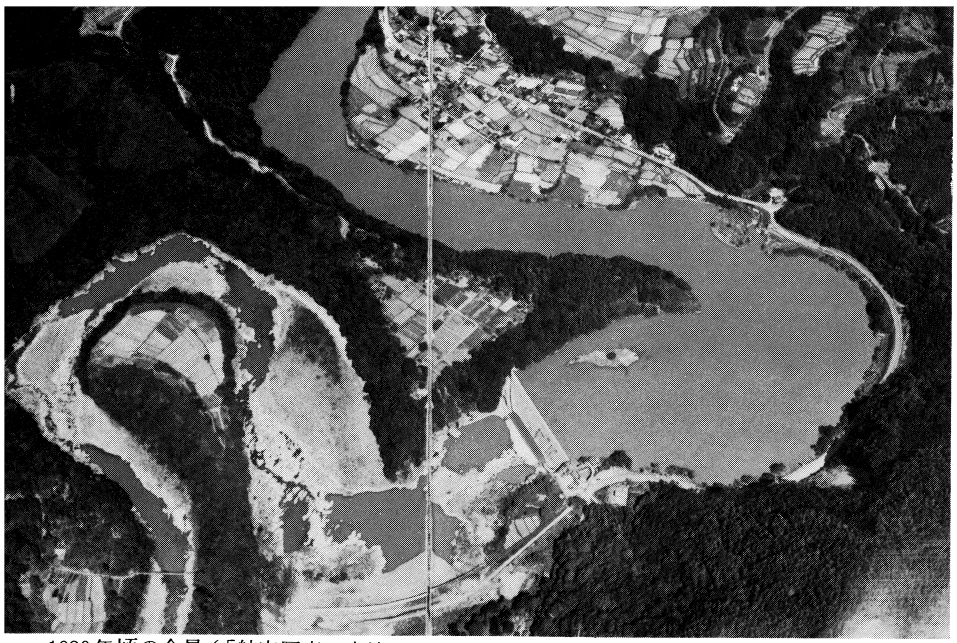
新しき村　　小丸川　　石河内の集落

処や淵の処があつた。仲間の一人は、十一月に近かつたが、その川にとび込んで泳いだ。

自分はともかく特色のある土地をのぞんでゐた。最初の土地は何かの点で、比類のないものを持つてゐる心要があつた。

武者小路実篤『土地』より

いま



1980年頃の全景（「航空写真・宮崎」から）



松田省吾、ヤイ子さん夫妻



坂下文一さん



石河内地区に新設　書道教室、集会所も兼ねる



70年の歩みを共にする武者小路房子さん（96歳）

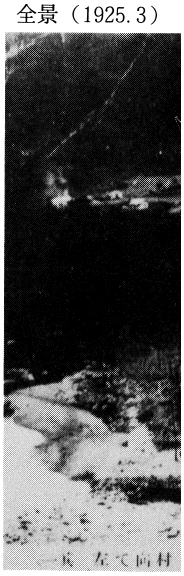




写真提供

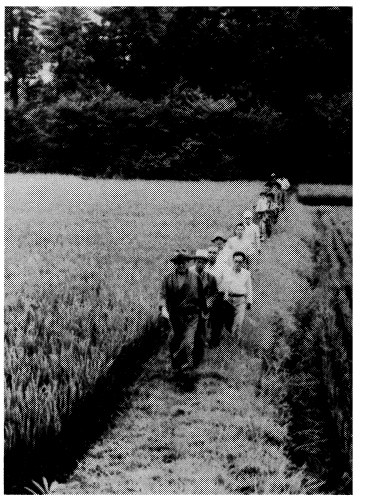
新しき村
実篤記念館

全景（1925.3）



新しき村
（毛呂山）





写真提供　**新しき村**

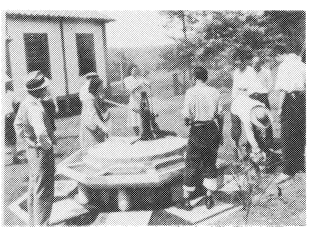


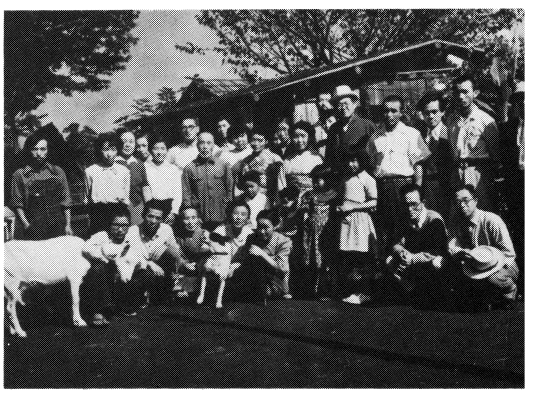






むかし









カメラ　加藤純一郎

いま

村の七十周年に、埼玉の村から。

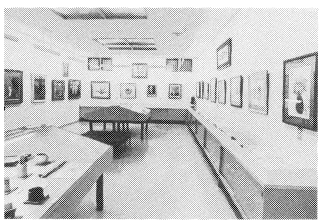
渡辺兼次郎

日向から埼玉に移って来て満四十九年目になり、その間に一家族になった時もあったと聞くが、埼玉の村もいろいろの事があって今日まで来た。現在、一九八八年七月で五一名の村内生活者となっている。世帯数は十一で、仕事は養鶏を主に、田の仕事、畑、茶、牛乳、梅、しいたけ、やきもの、美術館等が収入源として成り立っている。係はだいたい専門的になっているので、その係の担当者にまかされていて、経験も長い人が多いので、スムーズに行なわれている。食事の方は女の人たちが中心になって交代で当番にあたっている。

地道な農業が中心であっても、世の中の流れにやはり村も左右される側面はもっているが、いざとなればそれなりの協同生活の強さも出てくるのかも知れないが、いろいろな問題点はたえずあって、そのいろいろの問題を上手くクリアーして行かないと将来の発展が望めなくなる場合もありうるので、いろいろの知恵を出しあって進んで行かなくてはならないと思っている。

「新しき村」に来る人たちから時おり聞く事は、「新しき村」に入って来ると何だかとてものびやかな気分になると言う、これは七十年の間につちかわれた、目に見えない、ある雰囲気のようなものではないかと思っている。

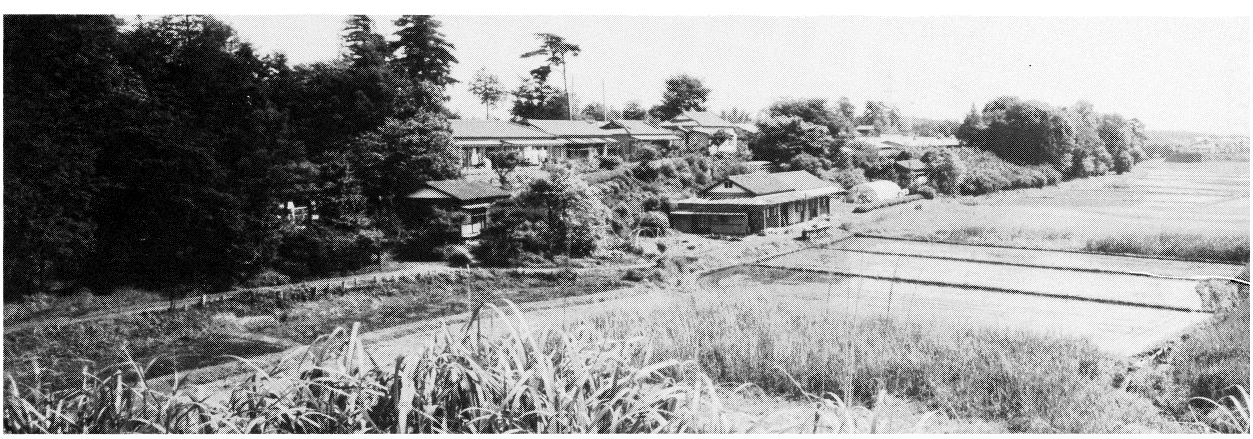














昭和17年以来、戦災にもあわず、この室が東京支部の“村”

ちょっとおじゃまします！

新しき村・東京支部

木曜会

——昨夜の先生の話はものすごかった。俺はこんなに力のこもった話が世の中にあるとは思えない。感動した。何ともかんとも、部屋中に（頭の中じゅう）火が廻った位に感動的だった。俺の疲れていた頭は立ち直り、にえくりかえって、興奮の中で急がしく廻り出した。（江馬嵩）

——先生の話、実に素晴しく感動させられた。エチオピアのライオンが吠えたような感じだった。（小国英雄）

昭和七～八年、村一五周年の頃の木曜会の描写である。実篤四八才の迫力と懸命さ、新しき村運動の熱気が伝わってくる。会場は転々としながらも、

——当時ぼくらは一回でも木曜会を休みたくなかったのである。（前田伍作）

中川孝は毎週謄写版刷りの支部通信を会場で配り、昭和七年から一七年まで続いた。毎週の木曜会の他、講演会、演劇会、美術展を各地で連続して開催し、村外会員の拡大、村への経済的支援等の支部活動が活潑になされた……。

東京支部の木曜会は、昭和二年以来、戦時中の一時期を除いて、六〇年余毎週開かれ続けてきた。十年振りに会場の神田の新村堂を訪ねた日、写真専門学校に通う一九才の若者がいた。実篤の詩にひかれ、毛呂山の村を訪れ、村外会員になり、今日初めて木曜会にやってきたのだという。

（佐美　佑）



新しき村東京支部の集会

月例会　一月を除く毎月第一日曜日　二時～四時

木曜会　毎週木曜日　夜七時～九時

場所　いずれも千代田区神田神保町二ノ十一　新村堂
地下鉄「神保町又は九段下駅」下車、さくら通り
電話〇三（二六一）四九一三番

＊新しき村を知りたい方の来会を歓迎します

せんがわギャラリー



実篤自画像（1959.7.9）

実篤公園と記念館

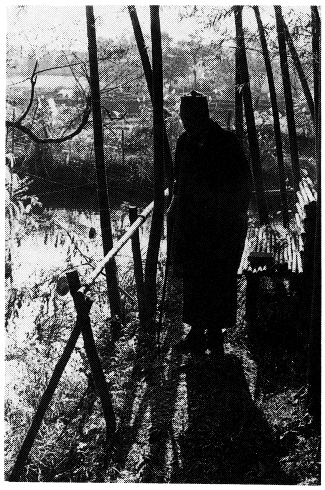
堀公彦

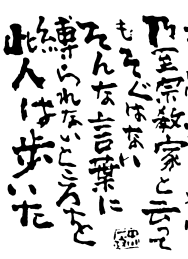
…一二月二十日（昭和三十年）、安子と二人で調布市入間町荻野四六八（現在の表記は若葉町一―二三―二〇、実篤は〝仙川〟といった）の新居に入った。二人の終焉の家となった。

―「武者小路実篤全集」（小学館版）年譜より

ここに記されている「仙川の新居」というのは、いまは実篤公園となっている場所のことですが、四十数年前のこの辺りの状況については、残念ながら当時の仙川界限に縁のなかった私にとってはこの一枚の写真で想像するほかにすべがありません。

写真の背景に連なる田んぼの周辺は、今では記念館をはじめ住宅が軒を連ね、当時を偲ぶべくもありません。記念館の建設でもご協力いただいた地元の山内鋭治さんによると、入間川一帯は葦の茂る清流で、幼い頃はよくこの辺りで魚取りをしたと言います。また実篤公園の付近は大蛇が出るとか聞かされていて、決して近寄らなかったものだそうです。





書／中川一政

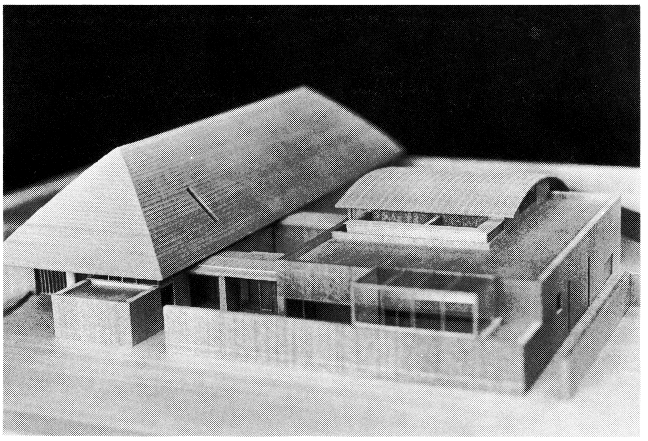
ここに一枚の写真があります。

縦長の画面。竹林を背に杖を手にして着慣れた和服姿でたたずむ老人がひとり。視線の先はたぶん無心に餌に群がり泳ぎ回る池の鯉たちに注がれているのでしょう。

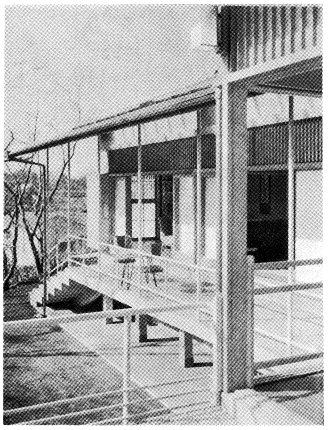
はるか後方に刈り取られた稲わらが干されているのが見られることから、どうやら秋の日のひととき、仕事の手を休め鯉たちの餌やりに庭に立った折に撮られたものと思われます。

逆光を浴びて、この庭の主・実篤その人の表情は定かではありませんが、シルエットからは優しく穏やかな眼差しが感じられて心安らぐ思いのする写真で、数あるポートレートのなかでも私の好きなものの一枚です。

日本の原風景といってもよいこんな情景は、昭和三十年代初頭の頃には多摩の地域でもきっとあちこちでよくみられた光景だったことでしょう。



平成六年完成予定の「資料館」（建物右側）



実篤邸（『芸術新潮』
昭和31年２月号より）

仙川に居を構えてちょうど十年目に当たる年、実篤自身、調布市制十周年を祝う文章の中で当時を振り返って、次のように記しています。

「……この十年の間に私の近所もずい分変わりました。……一、二年来ないお客は畑だと思った処に家が建ち並んだので、私の家をさがすのに骨が折れたと言っています。

……私の住居の前は広々とした田で、私はこの田が人家に変わるとは夢にも思わなかったのですが、この一、二年の内にその田がすっかり宅地に変わり、もう何軒も家ができ、夜真暗だった処に点々と電灯がつき夜の眺めはすっかり変わりました。……」

（昭和四十年調布市「市勢要覧」より）

さらに文章は「……老いたる文士は孤狸のように段々山の中に逃げる性質があります……」と続きますが、それから三十数年を経た仙川の町の変貌振りに、山中に逃れたはずの実篤先生はどんな感慨をお持ちですか……と聞いてみたいような気もします。

●

昭和五十一年春に実篤と相前後して旅立たれた安子夫人とその遺志を継がれたご遺族のご意向によって、その屋敷跡が調布市に寄贈されました。市では実篤氏が生前こよなく愛し続けた自然をそのまま保存する形で、二年後の昭和五十三年、実篤生誕の日に当たる五月一二日から「実篤公園」として一般公開の運びとなったことはご承知のとおりです。

さらに七年余の長い準備期間を経て、隣接の地に武者小路実篤記念館が完成したのは、ちょうど実篤生誕から百年、調布市にとっても市制施行三十周年の記念すべき昭和六十年秋のことでした。

そして今、その記念館では平成六年春の完成をめざし、実篤に関する「情報センター」の機能を持った「資料館」の建設が新たに着々と進められているところです。

この資料館では将来を展望して、実篤はもとより白樺派周辺の資料の充実をはかることにしていますが、さらにこれまで要望の多かった閲覧室を新設するほか、新たにコンピューターによる情報提供を行うのための準備も進めています。

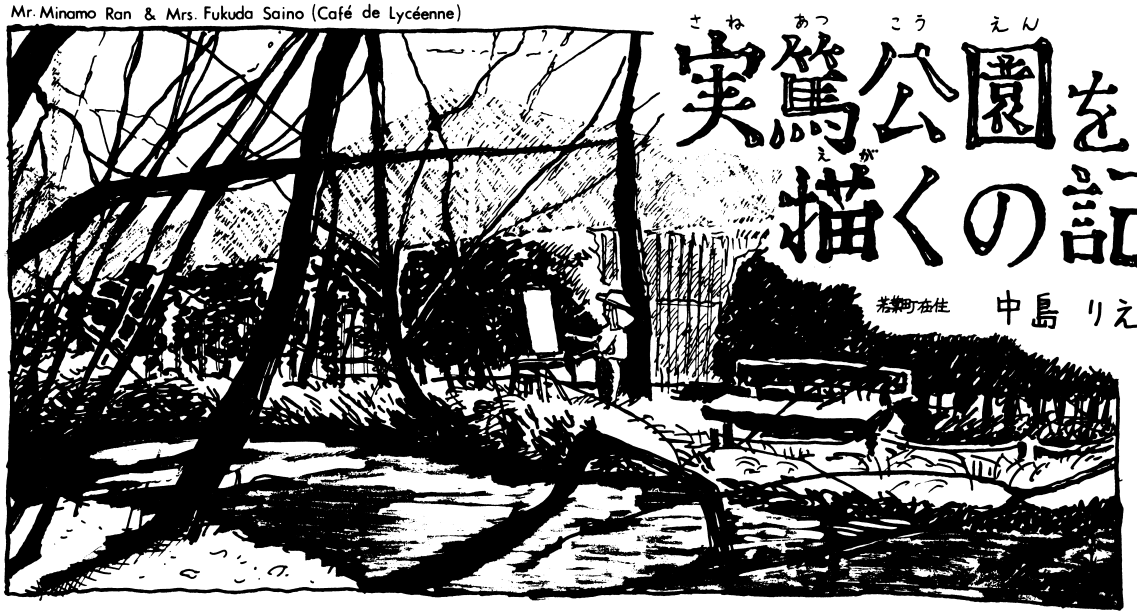


仙川の地を終焉の場所として選び、その自然をこよなく愛し、人間を信じ、真理を追い求め続けてきた武者小路実篤――。その実篤が生涯かけて文学や書画、さらには新しき村の運動などを通して語りかけ残していったもの、それらを次の世代にしっかりと継承していくことが私たちに与えられた大きな課題だと考えます。この公園と記念館こそ、そのことを実現できる、まさに「実篤のいる空間」であり、これからもより多くの人々に親しまれ、充実したものになるようにさらに心がけていくつもりです。（武者小路実篤記念館館長）

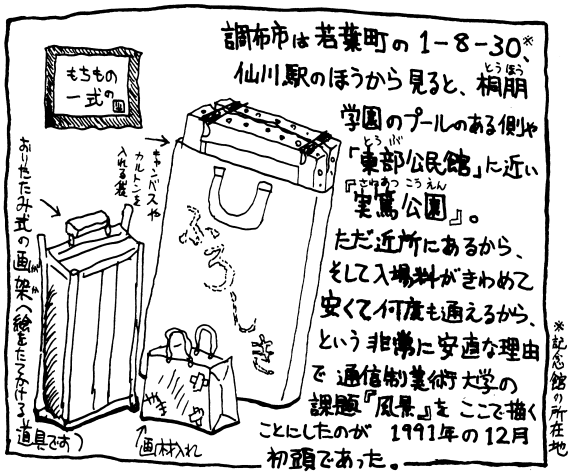
A thousand thanks for
Mr. Minamo Ran & Mrs. Fukuda Saino (Café de Lycéenne)

実篤公園を描くの記

若葉町在住　中島りえ









そもそも『実篤公園』とは、感受性豊かで元気なおじいちゃん武者小路実篤（むしゃのこうじさねあつ）が住んでいた屋敷と庭（池も含む。庭はどちらかというと雑木林的）をそっくり公開したものであって、『公園』と名のついた今でも非常にプライベート空間に近い性質をもった

……なにしろここは面白いのである。前述の姿勢もどこへやら、まもなくそこで遭遇するものにいちいち感激したり面白がったりする方に時間を費してばかりいるようになっていた。

カモ(?)の夫婦がくる

うひょ

カワセミもくる

ダハ

わ

バードウオッチャーもくる（真剣すぎて鳥をトリ逃がした人）→

▲翌年3月12日

▶2月26日

話しかけてほしいのだろーか?

寝ていくセールスマン(?)氏

いやまさか

えんきんほう遠近法ができてますね

と指摘したのは9歳の男の子。5年前から絵画と音楽を習っているそうだ

じゃあ相当上手なんだね

と言うと、

いえ、まだ未熟者で（みじゅくもの）

と返され無謀なほどの有望さを感じる元気でおられるかな?

ことに冬の平日などは（気候にもよるが）ほぼ貸し切りのような人入（ひとい）りの少なさである。それでもいろんな人々が通り、大抵は黙って通りすぎて行かれるがユニークな反応も多かった！

場所だとも言える。（それでも公開当初よりはかなり「公園的」になってきている）団体でも勿論来れるが、庭の中に入るほど、個人や少人数のための空間が維持されているのが判る。空いた日に園内にいれば、それこそ『自分の庭』のような気分でいることもできるはずで…

何を思ったかしばらく黙って、くすくす笑いながら後ろにいたが唐突に『秋のゆーうーひーに』と歌いだして逃げていくやんちゃ坊主

（ちゃんと文部省唱歌なのが律義である）

▲2月23日.

「やんちゃ坊主」（関西の概念か?）とはいえ、ここが関東的(?)

結果的にここで2枚の絵を描きおわったのが翌年1992年のなんと4月14日である!! ほとんど飛び飛びにしか来れず、かなりさぼった時期も入ったためもあるが……もうこの頃には何を学びにいったのか判らなくなってしまっていた。

お目にかかった皆様、長いこと目障（めざわ）りなところに陣取ってすみませんでした。お世話になったここに書ききれないたくさんの人々におれ申しあげます。ご息災で！

世界の多様性と自分の目と手の至らなさがちょっと判ったぐらいか。

えらそうなことを……

終（おわり）

1993年6月27日

▲よくわからん絵になってしまいました

何度もおしゃべりに来られた方もおられる。

制服姿（当時中学2年生）のAちゃん。絵もかき、マンガに詳しく、相手の年齢にあわせてマンガ談義のできる特技の持主

塾なんだよこれから

◀モッテ画材店で再会！

お、おもしろおぎる〜

2日続けて話しこんでしまったがじつは本誌関係者であった写真家のK藤J一郎氏

話がユニークで奇妙なり

◀12月14日・15日

公園を「個人的空間」として最大限に生かした代表格(?)。



かつてのある日——そのごの出合い

東つつじヶ丘三丁目を歩く。人も車もうんと少ない小径。十二月昼下がり。なるべく晴れた寒い日。散歩道としては絶好の条件。

おいでおいでと手招きする木もれ日をゆっくりと追いかける。目の前は谷間の様子。その向こうは切れ目のない森。北側には京王線が見える。小径沿いの雑木林に幾分か視界をさえぎられながらも、右へ右へと視線を移す。通称「若葉の森」だと私は思い込んでいる。

実篤公園はその森と谷間のあいだ。

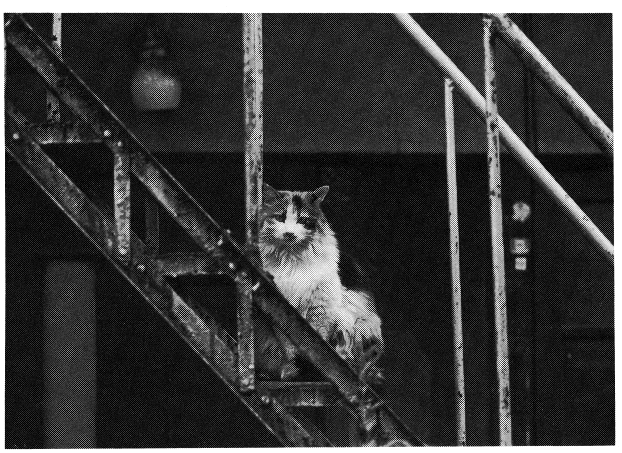
ある十二月の半ば頃のこと。朝早く、南の国行きの航空券を手にして成田空港へ向かった。成田は本当に遠い。これじゃ、まず間に合わない。家を出る時からそう思えた。航空機は全く動く様子もない。そこに見えているのに、出発三十分前にチェックインカウンターは閉じた。定刻通りに離着陸するのはたまにしかない航空会社なのに!

気分を変えるため、その日、陽が傾き始めた頃、実篤公園へ行った。鯉が多い。水は少し濁り気味。冬枯れの木々には風もない。鯉の動きに時折目をやりながら、池の側で絵を描く女性。淡いベージュのきれいな帽子。立ったままでいるとかなり寒いだろう。冬の日らしく、光量が時間とともに次第に少なくなるのが見える。帽子のせいか、後ろ姿がやけに素敵なお嬢さんに思える。

好奇心の赴くままに恐るおそる右側に回ってやっと横顔をのぞき込む。バケモノ扱いする訳ではないのだけれど、近寄り難く、寄ればいきなり文句を言われる。きっとそうだ。そんな人に間違いないと私は思い込んだ。こんな印象を持ちつつも少しずつ話しかけた。その間、絵のほうは描いては消し、描いては消す。やたらと時間をかけたいのか気分が乗らないだけなのか、ちっとも進まない様子。突然、私はうんと楽しい空想をつくりあげた。翌日再び彼女を見た。その翌日、本当に南の国へ旅立った。

一年半程の時間が流れ、三度目彼女にあった。ある日一枚の絵を見た。一見して彼女のものだと分かった。その数日後、初めて顔をしっかり見ることが出来た。素敵な顔だった。

加藤　純一郎



アパートの管理猫(若葉町２丁目にて)

いつでも、どこでも、24時間年中無休であなたをお待ちしています。

セブン-イレブン 調布仙川店

甲州街道沿い　仙川駅入口

東京都調布市仙川町３－２－１

電話０３－３３０５－０７１１

炭火焼肉

あかべこ

TEL03-3308-4419

営業時間

17:00～1:00

(L.O.24:00)

火曜定休

祝日の場合は営業

翌日休業

ステキな入れ歯をあなたに!!

阿部歯科医院

診察時間　AM10:00～PM1:00

PM 2:00～PM6:00

(受付はPM5:15まで)

http://www.abe-dc.net

仙川町1－12－43 2F　03－3300－1184(予約制)

STUDIO MOVE

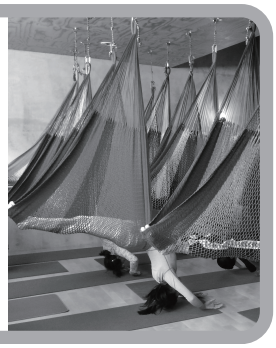
動ける身体の喜びを

届けるBODY WORK

ほぐれッチ®

ハンモックストレッチ®

http://eicohatta.com



仙川耳鼻咽喉科

レーザー治療研究所併設

(社)日本耳鼻咽喉科学会 耳鼻咽喉科専門医

平　日/AM10：00～12：30

PM 2：30～ 7：00

土　曜/AM10：00～ 1：00

休診日/日曜・祝日・木曜午後

※木曜午前(喉の健康指南)要予約

桐朋学園正面通り ☎03-5313-3281

口腔外科　顎関節症　小児歯科　インプラント　訪問歯科

☎03(3308)8018(ハワイイハ)

若葉歯科医院

月～金　9:00～12:30　14:00～21:00

木・土　9:00～18:00　日曜・祭日 休診

仙川町1-33-35（若葉町2丁目交差点）

内科・消化器科・各種検診

仙川町クリニック

診療時間　月曜～金曜　9:30～12:30　14:30～17:30

土　曜　9:30～12:30

休診日　木・日・土曜午後・祝日

院長　菊池　純江

調布市仙川町1-9-37 キクチマンション1F ☎03-5384-4343

健保　労災　自賠責保険

若葉町 栗山接骨院

(物理療法　手技療法　整体療法)

── 治療科目──

骨折(後療)・脱臼・捻挫・打撲・挫傷

スポーツ障害・交通事故障害・リハビリテーション

首・肩・腰・膝痛　その他各関節の痛み

手足のしびれ　肩こりは健保適用外

── 必ず良くなります お気軽にご来院下さい ──

調布市若葉長2-19-2　TEL(3326)0346

●フォローアップ●

帰ってきた実篤
――資料館オープン

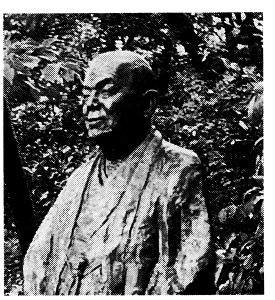
堀　公彦

「お休みだけど　みられる……」という、いささか言訳めいたキャッチフレーズを掲げて凌いできた「資料館」の新築工事でしたが、ようやくこの3月に竣工となり、5月には展示室もほぼ1年振りに再開されます。

1年余にわたる事実上の休館というのは、館側にとってもまことに心苦しいことで、そうとは知らずに来館された遠方からの訪問者の残念そうな表情の数々が目に浮かびます。

振り返れば、着工から1年7カ月、さらに構想の段階まで遡ると、優に5年の歳月を費やしたプロジェクトの成果がようやくここに実を結んだものといえます。

今回の事業は、手狭になってきていた収蔵庫の拡張がきっかけでスタートしたものでしたが、職員間の討議や関係者との協議を積み重ね、基本構想から基本設計、実施設計と進んでいく過程で、大型の収蔵庫と閲覧室を合わせ持つ「資料館」構想へと夢は大きくふくらみ、発展してきました。



作：西　常雄

さらにはハード面だけでなく、記念館が持っている情報や資料の提供などについても検討する作業が並行して行われてきました。

このような経緯をたどって設計が進み、このほど完成した「資料館」の特長を挙げますと、最大7万冊の収容能力を持つ収蔵庫のほか、従来なかった機能として、だれでも気軽に利用できる「閲覧室」が新たに設けられたことです。ここでは、実篤をより深く理解してもらうために、実篤作品や図書、雑誌などを開架式の書架から直接手に取って自由に閲覧できるほか、「レファレンス・コーナー」では、研究者や学生の論文作成などの要求にもできるだけ応えられるよう、情報や資料を努めて提供していく予定です。

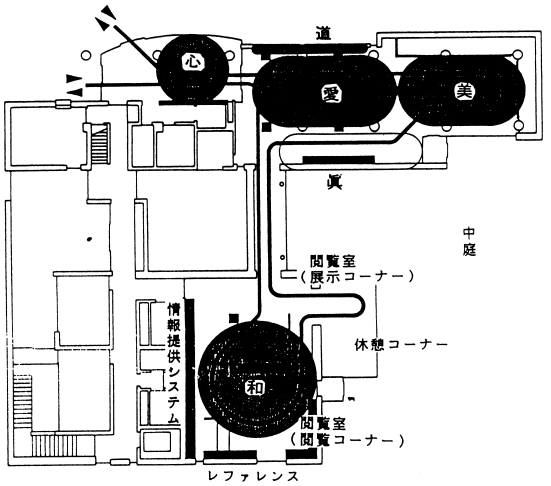
またこの閲覧室には、新しい試みとして、実篤の生涯と作品を検索したり鑑賞することのできる「情報提供システム」が導入されます。このシステムは当館が4年余の歳月をかけて開発を試みたものですが、パーソナル・コンピュータとレーザーディスクを操作して、文字や写真・映像・音声資料などにより実篤やその周辺の図書・雑誌に関する情報や、美術作品などのカラー写真、珍しい映画フィルム、朗読テープなどの資料が最新の「マルチメディア」を駆使して提供されます。このシステムは来館者自身が、特に高齢者や機械がまったく苦手といわれる初心者でも容易に操作ができるよう配慮しています。

南面のガラス越しに中庭が望める「休憩コーナー」では、当館制作のビデオ作品の放映やお茶のサービスが受けられますので、「新しき村」から移植された紅白の梅を眺めながら、ゆったりと寛いだ気分に浸るのも一興でしょう。

この資料館は、実篤生誕満109年目の5月12日当日にテープカットが行われ、翌日から一般公開の予定になっています。そして記念特別展「描かれた実篤像」や実篤公園の無料開放、実篤ブロンズ像の除幕など、数々の開館記念事業を計画しています。

資料館のオープンに続いて、来年秋には開館10周年を迎えます。情報と文化の発進基地・仙川の地で、私たち記念館も積極的にその一翼を担っていけるよう、さらに努力を続けてまいりますので、地域の皆様の変わらぬご支援をお願い申し上げる次第です。

お問合わせ／武者小路実篤記念館
03－3326－0648



心
・我が老いたる手ト
・日日是好日

道
・人生の軌跡
・文学の軌跡

愛
・著作活動の結晶

美
・生命讃美の書画
・美術遍歴
・美を求める心

眞
・白樺の活動
・新しき村の活動
・仙川時代
・此人は歩いた

和
・仲よき事は美しき哉



●●実篤記念館マルチメディア情報提供システムの概要●●●

武者小路実篤記念館の「マルチメディア情報提供システム」は、レーザ・ディスクとパーソナル・コンピュータを組み合わせたシステムです。

その中心は、対話形式のソフトウェアで制御されるレーザディスク『武者小路実篤―その生涯と作品』で、館内で随時〝上映〟する他、数箇所に設置される来観者用端末で自由に検索・鑑賞することができます。さらに、これは一般のLDプレーヤでも見ることのできるレーザディスクとパソコン・ソフトのセットですので、全国、さらには海外の大学、研究機関、図書館などに提供して有効に活用してもらうことも可能です。

「情報システム」のハードウェア（機器・設備）は以下のような構成です。

○パーソナル・コンピュータ（Apple Macintosh）＋ディスプレイ
○レーザ・ディスク装置（コンピュータ接続用のRS-232C 端子を装備）
○テレビジョン（21型）

これらを上の写真のように専用の家具調のボックスに収めています。これは、閲覧室を設計したデザイナーが共通のイメージで設計したものです。

中心となるマルチメディア・データベース『武者小路実篤―その生涯と作品』は、約30分の動画、およそ三千枚の静止画、さらに10分の音声を記録したレーザディスクと、パーソナル・コンピュータからその内容を簡単に、しかも自在に読み出すための「検索ソフト」で構成されています。

このソフトは、冒頭の部分で装置の操作方法を図解付きで説明しますので、「コンピュータ操作」についての知識や経験などは全く不要です。

また、今回の開発にあたっては、できる限り〝一般性のある〟技術、機材を使用することを原則としました。

この考えに沿って、レーザディスクについても、コンピュータがない、あるいは使えない場合でも、レーザディスク・プレーヤとテレビがあれば、通常の（映画等の）ディスクと同様に観ることができるものとなっています。

この特長を生かして、本データベースが広く活用され、文人「武者小路実篤」がさらに身近なものとなることを願っています。

三鷹からの通信

真垣　蓼

第一信

仙川駅の写真がなつかしく。終戦前後、仙川に畠を借りていて、農作業によく通った。

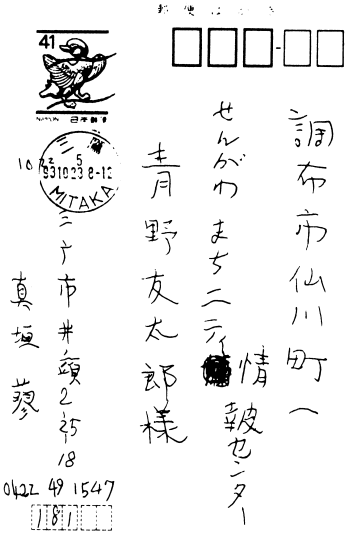
私はもうすぐ五十九才になる者ですが、先日東京新聞で昔の仙川駅の写真をなつかしく見ました。界隈誌が発刊されたそうですが、一冊送って下さい。

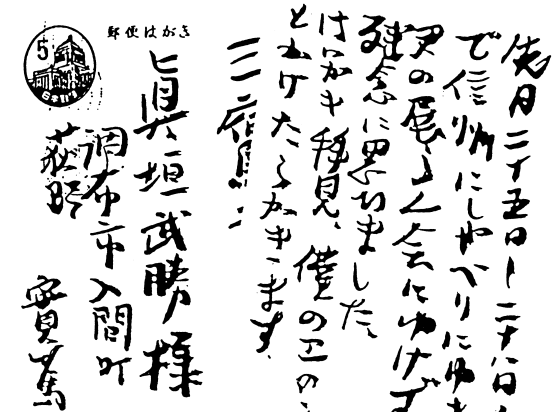
食糧難の終戦前後（十一才～十四才ぐらいまで）井ノ頭から仙川まで農作業に自転車であの橋を渡って通ったものです。出札口左には小さな駄菓子屋があり、アメ玉を時々買ったものでした。場所は武者小路さんの上の中島さんの畠を借りて、小麦、サツマイモ、カボチャ他を作りました。スイカもとれました。

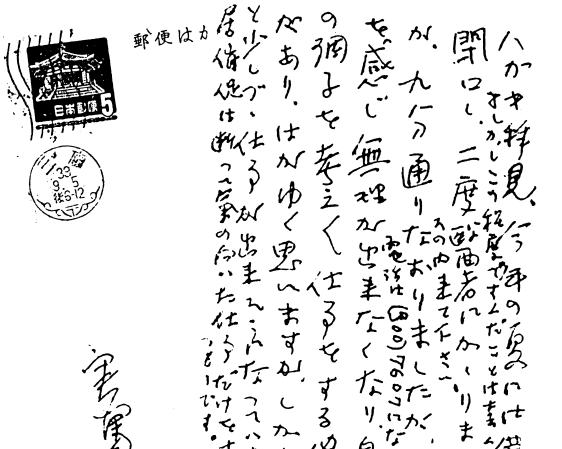
下の方は田んぼが広がっていて、中央の川で水浴びもしました。成城方面から小田急の走る音が聞こえる位静かな所でした。斜面にバンガローを作りキャンプをしました。つらくても人々の心は皆暖かく、いい時代を思い出したくなったのです。

父は画家だったので、武者小路氏に仙川を紹介したのです。喜んでおられました。









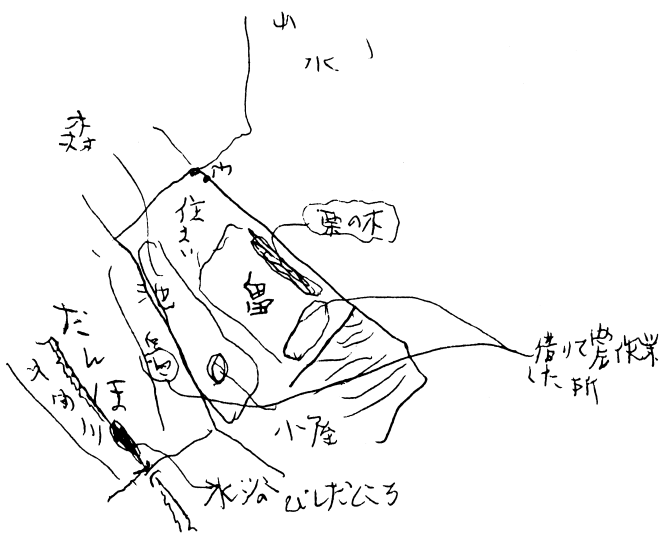
第二信

界隈史特集、非常に面白そう
終戦当時の仙川を思い出す。
気味のわるかった池、大きな
鳥居、苔むした社殿……。

前略　この度は早速界隈史特集をお送り頂き本当に有難うございました。軽く目を通し非常に面白そうで、とても嬉しくなりました。後は当時を思い出しながら、今の地図と比べながら、ゆっくり見たいと思っています。

2ケ所興味深い所がありました。一つは、一人で行くのは昼でも気味がわるかった池、時々農具を洗いに行ったものでした。その近くに朽ちてはいましたが、大きな鳥居がありました。社殿は鳥居に圧倒され記憶がはっきりしないのですが、残がいの苔むしたものがあったかもしれません。手水鉢は残っていました。人も寄り付かない淋しい所にと不思議でした。それが多くの人々の信仰を集め、お祭りの時はかなりの人で賑った時があったとは驚きました。今は鳥居も大理石となり、再建されているそうですが、私の見た荒れ果てたものでも、歴史的にはオリジナルに少しでも近く価値があるのかなと思っています。





もう一つは、京王線の軌道改良によって駅が半地下になったことは少しも知りませんでした。今の甲州街道（二十号）上りの左に見える滝坂低い所からもっと高い所まで上った場所は、まさにハードルのようなものがあったことが分かりました。土手を通る電車をよく眺めたものでしたが、昔は甲州街道が見えたのかなと目を閉じて想像したりしています。

二十二年の航空写真、その頃私はまだ通っていたわけですが、中島さんの畠がよく分かります。下の畠へ下る斜面の森もはっきり分かります。その南に大きな洞穴があり、その前が平坦になっていた所に小屋を作りました（終戦直前）。そこで、昼食を作ったり、昼休みなどしました。上の畠の脇の栗林は、大きな栗が採れるので、三鷹の武者さん宅に届けてあげ、喜ばれました。

「ある家族の肖像」の写真はひょっとしたら中島さんではないでしょかと思いました。四兄弟があそこに住居をかまえていたのですから。

武者小路さんの写真は新居に入られた時と思います。撮影は設計者の山口芳春氏だと思います。その写真と父・武勝宛のハガキを同封しました。

武者小路実篤
公園と記念館



工事中の実篤邸　安子夫人と共に　55(昭30)年



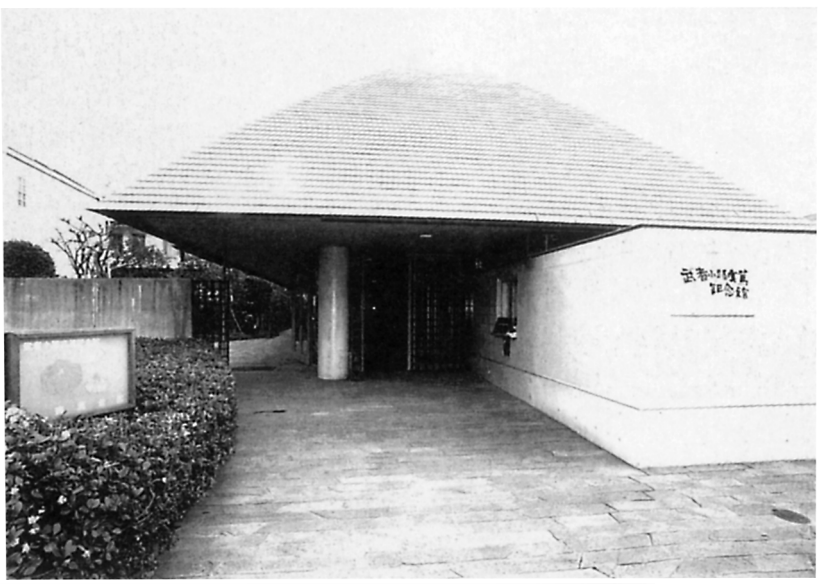
旧実篤邸





実篤の森の下側にある三角の屋根は実篤旧邸　91(平3)年





実篤さんが「仙川の家」と呼んだ旧入間町萩野に移り住んだのは、ちょうど調布市が誕生した昭和三十年暮れのこと。市制十周年記念誌に次のような文章を寄せています。

「…子供の時から水のある所に住みたいと思っていた。そこで友人に案内され、ここを一見して気に入り自分の仕事完成の地として選んだ。この十年の間に近所もずい分変わり、一・二年こないお客は、畑だと思った所に家が建ち並んだので、私の家をさがすのに骨が折れたと言っている…」

この航空写真は、さらに二十年を経た実篤公園辺りを撮影したもので、すっかり住宅で埋め尽くされています。

記念館には、実篤さんの多岐にわたる業績を二十一世紀へと大切に受け継いでいってほしいものです。

（元・館長　堀公彦）





実篤と新しき村 仙川フォーラム'88



松田省吾氏(日向新しき村)他のサミットシンポ

●記念シンポ"実篤と新しき村70年"
11月13日(日) 主催 実篤記念館
●サミット'88と交流パーティ
11月20日(日) 主催 仙川フォーラム'88
●第3回 仙川音楽祭
12月3日(土) 主催 仙川フォーラム'88





藤本敏夫氏(自然王国代表)を囲んで



滝坂の杜でのバーベキューパーティ
桐朋音大生の演奏も

二十一世紀を迎えて
―つつしみの心



昭和四六年からしばらくの間、通勤で週に二、三日は京王線を利用した。足元が滑りそうな程にたっぷりと油を吸った木床。埃っぽくて鼻をつく香り。モスグリーンの四両か六両編成の各駅停車の車両。初めて見た時からこの色だったので、この色が京王線のカラーだと思っていたら、そのうちにどんどんデザインの違う車両が登場してきた。

当時、私は調布市内の下石原に住んでいた。新宿方面からの帰りには、たいした距離ではないのに、仙川の掘割を過ぎると調布に帰ってきたという実感が湧いたものだった。朝は、左右の窓から見える斜面に四季を楽しんだ。「しっかり眼を開けて見ないと損をする」そんな気分だった。

一〇年近く前に切られたが、下り方向左側の斜面に桑の木があった。実の色が深紅から黒くなってくると、「仙川駅で降りてあの実を食べたい」と思った。特にススキの穂が夕日に輝く頃には、とにかく明るいうちに帰れるように努力したものだ。

勤めていた会社を三年で退職した後、図らずも『せんがわ』と関わることになった。緑ヶ丘学童保育所で臨時指導員、若葉図書館開館準備の手伝い。「学童」ではとても印象深い子供たちとの出会いがあり、あちこちで散歩をしながら遊んだことと、かつて電車の中から見ていた風景とがあいまって『せんがわ』への愛着を生んだ。仙川沿いで餅つきのためのヨモギ採り。緑ヶ丘団地北側の梅林、武蔵野の雑木林の趣たっぷりの緑ヶ丘小学校東側で遊んだこと。今は緑ヶ丘児童館になっている原っぱでの凧上げ。

その後、いつしか『せんがわ』全域を歩き回るようになってくると、さらにその良さが浮かび上がり心曳かれてきた。大きな木があちこちにあり、陸稲の畑があり、埃っぽい道があり、坂道が多く、静かで落ち着いていて心和む景観が多かった。駅近くにあった数本のイイギリの赤い実が鮮烈な印象を与え、掘割の線路沿いの道では枕木を使った柵が特徴的だった。

そしてある日、駅北側の竹林が跡形もなく消えてしまった。風が作るざわめきのような音楽を聞きながら、トンネルを通ることももうない。大きな木が消え、林が消え、畑が消えた。きれいですっきりしたことは確かだが、「これでいいのか？　これが我々が望む方向なのか？」と、つくづく思う。

数年間の中断があるが、『せんがわ』の街なかで撮影を始めてからまる二十五年が過ぎた。仙川の二度の改修工事、大正橋の掛け替え工事、駅舎改修と今回の大改造、駅前で親しまれてきた二本の桜の木問題等々を見てきた。この度の撮影を通して『せんがわ』を歩いて「いい風景だ、写真を撮りたい！」場所が少なくなったと感じた。駅周辺の変化があまりにも劇的だったためかもしれない。私たちは経済効率や利便性と交換に心和み憩える貴重な景観をなくし、心の安らぎを失いつつある。

そんな中で会った和太鼓の比翼会の一員であり、幼稚園生から六十歳代まで約三十名の集団『響・彩生（さいき）』のリーダー、佐久間直子さんという女性に感服した。二十代半ばで、何という礼儀正しさとつつしみ深さ。今年の『調布カレンダー』表紙の串田孫一氏揮毫による「虔心（けんしん）」を体現している。「人こそ財産、人の思いこそ財産」である。環境、景観、街、人、あらゆるものに対してつつしみの心を持ちたいもの。

二十世紀にさよならをし、二十一世紀を迎えたいま、激変する街のありさまを見ながら、一つの区切りとしてこの写真集を企画した。

生まれも育ちもせんがわの方、昭和三〇年代に来られた方をはじめ、多くの方々から写真や情報の提供、貴重なご教示を賜り、この写真集が実現した。

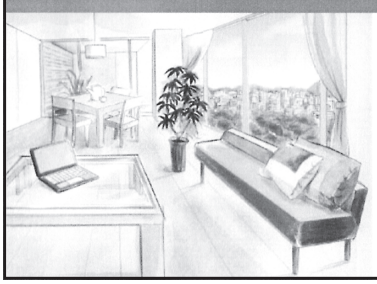
二〇〇一年一月七日　　加藤純一郎

SHIBASHIN 芝信用金庫 あの街、この街、みなさんのしばしんです。

●地元のおひとりおひとりとの長いおつきあいをたいせつに、
明るい窓口でご奉仕を――これがしばしんの合言葉です。

しあわせ、一歩一歩 芝信用金庫 仙川支店 ☎03-3308-8171
182-0002 調布市仙川町2-21-10

MIZUHO みずほ銀行
OneMIZUHO



あなただけの資産運用を
〈みずほ〉がバックアップ。

●ご相談は、みずほ銀行 調布仙川支店へ。
調布仙川支店
TEL：03-3300-3331
〒182-0002 東京都調布市仙川町3-1

OneMIZUHO

訴訟・過払請求、相続・遺言・成年後見、不動産・商業登記

司法書士
山田猛司事務所

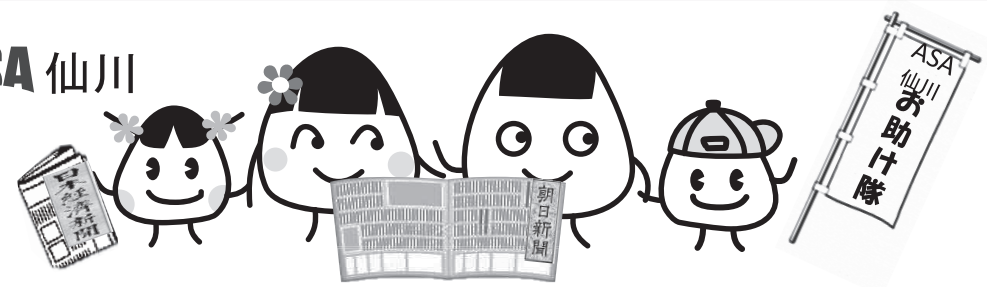
TEL 03−5384−2720 FAX 03−5384−2721
仙川町1−15−40 サンピア3階（商店街南口・桐朋学園前）

2016年春の新店舗にご期待ください!!

食品スーパーマーケット
QUEEN'S ISETAN
仙川店

調布市仙川町1−48−5 TEL 03−5384−3511

ASA 仙川



調布市若葉町3-27-8 TEL03-3326-4693 ✉asa@asa-isao.com



特集Ⅳ

2015年の仙川まちニティは今…

美しき街
―仙川まちニティ～きょうからあしたへ

仙川のまちとともに
実篤記念館の運営も変化して

一般財団法人
調布市武者小路実篤記念館
常務理事　塚越博道

一九七六（昭和五一）年四月に実篤が亡くなってから今年で四十年、住いは公園となり隣接地には調布市が建設した武者小路実篤記念館が開館三十周年を迎えます。

約五千㎡の敷地と住居、いわゆる「仙川の家」は実篤公園として開放され、実篤自身が残した多くの文学作品や画賛、コレクションは調布市に寄贈され、実篤記念館で公開されていることは、みなさんご存じのとおりです。

実篤記念館は、武者小路実篤の顕彰をベースとした、実篤、白樺派、新しき村に関する日本で唯一の研究施設であり、情報収集発信基地としての役割を担っています。

〈直営から業務委託へ〉

当初は調布市直営の施設でスタートしましたが、その運営方法は時代の流れとともに変化させながら現在に至っております。

一九九二（平成四）年一月に、「調布市武者小路実篤記念館運営事業団」という任意団体を設立し、施設の管理運営は調布市が、事業運営は運営事業団が担うという方式となりました。

運営事業団は、専門性を一層高める必要から、非常勤職員の常勤化を行うとともに、理事長、監事を配置し組織の強化と透明性を図りました。行政職員は施設管理を行いつつ運営事業団の職員も兼務しており、実態として大きくは変わらない状態でした。

二〇〇二（平成十四）年四月、労働者派遣事業法が改正され、行政職員が民間団体の職員を兼任することが禁止されたため、市と事業団の役割分担が明確になり、市の職員は実篤記念館の管理運営と実篤公園の日常管理を行い、運営事業団は展示や講座等の事業を業務受託することになります。

二〇〇〇（平成十二）年から専任の館長を配置（それまでは郷土博物館長が兼務）しており、教育委員会の会議や市議会においても館長が実篤記念館に関する事案を直接説明し、また報告するようになっていました。実篤記念館は市の組織上、郷土博物館のブランチという構図になっており、その状態は現在も同じです。

この市と運営事業団の関係は小さな施設でありながらダブルスタンダードの状態となり、施設（美術品等の資料を含む）と事業を一体的に捉え、速やかに判断することができないなど、運営上大きな障害となっていくことになります。市職員と運営事業団職員が一体となって対応しなければならないにもかかわらず、両者の意思決定するプロセスや速度に違いがあったからです。

このような中、地方自治法の改正が行われ、実篤記念館におきましても、指定管理者制度の導入が検討されましたが、運営事業団が任意団体であることから、まずは法人化することが求められました。そして、二〇一三（平成二五）年四月、運営事業団は市からの出損金を受け、一般財団法人調布市武者小路実篤記念館として生まれ変わりました。

任意団体から財団法人となったことで運営方法を変更したものもあります。実篤カレンダーなどのミュージアムグッズは一九八七（昭和六二）年に発足した「友の会」という別な組織が行っていましたが、財団が直接行うこととし、「友の会」組織は発展的に解消しました。

「友の会」の会員制は継続しており、一般会員は従来どおり年会費千円の登録制とし、入館料が半額になるほか、隔月の「友の会ニュース」や記念館館報（年二回）の送付など様々な特典を付与しています。

〈業務委託から指定管理へ〉

財団法人になったことで、市教育委員会や市議会に対しても経営状況を報告する義務が生じ、法人運営の透明性が一層求められることになりました。そして、二〇一四（平成

二六）年四月に、一般財団法人調布市武者小路実篤記念館が特命により指定管理者となり、施設と事業運営の経営全般を担うことになりました。

指定管理とは、従来は行政にしかできなかった許可権限等の行政判断を、法人が行う制度です。

つまり、法人は市から補助金や委託料という形で税金をお預かりして、記念館経営をとおして市民の文化の向上に寄与するという役目を果たさなくてはならなくなりました。入館料収入は法人の収入となりますが、入館者が激減した際には法人の経営にも影響することになります。

委託された事業を予算の範囲で行っていればよかった時代から、まさに館を経営する時代に変わりました。

また、様々な局面で援助を頂いているボランティアは市のボランティアから、指定管理者である財団のボランティアに位置づけられることになりました。

ボランティアの活動は、公園及び記念館敷地内の草木の手入れを行う「環境整備ボランティア」、講座等への事業協力を行う「普及事業ボランティア」、旧実篤邸と実篤公園を紹介する「ガイドボランティア」に分かれて活動しています。

〈実篤公園の管理と業務委託〉

実篤記念館の開館より七年早い一九七六（昭和五三）年五月に調布市の都市公園として開園した実篤公園は、旧実篤邸を含めて開園当初から現在も調布市が直接管理しています。開園当初は公園が有料で記念館が無料でしたが、一九九七（平成九）年四月から、公園を無料と記念館が有料となりました。

実篤公園と実篤記念館の所管が異なることから、実篤記念館（財団）が講座等で利用する場合は、調布市の使用許可を取って利用しています。

実篤公園の管理は調布市ですが、日常的な清掃業務等については、調布市から財団が業務委託を受けて行っています。

今後とも調布市武者小路実篤記念館条例にある「武者小路実篤の業績を顕彰し、広く市民の教養及び文化の向上に寄与するため」という設置目的を達成するため、引き続き努力してまいりますので、みなさまの応援をよろしくお願いいたします。

武者小路実篤先生と新しき村・実篤記念館

一般財団法人 新しき村 理事長
石川清明

実篤先生のご住居がそのままの形で実篤公園として生まれ変わり、調布市が記念館を作って新しき村の私達にはとても出来ない事を、いろいろとしてくださっているのを感謝し、関係者の方々に厚く御礼申し上げます。

仙川は娘が桐朋音大の小学生教室に通っていた関係から、随分以前から親しんでおりましたし、先生のお宅にも度々うかがっておりました。その頃と較べると町の発展は目覚しく、町全体が「実篤先生の街」として親しんでおられる様子が伺われ、ご住居の前を通るたびに「先生、石川です」と声を出して玄関を開けた事などが思い浮かんできます。

私の先生との出会いは「新しき村講演会」に始まります。十八歳の時の出来事で町の青年会の脚本朗読で『桃源にて』を読んでいました。その中の一人が新聞に出ていた「武者小路実篤と新しき村講演会」という案内を見つけ、「行ってみよう」ということになったのです。会場名と所在地が記された数行の新聞記事が始まりでした。講演会は前座を務めた数人の先輩が訥々と喋った後、武者先生が一時間近くお話になりました。戦後の私達のあり方についてのお話だったと思いますが、「この方の話はまた聞いてみたい」と言う思いが強くなりました。東京支部の係りをして

いた城米彦造をご存知ですか？有楽町の駅構内で自作の詩集を売っていた男です。時の流れも七十年近く、当時の先輩各位は新しき村の【大愛堂】に眠り、八十六歳の私は何時しか財団法人の理事長となっており、講演を聞きにいった私が武者小路先生と新しき村についてお話しする立場になってしまいました。

武者小路先生については、記念館の中に展示された中川一政さんの書に「この人は小説を書いたが小説家という言葉で縛られない、哲学者思想家乃至宗教家といってもそぐわない。そんな言葉に縛られないところをこの人は歩いた」（原書には句読点はありません）とあり私も同感するものです。

武者小路先生八十三歳の誕生記念に頂いた色紙に「私は本当の人間を愛する。私も貴方も本当の人間になりたい人間、私は本当の人間を愛する」と書かれていました。本当の人間……という言葉をどう受け取っていいのかとなると、分かっているつもりの私でも説明に戸惑いを感じます。新しき村についてのご質問にも「人間らしく生きる社会を作ろうとする者の集まりです」と答えたくなる私ですが、受け取る人によってその内容がまちまちなのは否めません。

小説・脚本・随筆・人生論等など様々な著作と画業をたしなまれた先生の著作の中で、『論語私感』をお好きな方が結構おられます。私もこの一冊と言われればこの本を挙げるように思います。この中に「君子は和して同ぜず、小人は同じて和せず」と書かれた孔子様の言葉が出てきます。先生の画賛に「和而不同」とあるのをご覧になった方も多いと思います。新しき村には二メートル近い軸装の書があります。新しき村はこの言葉のように生きてゆく人々の集まり、というように理解していただきたく思います。蛇足になるかと思いますが武者先生の言葉を記しましょう。

僕はこの言葉を実に愛する。解釈はいくぶん自己流かもしれない。しかしここに個人同士の調和してゆく秘訣が与えられているように思う。

我等は思想でも、趣味でも、同ずることが出来ない点を多く持っている。思想や、趣味や、運命や、境遇や、欲望が同一でなければ和してゆけないなら我等は他人と友達になるわけにはゆかないし、またお互いの存在を感謝しあうわけにはゆかない。

思想や趣味なぞが厳格な意味で同一な人はあり得ない。しかしそれでお互いに尊敬しあえ、認め合え、それでこそお互いに短を補いあえるのである。

だから同じないでお互いが調和していることが、人間同士の関係において一番理想的な状態なのだ。このことを孔子が実によく知っているのに僕は感心したのだ。

これでなければ嘘だと思ったのだ。

武者先生の解説はまだまだ続くが引用はこのくらいにする。新しき村には孔子様の言葉を書いた先生の額がまだまだある。学ぶに如かず（不如学）、これを楽しむに如かず（不如楽之）等などである。

新しき村には記念館の友の会の方々を何度かご案内しました。稲作をやり鶏を飼い椎茸を作り、農業を生活の手段としていますので、生活共同体というような見方をする人もいるようです。そういう言葉を使うなら村は精神の共同体でしょう。和而不同の共同体です。大正七年に発足して今年で九十七年になります。若い志のある方を待っています。

（三鷹市井の頭 四）

●一般財団法人 新しき村
〒350－0445 埼玉県入間郡毛呂山町葛貫 423
TEL・FAX　049－295－5398
http://www.atarashiki-mura.or.jp/

●日向 新しき村
〒884－0104 宮崎県児湯郡木城町石河内
TEL・FAX　0983－39－1139

●新しき村 東京支部
〒884－0104 東京都千代田区神田神保町 2－11
メゾン・ド・ヴィレ 801
TEL・FAX　03－3261－4913
http://www5e.biglobe.ne.jp/~sinsondo/
月例会：2 月～ 12 月の第 1 日曜日・14 ～ 16 時
木曜会：毎週木曜日・18 ～ 20 時



祖父母の思い出

武者小路智行

まずは祖父についての話からしましょう。

武者小路実篤が祖父なのですから何か特別な思い出があるのではないかという思いが皆さんの中にあるかとは思います。しかし、以前記念館主催の講演会でも話し、新しき村の雑誌にも書きましたが、孫にとっての実篤はごく普通の孫に甘いお祖父ちゃんに他ならないのです。祖父も孫と過ごすひとときが楽しかった様で、井の頭に住んでいた頃には、孫を引き連れて上水沿いを一緒に散歩したり、近所にあった井の頭自然文化園や山本有三文庫に連れていってもらったことが思い出されます。新しき村の創立記念祭には一緒に車で出掛けましたし、仙川に土地を得て引っ越すまでは、一緒に仙川に電車（井の頭線と京王線）や車で遊びに行きました。

祖父母が仙川に引っ越してからは、ほぼ毎週のように仙川に遊びに行きました。仙川では下の池で船に乗ったり、鯉に餌をあげたりと相変わらず孫と一緒に楽しんでいたようです。祖父が絵を描いているときは、孫達が近くに居てもあまり気にせずに居たようですが、原稿を書いているときは絵の時とは違った緊張感を子供心にも感じて近くには行かなかったように思います。祖父については皆さん方もそして今後も、その作品や記念館などの資料で垣間見ることができると思いますので、繰り返しになりますが孫の私にとっては、〝普通のお爺ちゃん〟という言葉でまとめさせてもらいます。

一方祖母のこととなると、直接知っている人も少なく、七人の孫もその内三人が祖父母の元に旅立ってしまいましたので、ここに祖母安子の思い出を多く述べたいと思います。

もちろん祖母もやさしいお祖母ちゃんではありましたが、孫達からみても、何か威厳というものを感じさせていました。

今の人には判らないかと思いますが、昭和の中頃（第二次大戦後）迄はその出自を気にする人も少なくなく、祖父はその名字が示すとおり公家の出でしたが（本人はとりたてて意識していたとは思いませんが）、祖母の方は武家（旗本）の出で、今思うと多分死ぬまでそのことを意識し誇りにしていたのではないかと思います。



1952年頃 新しき村創立記念祭

これも多くの人には判らないことだと思いますが、祖母は私達が遊びに行った時に、今では誰もが普通にする挨拶の、「こんにちは」という挨拶をするのをとても嫌がっていました。理由を尋ねると「『こんにちは』は御用聞き（サザエさんに出てくる三河屋さんの様に、お客さんの家に注文を取りに来る人のことで、以前は魚屋さんや八百屋さんなど多くの店がやっていました）の人がする挨拶で、身内の者がするものではない」ということでした。そのことを聞いてから私は「こんにちは」とは言わずに、「元気?」とか、「今日は暑いね」と、気候や天気の挨拶をするようにしました。

記念館の講演会の時にもこのような話をしたのですが、その時に受講者から「お祖母さんにはよく怒られましたか?」という質問を受けましたが、多分私以外の孫も祖母に本気で怒られたことはないと思います。はっきり

言えば祖母に怒られるような事をするなどということは考えられないことでしたから。

このように言うと、厳格で厳しい祖母というように思う方もおられると思いますが、けっして近寄りがたいとか、話しにくいということは無く、ごく普通に話しもするし冗談も言ったりできる祖母でした。多分孫の皆が同じように感じていたと思います。

祖母は色々なことをしていました。絵画については日本画の鏑木清方師に学んだということで、時折植物の絵などをポチ袋等に描いていて、孫の総意としては祖父の絵よりずっと上手だということでした。村に居たこともあって、仙川の桐朋学園側から入った所（今入り口の詰め所のある）の高台の所にトマトやナス・キュウリ・トウモロコシ等の野菜を作っていて、収穫の時期には手伝いをしました。梅の実がなると、梅干しや梅酒を作って何年分も地下の倉庫に保存してありました（その味を娘や孫が継承しなかったのは残念なことです）。その他一九七〇年代にアフリカの植民地の多くが独立すると、それらの国について調べたり、三国史や水滸伝を（登場人物の一覧を作って）読んだりと最後まで勉強をしていたことはただただ尊敬させられました。多分孫全員が尊敬するお祖母ちゃんであったと思います。（小金井市貫井 南町一）

実篤先生及び実篤公園・記念館との思い出

稲川昭三郎

実篤さんが水のきれいな土地を求め仙川に引っ越してこられた当時、私の家は商店街丸正前（現サンドラック）の場所で米屋をやっておりました。店の前を実篤さんが中折帽をかぶり、着物・下駄ばきスタイルで前かがみ、前へつんのめるような歩き方で、せっかちなお姿を覚えております。私は当時十五才（中学三年）で仙川の学校区は神代中学なのですが、どうゆう訳か烏山中学校に越境入学しておりました。

そのため仙川からの電車通学時、車中の実篤さんを時たまお見うけしました。座席にて、いつも本を片手に持ち、数行目を通しては眼鏡をはずし、回りをキョロ、キョロと見渡す、その姿が印象としてのこっております。

実篤さんがお住まいになられた、当時入間町荻野の地は湧き水の豊富に出る所で、沢ガニ、小魚類がいっぱいいました。私も滝坂小学校の帰りなどに寄り道してよく遊んだ所です。たしか大きな鳥居もあったと思います。

今から二七年前、〝実篤公園オープン十周年〟、〝記念館三周年〟、〝新しき村創立七十周年〟ということで、タウン誌『せんがわ21』関係者をはじめ、仙川地区を中心とする地元の市民、商工農業者、学校関係者が集い、〝せんがわフォーラム88〟、〝実篤生誕一〇三周年に集う人々〟と銘うって学習会や講演会を催しました。

東部公民館で開いた学習会には今は亡き実篤さんの三女・辰子さんが出席され、生前の実篤さんについてのお話をして頂きました。笑顔が優しい方との印象があります。

その一環で埼玉県毛呂山にある「新しき村」を訪問、当時村長さんの渡辺貫二さんと今野さんにお会いし、村内を案内して頂き、食事もごちそうになりました。

そのほか、村の運営などについてうかがいました。一カ月三万円皆平等、一日の労働時間六時間、あとはそれぞれの自由時間で過ごす、正にその共同生活のあり方こそ、実篤さんの理想とする、〝新しき村の精神、自己を生かす、そのために他人の自我を害してはいけない、お互い自己の生き方を大切にし進む〟、大正七年に創立した村が実篤さんの掲げた旗印を降ろすことなく現在も生きつづけ

ていることに、深く感じいりました。
私も〝実篤記念館友の会〟の会員として毎月『新しき村』誌を拝読させて頂いております。内容の高さに頭が下ります。
また、〝仙川フォーラム88〟にあたり桐朋学園の皆様にも大変お世話になりました。学園内のホールをお借りし講演会を催しました。
内容は実篤研究の第一人者、千葉大学の大津山先生の講演、宮崎県日向よりパネリストとして三名、村の現状について、加藤登紀子さんのご主人藤本敏夫氏、千葉鴨川自然王国・にわとりクラブの話、地元仙川の方との思い出話し他、それぞれ内容のある講演でした。
最後に実篤さんの詩で私の大好きな詩二つ、〝君は君、我は我也、されど仲よき〟、〝この道より我を生かす道なし、この道を歩く〟
凡人ではできないと思いますが、常に自己を生かす道を見つめ、いくつになっても理想を持ちつづけ、つき進む姿勢、万分の一でもよい、自分もそうありたいと常日頃教訓としております。
ご夫妻の終焉の場所としてこよなく愛され、そして大きな遺産として〝実篤公園〟、〝実篤記念館〟を市民始め多くの人に残して下さいました。記念館も今年で開館三〇周年とききおよんでおります。今こそ我々の使命はこれを次世代に継承していくことであると強く思います。

（仙川町一丁目）

上の池 下の池

新井七吾

実篤先生が仙川の家に来られたのが、昭和三十年。この年は市民にとっても記念すべき年である。調布町と神代村が合併し調布市になった年である。先生は七十歳で仙川の家に来られ二十年間お暮しになった。
年表によると、大正二年に独立して家を持たれてから、十五回以上転居されている。それが二十年も同じところにお住まいになられたのは、特別何かよいことがあったのでしょう。先生は水と緑の自然のたたずまいが、お好きであったと関係者から聞きました。
仙川の家は国分寺崖線の中腹にあり、緑が大田区より国分寺市まで続いています。そして眼下には田んぼが広がり、入間川が流れている。その奥には台地があり、遺跡が残っている地域である。昭和三十年頃の入間町は、ほとんどの家が農家で、百軒ほどでした。その後町名変更により入間町、若葉町、東つつじヶ丘に分かれてしまった。きっと先生は、緑をながめながら発想を浮かべ、散歩で野草を見つけ楽しんだことと思います。
昭和三十年頃の私は、小学校高学年で遊びといえば、山や川そして田んぼの自然しかありませんでした。その遊び場の一つに先生の池がありました。上の池は小さなものでしたが、きれいな清水が、こんこんと湧き出ていました。子供たちはあまりにも冷たいため、誰れも入ることはありませんでした。その水が道を挟んで下の池に流れ入るのである。広く大きな下の池は、水ぬるく、水量も多く小魚やカエル、ザリガニがたくさんいた。子供たちはザリガニが狙いで、釣ったり網で獲ったりした。遠くの子供たちも入れ替り遊びに来ていた。
先生は、子供たちが夏の間毎日のように来ても小言ひとつ言わずに、温かく見守っていただいていたと思います。下の池は私だけでなく、私の息子も遊ばせていただいた。親子で思い出深い場所であり、時々話題にし、大変感謝している。

（入間町一丁目）



実篤公園の自然を楽しむ

調布市
武者小路実篤記念館
首席学芸員
伊藤 陽子



「年をとったら水のあるところに住みたい」という子どものころからの夢をかなえて、武者小路実篤が仙川に移り住んだのは昭和三〇（一九五五）年の一二月。元は滝坂皇大神宮の境内だったこの場所には、泉と大小二つの池があり、うっそうとした木々が茂っていました。

実篤が終の住処とした現・実篤公園は、武蔵野に特徴的な地形である国分寺崖線の一角に位置し、仙川方面の高台からつつじヶ丘方面に向けて一六～一七メートルの高低差のある斜面地となっています。

国分寺崖線は、古多摩川が武蔵野台地を削り取って一～二万年前にできた、立川の砂川あたりから世田谷の二子玉川あたりまで続く河岸段丘で、深大寺や野川公園のようにしばしば崖下から水が湧き、古代人の生活跡が出土します。

実篤公園でも、実篤の生前から、現在の公園入口から家へ下りていく坂道で孫たちが土器のかけらをよく拾ってきたといい、公園として開園する前に行った発掘調査では入口広場で縄文中期の遺跡が見つかっています。

崖下は戦前まで、野川にかけて神代団地や狛江まで含む広い範囲が泥田で、うっかり踏み込むと腰のあたりまで沈んでしまったといい、「じじばば田んぼ」の言い伝えが残り、あちこちに自噴する泉があったと聞いています。

実篤が移り住んだ頃の写真を見ると、垣根の外には雑木林と田畑が広がり、人家は写っていません。しかしその後急速に開発が進み、周辺には住宅が立ち並び、雑木林や湧水は姿を消していきました。

そんな中で、実篤自身も自伝小説「一人の男」に、「分譲地になれば池もなくなり、大木も切り払われる事になる。現在、僕は切るにきまっていた大木をいくつか切





らないようにたのんで、（中略）かくて欅や朴の木や、辛夷や、桜の大木を助けた事になる。泉や池も助けたわけだ。もとより以前の神社はずっと大きかったにちがいないが、僕が買ったので、いくらか昔の面影がのこせたわけだ。」と書いているとおり、実篤公園にはタイムカプセルのようにこの地本来の自然の面影が残ったのです。

実篤が救った木のうち、ホオノキは残念ながら一〇年ほど前に倒れてしまいましたが、コブシやサクラは今も毎年花を咲かせます。実篤はこの地に巡り会った時に、杉の木に囲まれた池があると書いていますが、上の池の周りのスギも健在です。

武蔵野では水を呼び寄せるといわれ井戸など水源の周りによく植えられるケヤキやムクノキ、防風などのために屋敷林として植えられるシラカシなども、園内に大木が何本もあり、実篤が移住する以前から長くこの地で営まれてきた習慣の名残もみることができます。

実篤が日々散策し、池に鯉を飼い、野鳥の餌場を作り、来客があれば案内した、自慢の庭・実篤公園は、今も季節の移ろいと共に豊かな表情を見せてくれます。

〈春〉

二月、まだ厳しい寒さの中で、春への先触れとなるのは、菖蒲園の土手に咲くフクジュソウ、旧邸前の石垣や下のあずまやの周りで頭を出すフキノトウ、下の池に浮かぶ孫が島のスイセン。冬の間園内に色を添えたサザンカがツバキに代わり、四月にかけて、白・ピンク・紅・暗紅、一重は猪口咲きから極大輪まで、八重・千重・獅子咲きと、色も形も様々な品種が次々と咲き継いでいきます。

三月に入り、陽光が明るくなるにつれて、下の池の縁をヤマブキが彩り、コブシが青空にひらひらと揺れます。足元ではホトケノザ、キランソウ、ムラサキケマンなどの草花が紅から青への紫のグラデーションを競い、滝のそばのコブシの大木の根元にはエイザンスミレがひっそりと、タチツボスミレは公園のあちこちで咲き誇ります。

旧邸前の野草園にはタマノカンアオイほか種類に違うカンアオイが数株ありますが、この時期、葉の陰で土に埋もれるように地味な花を咲かせています。

三月末から四月の初め、旧邸客間の前や菖蒲園の周りでソメイヨシノが満開になると、同じころ旧邸前の野草園でカタクリとヒトリシズカが可憐な花を咲かせ、公園は爛漫の春を迎えます。一週遅れて、菖蒲園の入口で咲く八重桜は、幾重にも重なる花びらの間から葉化した二本の雌しべが覗くフゲンゾウです。

この頃になるとコナラやクヌギ、ケヤキ、ハンノキなどの落葉樹が芽吹き始め、産毛で白っぽく輝く萌黄色の新芽が育つにつれて広がる緑は、一日一日色を変えていきます。

春先から聞こえていたウグイスが園内で盛んに鳴くころ、竹林にはタケノコが頭を出し、五月、すっかり濃くなった緑の下、下のあずまやの周りにシャガ、滝側のベンチの向かいではイカリソウやタツナミソウ、ミヤコワスレが咲き競い、コンテリクラマゴケが茂ります。旧邸前の野草園では、ホウチャクソウが白と緑の清楚な花をひっそり咲かせ、軍師が振るう采配のような独特の花房が地面から



立ち上がるサイハイランは豊かな自然の中に住む共生菌がなければ育ちません。

公園入口広場や旧邸前の野草園に茂るハランの根元では、人知れず紅紫の花が地面から直に咲いて、実を結んでいます。

下の池の縁にノイバラ、次いでエゴノキの白い花が咲くと、蜜を求めてクマンバチがやってきます。このころから夏にかけて、オナガアゲハ、ヒカゲチョウ、ツマグロヒョウモンなど、様々な蝶がひらひらと園内を行き来する姿が見られます。

五月下旬からハナショウブが咲き始める菖蒲園は、昭和六三（一九八八）年の公園改修で作られたもので実篤生前はありませんでしたが、今やすっかり小さな名所です。

その奥の一角、奥まった桝にヒカリモが発見されたのは二〇〇五年。若葉小学校五年生（当時）の女の子が黄色く光る水面に気づいたのがきっかけで、専門家の調査で確認されました。ヒカリモは一〇マイクロメートル（ミクロン）程度のごく小さな単細胞生物で、レンズ状の緑葉体が光を反射し、群生すると水面が金色に見えるものです。実篤公園では例年五月から九月頃まで見られますが、強い雨や強風、猛暑などで一時的に見られなくなることもあります。都内で公開されている発生地は実篤公園だけだということで、毎年新聞やテレビに取り上げられる人気者です。

六月、ハナショウブが咲きそろう頃梅雨に入り、下の池の周りのアジサイの並木では花房が連なり、池に映えます。竹林はしっとりと霧雨に煙り、実篤像の前に咲くクチナシが甘い香りを漂わせます。

湿度と温度が高いこれから十月頃まで、公園はキノコの宝庫。珍しいものでは、下の池のアオギリのあたりでキツネノエフデ、竹林でキヌガサタケ、公園入口の坂ののり面でベニシダの葉陰にツチグリが見つかることもあります。同じく菌類である変形菌（粘菌）も、地面や木肌に網目模様を描いています。

〈夏〉

公園入口で出迎えてくれるムクゲと、下の池太鼓橋の傍らのハナゾノツクバネウツギは花期が長く、梅雨時期から夏の終わりまで咲き続けます。旧邸前のネムノキの花と、記念館へ通じるトンネルの手前のヤマモモの実は、高いところにあるので、足元に落ちているのを見てはじめて気づきます。

梅雨が明け、本格的な夏が訪れると、公園内はアブラゼミやミンミンゼミの声が降り注ぎ、あちこちで抜け殻が見つかります。

強い夏の日差しが作る緑陰の下で、様々な場所でヤブラン、実篤像の後ろに丈高いタカサゴユリ、旧邸前の野草園ではキツネノカミソリとお盆過ぎにレンゲショウマ、滝のそばではシュウカイドウが花を咲かせます。

〈秋〉

セミの声がツクツクホウシに代わると、夏も終わり。これからは草木の実が目立つ季節になっていきます。

緑色だった実も、カラスウリとカキは朱色に、ムクノキの実は黒紫に熟し、ヒヨドリジョウゴは赤、ヤブランは黒、ヤブミョウガは紺色と、小さな実や種もよく見ると色とりどりです。下の池の周りで



枝に沿って紅紫の実が美しく並ぶのはコムラサキシキブ。ムラサキシキブは少し遅れて菖蒲園の入口や旧邸の客間の横で色づきます。

実が主役の季節ですが、お彼岸にはヒガンバナが、下の池の孫が島と菖蒲園の土手、旧邸前の野草園で赤、菖蒲園近くのツツジの陰で白い花を鮮やかに咲かせます。

十月に入ると、ドングリの類、コナラ、クヌギ、マテバシイ、シラカシなどの実が落ち始め、下の池の周りではノイバラ、孫が島や上の池の近くではイイギリの実が赤く目立ち、旧邸前の野草園ではホウチャクソウの実がひっそりと紺色に色づいています。

足元でキチジョウソウの花房が立ち、旧邸裏の斜面でキクタニギク、ツワブキやお茶の花が咲くころ、カキ、サクラ、ニシキギなどの紅葉が始まり、続いてヤマブキやイチョウが黄葉し、高木に絡んだツタの葉が夕日に映えます。

モミジの紅葉は、一一月下旬から一二月初旬にかけて、下の池から旧邸の周り、上の池へと進んでいきます。光の角度で見え方が違い、時間帯によって見どころが変わります。よく晴れて空気が澄んでいる午前中には、公園入口から坂を下りてくると旧邸の屋根越しに紅葉と富士山の競演が見られることがあります。

〈冬〉

木の葉が散り始めると、上の池の斜面でユズが黄色く実り、ノシランの実は瑠璃色に、センリョウ、マンリョウ、ジュウリョウとも呼ばれるヤブコウジ、ナンテン、オモトなど新年を飾る実が赤く色づきます。

サザンカが咲き始め、葉が落ちて日差しが地面に届くようになった園内は、すっかり冬景色です。一～二月、空気が澄んで晴れた日は、公園入口の坂から雪を頂いた富士山が見えます。冷え込んだ朝には池に氷が浮び、雪が降ればモノトーンの世界に。

そんな中でも、上の池の入口で早咲きのワビスケが咲き、コブシの蕾の産毛が光り、ハンノキの雄花が房を垂らして、アジサイの冬芽に緑をわずかに感じるようになると、草木が着実に春の準備を進めているのを感じます。

二月中旬、実篤記念館の中庭で、実篤が創設した新しき村から贈られたウメの木に、薄紅の八重と白い一重の花が咲きだし、あたりに爽やかな甘さを含む優しい香りが漂い、蜜を吸いにメジロが訪れます。「観梅のつどい」にいらした方々とともに花を愛でて、実篤記念館は春を迎えます。

活気に満ちた仙川の街からほんの数分のところに、実篤が残した豊かな自然。楽しみ、親しみ、守っていきたい、地域の財産です。


ウメとメジロ

調布市制60周年・実篤記念館30周年記念

実篤記念館と記念切手

前調布仙川郵便局長
小幡邦仁



「こらー、お前たち何をしているんだぁ‼」と怒鳴られて、慌てて一目散にその場から逃げだした。そこは、今では実篤公園として整備されているが、私が小学生の頃は、フェンスのような物が有ったか、無かったかは記憶が定かではない。雑木林があり、その中に池があったりと、絶好の遊び場であった。その当時は、そこに偉い人が住んでいるらしいとしか認識していなかった。中学生となり、その場所が、武者小路実篤という有名な作家の自宅であるとわかり、驚いた。

丁度、実篤公園が整備された頃に、ふとしたきっかけで訪れたことがあり、小学生の頃のことを思い出す機会があった。それ以後、実篤公園には、足が遠のいている。

昨年の六月頃だったと思うが、調布仙川郵便局局長より、平成二十七年に実篤記念館開館三十周年の記念切手を発行する計画をしていることを、『せんがわ21』の発行人に、偶然京王線車中でお会いした時に、伝えました。その際何か書いて欲しいということで拙い文を書くことになった次第であります。

（仙川町三丁目）

調布市武者小路実篤記念館 開館 30 周年記念切手

実篤記念館

調布市武者小路実篤記念館、調布市制施行60周年、実篤記念館開館 30 周年を記念して、調布仙川郵便局をはじめ地元郵便局と連携して、記念切手シートを発行します。

切手はおなじみの実篤が描いた野菜図や書「雨が降った」など 10 点が1点ずつ 52 円切手（52 円切手 10 枚）となり、また、シートのフレームには実篤記念館の外観をはじめ、「愛と死」原稿、実篤公園や旧実篤邸の風景写真もデザインされています。制作数は 2000 シートで、限定販売となります。

販売価格は1シート 950 円（税込）、販売開始は 7 月 31 日（金）からです。販売場所は実篤記念館、調布市と近隣多摩地区の郵便局と、郵便局ネット販売でも取扱います。

実篤記念館での販売は500シート限定、各郵便局でも販売数が限られますので、お早めにお求めください。

（福島）



実篤記念館開館30周年及び各種の記念切手シート販売中

〒調布仙川郵便局

※調布市市民課の印鑑証明書・住民票・戸籍謄抄本の交付　TEL:03-3300-3001 FAX:03-3300-8317

日本テレビ・週刊文春にて紹介されました

味の店

とんかつ仙川

各種宴会40名様迄御相談下さい

仙川駅前ツタヤとなり　☎3309-0144

1853

彼留哩

コーヒー専門店

商店街中程

AM10:00～PM8:00

定休日：第1、第3水曜日

☎3308-9497

おかげさまで創業50周年

煮物 焼物 揚物 やきとり 手作り総菜

鈴　仙

仙川商店街

☎3326-4455

味の店　11時～15時/17時～23時

伝統が生んだこだわりの味

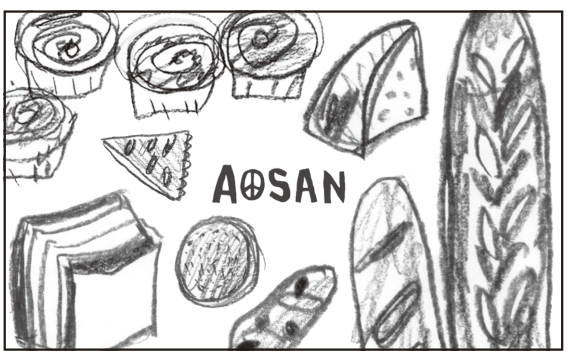
一富士



京王線仙川駅前
(ホーム上)

火曜日定休

でんわ 3309-5510
イイトン



新鮮さで評判――築地・気仙沼より直送

すしの磯春

――四季のおすすめメニュー――

春：ワカメ、メカブ、山菜、ホヤ　秋：サンマ、松茸、サバ、トロカツオ

夏：殻付ウニ、初カツオ、岩ガキ、マコガレイ　冬：カキ、アワビ、ヒラメ、タラ

仙川保育園横　☎03―3300―1710(水曜定休)

魚貝料理と釜めし

なみはな

営業時間　AM 11：30～PM 2：00（ランチタイム）
PM 5：00～PM 11：30

仙川町 1-4-28　☎3307-9854

広島風お好み焼き

まめ徳

☎03-3326-3455

■営業時間 AM11:30～PM11:00

■定 休 日 毎週月曜日

『(とりあえず)にしさん』

大衆割烹 うなぎ

う三進

☎03-3300-5655

FAX 03-3300-8093

営業時間 11:45~14:00
17:30~

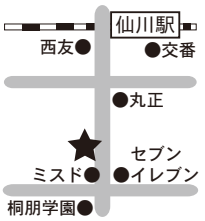
定 休 日 不定休

活うなぎ

四季折々の旬菜や活魚を
生かした逸品から
ボリューム感のある料理まで。
素材を吟味し、持ち味を
引き出す三進のお料理。
ご家族や職場の皆様
お揃いでご賞味下さい。

★大小宴会
ご予約承ります！





実篤公園・記念館と「新しき村」を訪ねて

テラ憩いの里
金子晶子



テラ・憩いの里 園内マップ



「新しき村」、何と久々に耳にする懐かしい言葉でしょう。

日本の小説家、詩人、画家でもある武者小路実篤が理想社会の実現に向け、創設したのが「新しき村」で、大正七年に立ち上げ、現在も宮崎、埼玉に現存しています。

私は、この「新しき村」を目指して土地を探し開発をしてきた父の熱い想いを胸に、現在伊豆半島南端で「テラ憩いの里」を運営しています。

ここは海も一望できる二万坪を超える明るい森です。

昭和五十六年二月、「伊豆新しき村」建設を目指し、父はこの南伊豆の地を選んだのでした。

趣意書には「ここ静岡県南伊豆町下賀茂の地は地元の人からも見放された不毛の原野で、それだけに人工の歪みを受けていない清浄な環境の地であります。この美しい自然環境を大切に守りながら森を伐り開き、有用な生産地に変え、自由闊達な明るい「新しき村」を生み出そうと働いています。（中略）しかしながら、この開拓の仕事は生やさしいものではありません。相当な資金の投下を積み重ね、長年にわたり継続して守り育てていかねばなりません……。」

こうして皆様に協力を呼びかけ、父は自給自足体制を確立しようとしたのでした。

開拓を始めて四年目で切り開いた地には、栗を植え、椎茸栽培や巨峰ぶどうの栽培も始め、従業員も二名、自給自足体制の見通しもついてきたのでした。

「やがて数年後には、栗、クヌギ、ヤマモモ林に囲まれ菜園、花園のある文化的な一大農園地域、新しき村の誕生となるように考えているのであります。（中略）この農園の中に住む方の創意の下に美しい〝新しき村〟が出現することは限りない喜びであり、更にこの村が整備され〝長寿の村〟になっていけば、願ってもない悦びです。」（昭和五十六年二月）

この度、改めてこの趣旨を読み、私も初心にかえることが出来ました。

新しき村建設の夢の途上で、突然父を

失い、また創設当時の方も今はなく、時にはあまりの構想に私は押しつぶされそうになりながらも、自分なりに開発を進め二十四年目を迎えました。

現在は天城百年杉のログペンションを中核に、バンガローやユニークな円錐形のティピテント、冒険心あふれるツリーハウスや二十四角形ホールも備えたキャンプ場に育ってきました。

名前も地球・大地を意味する〝テラ〟を冠した「テラ憩いの里」とし、皆様にとって、日常から離れホッとできる心身のふるさとであれたら……と活動しています。

今回、実篤氏の生誕百三十年に終焉地・調布市仙川にある実篤公園や記念館を『せんがわ21』の青野様のご案内で見学させて頂きました。

また翌日には、長年の念願であった埼玉県毛呂山町の新しき村を訪ね、実践者の小島様からご案内、数々の苦労話もお聴きでき、父のユートピアを創りたいという夢を彷彿でき、素直に感動できた収穫の多い旅でした。

現在私は豊かな湧き水のあるテラ憩いの里で、実篤氏や父の目指した「新しき村」を核に、世界でも共通なコンセプトの理想社会を目指す二つの持続可能な社会をも含む「ネオ新しき村」が出来ないかと願い活動しています。

まず一つは二〇〇五年、イギリスで始まった「トランジション・タウン」と呼ばれる考え方で、市民の創意でよりよい未来を描き、頭（Head）、心（Heart）、からだ（Hands）の3Hのバランスをとり、脱石油型社会へ移行していく取り組みで、三年足らずでイギリスはもちろん欧州各国、北南米、オセアニア、そして日本と世界中に広がっています。

またもうひとつは、スコットランドの「フィンドホーン」と呼ばれる同様なコミュニティで、世界から人も集まり、教育面や風力の活用など、様々な取り組みをしていました。

私は日本から最初のグループとして学びにいったのですが、この時「日本にこんなユートピアを創りたい……」と話した時、創設者の今は亡きアイリーン・キャディに「あなたは出来るわよ！」と強くハグされたのが、つい先日のように思い出されます。

現在の便利さ、合理性を追求した社会のあり方を見るにつけ、殊に福島の原発事故以来、実篤氏の提唱した「新しき村」は現状に即した「ネオ新しき村」として、私達も真剣に考えていく問題だと思っています。

（二〇十五年 六月十三日 記）



テラセンター


シンフォニーハウス

●テラ憩いの里ホームページ
http://www.teraikoi.com/terra.html
●ブログ
http://ameblo.jp/teraikoi-wakuwaku
● Facebook
https://www.facebook.com/kaneko.akiko1

新しき村〝土星〟論
―タイムスリップ小さな旅―

玉川上水学術 代表
松尾 欣治



年老いたせいであろうか、《ご縁の連鎖》などという言葉を使うようになり、いまではわたしの愛用語になってしまいました。熱心な仏教徒でもないので、この言葉を流行らせてから、ある僧侶に意味を解説していただき、「なるほど、そういうことなのですかぁ」と独りごちた。

大学外部総合評価を委嘱されたとき、学生と一緒に授業に出席、教授会まで傍聴。ひたすら聴き手となり、発言は極度に自制する日々となった。続けて新潟県人会の記念誌編集にかかわり、またしても聴き手に徹することになりました。

こういうクセがついているので、武者小路実篤記念館を金子晶子・一郎夫妻とともに訪ねたとき、福島さとみ副主幹から受けた解説は、実篤について、新しき村について、なんの抵抗もなく、すーっとその具体的なイメージが脳裏に浮かびました。

このとき、まったく違和感がなかったのは、実篤という人は、こどものころ絵が苦手、習字が苦手、体育が苦手、その苦手なもので人生を拓き、新しき村を拓いたんですね。上手いとか下手とかは、二の次、三の次。作品が「どうだ！」と勝負してこないんですね。

しかし若いころは理想に燃えていたから、曰く、

〝龍となれ雲は自づと来たる〟

その来たるはずの雲が、百年の歳月を経て、六十五人が十二人まで村民が減ってしまいました。養鶏も太陽光発電による収入に転換。二一世紀の新しき村は、牧歌的な雰囲気を保持しつつも、時代の波に呑まれない対応がなされておりました。

現代の桃源郷を危機から守るのは、まっこと難しい。

埼玉県入間郡毛呂山に《新しき村》をお訪ねしたとき、解説と案内をしていただいたのは小島真樹理事で、着くなり、舞台付きの食堂に行き、時間内での見学順序を決めていただきました。この食堂は農作業をするので農家の広い土間といった感じでしょうか、異次元にタイムスリップしたような懐かしさに満ちていました。

この異次元感覚は仙川の武者小路実篤公園で、不思議なヒカリモを見たときから始まっていて、仙川の公園は、この広い土間の食堂につながっているようでした。とにかく、えもいわれぬ懐かしさに溢れていたのです。

この舞台で、どんな劇が演じられていたのでしょうか。高校生のころに読んだ、トルストイの民話集を思い出しました。

小島さんが静かに新しき村の現状について話しはじめました。四十年前には村民が六十五人いたのに、いまでは十二人に減ってしまったこと。農作業のできる人は高齢化により、さらに減っていること。養鶏も今年半ばには終わること。太陽光発電による売電が新たな収入源になっていることなど。

そして話は、新しき村に住んでいる村内会員と、村には住まない村外会員とによって成り立ち、武者小路実篤は村を出て、村外会員として三鷹市牟礼そして調布市仙川に居を構え、文筆活動によって外から新しき村を支援していた、と続いたのでした。

このお話を伺ったとき、えーっ、と驚きました。

新潟県人会の記念誌を編集していたときに発見した《土星型の知恵》が新しき村でも編み出されていたのです。県人会というのは一代限りで自動的に消滅する宿命にあります。なぜなら、新潟県出身でも、第二世代のこどもたちは東京生まれの都民なのです。故郷も東京です。

この問題を立川新潟県人会の場

合は、県人会を土星本体とし、新潟を愛する会を土星の環として、佐渡おけさの会のような衛星をもち、だれでも新潟が好きな人なら会員になれるような工夫をしていたのです。

毛呂山の新しき村が土星の本体なら、仙川の実篤記念館は、その衛星ということになるのです。実篤夫妻は毛呂山に眠っていますから、やはり毛呂山の新しき村が土星の本体なのでしょう。

この《土星型の知恵》は、福島や中東で故郷に戻れなくなってしまった人々にとって、故郷、つまりはアイデンティティーを確保、災害からの自立を目指す場合に、大いに参考になるモデルになっているのではないか？

南伊豆には新しき村の理念に共感、私財を投じて創られた《テラ・憩いの里》があり、イギリスで始まった「トランジション・タウン」、スコットランドで始まった「フィンドホーン」と国境を超えて、世界と共感、共鳴しています。

龍が仙川の実篤記念館から飛び立ち、故郷の毛呂山を旋回、九十九折り、浄蓮の滝、天城を越え、ループ橋で勢いをつけて、南伊豆で一休み。ふたたび飛び立ち、アジア、中東、欧州をめぐって、アメリカ大陸を北から南。オセアニアを旋回して、日本に戻る。おそらくヒカリモの光る、あの小さな洞窟が龍の住処なのでしょう。



実篤公園のヒカリモ



泉

武者小路実篤と私 —友の会会長就任にあたり

今 防人
（日本大学文理学部社会学科教授）

まず武者小路実篤記念館友の会会長を長年にわたり務め「友の会」の発展に寄与された青野友太郎前会長に心から敬意を表します。

さて「友の会」と小生の関係は青野氏の紹介によりシンポジウムのパネラーとして実篤先生のご息女、大津山先生とシンポジウムに招かれたことから始まりました。

実篤との出会いは多くの同年代の人々と同様に文学史上の人との認識でした。1960 年代前半に大学に入学した私にとり日本文学では太宰治がまだ輝かしい存在であったし海外文学ではドストエフスキーやツルゲーネフなどの方が実篤よりも身近な文学であった。

実篤との再会は自己概念と新しき村を通してであった。

1968 年に大学院に進学した私を待っていたのは当時ほとんどの大学が経験した大学闘争であった。1960 年の大学闘争が自己の外なる「階級闘争」や「政治闘争」etc. だったのに対し、70 年闘争は自己の内なる闘争を伴っていた。この闘争では様々な地位や行動が社会のみならず自己にとっていかなる意味を有するか常に問われた。学園闘争→街頭闘争→機動隊（国家権力）との衝突、というルートでは、大学、国家等の様々な制度を内面において支える自己が問題とされた。共犯者としての自己である。

修士課程に行った学園内外を架橋するはずの地域の活動も共闘する新左翼に幻滅し学園を始めとする様々な制度からドロップアウトするヒッピーの研究（?）へとスライドして行った。未来の革命を現在に生きようとするコミューンは輝いていた。若者の様々な試みは「新しい人間」を模索する試みに映った。若者のコミューンと接するうちに出会ったのが「古き」日本のコミューンであった。一燈園、新しき村、心境部落、大倭紫陽花邑、山岸会、三蔦苑などである。またそれらを創立しまた真摯に生きようとする西田天香、武者小路実篤、山岸巳代蔵、江渡狄嶺などを始めとする群像との出会いであった。60 年以上前に理想的「村」（社会）を現実に生きようとする実篤や村人に村の雑誌などを通じて触れることは新鮮な驚きであった。雑誌『白樺』に掲載された実篤の「新しき村宣言」を本屋の店頭で読み直ちに村に赴いた若き女性の存在などは実に新鮮で昔を全て「封建的な」という形容詞で抹殺する歴史観から解放してくれるものだった。

また米国の心理学者・哲学者のウイリアム・ジェームスの主著『宗教的経験の諸相』に出てくる「一度生まれ」と「二度生まれ」という人間の分類に接するに及び武者小路実篤が決して生まれながらの楽観論者ではなく「二度生まれ」の人間であり一旦どん底に落ち込みながら新しい世界に這い上がってきた人物を確信した。この確信は後に大津山先生の研究によりさらに深まった。

自己と他人を同時に活かす道でなければ偽物だという実篤の思想は実に大事だと歳を経るごとに痛感している。社会主義とは難しいことではない。社会とは他人である。主義とは固執すること、大事にすることである。社会主義とは自己だけでなく他人も大事にすることである。武者小路実篤の社会主義はいつも帰るべき一つの原点である。

出所：実篤記念館 館報

武者小路実篤とインターネット

web武者組主宰
小西聡

武者小路実篤は、自分たちの作品を発表する場として、明治四三（一九一〇）年に雑誌『白樺』を創刊した。関東大震災で『白樺』が廃刊になった後も、新しく雑誌をつくって作品を発表し続けた。もしも実篤が現代に生きていたら、雑誌に作品を発表しながら、インターネットでもどんどん作品を発表したり、発言したりしていたのではないかと思う。

かつて昭和三〇年代から四〇年代にかけて、実篤の作品は広く読まれていたが、最近ではどれぐらい読まれているのだろうか。文学作品じたい読まれなくなってきていることもあり、読者がどれぐらいいるかわかりにくくなっているが、インターネットをのぞいてみると、少しだけ読者の姿が見える。たとえば、ブログに書かれた実篤作品の感想を、ときどき見つけることができる。作品は『友情』や『愛と死』が多いが、『お目出たき人』も言及されることが多く、『幸福な家族』や『真理先生』を読んでいる人もいる。感想は、主人公が嫌いだ、理解できないというものもあるが、共感を示すものも多い。実篤の詩について書いている人もいる。恩師から贈られた「もう一歩」という詩を大切にしているという人もあれば、詩集の中の短い詩を愛誦している人もいる。

twitterでは、実篤の名言を毎日誰かがつぶやいている。「君は君／我は我也／されど仲よき」という有名なものもあれば、実篤作品の一節や、中には出典のあやしいもの、明らかに実篤ではないものも流通している。玉石混交ではあるが、他の白樺同人に比べると、実篤に関するtweetは数が多い。かつての画賛のように、親しみをもって受け入れられているようにも思われる。

現在、実篤記念館のホームページでは、実篤の紹介や展覧会や催しの案内、収蔵品データベースなどを公開している。記念館で配布している解説シートもPDFでダウンロードできる。調布市のtwitterでも記念館や実篤公園の情報をときどき流しているため、館に来られない方でも館や公園の様子を知ることができる。

記念館のホームページのできる前の一九九七年九月から、私は実篤と白樺派に関する「武者組」というホームページをつくっている。「武者組」という名前は、たとえば黒澤明監督を中心とした映画スタッフを黒澤組と呼ぶことなどにならってつけたものだが、組とは言っても一人で運営している。最近は更新が滞っているが、そのかわりtwitterで実篤や白樺派についての展覧会やイベント、新刊情報などを紹介している。なお、私のホームページやtwitterは「武者組」で検索すると出てきますので、ご興味のある方はご覧いただければ幸いです。

「武者組」は実篤の作品や、埼玉と宮崎の新しき村、実篤関連グッズから実篤に言及した本の情報など、実篤に関するものは細大漏らさず集めようと思っている。志賀直哉や有島武郎、木下利玄や里見弴など白樺同人に関する情報、柳宗悦らが始めた民藝関係の動向、さらには岸田劉生や中川一政、高村光太郎や梅原龍三郎など白樺派周辺の美術家の展覧会情報など、扱う範囲は広い。それらが密接に関係しながら、「白樺」の文化圏をつくっていったため、広く見ていくことは必要だと考えている。さらには白樺同人が影響を受けた海外の人々（ゴッホやセザンヌ、ロダンやトルストイなど）へも関心をもって調べている。

インターネットを使えば、まだ会ったことのない人とも情報交換をすることができる。周りに実篤について話をする人がいなくても、インターネット経由なら同じような興味関心の人にめぐりあえるかもしれない。「武者組」がその一助になれば、これに勝るよろこびはない。多くの人が自分の好きなことについてインターネットで発表していけば、世の中はもっと楽しくなると思うので、ぜひともみなさんの楽しみを共有させていただければと思う。



BOUTIQUE
左岸
SAGAN
☎3307 8448

SINCE1982
西洋料理の店
ぱんぷきん
TEL＆FAX03-3326-2944

teshima
OMUSUBI
調布市仙川町1-12-12 Tel&Fax03-3307-5649

マイスドウ
☎03-3308-0001

理容店･完全予約制･育毛研究家
カットサロンたけし
桐朋学園正門前通り 03-5384-6274

新刊書籍･雑誌
書原（しょげん）
営業時間 10:00～22:30 TEL 3309-5495

靴・鞄修理 鍵・合カギ
ちゃっぷりん
仙川町1-12-2 TEL03-3307-6959

ネイルサロン
Ron's nail
〒182-0002 東京都調布市仙川町 1-16-18 杉田第一ビル 201 Tel 03-6279-6454
Time 10:00～21:00 土日祝 10:00～20:00 定休日 不定休

納々屋（ななや）
自然食糧品と地方の本
☎03-5315-3778

ELEVEN
セブンイレブン仙川駅南店

仙川の呉服屋さん 着付もどうぞ
きものさろん服部
桐朋学園正面通り ☎3309-6348

和酒厨房
ばさら
調布市仙川町1-15-4水清ビル102
TEL03-5969-8866
営業時間
火～土 17時～25時(L.O.24時30分)
日・祝 17時～24時(L.O.23時30分)

一点一点手仕上げの店
東洋クリーニング
月･木曜日集配いたします(夜間も可)
桐朋学園正門前 Tel･Fax 03(3300)0756

創業26年
居酒屋
菜遊記
神代書店北東 03-3305-9559

読売新聞･スポーツ報知
菅家新聞店
桐朋学園正門前 ☎3300-3023

まごころをこめて・・
インドカリーバー
Mirch
Since 2004
神代書店うえ
3309-4668

そば処
平野屋
桐朋学園前 ☎3308-0115

ゆくりした時間
TINY Café
定休日 水曜日
若葉町1-42-2 3306-0400





①今の若葉町1丁目35番地にあったクヌギの木
（昭和31年8月）



革張り　ひと昔前の
カメラは革張りが多い

古アルバムから
―入間田ンボと実篤公園―

小室 克介

かなり古びた薄いアルバムの最初の方のページに、何枚かの田園風景の黒白写真がある。

遠縁の叔父がなくなって、思いがけなく譲りうけたカメラで撮ったものである。

私が高校生だった昭和二〇年代の終りごろは、まだカメラは一般には普及しておらず、収入のない若者達にとっては、まだまだ高嶺の花だった。小遣いを溜めてブローニーサイズのフィルムを買い、慎重に撮影対象を選んでケチケチとシャッターを切ったものだった。

丁度その頃（昭和二八年）、我ヶ家は都内から、当時はまだ全くの田園地帯だったここ仙川に家を建て引っ越して来た。

今もそのまま住む我ヶ家は、西側の高い国分寺崖線すぐ近くのススキ原の分譲地だったが、崖線の下は、北寄りの京王線の土堤下から、遙か南の小田急線あたりまで続く南北に細長い一面の水田が広がっていた。

その帯状の水田の最上流が、我ヶ家から崖を下ったすぐ下から始っていて、小川が二本その中を縫って南へ流れ、周囲の田ンボを潤していた。西寄りの流れが、今は深いコンクリート擁壁の底を流れている入間川（いりまがわ）で、東側の、田ンボのほぼ中央を流れているもう一本は、その水源が当時ははっきりしなかったが、京王線の軌道敷の真下にあった湧水からのものであったらしいことが判って来たけれど、今は住宅地の中に埋没して姿を消してしまっている。

いずれにしても、五月には代掻（しろか）きで水が張られ、田植えの後は緑の若い稲が並んで美しく、夏の夜は、何千匹という蛙の大合唱が崖線の上まで聞こえて来た。

この入間田ンボの風景をもっと撮って置くべきだった、とは今になっての後悔であるが、な



②国分寺崖線の上から、東つつじケ丘、滝坂小学校方面を見たパノラマ。
中央やや左寄りに富士山のシルエット。
手前の入間タンボが京王線の土手から左手に広がっていた。
（昭和 30 年 6 月）





にしろ、今のデジカメと違ってフィルムは貴重であったから、ほんの数枚が遺されているだけである。写真①は、今の実篤記念館の南、若葉町一丁目三五番地にあった数本のクヌギの木を撮ったもので、遠景の左手の丘が今のＮＴＴ研修センターの台地、右手のこんもりした樹立ちの端に僅かに糟嶺神社の森がのぞいている。

クヌギの根元に続いている草に覆われた小道は、今は六メートル道路となって車が行き来しているが、クヌギ（平成一〇年代になってから伐採されてしまった）の根元あたりでＳ字にうねっている道筋は今も残されている。

この小道を逆に北に辿ると、実篤公園の中を抜けて国分寺崖の裾を通り、京王線の土堤につき当って止っているが、地元では「鎌倉道」と呼ばれていて、この名前の共通の由来からして、江戸時代初めに甲州街道（甲州道中）が建設される前からの古い道であったのかも知れない。昭和二年に京王線が掘割りの下の新路線となるまでは、この道は甲州街道の滝坂下まで真っ直ぐに続いていたことが当時の地図から明らかである。

道が横切っている今の実篤公園は、昭和三〇年に、武者小路実篤が周囲の崖線林と共に買い取って私邸とするまでは、誰でも立入ることが出来る湧水地の窪地で、下の田ンボとの境は一帯の湿地となっていて、小魚、ザリガニ、蛙、そしてあまり歓迎出来ないヘビ、の楽園だった。

また、今の実篤公園の管理事務所があるすぐ下の地点には小さな祠が立っていて、「皇太神宮」という、サイズに見合わない立派な名前であった。もっともこの祠になる前はもっと大き目の社殿であったそうで、祭日には門前に夜店が立ち並ぶ、近隣では有名な社だったらしい。今は公園入口左外に移設されて建物も大分立派になった。

思いがけずこの地で暮す様になって、六〇年以上の年月が経った。古アルバムの写真からの憶い出を記した次第です。

（若葉町一丁目）

桐朋女子中高生と実篤・仙川

桐朋女子中・高等学校
国語科教諭
桑原昇



ミニアンケートは、高校二・三年生の生徒、および中学生を含む新聞部の生徒を対象に、左記の三項目のうち一項目以上を選択して回答するかたちで実施した。

① 武者小路実篤の文学についてどのように考えるか。
② 学校のすぐ西側にある実篤公園・実篤記念館についてどのように思うか。
③ 仙川の街についてどのように思うか。

桐朋学園の前身である山水高等女学校が仙川の地に開校したのは、昭和十六年のことである。以来学園は仙川に根を下ろし、地元の皆様にお世話になりながら七十年以上の時を経て現在に至っている。仙川の街があってこその桐朋学園である。

日々仙川に通う生徒たちは、実篤や仙川の街にどのような考えを持っているのだろうか。生徒たちの目を通して見えてくるものがあると考え、このたび桐朋女子中・高等学校（普通科）の生徒たちに簡単なアンケート調査を行った。

このアンケートに協力してくれた生徒は五七名であり、回答した項目は下記の通りであった。

A　①②③すべてに回答……5人
B　①と③に回答……3人
C　②と③に回答……4人
D　①のみに回答……2人
E　②のみに回答……1人
F　③のみに回答……42人

〈実篤の文学〉

実篤の文学について回答した生徒は全体で十名にとどまった。桐朋女子高校では、現代文の授業の一環として一年生が『友情』を読む。だからもっと多くの生徒が回答するだろうと期待していたのだが、いささか残念な結果であった。回答した生徒たちの意見は、やはり『友情』についてのものが多かった。作品の受け止め方は、生徒によって様々だ。

・彼の作品はどろどろした恋愛模様を描いているにも関わらず、後味がスッキリとした仕上がりになっているのがすごいと思う。まるで夏の暑い中で冷奴をのどに流し込むような気持ちになる。
・白樺派の典型とでもいうべき作風。同派『或る女』（有島武郎）に並ぶトラウマを植えつける『友情』はあまりに有名。正直なところ読むと気持ちが鬱々としてきてしまうので、泣きたいとき、落ち込みたいとき、嬉しさで死にそうなとき有効か。
・『友情』しか読んでいないが、本人の育ちの良さをひしひしと感じた。健やかな心身に宿る向上心、大志、飾らない知的さ、才能と外見に恵まれた男女の恋愛……どれも眩しすぎて、私には合わなかった。
・『友情』は理解しがたかった。男性目線であることと、今とは女性に対する扱い方が違うことから、主人公のヒロインに対する態度が好きになれなかった。女子高生が読んでおもしろいと思うような文学ではないと思う。

〈実篤公園・実篤記念館〉

②の実篤公園・実篤記念館についても、回答した生徒は十名にとどまった。しかも、そのうち五名が一度も訪れたことがないということであった。学校のすぐ西側にあるにも関わらず、生徒たちにあまり馴染みがないようである。ただ、訪れたことのある生徒は、公園や記念館に親しみを抱いているようである。また、訪れたことのない生徒でも、地元の公園として興味を持っているようだ。

・沢山の木が生い茂っていて緑のシャワーをあびているような気持ちになれる場所。そして都会のうるさい空気から離れて物思いにふけることができる。
・中一のとき社会のレポートでここのことを書いたので、とても思い入れがある。家も旅館みたいな日本家屋で、湧水もすぐそばにあり、住みたいぐらいよい所だと思う。
・実篤邸に入ることができて、当時の様子や実篤の世界観を体験することができる。また、四季折々の自然を楽しむことができる貴重な空間だと思う。
・記念館はもっと展示室が多くてもよいかもしれない。
・一度行ってみたい。緑が豊かで都

会の中に溢れる自然が魅力だと思う。
・名前はよく聞くが、一度も行ったことがないので、卒業までに行ってみたいと思う。
・生徒達が、学校の活動として実篤公園・実篤記念館に訪れ、もっと仙川の文化について学ぶべきだと思う。

桐朋女子では、『友情』を課題図書として取り上げ、ホームルーム活動で実篤公園へ出かけることもあるのだが、生徒たちが地元ゆかりの作家として実篤に愛着を持つには至っていないようだ。貴重な中高時代を過ごす仙川の町の文化に生徒たちが誇りを持てるよう、一教員としてなにをしなければならないか、考えさせられるアンケート結果であった。

〈仙川の街〉

一方で、仙川の街について回答した生徒は五七人中、五四人にのぼった。地元の皆様に日々お世話になり、生徒たちは仙川の街に愛着を抱いているようだ。

二二名の生徒が、商店や飲食店の種類の豊富さについて述べた。古い商店が次々と姿を消している中、様々な店が残る仙川の街は、生徒たちの目に新鮮に映るようだ。
・駅前にはスーパーがあり、書店、文房具店、おしゃれな衣料店、こだわりのレストランなど、毎日が楽しくなるようなお店がたくさんある。
・自分の家の近くには仙川商店街のような商店街がない。

次に多かったのが、街の活気や賑わいについての意見であり、八名の生徒が、仙川は活気のある街だと回答した。様々な商店や飲食店があるからこそ、人々が集い、そこに賑わいが生まれるのだろう。
・のどかな雰囲気だけれど、一つひとつのお店や人に活気があふれる明るい街。
・商店街に活気があって見ていても楽しい。一つ道に入れば新しい発見がある退屈しない街。
・多くのお店のまわりにたくさんの人がいて、そこに桐朋生の笑い声が聞こえる、といったにぎやかな街。

多くの商店があり、人々で賑わう。そんな仙川の街には多様性を受け入れる空気がある。次に多かったのが、幅広い世代が楽しめる街であるという意見だ。そのように回答した生徒は七名にのぼった。多様性のある街は、幅広い世代に対して開かれた街でもあるのだ。
・多岐にわたる種類のお店があって実は奥深く、老若男女みな楽しめる街だと思う。
・商店街がにぎわい、小さい子からお年寄りまで様々な世代の人が暮らしやすい街だと思う。

また、古くからのものと新しいものとが共存していることも、この街のもつ多様性の一側面であろう。六名の生徒が、「新しいものと古き良きものとの共生」について述べた。
・街並みや人柄からも、この街は新しいものと古き良きものが見事に共生していると思う。
・商店街が栄えている。新しいお店ばかりでなく、昔からあるお店もあるところがよい。

さらに、多様性を許容する街には、あたたかな空気と、人々のつながりがある。四名の生徒が、人々のつながりや街の持つ暖かな空気について回答してくれた。
・現代でここまで昔から変わらずに繁盛している商店街は珍しいと思う。私は幼稚園から桐朋に通っていて、約十二年間仙川商店街を通っているが、現代では珍しい人々のあたたかみを感じる商店街だと思う。
・仙川の街は商店街が栄えていて、人と人との関わりが深いと思う。
・都市のような賑わいではなく、地元の人々の暖かいにぎわいを感じる。

このほかに、きれいでおしゃれな街であると回答した生徒が五名いたことも付言しておく。アンケートから見えてきたのは、仙川が異質なものを受け入れ、多くの人に開かれた街であるということだ。そこに人々が集い、交流が生まれる。仙川が、そんな暖かな空気を持つ街でいつづけてほしいと願う。

生徒たちは、日々仙川の街に通い、貴重な中高時代を過ごしている。仙川の住民の皆様には、時にはお叱りもいただきながら、これからも生徒たちの成長を見守ってくださることをお願いする次第である。

緑ヶ丘団地（都営住宅仙川アパート）リニューアルの計画と進捗状況

～第二期建替工事を平成二六年度から開始～

調布市都市整備部
住宅課

京王線仙川駅から北東約六〇〇メートル、甲州街道の仙川橋越しに、かつての水田を造成した緑ヶ丘団地が建ち並び、すぐ脇には仙川が流れ、夕空に浮かび上がる給水塔が印象的だ。

東京都では、老朽化した都営住宅の建替えを住宅政策の重要な柱のひとつとして、昭和三〇年代に建設された住宅について、計画的に建替事業を推進している。また、調布市も緑ヶ丘二丁目地区の「地区計画」の都市計画決定を行うなど、東京都施行の建替え事業に伴う街づくりについては、これまでも積極的な協力を行ってきた。

緑ヶ丘団地は、緑ヶ丘一・二丁目にある敷地面積9・43haの大規模団地で、三・四・五階建て合わせて三五棟一、一二六戸から成り立っている。昭和三六年度に建設を開始し、四〇年以上の経過とともに、設備等の老朽化も相当進んでいた。昭和六一年から平成元年までの期間で、三期にわたる改善工事を実施したものの、その後、二〇年が経過していたこともあり、現在の建物ではエレベーターがなくて不便、間取りが合わない、地震や災害の時今の建物では不安、バリアフリー設置の必要性など、居住者からの要望が多かったと聞いている。

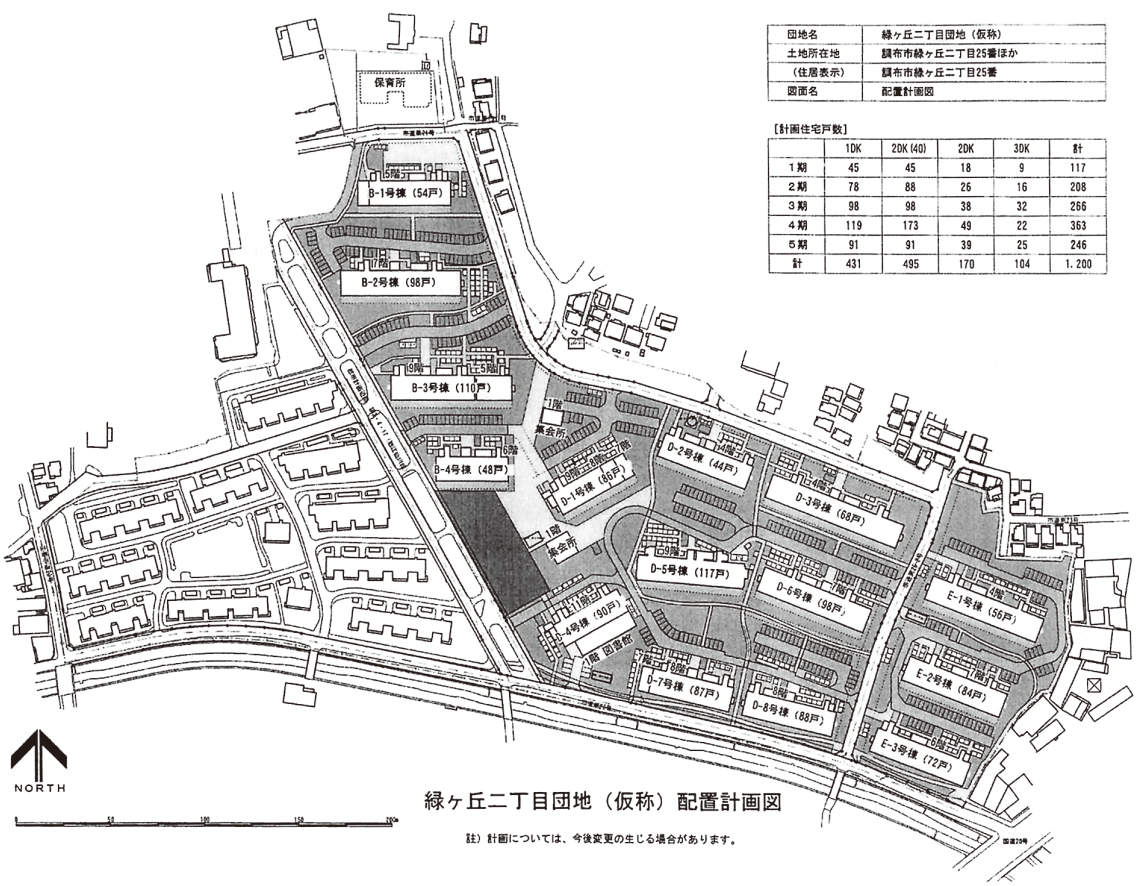
建物の再生手法を大別すると、現在の建物に対し必要な改良を加える「改修」、現在の建物を取り壊して新たな建物に建替える「建替え」のふたつの手法がある。

建物の状態を維持していくためには通常、築年数の経過に応じた計画的な修繕を繰り返す。しかし、快適に長く住み続けられる団地としていくためには、老朽化が進む状況や居住者が住まいに対し

団地名	緑ヶ丘二丁目団地（仮称）
土地所在地	調布市緑ヶ丘二丁目25番ほか
（住居表示）	調布市緑ヶ丘二丁目25番
図面名	配置計画図

［計画住宅戸数］

	1DK	2DK (40)	2DK	3DK	計
1期	45	45	18	9	117
2期	78	88	26	16	208
3期	98	98	38	32	266
4期	119	173	49	22	363
5期	91	91	39	25	246
計	431	495	170	104	1,200



緑ヶ丘二丁目団地（仮称）配置計画図

註）計画については、今後変更の生じる場合があります。

て求める性能や機能の水準に合わせて、改修や建替えといった建物の再生を適切に選択するタイミングを計ることが重要である。

都は、建替事業を推進していることもあり、緑ヶ丘団地について全戸建替え方針を打ち出した。当初の建替計画（案）は、平成一七年～二九年（五期一三年）、建替戸数一、一二六戸を整備するもので、事業実施に当たっては、団地居住者に対してパンフレット等で周知を図り、全体説明会を開催するなど、具体的な内容の説明を行ってきた。その後、計画は順調に進んでいくものと思われたが、大規模団地になればなるほど、棟やブロックごとに再生を必要とする理由や要求の水準が異なってくるため、全棟が同じ改修を行う、あるいは、建替えることについての合意形成が難しく、一部の建替え団地対象居住者からは強い反対意見が出たという。

都は、その後も自治会と真摯に折衝を重ねてきたが、理解が得られず、平成一六年には事業を一定期間ストップしなければならない事態が生じた。都及び市も事業の推進を強く望んでおり、その後も意見交換等を行ってきたが、しばらくの間、凍結状態が続いた。それから五年が経過し、平成二二年に自治会が再び都に建替要望書を提出したことから、都は市と協議等を再開し、計画等を一部見直し、事業を再スタートさせた。

見直し後の建替計画については、居住者の理解も得られ「緑ヶ丘団地」の建替事業が再び動き出した。建替計画期間は、平成二三年～三六年（五期一四年、一五棟、一、二一八戸）で、第一期工事は二六年一二月に終了し、現在、第二期工事を行ったところであるが、昭和の一コマがまた一つ消えてしまうのは、ちょっと寂しい感じもする。

新しくなる「緑ヶ丘団地」でも、地域の活性化、コミュニティの形成など課題はあるが、今は、団地再生を目指し、建替事業に全力を注いでいかなければならない。

（二〇十五年六月三〇日 記）

緑ヶ丘地区の防災への取り組みと今後のまちづくり

緑ヶ丘・仙川まちづくり協議会
副会長・事務局長　渡邊俊明

地震、台風等により大規模な災害が発生した場合には、家屋の損壊やライフラインの途絶等により、多数の市民が自宅での生活が困難となり、避難所において長期間にわたり共同生活を営むことになる事態が考えられます。

地震国、日本において、今後三〇年以内に七〇％以上の確率で発生が予測されるM八クラスの東南海地震。最近も関東で震度五・四、調布でも震度四を記録。震度五弱以上の地震が発生した場合、当地区は緑ヶ丘小学校、第八中学校のいずれかに避難することになっています。

東日本大震災後、四年経過するも、復旧は未だ半ばで、福島地区では東京電力の原子力発電所の放射能漏えい事故により、被害住民の帰郷の目途は未だについていません。

避難所は、学校の体育館や公共のスポーツ施設が指定されていますが、施設の構造や設備の面において、その機能を十分に果たしているとはいえず、高齢者・障害者等の災害時要援護者を含む市民に対して、運営面で細かい配慮が必要となります。

そこで、緑ヶ丘・仙川まちづくり協議会では、緑ヶ丘小学校、第八中学校の教員の協力の下、避難所運営マニュアル検討委員会を平成二四年五月に立ち上げ、一四名のメンバーが一〇回に及ぶ会合の結果、二五年四月に調布市で最初の『緑ヶ丘小・調布第八中 避難所運営マニュアル』（六〇頁）を発行し、甲州街道から北側地区の約三五〇〇世帯に全戸配布しました。

仙川周辺の他の地区協議会では、若葉学校地区協議会が平成二六年一月、きずな（滝坂小学校地区協

議会）が二六年三月に避難所運営マニュアルを発行しています。

また、緑ヶ丘一丁目の西部地域では、平成三二（二〇二〇）年の東京オリンピック時の開通を目指して、外環道路建設が急ピッチで進行中です。国交省の予定では三一年度が完成予定ですが、東京都は、オリンピックまでの開通を強く求めています。

この地域では、ようやく立ち退きが本格化し、来春までには外環予定地の移転が完了する予定とのことで、来年度から工事が本格化します。

外環道路完成後の新たなまちづくりを考えなければならない時期になってきていますが、実際にはそうではありません。緑ヶ丘西部自治会では、自治会内を通り東八インターチェンジを利用する通過交通を軽減させ、児童・生徒やお年寄りが安心して歩ける道を目指し、国交省や関係機関と話し合わなければなりません。

この他、外環道は大深度地下の道路ですが、西部自治会地域は、ジャンクション（高速道路と高速道路が連絡）であり、大深度法の適用外になります。このため地盤沈下、地下水汚染、低周波被害、集中排気（排気塔二本）による大気汚染などが懸念されています。

さらに、緑ヶ丘団地内を通り、東京緑ヶ丘幼稚園をかすめて通る調布三・四・一七号線／三鷹三・四・一一号線は、外環用地で分断された井の頭道路と連絡しますが、これをめぐる諸問題への対応等、問題が山積しています。

これらの問題が解決した後で、初めて子供や高齢者にやさしい、新たなまちづくりを考えていくことになります。

その後、避難所運営マニュアルについて、本年四月に一六頁の要約版を刊行することができました。

これは、教職員、市職員の初動要員（担当学校ごとに五名）が参集しにくい平日夜間や休祭日の災害発生から二四時間以内については、地域住民が中心になって避難所の運営を行なうこと等について重点的にまとめたものです。

今後の地域防災訓練では、体育館内での実際の個人の使用スペースの体験や仮設トイレの設置、避難者への連絡方法など、マニュアルの記載に沿った実地訓練を多く取り入れ、安全・安心な街づくりを目指して活動を続けていきます。

※まちづくり地区協議会……調布市が主導する、小学校区をコミュニティエリアとし、自治会やＰＴＡ、商店会や消防団などの様々な地域団体や個人によって構成されるまちづくりネットワーク。調布市には二〇の小学校がありますが、平成二七年五月現在、一五の地区協議会が設立されております。緑ヶ丘・仙川まちづくり協議会は、調布市で三番目の地区協議会として発足し、平成二二年六月、創立一〇周年記念式典を挙行しました。

※地区協議会ができると……（市の主張）

①地域が連携・協力することで、地域の連帯感が生まれます。

②地域情報の共有や各種団体の連携により、知識・経験を活かし合った、よりよい地域活動が可能になります。

③地域全体の連携・協力により、地域全体の課題解決につながります。

④地域交流が盛んになることで、新たな地域の人材発掘が可能になります。

⑤情報提供、五〇万円を限度とする活動費の助成、活動のＰＲなど、市が活動を支援します。

実篤〝賛〟と緑ヶ丘〝恋〟に寄せて

杉本恒

真理の前には頭を下げる。正義の下には立つ。愛の前には涙ぐむ。しかしその他のものは我等に活用されても、我等を利用することはできない。

「君は君 我は我也 されど 仲良き」

「自己と他人の生命を尊重する」

「自分たちは先ず自分である」

「我等は人類に向かって恥じなければならない」

「勝利はどうしても真理に近いものがある」

「勉強、勉強、勉強、勉強のみよく奇跡を生む」

真理を得た言葉は世代を超えて生き生きとしていますね。

「好きなことをして暮らす」自由、不自由を見極めた生き様にとても感銘します。

のびのびとした、おおらかな、大きい存在である武蔵野の面影に「縁」を見出し、仙川の地に居を構え、あるがままを見守り大切にされた心意気を感じております。

さて、私ごとではありますが、この仙川に移り住むに至るまでに妹背結びから数えること八年。杉並、八王子、三鷹市牟礼と移り住み、その間二人の子宝に恵まれました。自然豊かな仙川・緑ヶ丘にて三人目を授かり一四年目を迎えようとしております。当初より緑ヶ丘の地に恋い焦がれ八年の歳月を要し、新参者として地域の皆様との関わりを通じて感じたことがあります。言いたいことははっきり伝える一方で子供や病人、老人をいたわり尊重する風土が育まれていることを素直に感じました。今でも地域社会の絆に支えていただき、安心して暮らせることはありがたく感謝の念でいっぱいです。

実篤がこの仙川の地をベースに世界へ発信した思いと感じております

「自由なるもの、不自由なるものを自らの意志で分け隔て、如何に自由なる道を歩み続けるか、継続できるか」なるテーマを自らに課し、人との触れ合いを通じて兄弟が一人でも多く増えることが「新しき村」に期待されていると感じ入ります。今回このようなテーマで自らを振り返る機会に恵まれたことに厚く御礼申し上げますと共に、仙川が継続して新しき街として育まれることを祈念しております。

（緑ヶ丘二丁目）

子供たちの心のふるさと「緑ヶ丘」

調布市立緑ヶ丘小学校 校長 鈴木祐介

仙川駅改札口を出て、仙川商店街通りを北に向かって歩き、甲州街道を渡り、〝ゆるゆる〟とした緩やかな坂道に背中を押されて弁天橋をわたると、そこはもう緑ヶ丘地区です。

「どうせ緑ヶ丘なんて名前だけでしょう?」とあなたが思われたとしたら、それは大違いだと間もなく気付かれることでしょう。仙川沿いの遊歩道には木々の緑が多く、この緑のトンネルに囲まれた道はどこまで続いているのだろうと不思議に思います。更に調布市立緑ヶ丘小学校にたどり着けば、学校に接する「みんなの森」にはびっくりされることでしょう。なにしろ校舎より背の高い木々が背伸びしながら学校に向かって微笑んでいるのですから……。

緑ヶ丘に暮らす方々はみんな親切です。団地に住む方々が道端の花壇を手入れしてくださり、草花が登校する子供たちの目を楽しませてくれています。「素敵な街だなあ」と感心することしきりです。

そんな素敵な街に私たちの「調布市立緑ヶ丘小学校」があります。子供たちは、みな素直なよい子たちばかりです。それには理由があります。保護者や本校を卒業された方、地域の方々が緑ヶ丘に暮らす子供たちに様々な関わり合いを持ってくださっているからです。

「ミドリンキャンプ」と呼ばれる宿泊行事や「児童館祭り」と呼ばれる子供たちによる地域文化祭などなど、子供たちが夢中になる取り組みが開催され、それを地域の大人たちが支えているところが素晴らしいのです。

どの行事も、子供たちの興味を引く部分を押さえているので、子供たちは嬉々として取り組みます。例えば、「キャンプ」はテントに宿泊したり、キャンプファイヤーをしたり、食事を作ったり……。「児童館祭り」では、お店屋の店員やゲームの係員をしたり、普段体験出来ないことなので、みんな「ここぞ!」とばかりに熱中します。子供たちは、そんな楽しい行事がある緑ヶ丘の地域を自然と好きになっていくのに違いありません。

緑ヶ丘の地域に住んでおられる方々からも、「一度は他の地域に

仕事や結婚で転出したのだけれど、また緑ヶ丘に戻ってきました……」という話をよくお伺いします。そんな「心のふるさと」となる雰囲気が、この緑ヶ丘の地区にはあるのです。

近い将来、緑ヶ丘団地の真ん中を立派な都道が開通します。そうすると街の様子も一変するでしょう。そんな便利な街になって街の様子がすっかりと変わってしまっても、緑ヶ丘小学校に学ぶ子供たちが成長して自分の子供が誕生した時には、「あんなワクワクする行事を、自分の子供にも体験させたい！」と、親として赤ちゃんを連れて緑ヶ丘に戻ってくるでしょう。緑ヶ丘はその様に、「心のふるさと」という言葉がピッタリくる地域なのです。

「お茶のみクラブ」が三〇歳に

前橋弘子

緑ヶ丘に地域福祉センターができて三年目、受付けで「おしゃべりだけでいいのよ。お茶をのみながら世間ばなしをするだけの、そんな会はないかしら」と話しているのを耳に。母と同居をはじめて間もなくの私は、とびつくように「母とお友だちになっていただけませんか」と声をかけました。「いいわね」「私は来週の月曜日、お友だちに声をかけてここに来ましょう。会の名前は『お茶のみクラブ』ではどうかしら、会費は百円。お茶菓子はみつくろってきますね」永合トメさん七三歳と、私の二人の立ちばなしで即、決まりました。

次の月曜日、永合さんが誘った方が二人。一人は息子さんといっしょに。私は八二歳の母を車椅子で。計六人が談話室でおしゃべりをしました。そして、「月一回ではつまらない、月二回お会いしましょう」と。

おしゃべりをしながら、折り紙をしたり、うたったり、時には踊ったり。少しずつ人が増え、今では第一月曜日はごはんの日、第三月曜日はおかしの日として、調理班が運営の要になっています。「できる時に、できることを、できる人が」を合い言葉に、楽しい時間を紡いでいます。毎回、二五・六人の方々が参加しています。

たくさんの出会いと別れを重ねてきました。

今では、高齢者への施策も手厚くなり、デイサービスや介護施設もたくさんできました。それだけに、別れ方はさまざま。以前は、「娘の所に行くようになったから」とお別れを言ったミヨちゃん。「母が亡くなりました」と娘さんからのごあいさつなど。今は、姿がみえなくなったら、推察するしかありません。介護施設に入っても、面会もむつかしい。きっと、新天地でせい一杯、生きてらっしゃるだろうと想像をしています。

一期一会で、たのしく過し、「元気で、またね」と別れます。「またがあるといいけど」と今年九〇歳になる山本さん。先輩方の姿が自分の老い姿に重なり、学ぶことの多い「お茶のみクラブ」です。

十年目を期して発行をはじめた「お茶のみだより」は七月号で二九二号になりました。会員の本音をポロリ、聞かせていただくのも楽しみ。会員外の読者も、待っていてくださいます。

（仙川町二丁目）



緑ヶ丘・お茶のみクラブ
（創立３０周年）
会場　緑ヶ丘地域センター
電話03−3326−4861
毎月第1・第3月曜日　午後1時から
（会費　1回　300円〜100円）



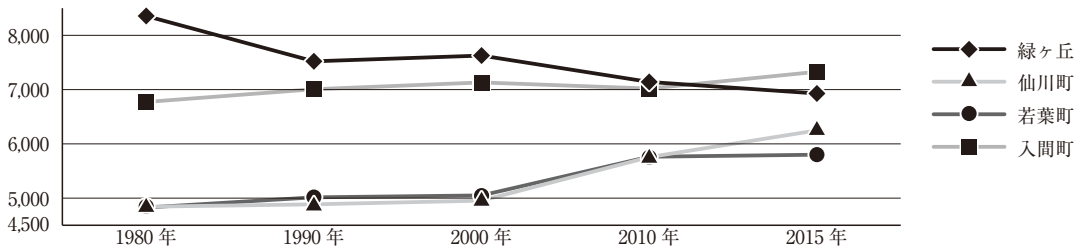
四季折々の庭木と植栽
調布フラワーガーデン
調布市緑ヶ丘2−66−4　☎3308−0052

資料－１　仙川地区の町別世帯・人口数の推移

	1980 年		1990 年		2000 年		2010 年		2015 年		2015 年人口数
	世帯数	人口数	世帯数	人口数	世帯数	人口数	世帯数	人口数	世帯数	人口数	対 1980 年比
緑ヶ丘	2,806	8,356	3,019	7,521	3,430	7,627	3,521	7,141	3,403	6,928	82.9%
仙川町	1,933	4,842	2,279	4,886	2,662	4,954	3,387	5,756	3,712	6,248	129.0%
若葉町	1,982	4,827	2,346	5,015	2,567	5,050	3,068	5,763	3,057	5,800	120.2%
入間町	2,727	6,772	2,654	7,007	2,947	7,132	3,203	7,019	3,324	7,328	108.2%
総　数	9,448	24,797	10,298	24,429	11,606	24,763	13,179	25,679	13,496	26,304	106.1%

原データ）　住民基本台帳　各年１月１日

資料－２　町別人口の推移



資料－３　仙川地区の人口高齢化の推移

	1995（平成 7）年					2014（平成 26）年					高齢者人数
	総　数	高齢者（65 歳以上）		内数（75歳以上）		総　数	高齢者（65 歳以上）		内数（75歳以上）		対 1995 年比
		人数	%	人数	%		人数	%	人数	%	
緑ケ丘	7,643	1,072	14.0	395	5.2	6,941	1,946	28.0	1,057	15.2	181.5%
１丁目	2,779	339	12.2	127	4.6	2,475	623	25.2	307	12.4	183.8%
２丁目	4,864	733	15.1	268	5.5	4,466	1,323	29.6	750	16.8	180.5%
仙川町	5,097	580	11.4	210	4.1	5,921	962	16.2	481	8.1	165.9%
１丁目	2,858	322	11.3	119	4.2	2,788	521	18.7	254	9.1	161.8%
２丁目	1,406	153	10.9	51	3.6	1,788	271	15.2	132	7.4	177.1%
３丁目	833	105	12.6	40	4.8	1,345	170	12.6	95	7.1	161.9%
若葉町	5,410	668	12.3	260	4.8	5,727	1,153	20.1	599	10.5	172.6%
１丁目	2,545	415	16.3	160	6.3	2,464	588	23.9	327	13.3	141.7%
２丁目	1,799	190	10.6	72	4.0	2,252	426	18.9	196	8.7	224.2%
３丁目	1,066	63	5.9	28	2.6	1,011	139	13.7	76	7.5	220.6%
入間町	7,027	808	11.5	268	3.8	7,126	1,631	22.9	843	11.8	201.9%
１丁目	2,812	365	13.0	119	4.2	3,216	764	23.8	401	12.5	209.3%
２丁目	2,683	259	9.7	87	3.2	2,396	535	22.3	274	11.4	206.6%
３丁目	1,532	184	12.0	62	4.0	1,514	332	21.9	168	11.1	180.4%
総　数	25,177	3,128	12.4	1,133	4.5	25,715	5,692	22.1	2,980	11.6	182.0%

原データ）　住民基本台帳　各年１月１日

資料－４　調布市の高齢者の将来推計

	総数	65 歳以上				高齢者人数 対 2014 年比
				内数 75 歳以上		
		人数	%	人数	%	
2014（平成 26）年	220,157	45,303	20.6	22,155	10.1	－
2024（平成 36）年	230,185	52,091	22.6	30,413	13.2	115.0%

出所）　調布市の将来人口推計　2014 年 3 月









「若葉の森」から「永野さんの森」へ

写真：大村哲夫

①～⑤：若葉町の国分寺崖線の森で。⑥⑦：入間町の屋敷林近くで撮影。②のように木の間越しに富士山が望めることも（2011年12月）。
③：舗装道路ぎりぎりに咲くギンラン（絶滅危惧種）。
④：キンラン（同前）とコガネムシ。





⑥



⑦



入間町周辺地区における街づくりについて

調布市都市整備部
都市計画課

入間町周辺地区は、『調布市マスタープラン』において緑豊かな崖線や雑木林を「調布の森」として保全することとしています。また、『調布市景観計画』では、景観形成重点地区として国分寺崖線地区に位置づけられており、緑を保全した街づくりを目指すこととしています。

平成十一年の成城グリーンプラザ（サッポロビール所有地）の売却や十九年にＮＴＴ東日本（株）の社宅跡地の一部売却によりマンション計画が浮上しました。入間町周辺に残る緑は「民有地の緑」であり、マンション開発など市街化傾向が高まれば今ある良好な自然環境が破壊され、無秩序な市街地が形成されるのではとの地域住民の危機感が高まりました。

平成二十二年頃から入間町樹林地に関する地元勉強会も開催され、現在、入間町周辺地区で活動されている「入間町・緑につつまれた街づくりの会」の設立のきっかけにもなっています。

調布市では、平成二四年に入間町周辺地区の街づくりを進めるにあたりアンケート調査の実施や街づくり懇談会を開催しました。入間町周辺の自然環境を守るためには、あらかじめ街づくりのルールを定めることが重要であり、調布市では地区計画制度を活用した街づくりの検討を行っています。

平成二六年七月には、国分寺崖線の緑や野川などの自然環境を守り、これらの自然環境と調和したゆとりある住環境を備えた街づくりを目指し、ＮＴＴ中央研修センタ敷地を含む面積約35・8haの区域において、「入間町周辺地区地区計画」の都市計画決定を行いました。

■土地利用の方針

本地区は，５つのゾーンに分け，国分寺崖線の緑を保全しつつ，秩序ある土地利用を図る。

(1) 緑地保全ゾーン
斜斜面緑地及びその周辺の雑木林を中心とした緑地は，地域の資源として現状の自然環境を保全する。

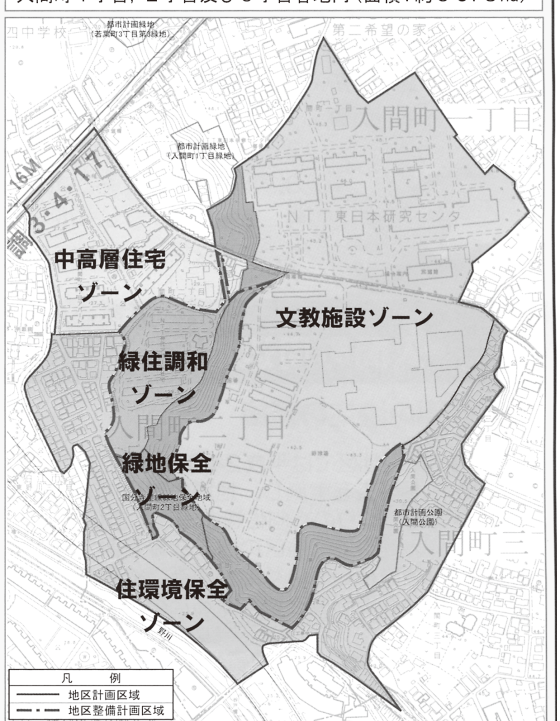
(2) 文教施設ゾーン
緑豊かな環境を維持した文教施設にふさわしい土地利用を図りつつ，隣接する斜面緑地に配慮した緑豊かな街並みの形成を図る。

(3) 緑住調和ゾーン
隣接する斜面緑地や周辺低層住宅地と調和した連続性のある緑豊かな街並み及び快適な居住環境の形成を図る。また，野川へとつながる歩行者空間や公園を配置することにより，水と緑のネットワークを形成し，地域住民の憩いの場を創出する。

(4) 中高層住宅ゾーン
現在の良好な居住環境を保ち，緑豊かな街並みの形成を図る。

(5) 住環境保全ゾーン
隣接する斜面緑地と調和した緑豊かな街並みの形成を図る。

地区計画区域
入間町１丁目，２丁目及び３丁目各地内（面積：約３５．８ha）

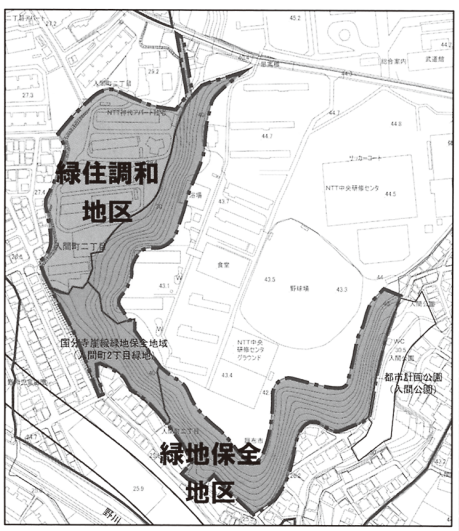


この都市計画決定では、ＮＴＴ所有の斜面緑地を地区施設に位置付け、恒久的に斜面緑地を保全することが可能となりました。また、斜面緑地に隣接するマンション敷地では、容積率の低減、斜線制限の強化、緩衝緑地及び緑化率に関するルールを定め、当該緑地と調和した緑豊かな街並みの形成を図ることとしました。

調布市においては、保全型の地区計画の導入は初めてのことでしたが、地域の方々の緑地に対する思いをＮＴＴ東日本(株)が真摯に受け止めてくださったことや、当該緑地との調和を図るための各種ルールについて各開発事業者のご理解とご協力が頂けたことが大きな原動力となったものです。

引き続き、国分寺崖線の緑や野川などの自然環境を守り、自然環境と調和したゆとりある住環境を備えた街づくりを段階的に進めてまいりますので、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

（二〇十五年七月二二日 記）



建築物・土地の利用に関する事項	緑地保全地区（約3.0ｈａ）	緑住調和地区（約1.9ｈａ）
建築物等の用途の制限	原則建築禁止	－
建築物の容積率の最高限度	－	150%
建築物の敷地面積の最低限度	－	5,000㎡
壁面の位置の制限	－	道路，隣地境界から2m その他の公共空地境界から4m
建築物等の高さの最高限度	－	25m第１種高度地区の水準
壁面後退区域における工作物の設置の制限	－	原則設置禁止
建築物等の形態又は色彩その他の意匠の制限	－	建築物の形態又は色彩は，周辺環境との調和を図り，景観に配慮
垣又はさくの構造の制限	生垣又は透視可能なフェンス等とする	原則，生垣又は透視可能なフェンス等とする
建築物の緑化率の最低限度	－	敷地面積の25%以上
土地の利用に関する事項	－	緩衝緑地の設置 （２号及び３号壁面後退区域）
現に存する樹林地，草地等の保全に関する事項	樹林地として保全 （緑地１号・２号間敷地）	維持及び保全

■地区施設

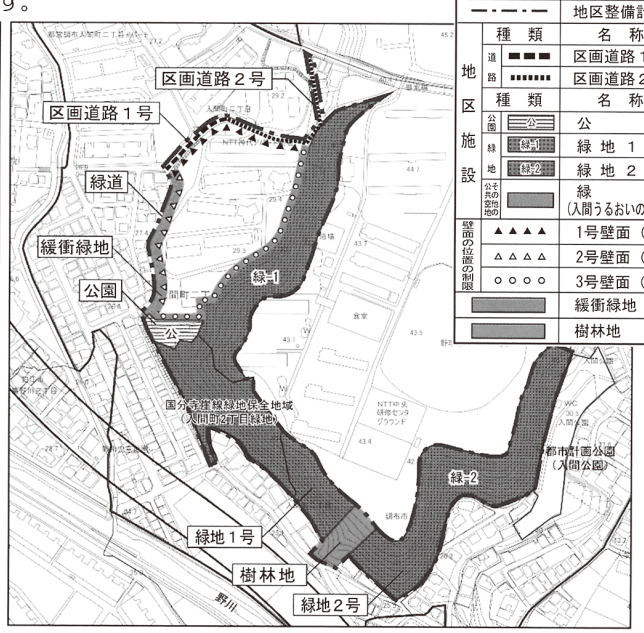
道路，公園，緑地等を地区整備計画に定めることにより，その位置や規模，機能を担保しています。



野川からの眺め



緑地１号

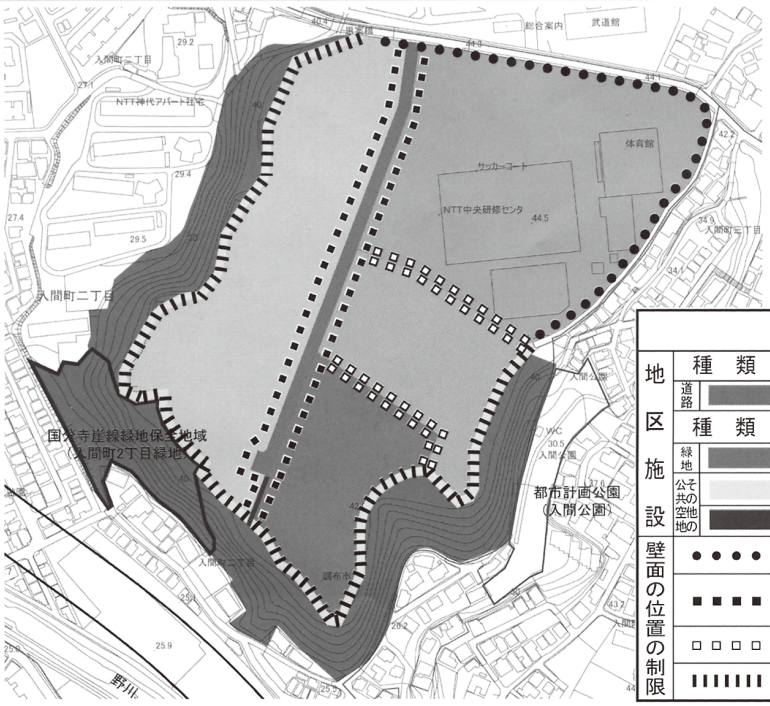


凡　例

――――	地区計画区域			
－・－・－	地区整備計画区域			
地区施設	種類	名称	幅員	延長
	道路 区画道路１号	区画道路１号	8m	約 70m
	道路 区画道路２号	区画道路２号	6m	約160m
	種類	名称	面積	
	公園 公	公園	約 1,060㎡	
	緑地 緑-1	緑地１号	約18,000㎡	
	緑地 緑-2	緑地２号	約11,000㎡	
	その他の公共空地	緑道（人間うるおいの小径）	約 700㎡	
壁面の位置の制限	▲▲▲▲	1号壁面（2m以上）		
	△△△△	2号壁面（4m以上）		
	○○○○	3号壁面（2m以上）		
		緩衝緑地		
		樹林地		

■（仮称）文教福祉関連施設地区地区施設（案）の検討

出所　2015年6月27日街づくり懇談会資料
調布市都市整備部都市計画課



土地利用凡例
ＮＴＴ中央研修センタ宿泊棟
学校施設
福祉施設１
福祉施設２

凡例				
地区施設	種類	名称	幅員	延長
	道路	区画道路３号	9m	約330m
	種類	名称	面積	
	緑地	緑地	約31,000㎡	
	公その共の空他地の	樹林地	約 5,300㎡	
		通路	約 100㎡	
壁面の位置の制限	●●●●	4号壁面（道路境界5m以上）		
	■■■■	5号壁面（道路又は通路境界5m以上。うち歩道状空地1.5m以上）		
	□□□□	6号壁面（隣地境界5m以上）		
	▮▮▮▮▮▮▮	7号壁面（隣地境界8m以上）		

■土地利用構想図：建物等配置図

出所　2015年3月22日近隣住民説明会資料より作成
株式会社NTTファシリティーズ中央　建設事業本部渉外室



■開発及び道路設置者　　：東日本電信電話株式会社
■文教：施設１【学校（中学校）】　：学校法人東京学園高等学校
■福祉：施設２【サービス付き高齢者向け住宅及びサービス付き分譲住宅（借地権付き）】
　　：エヌ・ティ・ティ都市開発株式会社
　　テルウェル東日本株式会社
■福祉：施設３【特別養護老人ホーム及び保育園もしくはこども園】
　　：社会福祉法人桐仁会



森と共生する、エコと防災の「まち」を

大村哲夫

入間町のＮＴＴ中央研修センタの南側敷地が様変わりします。センタの宿泊棟があるエリアを除いた土地に新たに私立中学校（中高一貫校）と二つの福祉施設群（福祉関連住宅と高齢者福祉施設・子育て施設）がつくられるのです。

この地区は昨二〇一四年に「入間町周辺地区地区計画」（三五・八ha）が都市計画決定されたばかりですが、調布市は上記の施設建設を前提に、今年度中に地区計画の一部変更や土地利用のルール化などを進める方針で、六月二七日に地元で「懇談会」を開きました。

今回、三施設が建設される場所は、国分寺崖線の斜面林に囲まれた緑豊かな土地で、この地区計画自体、調布では初めての環境保全型地区計画とされてきました。私は崖線樹林地の保全活動に参加していることもあり、この開発計画には、期待とともに危惧を抱いています。

〈実際の地区計画の「緑地」より大きい森は守られるのか〉

地区計画では崖線斜面林二・九haが緑地保全地区に指定され、樹林として保全することが決まっています。しかし、グーグルアースなど空撮写真を見ればわかるように、実際の森は、指定された「緑地保全地区」よりもはるかに分厚く広いのです。とりわけ福祉施設用地となる南東側では、平坦な敷地内（緑地保全地区の外）にも森が広がっています。敷地を最大限「有効」活用しようとすれば、この森を伐ることが必要とされるかもしれません。中でも「福祉施設２」用地では、森がその敷地の南側部分を覆っています。この森が伐られるのか、守られるのか。大きな問題です。懇談会で配布されたパンフレットの図「検討区域の状況」では「緑地保全地区内の緑と計画敷地内の緑との調和を考える必要があります」との表現にとどまっています。これでは何のことだかわかりません。

ＮＴＴ中央研修センタ周辺の森は若葉町から世田谷・成城方面に連なる崖線樹林グリーンベルト「調布の森」の中核をなしています。他ではかろうじて繋がっている森が、ここでは奥行きがあり、絶滅危惧種の植物の群生地が含まれ、オオタカ（森の生きものの食物連鎖の頂点に立つ）をはじめ、多くの野鳥や昆虫のすみかになっています。

日本は一九九三年に生物多様性条約の締結国となり、二〇〇八年に生物多様性基本法を施行し、東京都は一二年に「生物多様性の保全に向けた基本戦略」を策定しました。この森を削って動植物の場所を奪うのではなく、土地利用ルールとして、緑地保全地区以外の森も保全することを決めるべきです。

なお、崖線台地の下では、この森に接して、大規模なマンション建設工事が進行中です。そこは地区計画の「緑住調和ゾーン」ですが、九階建ての棟が建ったところでは、周辺道路から森が見えなくなっています。行政は「国分寺崖線景観基本軸」の景観形成基準によって、このようなことが起きないよう指導してきたはずですが、うまくいっていません。同じことが繰り返されないよう望みます。

〈環境負荷を少なくし、エネルギーの自給自足をめざす〉

国分寺崖線の森に囲まれて建つ三施設は、その素晴らしい立地を活かした環境共生、エネルギー自立の未来型の「まち」を形作ってほしいと思います。まず、各施設が太陽光発電と蓄電池、太陽熱パネルを備えエネルギーの自給自足を図る。バイオマス燃料（たとえばゴミ、食品残渣、間伐材）で各施設に熱（温水）を供給する「工場」を共同で設けるのも良いでしょう。

開発によって雨水が今以上に地中に浸透しなくなる恐れがあり、これは森にも少なからず悪影響を与えます。逆に、雨水浸透率を高め、上水道由来の生活排水の一部も浄化して地中に浸透すれば、枯渇して久しい崖線下の湧水の復活も夢ではないでしょう。

学校用地に接する崖線斜面（緑地保全地区）には絶滅危惧植物が

群生します。授業のカリキュラムに森の保全作業を組み込んで、生徒たちが日々生きものと接して学ぶ場にすると良いでしょう。

今回の開発用地は、かつて花見の時期に数日間、一般に開放され、私も何度か中に入りました。そのとき強く感じたのは、桜花やタチツボスミレの美しさとともに、大災害発生時にはこの場が、ある程度の期間、多数の市民が過ごすことのできる避難場所になりうるだろう、ということでした。上記のような設備は、ライフラインが絶たれた時にたいへん役に立つものばかりです。

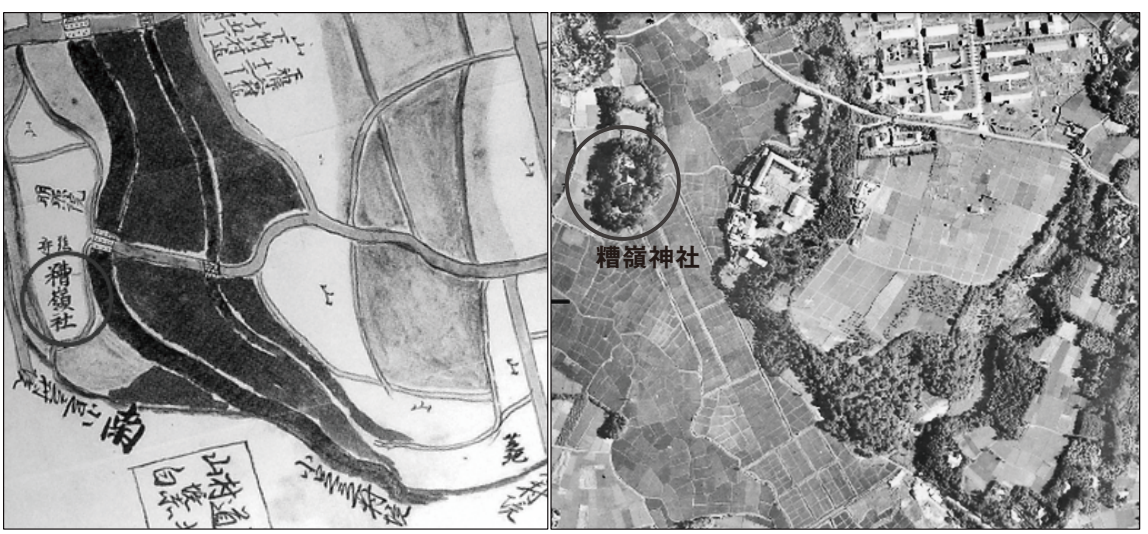
学校と福祉施設は民間によって建設・運営されますが、行政は土地利用ルールで森の保全を義務づける一方、上記の環境共生・エネルギー自立や防災のための施設には最大限の補助・支援をしてほしいと思います。

〈施設をつなぎ、地域とつないで、未来へつながる〉

学校と福祉施設はそれぞれ目的が違います。だからと言って、敷居を高くするのではなく、森の恵みのもとに多世代の人々がこの地に集うメリットを活かしてほしいのです。前記の熱を供給する工場を共同で設けることも一つですが、研修センタ（給食設備があるはず）と合わせて共用の食堂・カフェをつくれないでしょうか。地域住民にも開放して、多様な人々が出会う場にしたい。そして、運営をハンディキャップのある人たちの団体に委託することができれば、なお良いと思います。

地区計画による「まちづくり」とは、地区内の道路や建物などハード面を決めるだけでなく、そこで営まれる活動や暮らしを視野に入れ、ソフト面を含めて、未来につながる夢のある「まち」を実現する企てであってほしいのです。今回のように九・五haもの広さで、公共的性格の強い施設で構成される「まちづくり」はその絶好の機会です。実現すれば、大いに注目されるでしょう。各施設事業者による計画がすでに出来つつあるのでしょうが、今からでも遅くありません。行政は地域住民をはじめ、広く市民や専門家の意見と知恵を集め、事業者に積極的に働きかけてください。

（若葉町一丁目）



NTT 中央研修センタ（南側）の昔――150 年前の絵図と 70 年前の写真

左は明治 2（1869）年の「入間村村絵図」部分図（出典：調布市教育委員会『調布の古道・坂道・水路・橋』）。右は 1945 ～ 50 年にほぼ同じ範囲を撮影した写真（出典：国土地理院ホームページ http://maps.gsi.go.jp/#16/35.650636/139.581567）。絵図と写真を比べると、土地利用の仕方はほとんど同じだ。糟嶺神社（○で囲んだ）と崖線の間の低地は水田（絵図では濃いグレー）で、入間川（絵図では黒線）が流れる。崖線上の台地には畑（絵図では薄いグレー）が広がる。畑は、肥料や燃料を採取した雑木林で囲まれていて、絵図では「山」と書かれている（関東平野では今でも雑木林を「山」と言う）。150 年前の絵図と 70 年前の写真で、ほぼ同じ場所に森があり、写真で見る研修センタの森は、現状とあまり違わない。つまり、この森は 150 年前からずっと続いている。（大村）



国分寺崖線「入間一丁目樹林地」を保全する

入間・樹林の会 代表
安部宝根（たかね）

国分寺崖線は立川から大田区まで全長約三〇キロメートル、多摩川と野川に沿って一〇万年にわたって武蔵野段丘、立川段丘の土砂が削られてできた崖の連なりである。調布市エリアでは、東西に横断した一〇～三〇メートルの高低差のある斜面地に雑木林が点在し、貴重な緑地帯として景観を形成している。緑地が連なった景観は東京都の景観基本軸（一九九六年四月）に位置づけられ、調布市でも景観重点地区に指定され（一四年三月）、市の景観の重要な位置づけとなっている。

――野川に沿って連なる崖線と入間川に沿って連なる崖線を含む国分寺崖線地区は、国分寺崖線及び国分寺崖線と一体となって景観を創り出している地域であり、国分寺崖線の低地側は、崖線と低地との境界部からおおむね 三六〇メートルまでを範囲とし、また台地側は、崖線と台地との境界部からおおむね八〇メートルまでを範囲としています。――調布市景観計画より

二〇〇〇年七月から、調布市で初めて市民参加での樹林地保全活動として入間町一丁目の市有地（約一〇〇〇平方メートル）で入間里山復活作戦事業をはじめた。地域や周辺住民によびかけ、毎木（まいぼく）調査や現地観察会を実施し樹林地の保全管理とともに樹林の将来像を具体化することとなった。入間一丁目樹林地には、以前は二軒の民家もありコンクリートたたきが残っていたり、マテバシイ、スギ、ヒノキが密生した植木だめがありＮＴＴ敷地との境界坂からみてもうす暗い森だった。十一月にはちょうふ環境市民懇談会設立シンポジウムで、将来像「誰もが行ってみたくなる林」を発表し保全活動や樹林地の活動をめざした「入間・樹林の会」も同時に発足した。

二〇〇一年一月からは、周辺の崖線観察会（若葉町等）の実施、埋土種子調査、一メートル四方の方形枠を八カ所設けた枠内の植物調査を行うなどで樹林地のことを知るきっかけとした活動を行った。十二月より月一回の保全管理作業を始めたが、「どのような林にしていくか将来像を描きながら話し合いを積み重ねていった。年四回の方形枠調査は、どのような植物が生えているか植被率（被度・群度）など調査し、現在まで継続している。

月一回、第三日曜日の午前中を定例活動日としているが、その保全活動目標は①私からかかわる樹林、②誰もが行きたくなる樹林、③ゆっくり作業を楽しむ樹林、④地形に応じた保全・管理をする樹林、である。雑木林の広場、シャガの広場、マテバシイの広場、つばきの森、と命名した四つの区域（ゾーニング）に分け、それぞれの特徴に応じて下草刈り・樹木の伐採、遊歩道の整備などを計画的に行っている。

二〇〇五年より、市の国分寺崖線重点整備三カ年事業がはじまり公園整備のためのワークショップには会のメンバーも中心的に関わり、周辺住民と意見を交換しながら通路整備、民家跡地のコンクリートの撤去などをし、〇八年五月には市民にも一部開放されるようになった。この間、追加取得した西隣の市有地も含め、現在では五二〇〇平方メートルの敷地となっている。

会の活動としては、子どもたちが遊べる林、環境教育のフィールドと馴染んでもらうため、児童館に呼びかけシュロ縄づくり、リース作り、マテバシイのクッキーづくりなどの共同事業や野鳥観察会も年一回実施するようにしてきた。二〇一〇年度には、調布市市民活動支援センターのえんがわファンドを活用し、Ａ４版三つ折りリーフレットを作成し活動の広報につとめた。一一年度から三年間、セ

ブンイレブン記念財団助成金を活用し、道具の購入、落ち葉だめ整備、野鳥観察会用の双眼鏡の購入、終了年度には『入間樹林地の植物』としてこれまでの植物調査のまとめの図鑑を発行するなど、助成金を活用して活動の幅を広げてきている。

入間一丁目樹林地には、大本としてケヤキ、ムクノキ、エノキ、クヌギ、コナラ、アカシデ、イヌシデ、ミズキ、コブシ、アカメガシワなどの落葉樹、シロダモ、マテバシイ、シュロ、サザンカ、ツバキ、スギ、サワラ、シラカシ、トウネズミモチ、タイサンボクなどの常緑樹がある。春にはツボスミレ、ハルジオン、カタバミ、ヤブニンジン、タチツボスミレ、キランソウ、オオニタビラコ、キンラン、シャガ、ウラシマソウ、ニリンソウ、ホウチャクソウ、コブシ、エゴノキ、ヤマブキなど、夏には、アジサイ、ドクダミ、キツネノカミソリ、ヤブタバコ、ヤブミョウガ、クサギなど、秋には、キチジョウソウ、ヤブラン、トネアザミなどの花が観察できる。鳥は、メジロ、シジュウカラ、コゲラ、アオゲラ、ヒヨドリ、ムクドリ、エガラ、ウグイスなど、冬にはツグミなども観察できる。

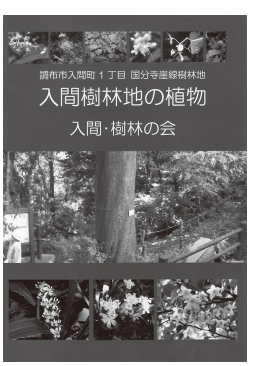
現在、登録メンバーは二〇数名だが、実際に活動している人は、月平均一二名。市の雑木林ボランティア養成講座受講生が終了後活動に参加してくれ、メンバーも増加しつつある。しばらく親の介護や体調不良で参加できずに休んでいる人もいるが、出入り自由な会なので参加できるときに活動し無理しないで緩やかに活動を継続している。毎年一月には活動終了後、樹林地での鍋パーティーが恒例であり交流を続けている。

二〇一三年には、樹林地保全活動団体への支援を目的として市要綱も整備され、パートナーシップがうたわれた。一五年三月には、調布市崖線樹林地の保全管理計画（若葉町・入間町）も整備された。樹林地、特に国分寺崖線は一度開発で失われると再生は難しい。市との協働により、保全活動が市民にも周知されてくることで、市民にとっても快適な林となり散策や環境学習のフィールドとしても活用されることにつながるといえる。多くの市民が関心をもつことで、保全活動への参加が増えることも期待していることである。

（入間町二丁目）



入間樹林の４つの区域（ゾーニング）
出典：国土地理院の地理院地図（http://maps.gsi.go.jp/#18/35.652253/139.587178）をもとに編集部が作成



編集・発行：入間・樹林の会
2014年3月初版発行

仙川への想い

青木史世

仙川駅の改札口を出てから自宅までの間に、空気の肌触りと香りが二度変わるように思える。一度目は仙川に着いたという象徴の桜の古木辺りだ。懐かしいような、母の腕の中にあるような安堵感のようなふんわりした空気に包まれる。まあ、テリトリーに帰ってきたからだろう。

二度目は、実篤公園を過ぎた辺りから神代高校の裏手だ。真摯な自分に戻れ、理想を失くすなと父からの叱責を受けた時のピリッとした空気に似ている。高い木立が多いから温度も一、二度低いから、そう思えるのだろう。

私は中学時代からずっと仙川にある私学に通っていた。随分昔の事だから、駅前すぐ近くには麦畑が拡がり、商店街も簡易舗装の田舎っぽい道で、日常生活に必要最低限の店しかなかったように思う。まさに「昭和」の商店街だった。

現在は道の数も増え、店舗も増え、通行人も増えた。街自体が若返ったようだ。「平成」という日本の年号より「二〇一五年」とグローバルに言ったほうが似合う街になった。

そういう環境にあって現在も変わらない場所、それが実篤公園だ。緑深い静寂な一画で、重厚な存在感がありながらも、来る人になじむような自然さがある。学生時代も、結婚し再び仙川に戻り子育てしていた時も、さらに現在のように夫婦二人に戻った今も、実篤邸と広大な庭は思い出すだけでも、時空を超え私を憩わせてくれる。

（入間町一丁目）

仙川の文化ブランド

小林章子

武者小路実篤が引越を重ねた末に「終の棲家」となった仙川に住むようになったのは昭和三十年、すでに七十歳でした。

最後の引越ともなる、きっかけの一つは志賀直哉の言葉にもあったようです。そのいきさつについては実篤の三女辰子さんのエッセイ『父・実篤の周辺で』（武者小路実篤記念館発行）にこうふれられています。

――「年をとったら池のあるところに住みたい」と言った七十歳の父に、もう年をとっていると言って下さったのも志賀さんで、もし、そう言わなければ、父は自分の晩年時代に気づかなかったかも知れないし、池のある仙川に住むこともなかったろう」――

昭和三十年頃の仙川はまだ武蔵野の自然に囲まれ、夫妻が求めた土地（入間町荻野、現在は若葉町）は崖に沿った斜面で念願の池が二つあり、一方の池には水源となる湧水もありました。斜面を活かして建てられた邸では、目の前に田園風景が広がり、遙かに富士山も見え、池の脇では木洩れ陽のもと椎茸を栽培し、庭では竹の子や梅、栗、柿など四季折々の収穫に恵まれ、ある時はご夫婦でベランダ（ここは月見台と呼ばれたそうです）からお月見をしたり、夜桜を楽しんだりしたようです。

しかしながら、昭和三十年は調布市が誕生した年で、仙川も京王線の発展などとともに、宅地化も急速に進み始めていました。実篤邸の周辺も例外ではなく、三十五年には邸前方の田んぼ（現在は若葉町一丁目）であったところが埋め立てられ分譲地となりました。

昭和五十一年九十歳で実篤が逝き、四十年近くの歳月が経ちました。個人商店が主だった仙川商店街のテナント化も目立ち、デザイナーズマンションや、劇場、カフェなど南側には新しい商店街も出来ました。仙川が「住みたい街」のランキングに入り、一種のブランドととらえられ、休日には多くの人で賑っています。

とはいえ、繁華街の喧騒を抜ければ数分で雑木林やキウィ畑、ブドウ農園、旬の野菜が次々に栽培される畑なども多く、野川まで足を延ばせば野鳥も見られます。好運なことに、仙川は武蔵野の面影が残されています。そして旧邸が保存された実篤公園を訪れれば今もなお当時の自然が切取られた土地として大切にされていることを実感されることと思います。

武者小路実篤は文学はもとより、演劇、思想のジャンルで活動しており、新しき村の創設で知られています。特に仙川では「かぼちゃの絵」を描く画家として親しまれています。若いころから美術に興味を持ち、画家たちとの交遊も盛んでした。『白樺』などで早くから内外の作品を紹介し、美術論を発表し、亡くなる寸前まで画業に励み多くの絵を残しました。

記念館では実篤の多岐に亘る仕事と、「この道より我を生かす道なし　この道を歩く」という姿勢を貫いた生涯を、特別展、企画展などほぼ五週間ごとに毎回新鮮な切り口で分り易く展示しています。そのため、いつ来館しても新たな発見があることは特筆に値するところです。さらに実篤をテーマにした講座も様々な工夫が凝らされたものです。季節に合わせた自然観察会や製本講座、淡彩画ワークショップなど多彩な講座も数多く開講しています。展示の観賞と合わせて、これらの講座を受講することで実篤をもっと身近に感じ、より深く知ることになるでしょう。

仙川の文化ブランドの一つとして記念館を訪ねて色々な実篤を発見するのも面白いと思います。

（入間町一丁目）

実篤空間と仙川まちニティ

前橋弘子

久方ぶりに実篤公園に行った。どんよりと曇った空。人気のない園内は、仙川の商店街の賑わいからは想像もできない、まるで別世界。

実篤さんの書斎から見える「虹鱒の池」は、濁った水で虹鱒の姿は見えない。冬の樹々がやさしく葉を広げ、そ知らぬ顔をして、来園者を眺めているようだ。

実篤さんが愛したであろう空気が、しっとりと体を包む。

『せんがわ21』とは、青野さんとの出会いがそもそもで、「仙川音楽祭」のチンドンや司会をし、打ち上げで商店会の方々とお近づきになった。

商店会と桐朋の学生さんを繋ぎ、地域住民を巻き込んで、折々に実篤さんがふらりと現れる、といった感じで、愉快な時間を共有した。

それぞれに青野さんがかかわり、『せんがわ21』の発行で、仙川を掘り起こし記録するという大事な役割を果たしている。実篤さんの愛した仙川を、より現在に引き寄せている。

その当時は21世紀を見据えた、青野さんの広大な発想に驚いた。すでに21世紀ではないか。

78年といえば、37年前。今や高齢社会だが、そのころは70歳まで生きられれば位の認識だった。「わざわ座」の呼びかけも今を先取りした面白いものだった。

「じいちゃん　ばあちゃん集まれ！」

今、仙川を歩いても、古い昔の面影はあまりない。

藤屋さんのかぼちゃ最中に実篤さんが生きている。

駅前の桜がいまだ咲いている。二本を移植し、三本目の若木を植えた。実篤さんも愛してたであろう駅前の桜は、仙川駅の象徴として住民に守られ、今年も花を咲かせるだろう。

花が咲く時期だけではない、葉桜、冬の季節、まもなく蕾が膨らむ季節。毎日、駅前を通り桜の様子を眺めている。

商店街の方々が、実篤さんを偲んで、買い物の案内に言葉を添えている。

高齢社会になり仙川も高齢者が目立つようになった。

でも、学生の町は若者が溢れ、世代を繋ぐ何かはないか。

駅前の夜桜コンサートは今年、第十五回。本間さんの企画力と動員力で、東日本大震災で被災した飯舘村と提携し、支援しながらコンサートは続いている。

これからの仙川がどう変わり進展するか。四十年を過ごす土地っ子でない私も、終わりまでここ仙川で過ごしたいと願っているが、実篤さんが想像だにしなかったであろう仙川の変貌が、怖い気もする。

（仙川町二丁目）



安部公房邸跡から実篤記念館へ

宮西忠正

妻が桐朋学園大学音楽学部ピアノ科を卒業していて、仙川の街に親しみがあった。昭和四十五年から二年あまりを若葉町二丁目で暮らした。

早春の午後、久しぶりに仙川駅頭に立ち、街の変貌ぶりに驚いた。戸惑いながら商店街を通りぬけ、桐朋学園前の通りに出る。学園の正門から右に進む。学園の塀が尽きる左手に、路地がある。角に「実篤記念館・公園」の案内標識がある。学園の塀に沿って三百メートルほど行った緑の木々が実篤公園。その入口前の三叉路を直角に右折し、二本目のゆるやかな坂の路地へ左折する。突き当たりのカーブの向こう、そこから三十メートルほど行った右手に、小説『砂の女』などで世界的に知られた安部公房の自宅があった。安部公房を訪ねた何人もの人が迷った道筋だ。

通りの右手の家々は、コンクリートの擁壁の上の高台にある。擁壁の下面は四角く刳り抜かれて車庫や倉庫になっている。家までは急な階段を昇る。家は木造二階建てだった。玄関を入ってすぐ応接間になり、海外で翻訳された安部公房の本がずらりと並べられていた。昭和三十四年から安部公房はこの家で執筆活動を続けた。

だが、今はもうその家はない。安部公房は平成五年一月二十二日、六十八歳で亡くなり、真知夫人も同じ年に亡くなった。二十六年暮れ、土地は売却され、家は解体された。今は古い擁壁も階段も取り除かれ、真新しい鉄筋コンクリートの擁壁と車庫と地下玄関、その上の広い敷地に二軒の家が新築中だ。もはや安部公房を偲ばせるものは、何もない。

ふと、安部公房に真新しいベンツで、この迷路めいた細い路地をすりぬけて神代書店の前まで送ってもらったことが思い出された。

昭和四十一年に桐朋学園に短期大学部芸術科演劇コースができると、五十二年まで安部公房は教授陣のひとりとして加わっている。その第一期生には、山口果林、佐藤正文らがいた。彼らとともに安部公房が旗揚げした劇団「安部公房スタジオ」の軌跡を記した『安部公房の劇場 七年の歩み』を、私は五十四年にまとめた。平成八年からは『安部公房全集』の編集に携わった。

私の長男も小学校から、次男は幼稚園から桐朋学園の世話になった。現在、横浜ＤｅＮＡベイスターズの中畑清監督の子息が次男の親しいクラスメートで、桐朋幼稚園の運動会に私も中畑氏とともに参加した。

さまざま思い出しながら実篤公園の入口に戻る。園には、白樺派の作家、武者小路実篤の旧邸が保存されている。昭和五十一年、九十歳で亡くなるまでの二十年間を過ごした終の棲家だ。生前の実篤と安部公房は、道すがら擦れちがったことはあったろう。

竹林をぬけ、湧き水が注ぐ池の端をめぐり、道路下のトンネルをくぐり抜けると、実篤記念館の前に出る。「筆跡に見る個性」と題された企画展が催され、森鴎外、夏目漱石、谷崎潤一郎といった作家たちのあざやかな毛筆の書簡が展示されていた。書庫には実篤ゆかりの図書、書画や原稿、手紙など、三万六千点が収蔵されているとのことだ。

「天に星 地に花 人に愛」そんな実篤の言葉をテーマに、高校時代、放送劇を書いたことがあった。「共に咲く喜び」という実篤の書に二輪のバラの絵を添えた一枚百円の絵葉書を購入する。

さて、安部公房の原稿やノート、万年筆、時計やカメラなどの愛用品、著書、応接間に並べられていた翻訳書、青年時代からの蔵書の数々は、自宅の解体によって行き場を失い、間借り倉庫に収納されたままだ。実篤は幸福な作家だと思わずにはいられない。

記念館中庭の二本の紅梅が、ピンクの蕾をほころばせていた。

（元 新潮社 編集者）

白百合女子大学の創立五十周年を迎えて

～仙川のまちと緑豊かなキャンパスに見守られ～

企画調査室
落合英樹

今から五十年前、本学の前身である白百合短期大学は、東京・九段の地（現・白百合学園中・高の所在地）にキャンパスを構えておりました。四年制大学への移行にあたり、より広い校地が必要となり、都内のさまざまな場所を、マ・スール方が一つひとつ丁寧に見て歩いたと聞いております。本学では修道女を、親しみを込めてフランス語でマ・スールとお呼びしています。「スール」は英語の「シスター」に当たる言葉です。

「敷地探しは最初は難航しましたが、現キャンパスの購入が、天からの贈り物のように迅速にまとまり、喜びと感謝で胸がいっぱいになった」。調布市緑ヶ丘の現キャンパスの土地を入手したときの喜びを、初代学長であったマ・スールはこのように書き残しています。小説家・劇作家として有名な武者小路実篤のゆかりの地であり、緑豊かな武蔵野の面影を残す仙川の地は、「知性と感性の調和のとれた自立的な女性の育成」を教育目標に掲げる本学にとって、これ以上ない恵まれた立地でありました。とりわけ、著名な植物学者である牧野富太郎博士の指導の下に様々な樹木や草花が四季折々に姿を見せる、かつての津村薬用植物園の跡地を活かしたキャンパスは、カトリック精神にもとづく人間教育の実践として、大きな役割を果たしてきたと言えるでしょう。

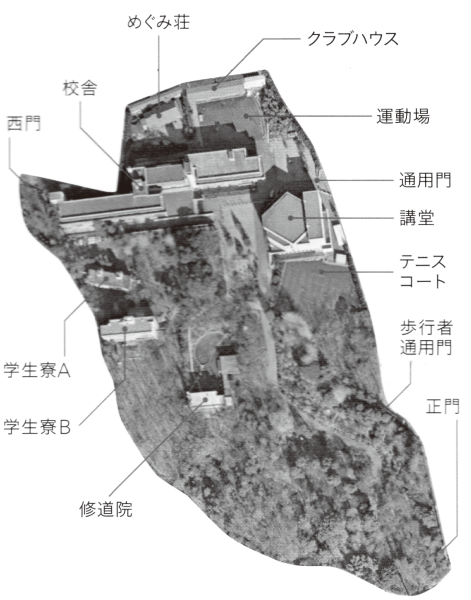
このキャンパスで〝知性〟と〝感性〟を育んだ学生の数は、早稲田や慶應といった名だたる総合大学と比べればきわめて少数ではあります。しかしながら、さまざまな分野できらりと輝く存在感を示してくれています。たとえば、現代女流作家を代表し活躍する津島佑子さん（英文学科卒）や、芥川賞受賞作家である鹿島田真希さん（仏文学科卒）をはじめ、最近では女優の蓮佛美沙子さん（児文学科卒）や女流棋士の山口恵梨子さん（国文学科卒）といった若い卒業生の活躍も目立ちます。それぞれの職場・家庭において白百合で学んだ教えを胸に頑張っているすべての卒業生の存在が私たちの誇りです。それらの卒業生は皆、このキャンパスと仙川のまちのみなさんに温かく見守られ社会へと巣立っていきました。



本館の前に立つヒマラヤスギ



表紙の一部



40年前（1975年）のキャンパス



国の登録有形文化財（建造物）となった「めぐみ荘」



津村薬用植物園の頃よりある石像

大学は仙川のまちとともに成長を遂げ、現在では、すべての学科に対応した専門教育研究が大学院の博士課程までこのキャンパスで一貫して行える体制が整えられています。学術研究の分野でも、大学院の児童文学専攻や発達心理学専攻は日本における同分野の研究拠点のひとつとして、大学院生の中から他の研究・教育機関で活躍する人材を輩出しています。なお、大学院は男女共学となっていますので、白百合に男子学生がいるということは、意外に知られていないトリビアかもしれません。

調布市と相互友好協力協定を結んでからは、文化・教育・学術の面での地域との連携が目覚ましく進んでいます。近年ではとくに教育・保育の分野での連携が強化され、キャンパスの中で小・中学校の児童・生徒さんや幼稚園の園児さんの姿を見ることも多くなりました。また、本学の学生も緑ヶ丘小学校をはじめとして、さまざまな学校・福祉施設にボランティア活動や教育実習・施設実習等でお伺いする機会が年々増えています。

この地をキャンパスとして天から授かったマ・スールも、仙川のまちと大学のここまでの発展はおそらく想像していなかったことでしょう。本学は今年で大学創立五十周年を迎えることとなりました。教職員・在学生・卒業生が、大学創立時、そして、仙川キャンパス創設時の想いを「私たちはつなぎます。白百合のこころ。」というキャッチフレーズのもとに振り返り、世代を越えてつなぐべく気持ちをひとつにしています。

最後に、くしくも本学の創立記念日（六月二十九日）を前に文部科学省の認可を受け、来春から、児童文化学科、発達心理学科、初等教育学科の三学科からなる「人間総合学部」が文学部に加えて新設されることが決定いたしました。新しい学部の誕生は、本学創立以来五十年振りのことになります。これもまた天からの贈り物です。

白百合女子大学は、新しい社会ニーズに対応しつつ「変えるべきもの」と「守るべきもの（つないでいくべきもの）」を見極めながら、これからも仙川のまちとともに発展していきたいと考えています。

ポエム劇

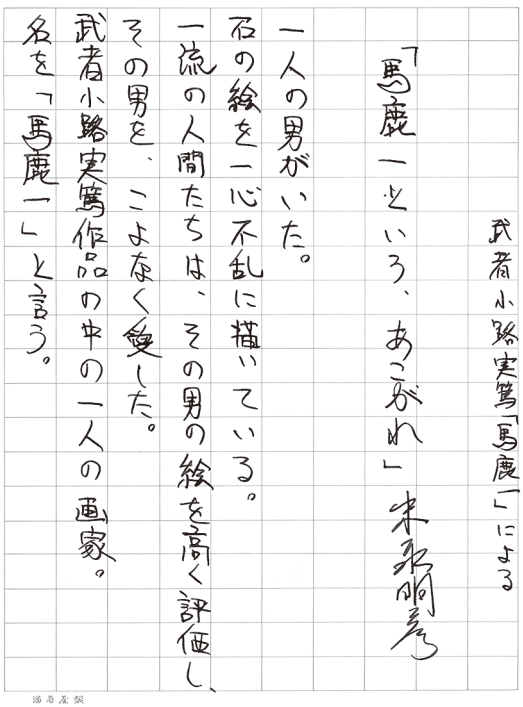
〈末永版〉馬鹿一

馬鹿一という、あこがれ

末永明彦

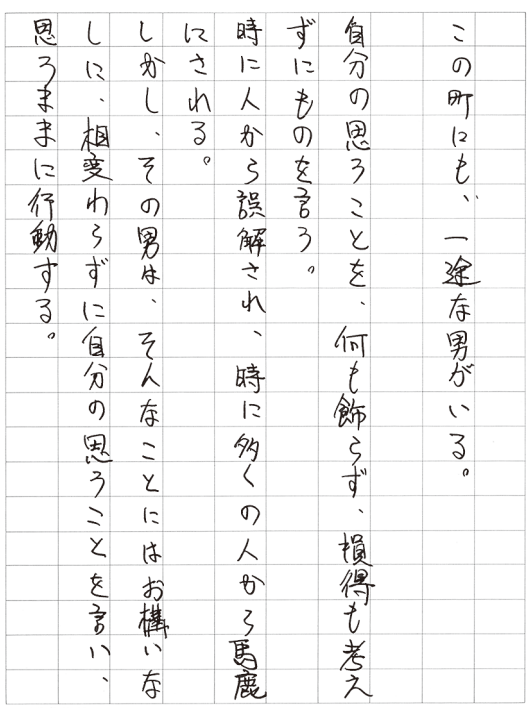
僕の中の「馬鹿一」を
この街を作った人達と
今、作ろうとしている人たちをつないで
僕の夢とあこがれを書いてみました

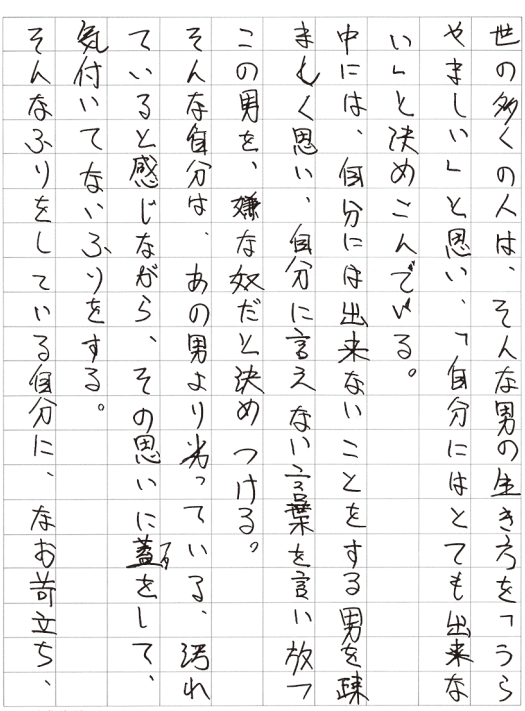
すえながあきひこ
脚本・演出家
演劇・市民参加・地域連携コーディネーター
2011年〜　調布市せんがわ劇場 参画
2012年10月「わが街せんがわ サネアツさん」作・演出 他


武者小路実篤「馬鹿一」による

「馬鹿一」という、あこがれ　末永明彦

一人の男がいた。
石の絵を一心不乱に描いている。
一流の人間たちは、その男の絵を高く評価し、
その男を、こよなく愛した。
武者小路実篤作品の中の一人の画家。
名を「馬鹿一」と言う。


この町にも、一途な男がいる。
自分の思うことを、何も飾らず、損得も考えずにものを言う。
時に人から誤解され、時に多くの人から馬鹿にされる。
しかし、その男は、そんなことにはお構いなしに、相変わらずに自分の思うことを言い、思うままに行動する。


世の多くの人は、そんな男の生きろを「うらやましい」と思い、「自分にはとても出来ない」と決めこんでいる。
中には、自分には出来ないことをする男を疎ましく思い、自分に言えない言葉を言い放つこの男を、嫌な奴だと決めつける。
そんな自分は、あの男より光っている、汚れていると感じながら、その思いに蓋をして、気付いてないふりをする。
そんなふりをしている自分に、なお苛立ち、

男を、おかしいと非難する。
正しいとわかっている男を非難する自分の方が、本当は嫌な奴なのだと、内心こっそりと自分を非難する。

不自由な自分と、自由な男。
不幸せな自分と、幸せな男。
自分は不自由なのだから、あの男も不自由でいて欲しい。
自分が不幸せなのだ分う、あの男も不幸せでいなければ気が済まない。
本当は自分も、あの男のように生きてみたい。
いや、皆、そう思っているに違いない。

そんな男への「あこがれ」かって、そんな男たちが、この町に居た。
ある男たちは、この町の町並みを整え、鉄道の切り通しの上に橋を架けて人の往来を絶やさな分った。

湯島屋製

ある男たちは、この町の繁栄を願い新たな町の祭りを始めて、多くの人がこの町に集った。
ある男たちは、この町の文化を守り育てるために集い、明日の町づくりを語り合った。
そして、この町の今がある。

男たちのこの町に注ぐ熱い想いは、いまも誰分に受け継がれ、滔々と流れている。
そんな男たちを支えてきた、強く賢い女たち。
母であり、妻であり、娘であり、友であり。

湯島屋製

想いの強い、一途な男は強い。
だから、想いの弱い人たちからは、恐れられ、疎まれるのだろう。
一途に馬鹿な男たちの時代が過ぎ、この町も大きく変わろうとしている。

わたしは、一途な馬鹿になりたい。
一途な馬鹿にあこがれる。

湯島屋製

時代が大きく変わろうとも、一途に馬鹿な人生を生きたいと、あこがれる。
「馬鹿一」のように。
あの、「馬鹿一」のように。

「居るよ」と、誰かの声。
「この町には、馬鹿な男が、まだ居る」
心に、「馬鹿一」が語りかけてくる。
その男たちの呼びかけに、耳を傾けるのだ。

日く。
本当の自分を知り、好きになること。
自分に自信を持つこと。
人は、自分に自信を持てると、他人に寛容になる。受け入れる余裕が生まれる。
自分が自分らしく、その人がその人らしく、誰もが認め合い、生きがいのある人生を全うして生きる。

わが町、「仙川」に住む人、この町に通う学生や社会人、大人と子ども。
この町に「ゆかり」のある、すべての人たちの心に、そんな思いが芽生えたら。
ここ「仙川」という町は、きっと、実篤さんが望む理想郷「新しき村」のような、生きがいのある、皆が幸せに生きる町になるのではないか。

そのために
今、この町に生きる「馬鹿一」と、この町の人たちをつなぐ物が必要。
つなぐ場が必要。
そして何より、つなぐ人が必要。

つなぐ物。言葉、行動、こころ。
つなぐ場。町並み、集う場、家庭。
つなぐ人。一途に生きる「馬鹿一」たち。

それらによって生み出される
「実篤空間と仙川まちニティ」

せんがわ まちシティ情報センター

一九七八・一・一五

●設立趣意●

せんがわ（緑ケ丘、仙川町、若葉町、入間町）の空間での住む人（一万世帯二・五万人）と働き、学び、買い物、遊びにくる人達による新しき街・せんがわ（文化と福祉の結びついた街の生活）づくりへの試み

◇せんがわのまち、とにかく気に入っているという人が多い。

切通しを走る京王線の風情。夕方都心からもどって、改札を出るとホッとするのは駅前に大きな建物がなく、又広場の狭さが逆に郊外駅の情緒を残しているからだろうか。新宿まで20分余という便のよさ。道路幅の狭さが親密な雰囲気をつくり、呼びこみがとびかい活ぱつな商店街。西側には斜面地の景観が楽しめ、緑のたたずまいが残る家並み。桐朋、白百合や中央電通などの学園、若者のまち。図書館、公民館、児童館、老人憩いの家などの公共施設も整備され、読書会などのサークル活動も活ぱつとのこと。わざわ座をはじめ、長善館の長持行列などいくつかのユニークな活動。ナショナルブランドで親しい企業の工場が3つもあるのも、このせんがわの水質が古来よかったからであり、故武者小路氏も水の湧く地を求めてせんがわに移り住んでこられたのだった。その屋敷跡は、いま実篤公園として、せんがわに開かれた。昔からめぐまれた風土と暮らしをもつ街。

◇でも、実際のところせんがわはいま〝素敵な〟まちになりえているかどうか？

あなたやわたしにとって、コレがせんがわの魅力であり、せんがわの生活と文化であると言いうるものがあろうか。何かとても、もったいない感じがする。商店街の盆おどりや、もちつき大会、秋の八幡・糟嶺両神社の例祭も、せんがわの〝お祭り〟というにはさびしい、工夫がたりない。各学園祭や長善館祭なども、せんがわのまち全体でもっと楽しめるはずの催し物と思える。せんがわで、人やグループが、どんなことを考えたり、やったりしているのか？　まちという場での人と人との出会いの魅力と、その関係の仕方のさまざまな可能性を、拓くための工夫と努力が欲しい。そして、その交流と協力のためには、お互いの活動内容やスケジュールを、まず知らせ合うことが大切となろう。せんがわでの地域・生活・文化情報の交流を活ぱつ化するための具体的な道具が欲しい。

◇いま、せんがわのまちは、どこへいこうとしているのだろうか。

まちの活気といったものを考えてみる時、商業と商店街の果たす役割は大きい。いま商店街は次々に新装・改築がなされ、商店構成も変わりつつある。成熟期を迎えつつあるせんがわ商圏はこの建築ラッシュの中で、新たな展開をなしうるであろうか。いま、何より必要なのは、せんがわのまちに対する総合的な眼くばりの中で、このまちの性格と魅力をつかみ、住み、働き、学び、買い物し、遊ぶ人達、みんなで共に追及しうる、まちづくりのヴィジョンと明確な意志をもつことではないだろうか。道にあふれる自転車や乳母車の波、ゆっくり立ち話しもできない人の流れ、ちょっと腰かけて話しをしたいと思っても、道に開かれたスペースもベンチひとつない店々のつらなり、再考したいものだ。

◇いままで、私たちは遠くの方ばかり眺めていて、自分の足もとにころがっている、一番大切なものをみようとしませんでした。新聞、ラジオ、テレビ、雑誌、書物から日々、ぼう大な情報を手にすることが出来ますが、さて、せんがわや調布といった身近なことについての情報は皆無といえます。いま私たちは、このせんがわのまちとそこでの生活をいかなるかたちで織り上げ、そして次代の子どもや孫たちに伝え、ゆだねようとしているのか。

◇この世紀末を21世紀に向けて拓くために、日本の各地で、ひとは、むらは、まちは、いま己の〝風と土と心〟を問うことから、各々の歩みを始めている。さて、せんがわのまちでは。



せんがわ　まちニティ情報センター

▼その目的

もっとも身近な生活空間であるとともに、多くの魅力と可能性を秘めた、このせんがわの地において、風土と人を大切に生かした〝新しき街・せんがわ〟づくりを目指す。そのためにまず、このまちに住む人たちの間の、意志と情報と活動の交流を活発化し、各人の知恵や工夫を結びつける場として、この情報センターを位置づける。

▼その性格

せんがわにおける総合的な情報センターとして、せんがわの資料室、広報室、企画室の役割を担い、雑誌社やボランティアバンクやシンクタンクの機能を追及する。ここでセンターといっても、それは建物ではない。各個人、サークル、町内会・自治会・子供会、商店・企業、行政の間で、人と情報を結びつける働きであり、絶えずみんなに開かれた、無限にひろがるネットワークである。

▼その活動

当面の活動テーマを次の様に考えている。（具体的な活動イメージと内容は省略）

イ、〝新しき街・せんがわ〟をまちのキャッチフレーズへ

ロ、まちシンポジウム〝新しき街・せんがわ　今日そして明日〟の開催

ハ、まちコミ誌「せんがわ・21」の刊行

ニ、まちコミネットワーク〝みんなの掲示板〟システムの拡充整備

ホ、スライド〝せんがわ・風と土と心〟の映像制作

ヘ、新しき街の〝鎮守の杜〟構想――実篤公園の生きた運営を考える

ト、まちコンサートや仙川寄席の開催

チ、せんがわボロ市や朝市の開催

リ、せんがわ哲学堂講座の開講（自由大学）

ヌ、せんがわデータバンクの設置

ル、せんがわ百科の作成（文芸年鑑も）

ヲ、個展はせんがわで開こう会

ワ、「実篤と新しき村」シンポジウムと美術展（春5月実篤生誕祭の頃）

カ、新しき街芸術祭（秋学園祭の頃）

ヨ、新しき村や街との交流と連帯など多様で多彩な諸活動を創拓する。

▼その構成

。メンバー　この活動の趣旨に賛同し、積極的な関心と参画の意志を持ち、チエとパワー（労力）をおしまない人。

。賛助会員　このセンターの目的と活動に賛同し、維持のために支援してくれる人。

賛助会員会費…一口五〇〇〇円の随時カンパ

。維持読者　「せんがわ・21」の刊行維持のために支援してくれる人。

維持読者会費…一口一〇〇〇円の随時カンパ

。町の先生　プロとして、この活動への助言と協力をしてくれる人。このせんがわに住み、又かかわり意識を持つ人で、学びの原点にもどって、フレッシュな話をしてくれる人。年に一度は、基本的に手弁当で、講義や執筆をしてくれる人。

。事務局スタッフ　センターの持続的な運営のために、若干名の専従、半専従のスタッフをおき、有給とする。

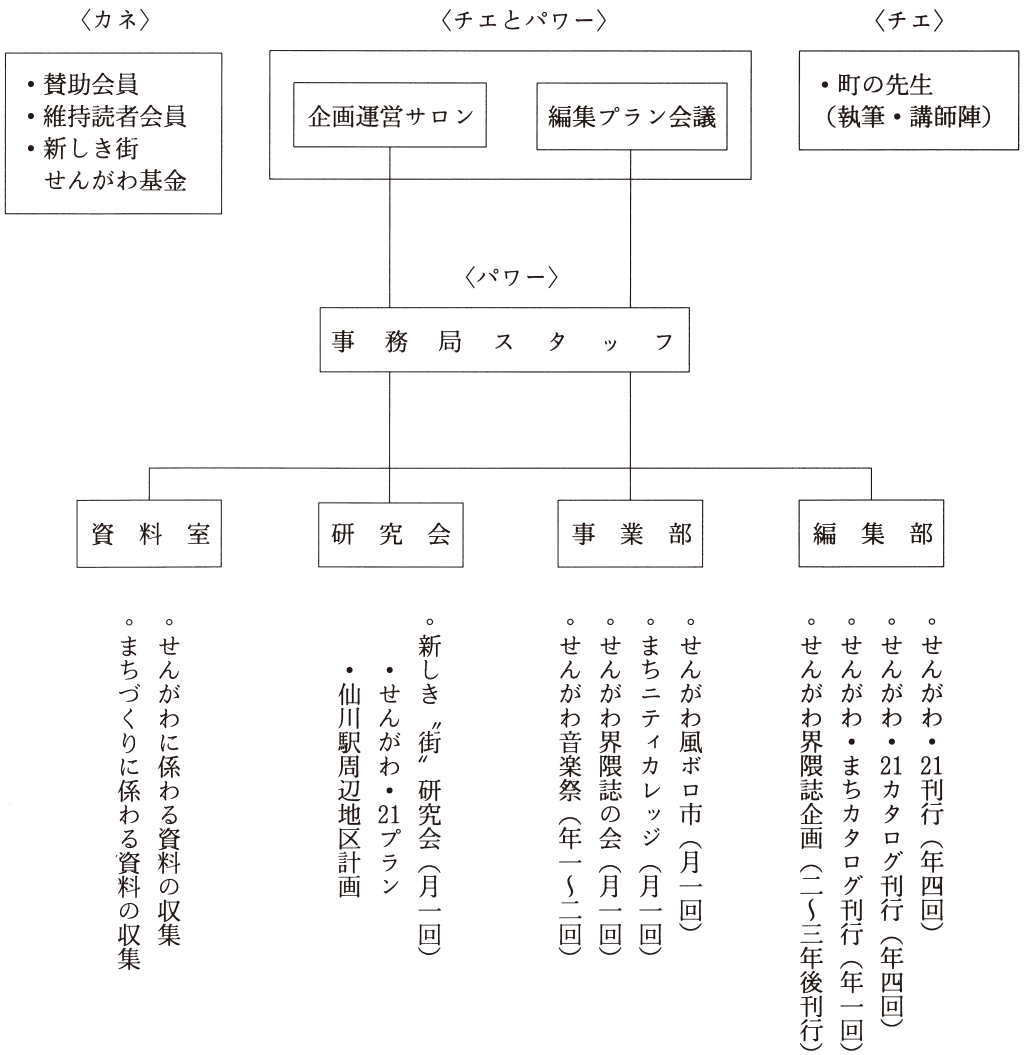
▼その運営

有志のボランティア活動が基本で、チエ・パワー・カネを持ち寄り、センターの維持運営にあたる。将来的には、コミュニティ財団の設立や公益信託の活用なども含めて、地域の新たな共同財としてのあり方を追及する。

。新しきまちせんがわ基金　地域の人たちの浄財をあおぎ、新しき街づくりへの諸活動の資金にあてる。



▷その組織と活動（当面の活動内容）



■最近の活動から（92年6月～11月）
仙川まちづくり土曜サロン

第一回 〝駅周辺のまちづくり計画と仙川の将来〟
－激変の90年代、新しき街づくりに向けて
①仙川駅周辺地区計画の歩みとこれから
伊藤恭二氏／パシフィック総合開発
②風土・地政からみた仙川のまちの将来
山下信男氏／ＮＯＭＯＳ研究会

第二回 〝地区計画〟と〝仙川のまちづくり〟
－今、改めて地区計画を学ぶことから
①スライドで学ぶ〝個性豊かなまちづくり〟
『地区計画－制度編』及び『同－事例編』
②まちづくりにおける〝計画〟と〝事業〟
山本雅之氏／地域社会計画センター

第三回 〝都市計画と街づくり戦略〟
加川浩氏／加川設計事務所

第四回 〝アート・あっと・ホームな街／仙川づくり〟
①世界の中の仙川、仙川の中の世界
末吉保雄氏／桐朋学園大学
②今、仙川のまちづくりに大切なこと
山下信男氏／ＮＯＭＯＳ研究会

第五回 〝増大する固定資産税・相続税等への対策〟
－土地の「保有」から「活用」に向けて
①平成4年度の税制改正と新土地税制のスタート
菅原徹也氏／菅原税理事務所
②資料にみる〝新定期借地権〟の制度と活用
大脇正昭氏／地域科学研究会

第六回 〝夢を共有できる街になれば最高だ〟
－仙川は世界の中心になれるか
山岡義典氏／プランニング・コンサルタント

『せんがわ・21』誌とまちニティ情報センターの事始め

～創設期の東部公民館スタッフとの出会いの中で～

青野友太郎（せんがわまちニティ情報センター）
（実篤記念館友の会）

“新しき街・せんがわ／今日そして明日”をテーマに、小さな連続シンポジウムが１９７７年春、東部公民館の主催で開催された。メインテーマは「実篤公園の活きた運営を考える」であり、地元の有志が主体となって集まった。前年４月に武者小路実篤が亡くなり、自宅と愛蔵品が調布市他に寄贈されたことを受けて、“共有のものとして、開かれ、遺されたものに、いかに対峙するか”をめぐって話し合った。

この企画を担ったのが、“杜思の会”という、当時３０歳デコボコのコミュニティづくりをライフワークとする編集者やプランナーの仲間だった。７６年８月にスタートしたばかりの会で、メンバー１０人の内の１人が、創設期の職員の阿部実氏だった。日頃の会合は新宿の喫茶店であったが、１０月に東部公民館での打合せを持った。フィールドとして、仙川地区と小平市があがっていて、その晩は「コミュニティ情報センターをホップ・ステップとするコミュニティ形成の試み」による“仙川実践プラン”がテーマであった。

その全３回のシンポジウムは、日曜日午後の３時間の企画で、第１回“今せんがわでは～その魅力と可能性”、第２回“新しき街とは…そのイメージを拓げる”、第３回“新しき街の鎮守の杜～実篤公園の活きた運営を考える”のテーマで、講演・映像上映・提言・座談会と多様に構成されたイベントであった。毎回、Ｂ４判のガリ版刷りの案内チラシを千枚印刷し、同館職員の新井稔昭氏らと周辺の住宅へのポスティングや駅前配布に汗を流した。延べ７０名余の参画を得て開催された。

その後、参加者に呼びかけ、７７年４月に“新しき街・せんがわの会”をスタート。毎月２回の会合を重ね、翌７８年１月に“せんがわまちニティ情報センター”を発足させた。実篤さんが“終の住処”として賞でた、この仙川のまちづくりのキャッチフレーズは“新しき街”以外にはない。そして、まちコミ誌『せんがわ・２１』は、公園オープンの３カ月後の８月に、「実篤公園」を特集テーマとして創刊された。

『せんがわ・２１』は、仙川地区の約１万世帯と、学び・働き・買い物に来る人たちの“共有財”として、毎号５千部を印刷し、各戸への無料配布をメインとした。創刊号は、週刊誌大で、グラビア８頁、本文３６頁の贅沢なもので、版下づくりを含めて、スタッフによる手づくり、ボランティアの作品だった。有志からのカンパなど支援と広告代が資金源であった。「２１時＝午後９時」からのコミュニティライフの多彩な拓がり、人と人を結びつける“せんがわの総合雑誌”である。また、情報センター主催で、せんがわ風ボロ市、紅白歌合戦流のせんがわ音楽祭や、まちづくり講座などのイベントも実施してきた。

『せんがわ・２１』は２００１年新春の写真特集「せんがわ・新世紀送迎響想曲」以降、残念ながら休刊中である。２７年間で１８号という、実にスローな刊行ペースであるが、今も、“持続する志”は有している。仙川エリアの人たちをコアに、他地域からの応援団を得て、“せんがわ人”のパワーにより、活動を再開できる時期を俟っている。

この“まちニティ”プロジェクトの立ち上がりは、東部公民館の創設期と重なり、さまざまな活動を実現し、現在に至っている。今、この“ご縁”を実感している。

●出所：『であいの中で』東部公民館開館 30 周年記念誌（平成 18 年 3 月）

まちニティ ショップカタログ

……広告掲載店INDEX……

●着る
fashion aZi……5
左岸……105
メンズツカモト……60
きものさろん服部……105
tageya……5
ブティック伊那河……62
Favorinico……5
東洋クリーニング……105
ラッキークリーニング……50
富士屋染物店……50

●飾る
カットサロンたけし……105
CPサロンBeniBeni……5
ビューティー&セラピーnico 138
Ron's・Nail……105

●飲む・食べる・憩う
あかべこ……77
cafebar aZi……5
東風庵(こちあん)……5
一富士……99
一平……138
キックバックカフェ……138
菜遊記……105
ささもと……表2
爺(ささら)……表2
三進……99
jei……138
すしの磯春……99
Tiny cafe……105
とんかつ仙川……99
なみはな……99
niwa-coya……138
幡乃屋……12
ばさら……105
ぱんぷきん……105
平野屋……105
風船……138
彼留哩(ぺるり)……99
Mirch……105
Mirock……138
まや徳……99
森のテラス……50

●買う
AOSAN……99
阿部青果店……138
ウエマツ……50
靴の明治屋……50
クイーンズ伊勢丹仙川店……86
サトウデンキ……8
スイスドゥ……105
おむすびTESHIMA……105
納々屋……105
フラワーショップかのか……138
motte……138
鈴仙……99
セブンイレブン仙川駅南店……105
セブンイレブン調布仙川店……77
ちゃっぷりん……105

●見る・読む・聴く
ASA仙川……86
菅家新聞店……105
サンライズ現像所……50
仙川地図研究所……138
書原……105
神代書店……表1

●習う・創る・遊ぶ
アトリエ・アン……138
河口パソコンサービス……50
サンミモレ・イナガワ……62
studio MOVE……77
Ding Dong……50
ミシンカフェ&ラウンジnico 138
農山村ムービー……50

●からだ・こころ
阿部歯科医院……77
栗山接骨院……77
仙川耳鼻咽喉科……77
仙川町クリニック……77
けいじゅ整骨院……138
仲島医院……13
若葉歯科医院……77
和光堂研究所……表1

●住まう・くるま・くらし
後迫測量設計事務所……表3
株式会社カワタケ……表2
グローバル設計……表4
佐藤表具店……138
城西運送㈱……50
多摩ボデー整備……5
調布フラワーガーデン……144
フェリカインテリア……5
武蔵野開発……表3
武蔵野ハウジング……表3
渡辺建設……138

●備える
SOGIサポートセンター……表3
芝信用金庫 仙川支店……86
みずほ銀行調布仙川支店……86
司法書士山田猛司事務所……86
調布仙川郵便局……98



目元のオシャレと氣のセラピー

Beauty & Therapy nico

☎03-6382-9202 http://bt-nico.com

フラワーショップ かのか

仙川町 3-2-42

Tel 03・5313・7532

阿部青果店

仙川町3-2-42

Tel 03・3308・6601

美大受験・子ども絵画教室

アトリエ・アン仙川美術研究所

〒182 仙川町 2-7-12 TEL 03（3307）5426

http://www.geocities.jp/atelier_anne09/

食事と酒処

一　平

午後5時～11時30分　日曜定休

仙川駅線路際

☎3300-2879

KICK BACK CAFE

複合的価値創造空間

KICK BACK CAFE(キックバックカフェ)

TEL 03-5384-1577

FAX 03-5384-1095

EMail:info@kickbackcafe.jp

182-0003 東京都調布市若葉町

2－11－1パークスクエア武蔵野 1F

RESTAURANT & BAR

Bourbon Cocktails & Foods

[jéi]

'70S～'80S Good Sounds

仙川駅より1分　☎03-3308-2887　日曜・祭日定休

あなたのアトリエ♪

ミシンカフェ&ラウンジnico

若葉町二丁目交差点西　TEL03-6279-6987

襖・障子・クロス・床

佐藤表具店

桐朋学園大学正門前　電話 03(3309)1931

やきとり・広島風お好み焼

風　船

若葉町2丁目バス停至誠会病院入口　3326-5617



niwa coya

03-5315-2848



Mirock

若葉町の深夜食堂

ワインと小皿料理

調布市若葉町2-25-20

tel.090-2259-3164



仙川地図研究所

東京都調布市若葉町1-28-28 ニワコヤ内

TEL&FAX 03-5315-2848(月曜定休)

www.sengawakko.exblog.jp

患者様の症状だけではなく、原因を深く追求する整骨院

けいじゅ整骨院

調布市若葉町2-10-5 Web: http://www.k-ju.com

電話:03-3300-8773 Mail: k-ju@mail.goo.ne.jp

画材・額縁

mottet

実篤公園通り入り口　☎3300-8287

身近な"ホーム"ドクター

住宅のことならなんでもご相談下さい

渡辺建設株式会社

東京都 調布市 入間町 1-37-7

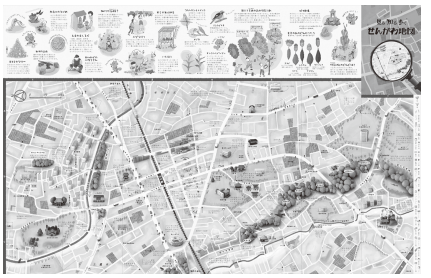
TEL:03-3308-6161(代)FAX:03-3309-7765

E-mail:watanabekensetu@dance.ocn.ne.jp

http://www.w-kensetsu.com

仙川地図研究所とは？







仙川地図研究所について

地図や地理についての研究をライフワークにする市民が集まった、任意団体です。仙川に住むグラフィックデザイナーの小森葵を中心に30～70代の14名で活動しています。

メンバーはデザインやイラスト作成を行う制作班と、フィールドワークを行う調査班に分れており、地図の制作と世界中のあらゆる地図の収集、情報交換などを行っています。



仙川地図研究所のこれまで



半年間の制作期間を行い2014年春に発行した『見る知る歩くせんがわ地図』は仙川周辺の約20店舗で販売されており、これまでに約5,000部を購入いただきました。朝日新聞ほか各種メディアで取り上げられ、桐朋小学校社会科の授業でも使用されています。新宿駅西口広場で行われた「くらしと測量・地図展」では国土地理院とコラボレーションした展示を行うことができました。



仙川地図研究所のこれから

現在は「JAZZ ART SENGAWA」のフェスタマップ、「ちょうふチャリティーウォーク」のルートマップ、「三鷹駅前まるごと絵本市」のイベントマップ、『見る知る歩く・ちとから地図』、仙川・つつじヶ丘間の森を案内する「もりのちず」、そして、これまでの研究成果をまとめた本も制作中です。



まち歩きと地図カフェ

毎年、春と秋には仙川の見所を研究員の解説付きで歩く「せんがわ まち歩き」を開催しています。ほかに、屋外で開催されるイベントでニワコヤのお菓子と世界の地図雑貨を販売する「地図カフェ」の出店も行っています。







伝言板

白百合女子大周辺に存在した津村葉草園の情報を収集しています。当時葉草園に行ったことある方、働いていた方、葉草園の写真を持っている方がいましたらお知らせ下さい。（わだ）

若葉町1丁目にあった、高射砲陣地に関するエピソード、当時の写真をお持ちの方がいましたらお知らせ下さい。（タカタ）

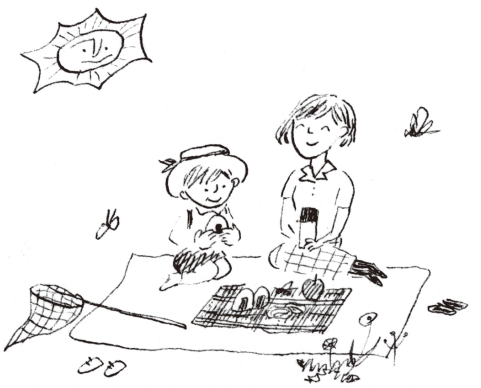
連絡先とホームページ

〈仙川地図研究所〉
調布市若葉町1-28-28 ニワコヤ内
tel.&fax 03-5315-2848
mail sengawamap@gmail.com
web site sengawakko.exblog.jp

編集制作スタッフ及び編集協力の各位　（敬称略）

●編集／制作スタッフ●
表紙・口絵写真：羽田洋
写真：羽田洋、大村哲夫
編集デザイン：小森葵、山下琢
レタリング／カット：mariko fukura、山下琢
版下制作：山下琢、小森葵
データ入力：大菊健太、池田純一
広告営業／制作：横山圭
印刷／製本：栗城伸夫、中島秀人

○特集 I・II・III（バックナンバー）○
表紙・口絵写真：加藤 純一郎、丸井潤
表紙・口絵デザイン：山岡義典、岩田幹雄
写真：加藤純一郎、丸井潤
題字／カット：こやまきょうへい、小沢 基弘、栗田行雄、中島りえ
データ入力：山田れい子、松尾洋介
編集デザイン：青野道子、劉雲
版下制作：木下仁、松尾洋介



●編集協力●
伊藤 綽彦（元桐朋学園／日野市南平 5）、木村任男（緑ヶ丘 2）、諸伏三紀（世田谷区千歳台 4）
田中久和（仙川町 3）、川口三八・信子（仙川町 2）、仙川商店街協同組合、仙川青友会
江田信久（調布市都市整備部）澤田忍（調布市住宅課）、河野正雄（調布市都市計画課）
川原慎一（若葉町 2）、大河巳渡子（深大寺北町 1）、福島さとみ（実篤記念館）
調布市武者小路実篤記念館、新しき村、桐朋学園、社会研究フォーラム、仙川地図研究所

せんがわ 21 人財＆カンパ大募集!!

せんがわまちニティ情報センターは、仙川における総合的な情報センターとして、仙川の資料室・広報室・企画室の役割を担い、雑誌社やボランティアバンク、シンクタンクの機能を追求しています。有志のボランティア活動が基本で、チエ・情報とパワー・カネを持ち寄り、センター及び『せんがわ 21』の維持運営にあたっています。現在、定期刊行のために取材・編集及び制作スタッフを募集しております。また、資金面でのご支援もいただきながら、新しき街・せんがわづくりのための諸活動を展開していきます。

□カンパ誌代とは―コミュニティ共有財への“先読後志”での誌代
　カンパ誌代……1 冊 1,000 円
□賛助会員とは―センターの目的と活動に賛同し、維持のために支援してくれる人
　賛助会員会費……一口 5,000 円の随時カンパ
□維持読者とは―『せんがわ・21』の刊行維持のために支援してくれる人
　維持読者会費……一口 1,000 円の随時カンパ

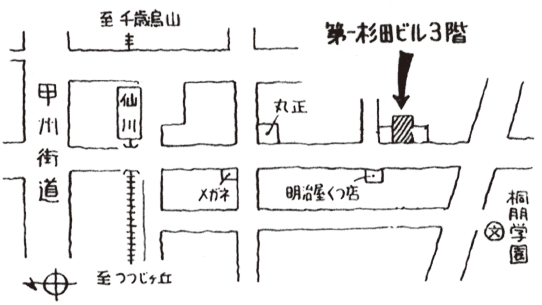
◆お申込・会費は郵送あるいは当方へお電話くだされば取りに伺います。なお、下記の口座もご利用ください。当該支店にお申込みいただければ、手数料はかかりません。

郵便振替：口座番号　００１５０−６−５７０６８８
　加入者名 せんがわまちニティ情報センター
銀行等：芝信用金庫 仙川支店 普通９０３１２５８
　みずほ銀行 調布仙川支店 普通１８０２３４８
　三菱東京UFJ銀行 仙川支店 普通７７３４７
　口座名 せんがわまちニティ情報センター 青野友太郎

編集室から

▼本年四月に静岡・久能山の東照宮での家康公没四百年の「平和祭」に参加した。大阪夏の陣の後に、年号を「元和」と改めて〝和〟の時代を宣言。二六〇年余りにわたる平和国家と循環型社会を実現したことを祝った。

▼静岡から名古屋に入り、「てぃんさぐの花」という演劇を観た。原案は加藤豊司氏で、うちなーんちゅ（沖縄人）とヤンキーさむらい（日系人）の相克と共鳴を主題にして戦争を語り継ぐ作品だった。



▼二〇三〇年春、美しく新しき「仙川共和国」が独立した。イタリアのサンマリノ共和国（人口三二五七二人／六〇平方キロメートル）を抜いて、世界の内陸部の国としては、一番小さな共和国となった。コインと切手を発行し、エンターテイメントプラザに東洋風カジノを有する「無税国家」が実現―という夢想。

▼本号は二〇〇一年新春号の「せんがわ・新世紀送迎響想曲」特集から、一五年振りの刊行。一九八七年の創刊。以来三七年余で18冊と号外2冊という不定期刊。

▼本19号は新たな人財各位との出会いの中で進行し上梓に至った。第一世代のイラストのこやまきょうへい氏、カメラの加藤純一郎氏、わざわ座・薩摩琵琶の吉田央舟氏ら奇人変人たちは今や彼岸に。

▼〝CCRC〟というコミュニティづくりが地方圏と大都市圏で、拡がっている。生涯学習時代におけるシニア層と大学・高校生たちが共に学び・働く交流・交歓の場である。団塊世代も個を拓くと共に、地元の乳幼児を育て、小中高校生への趣味・スポーツ・学習の先達として、自らの自由時間を十二分に生きたい。

▼21世紀の日本の元気は、9つの道州の分離・自治へのパラダイム転換においてこそ輝く。（T・A）

▼調布市、世田谷区、三鷹市、狛江市、と4つの市区が隣接した境界の町、仙川。最近は外国人も多く国際都市の風を感じる。（A・K）

編集後記

▼仙川には自宅も職場も行きつけの飲み屋もあり、私の暮らしはほぼ仙川で完結しています。今回少しだけ関わらせていただき、自分の暮らす街がますます好きになりました。さて今日はどの店に飲みに出かけようか…。（桑原昇）

▼去年「せんがわ21」を知って面白い！　とバックナンバーを読んで、今年15年ぶりに発刊することにビックリしたかと思ったら、いつの間にかにお手伝いしていました。来年はどうしているでしょうか。（横山圭）

▼印刷物を紙版下としてデータを作ると手間がかかる。二〇〇九年にスキャンしていたデータではあるが、環境が変わったため、ページデータの流用はできない。PDFを出力しておいた過去の自分を褒めてやりたい。（山下琢）

▼引越し9回目で辿り着いた仙川。この町で暮らすのも9年目。人生で一番長く住んでいる町となり、「ホームタウンてこんな感覚かな」なんて思う日々です。（小森葵）

▼チェーン店も地元商店街協組に参画すべき。〝のれん代〟を含め今の仙川の街を育て築いてきた農商工業者への敬意と支援を。

▼本誌20・21号は⁉　次世代への継承を念じつつ。（青野友太郎）

せんがわ21 第19号 特集号
実篤空間と仙川まちニティ
発行日：2015年8月15日
頒価：カンパ誌代1000円
発行部数：4000部
編集長：小森葵
編集兼発行人：青野友太郎
編集及発行所：
せんがわまちニティ情報センター
東京都調布市仙川町1―16―18
杉田第一ビル3階　〒182―0002
T&F　03―3326―2707
sengawa21.aono@jcom.home.ne.jp
印刷・製本：株式会社ナポ

せんがわ鳥瞰（ちょうかん）

航空写真に見る"むら"から"まち"へ

写真提供：桐朋学園、調布市　縮尺：1/7500

1947年



2015年1月



土●地
売建分仲
買売譲介

住いの
総合コンサルタント

建●物
調測設登
査量計記

地元で創業50年
武蔵野グループ

武蔵野開発株式会社
武蔵野ハウジング株式会社
株式会社 後迫測量設計事務所

〒182-0002　東京都調布市仙川町1-12　武蔵野ビル　TEL　03（3308）1277（代表）
FAX　03（3309）9121
測量士・一級土木施工管理技士・土地家屋調査士・一級造園施工管理技士
代表取締役　後迫　巖
専務取締役　後迫　武

「あなたの願うお別れ・終活の
『お葬式』を実現します!」

事前相談
（無料）

0120-255-297

火葬のみ	1日葬	花の家族葬	24時間
無宗教葬	自宅葬	散骨/墓所 etc.	365日対応


「模擬生前葬」

1都5県
即日対応



ソウギ　生と死・葬送
SOGI サポートセンター

公式HP：リンMCグループで 検索　メール：info@lin-mc.gr.jp

これからの人生を
生き抜く「知恵」と
「心構え」を
ファイナルノート Book
の著者、林清子が
実例を交えて
お話致します。



ー終活のパイオニアー
Lin MC Group㈱
代表取締役 林 清子

事前相談により万一の
「お別れ・葬儀・散骨」等を
フューネルコンサルティング！
（葬送一式）

雨が降った
それもいいだろう
本がよめる
為神代書店
實篤

書籍と文具　神代書店
桐朋学園前　☎3300-5633

WAKODO
ずっと、赤ちゃん品質

ミルクとベビーフードの
和光堂


わこちゃん

和光堂株式会社 研究所　東京都調布市若葉町2-2　TEL:03-3300-0121

発行:せんがわまちニティ情報センター
カンパ誌代1,000円

